

大正十三年度直轄工事年報

内務省土木局

大正十三年度直轄工事年報目次

總論

第一 治水事業……………一頁

第二 港灣改良事業……………五

第三 道路橋梁事業……………七

第四 震災復舊事業……………七

第五 大正十三年度施行工事……………八

第一章 河川改良工事

第一 利根川改修工事……………一三

第二 九頭龍川改修工事……………三四

第三 信濃川改修工事……………四〇

第四 吉野川改修工事……………四八

目次

第五	高粱川改修工事	五四
第六	渡良瀬川改修工事(利根川支川)	五九
第七	北上川改修工事	六九
第八	荒川改修工事	七五
第九	阿賀野川改修工事	八九
第一〇	最上川改修工事	九七
第一一	雄物川改修工事	一〇三
第一二	江合、鳴瀬兩川改修工事	一〇八
第一三	淀川改修増補工事	一一三
第一四	千曲川改修工事(信濃川上流)	一二二
第一五	加古川改修工事	一三〇
第一六	岩木川改修工事	一三七
第一七	神通川改修工事	一四二

第一八	多摩川改修工事	一五二
第一九	阿賀川及阿武隈川改修工事	一五六
第二〇	太田川改修工事	一六二
第二一	富士川改修工事	一六七
第二二	圓山川改修工事	一七四
第二三	木曾川上流改修工事	一七九
第二四	斐伊川改修工事	一八八
第二五	信濃川上流改修工事(中越平野)	一九二
第二六	筑後川改修工事	一九六
第二七	天龍川改修工事	二〇〇
第二八	紀ノ川改修工事	二〇四
第二九	千代川改修工事	二〇七
第三〇	蘆田川改修工事	二一一

第二章 河川附屬物及水路維持

第一 木曾川附屬物及水路維持……………二二五

第二 淀川附屬物及水路維持……………二二八

第三 利根、渡良瀨兩川維持……………二三一

第三章 砂防工事

第一 淀川流域砂防工事……………二二七

第二 野洲川流域砂防工事(淀川支川)……………二三〇

第三 桂川流域砂防工事(淀川支川)……………二三二

第四 大谷川流域砂防工事(利根川支川鬼怒川小支)……………二三四

第五 千曲川流域砂防工事(信濃川上流)……………二三七

第六 富士川流域砂防工事……………二四〇

第七 神通川流域砂防工事……………二四四

第四章 港灣改良工事

第一	關門海峽改良工事	二四七
第二	鹽釜港修築工事	二五二
第三	新潟港修築工事	二五七
第四	神戶港修築工事	二六一
第五	橫濱港修築工事	二八一
第六	門司港修築工事	二八九
第七	長崎港修築工事	二九五
第八	清水港修築工事	三〇二
第九	下關港修築工事	三一〇
第一〇	敦賀港修築工事	三一六
第一一	高松港修築工事	三二〇
第一二	境港修築工事	三二六
第一三	今治港修築工事	三二九

第一四	鹿兒島港修築工事	三三七
第一五	小松島港修築工事	三四〇
第一六	伏木港修築工事	三四五
第五章	道路橋梁改良工事	
第一	利根川架橋工事	三四九
第六章	震災復舊工事	
第一	利根川外四箇川流域震災復舊工事	三五五
第二	相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事	三六四
第三	横濱港震災復舊工事	三七三

口繪 寫眞版

木曾川改修工事揖斐川筋下宮制水 高梁川東西用水組合工事南配水樋門
 神戸港修築工事鐵筋混凝土函 阿武隈川改修工事支流荒川上流堰堤
 (以上四面)

附錄 平面圖(別冊)

改修河川港灣一覽圖 利根川(六葉) 九頭龍川 信濃川 吉野川 高梁川(二葉) 渡良瀬川 北上川 荒川(二葉) 阿賀野川 最上川 雄物川 江合鳴瀬 兩川淀川改修増補 千曲川(三葉) 加古川 岩木川 神通川 多摩川 阿賀川及阿武隈川(四葉) 太田川 富士川(二葉) 圓山川 木曾川上流 斐伊川 信濃川上流 筑後川 天龍川 紀ノ川 千代川 蘆田川 關門海峽 鹽釜港 新潟港 神戸港 横濱港 門司港 長崎港 清水港 下關港 敦賀港 高松港 境港 今治港 鹿兒島港 小松島港 伏木港

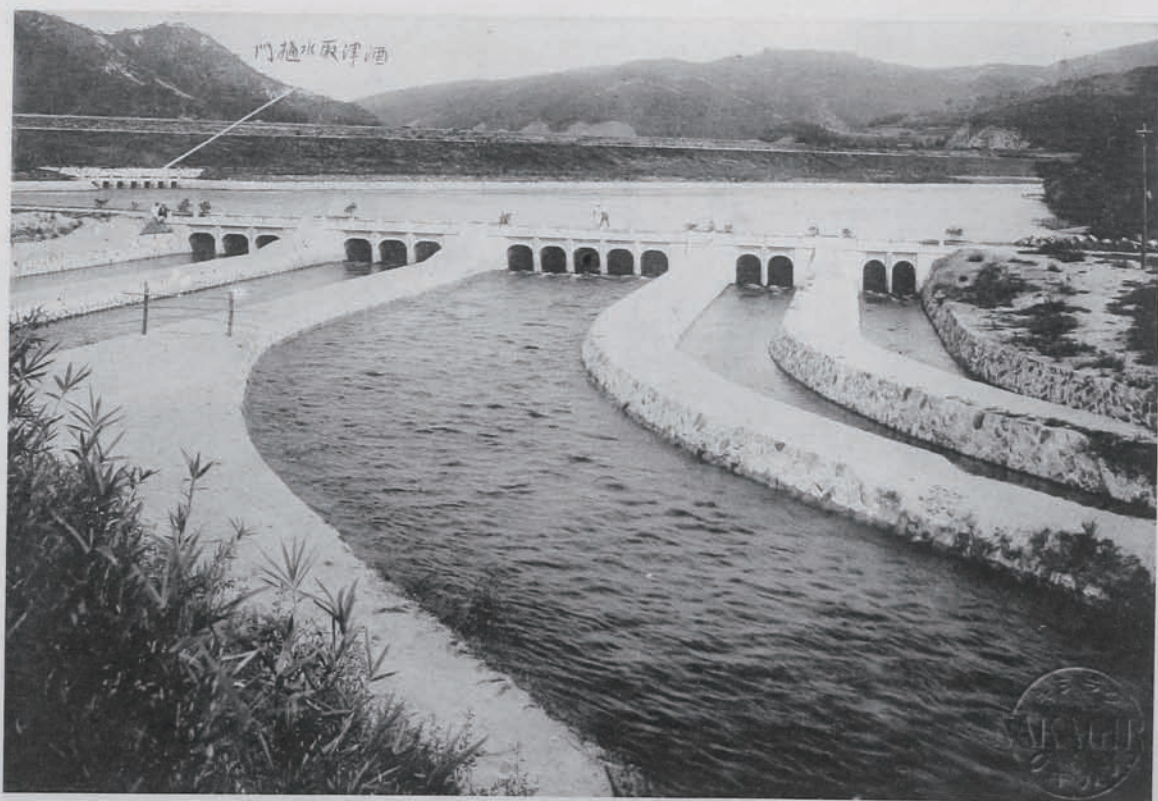
(以上六十葉)



木曾川改修工事揖斐川筋下宮制水

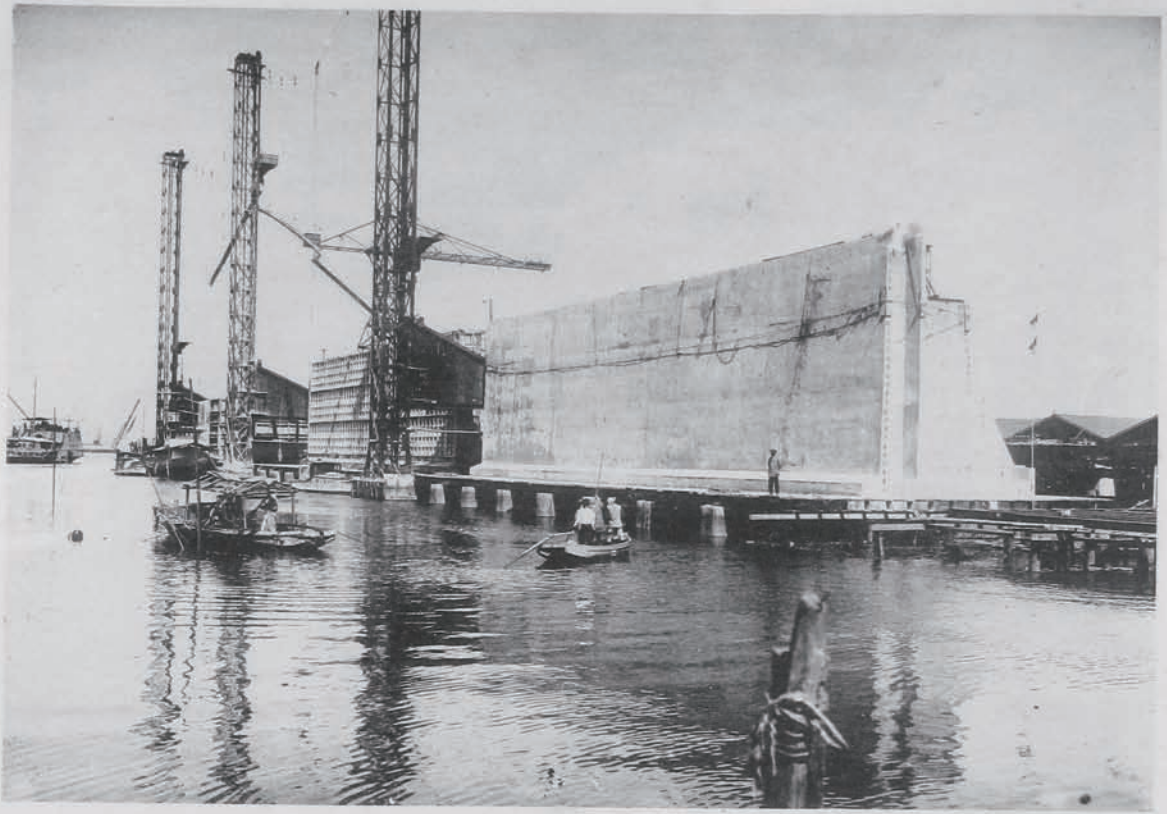
筋鐵ノ角樞五一モト木棟・木掌合・木布・木梁列竝組ニ(梓掌合土凝混)

五米一木棟・米二木掌合・三米三木布・五米二木梁ハ長テシニ柱土凝混



高梁川東西用水組合工事南配水樋門

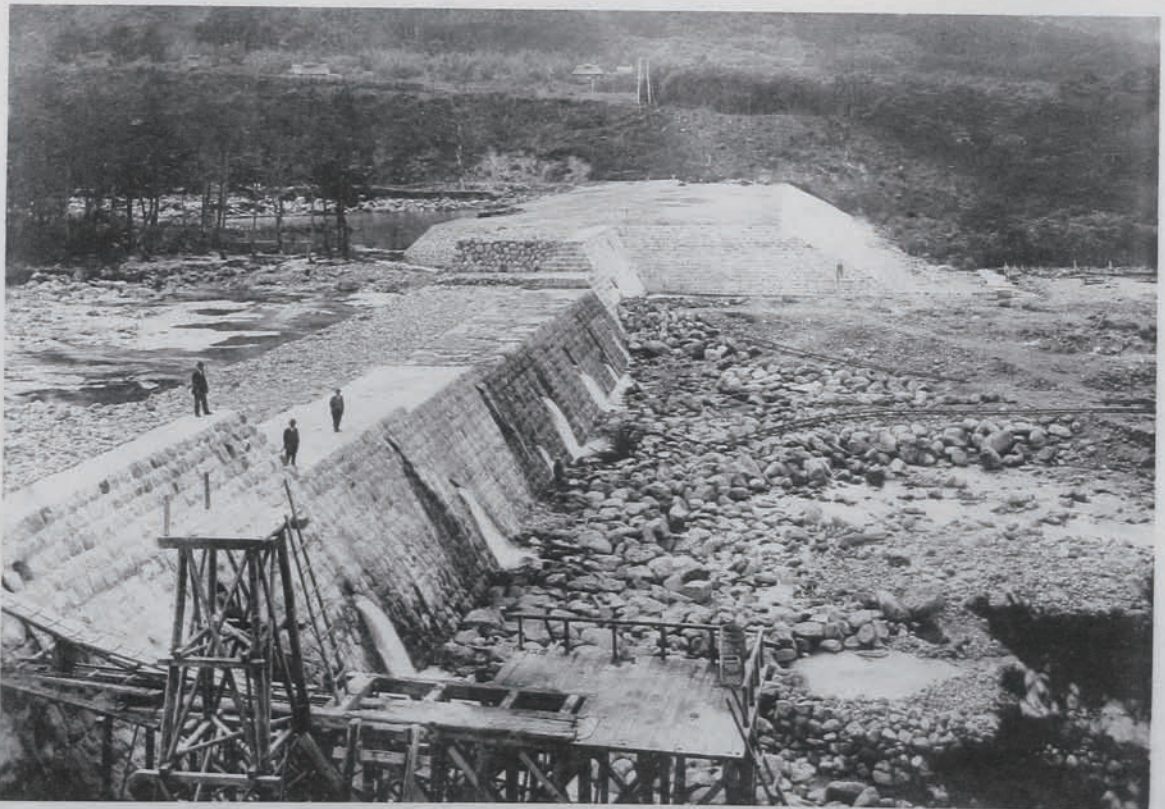
寸一尺五 . (連二)分五寸五尺四 . (連二)寸九尺三 } 寸二尺四一長
 (連三)分七寸七尺五 . (連三)寸八尺五 (連五)分八 } 幅 尺四高



神戶港修築工事鐵筋混凝土

用堤波防 . 用壁岸濟未シ外取枠型 . 用壁岸レセ了ヲ造製(リヨ右)

(ノモルセ了ヲ造製)五呎八三幅 . 呎五四高 . 呎六一一長



阿武隈川改修工事支流荒川上流堰堤

寸四尺八部低最 . 尺八一部高最上面礎基高 . 分八間七六長(堤堰原藏地)

間九一幅端天 . 尺八一高 . 分五間六六長(坪 堤 土) 尺三二幅敷

大正十三年度直轄工事年報

總論

第一 治水事業

我國ハ古來水害多ク其損害價額年々數千萬圓ノ多キニ達スルヲ以テ政府ハ夙ニ治水ノ必要ヲ認メ河川ノ修築改良ニ努力セルコト久シ而シテ政府ガ始テ直轄工事ヲ施行シタル河川ハ淀川ニシテ其起工ハ實ニ明治七年五月ニ在リ次テ同八年六月利根川ノ工事ニ著手シ翌九年十一月ニハ信濃川ノ工ヲ起シ同十一年三月ニハ木曾川同十五年六月ニハ北上川同年七月ニハ阿賀野川同十六年八月ニハ富士川同年十一月ニハ庄川同十七年四月ニハ阿武隈川同年七月ニハ最上川及筑後川同年八月ニハ吉野川同十八年三月ニハ大井川同年六月ニハ天龍川ノ工事ヲ實施スルニ至リシガ是等十四河川ノ工事ハ專ラ低水工事及砂防工事ヲ施行シタリシモノニシテ明治十九年ニ至リ始テ淀川以外ノ河川ニ高水工事ヲモ併セ行フコトトシ夫々工事ヲ進行セシメタリ其後同二十九年四月ニ至リ法律第七十一號ヲ以テ河川法ヲ公布セラレタル結果同法ニ依リ淀、筑後ノ兩川ニハ同年六月ヨリ高水防禦工事ヲ實施スルコトトナリ續テ同三十三年四月ニハ庄川、九頭龍川、同年九月ニハ利根川第一期工事、同三十九年四月ニハ遠賀川、同四十年四月ニハ淀川下流、吉野川、高梁川、信濃川分水工事、同四十一年一月ニハ利根川第二期工事、同四十二年四月ニハ利根川第三期工事、同四十三年四月ニハ利根川支川渡良瀬川ノ改修工事ヲ施行スルニ至レリ然ルニ明治四十

三年ニ於テ全國各地方大水害ノ爲メ未曾有ノ悲慘事ヲ現出セルニ依リ政府ハ臨時治水調査會ヲ設ケ根本的治水ノ計畫ヲ樹立スルコトナリ同會ニ於テ決議シタル計畫豫算ヲ第二十七回帝國議會ニ提出シテ協賛ヲ得同四十四年度ヨリ該計畫通り事業ヲ遂行スルニ至レリ右計畫ハ河川改修ト砂防トノ二工事トシ河川ノ改修ハ河川法ニ依リ國ノ直轄事業トシテ改修ヲ爲スベキ河川ヲ六十五河川ト定メ之ガ施工時期ヲ二期ニ區別シ改修ノ利益ヲ可成的全國各地ニ均霑セシメントスルモノナリ其河川名ハ即チ左ノ如シ

第一期河川

- | | | | | |
|-----|-----|------|-----|------|
| 利根川 | 信濃川 | 木曾川 | 淀川 | 九頭龍川 |
| 吉野川 | 庄川 | 高梁川 | 遠賀川 | 北上川 |
| 雄物川 | 荒川 | 阿賀野川 | 富士川 | 最上川 |
| 神通川 | 岩木川 | 加古川 | 綠川 | 斐伊川 |
- (以上二十河川)

第二期河川

- | | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|
| 天龍川 | 阿武隈川 | 筑後川 | 那珂川 | 庄内川 |
| 中川 | 手取川 | 矢作川 | 大和川 | 吉井川 |
| 馬淵川 | 紀ノ川 | 大淀川 | 由良川 | 多摩川 |
| 關川 | 米代川 | 鳴瀬川 | 久慈川 | 菊池川 |
| 郷川 | 旭川 | 渡川 | 蘆田川 | 川内川 |
| 相坂川 | 千代川 | 鶴見川 | 大野川 | 球磨川 |
| 相模川 | 肱川 | 矢部川 | 狩野川 | 圓山川 |

肝屬川 太田川(静岡) 豊川 白川 大分川
 酒匂川 鈴鹿川 太田川(廣島) 名取川 仁淀川

(以上四十五河川)

右ノ内第一期河川ハ大正十七年度迄ニ全部ヲ竣功セシメ第二期河川ハ第一期河川ノ工事期間内ニ調査ヲ行ヒ第一期河川改修工事ノ竣功ヲ俟テ改修ニ著手シ得ベキ準備ヲ爲スコトトシ又砂防工事ハ河川改修ノ計畫ニ伴ヒ直轄河川ノ流域ニ對シテハ國自ラ之ヲ施行スルヲ原則トシ地方行政廳ニ於テ施行スルモノニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與フルコトトセリ

以上ノ計畫ニ依リ明治四十四年度以降著々事業ノ進捗ニ努メタルモ大正二年度ニ至リ財政上ノ都合ニ依リ一部繰延ノ不得止ニ至リタル爲メ第一期事業全體ノ完成年限ヲ一箇年度延長シ同十八年度迄ニ全部完成ノ事ニ變更シタルモ大正十年年度ニ至リ第一期河川中既ニ竣功セルモノ三河川ト竣功ニ近ヅケルモノ數河川トニシテ未著手ノモノハ斐伊綠ノ二川ニ過ギザルト一面ニハ河狀ノ變態、産業ノ推移等治水計畫上更ニ調査ヲ必要トシタルヲ以テ第二臨時治水調査會ヲ慎重審議ノ結果既ニ國ニ於テ施工中ノ河川竝ニ砂防工事ノ外ニ前記第二期河川其他ヨリ改修河川ヲ選定シ大正十一年度以降二十箇年度内ニ施工スルヲ適當ナリト認メ之レガ決定ヲ見タルモノ即チ左記ノ河川是ナリ

- 鬼 怒 川(利根川支川) 小 貝 川(同上) 信濃川上流(新潟縣下) 犀 川(信濃川支川)
- 野 洲 川(淀川支川) 木 津 川(同上) 北上川上流 雄物川上流
- 最上川上流 天 龍 川 阿武隈川 筑 後 川
- 那 珂 川 庄 内 川 手 取 川 矢 作 川

大和川	吉井川	馬淵川	紀ノ川
大淀川	由良川	關川	米代川
久慈川	旭川	渡川	蘆田川
川内川	千代川	鶴見川	大野川
相模川	肱川	狩野川	肝屬川
豐川	白川	大分川	酒匂川
鈴鹿川	太田川(廣島)	名取川	仁淀川
新宮川	安倍川	菊川	大井川
北川	常願寺川	小矢部川	黒部川
天神川	日野川	佐波川	那賀川
土器川	(以上五十七河川)		

右ノ内第四十六帝國議會ニ於テ國ニ於テ改修スベキ繼續事業トシテ協賛ヲ經タルモノハ天龍、紀ノ、信濃、上流、筑後、千代、蘆田ノ六河川ナリトス

右ノ如ク政府ハ銳意河川改修工事ニ努力セリト雖モ其改修區域ハ利害ノ關係極テ重大ナル部分ノミナルヲ以テ其上流又ハ支派川改修ノ如キハ自然之ヲ關係地方ノ經營ニ委ネザルベカラズ又第二期河川ノ改修ハ第一期河川工事ノ竣功後ニ非ザレバ著手スル能ハザルノ狀況ナルニ比年洪水頻ニ臻リ損害甚大ナルヲ以テ政府ハ益河川改修速成ノ緊要ナルヲ認メ關係府縣ニ於テ根本的改修計畫ノ調査ヲ了シ工事ニ著手スルニ於テハ國庫財政ノ都合ニ依リ相當補助ヲ與ヘ且場合ニ依リ明治三十年法律第三十七號ニ

基キ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルノ方針ヲ決定シ河川改良費トシテ大正六年度ヨリ江合、鳴瀨兩川改修費中へ國庫ヨリ二分ノ一ヲ補助シ大正七年度ヨリ多摩川、信濃川上流、千曲川ノ改修工事ニモ亦工費ノ半額ヲ補助シ且其事業ヲ直接施行スルコトトナリ尙翌八年度ヨリハ太田川、阿賀川、阿武隈川ノ改修工事同九年度ヨリハ圓山川ノ改修工事ニ對シ孰レモ半額ノ補助ヲ與へ且其工事ヲ全部直接施行スル事トナリシモ以テ七河川ハ大正十二年度ヨリ他ノ河川ト共ニ直轄施行ノコトトナレリ

又淀川改修工事ハ大正六年九月三十日及同十月一日ノ大洪水ニ鑑ミ更ニ増補工事ヲ施行スルノ必要ヲ認メ大正七年度以降河川法第八條ニ依リ該工事ヲ直轄施行スルニ至レリ

第一期河川中既ニ完成ヲ告ゲタルモノハ淀川及同下流、利根川第一期、木曾川下流、庄川、九頭龍川幹川及支川足羽川、遠賀川ノ六河川ニシテ工事中ノモノハ淀川改修増補、利根川第二期及第三期(渡良瀬川、江戸川、中川ヲ含ム)、信濃川及同上流(新潟縣下)千曲川、木曾川上流、北上川、阿賀野川、富士川、最上川、筑後川、吉野川、九頭龍川、支川日野川、高梁川、荒川上下流、雄物川、加古川、江合、鳴瀨兩川、岩木川、神通川、多摩川、阿賀、阿武隈兩川、太田川(静岡)圓山川、斐伊川、紀ノ川、千代川、蘆田川ノ二十六河川ナリ又砂防工事ノ竣功シタルハ吉野川ノミニシテ實施中ノモノハ淀川上流、同支川野洲川、同桂川、利根川支川大谷川、信濃川上流千曲川、富士川、神通川ノ七河川ナリトス

第二 港灣改良事業

港灣改良工事ニ關シテハ明治初年以來或ハ直轄工事ヲ起シ或ハ國庫補助ヲ與へ之ガ助成ニ努力シタリシガ時運ノ急進ト共ニ港灣問題ハ益々重要ヲ加ヘタレバ明治三十三年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ

港灣調査會ヲ設ケ港灣ニ關スル重要事項ヲ審議セシメタリシモ同會ハ同三十六年ニ至リ各種ノ調査會廢止ト共ニ一時廢絶シ其後同三十九年六月ニ至リ再ビ内務省ニ港灣調査會ヲ設置シ更ニ同四十年六月勅令第二百四十三號ヲ以テ港灣調査會官制ヲ定メラレ同會ニ於テ本邦ノ港灣ヲ三種ニ分チ第一ハ國ニ於テ修築スルモノ、第二ハ地方起工ノモノニ對シ國庫ヨリ相當補助ヲ與フルモノ、第三ハ地方ノ獨力經營ニ委ヌベキモノトニ區別シ即チ第一種港灣トシテハ横濱、神戸、關門海峽(下關、門司)敦賀ノ五港ヲ選定シ第二種港灣トシテハ東京、伊勢灣内ノ一港、大阪、鹿兒島、長崎、境、新潟、船川(土崎ヲ含ム)青森、仙臺灣内ノ一港ノ十港ト定メ其後伊勢灣内ノ一港トシテハ四日市港、仙臺灣内ノ一港トシテハ鹽釜港ヲ選定シ又名古屋港ヲ追加シ同九年ニ於テ清水、那覇ノ兩港ヲ同十年六月若松、高松、小松島、今治、伏木、伊萬里ノ六港ヲ加ヘ二十四港トセリ而シテ右ノ諸港灣中敦賀港ハ明治四十二年七月起工シ大正三年三月竣功セシモ其後第二期修築工事ヲ行フノ必要ヲ認メ同十一年度ヨリ起工ス又關門海峽改良工事ハ明治四十三年度起工シ又横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事、神戸港修築工事、門司港修築工事ハ大正八年度ヨリ起工シ、下關港ハ同十年度ヨリ起工シタリシガ其内横濱港維持工事及神戸港防波堤築造工事ハ同十年度ヨリ各修築工事ニ包含セラレ何レモ目下工事實施中ナリ又鹽釜港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同三年度ヨリ起工シ又新潟港修築工事ハ工費三分ノ一ヲ補助セラレ同六年度ヨリ起工シ又長崎港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同九年度ヨリ起工シ又清水港修築工事ハ共ニ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十年度ヨリ起工シ又高松港修築工事、境港修築工事ハ是亦工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十一年度ヨリ起工シ今治港ハ今治市施行ニ引續キ同十二年度ヨリ工費二分ノ一ヲ補助セラレテ續工シ小松島港及鹿兒島港ハ同年度ヨリ伏木港ハ同十三年度ヨリ同一ノ補助率ニ依リ起工シ夫々工事實施中ナリ而シテ右補助港灣ノ

工事ハ何レモ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行セルモノナリ其外四日市港ハ明治四十三年度ヨリ船川港ハ同四十四年度ヨリ、青森港ハ大正三年度ヨリ名古屋港ハ同九年度ヨリ大阪港、那覇港ハ共ニ同十一年度ヨリ何レモ工費二分ノ一ノ補助ヲ受ケ其府縣ニ於テ工事實施中ニ係レリ

第三 道路橋梁事業

道路橋梁工事ハ近來直轄施行セシモノ無ク全ク地方行政廳ノ經營ニ委ネタレドモ國道第四號線即陸羽街道埼玉縣栗橋町ヨリ茨城縣新郷村ヲ經テ古河町ニ達スル道路ハ頗ル重要ナルモノナルニ栗橋地先ニ於テ利根川渡船場アリ其不便尠ナカラザルニ依リ利根川橋梁ノ必要ハ多年唱道セラレタル所ナリシガ遂ニ大正七年ニ至リ架橋ノ議起リ同十年度ヨリ工費八拾貳萬六千圓ヲ以テ國ニ於テ工事實行ノ事ニ決定シ同十年十一月工事ニ著手セシガ更ニ工費拾貳萬六千五百圓増額ノ必要ヲ認メ總額九拾五萬貳千五百圓ヲ以テ施行スルコトトナリ其四分ノ一ヲ關係地方ノ負擔トシ本年度ヲ以テ全部ノ竣功ヲ見タリ

第四 震災復舊事業

大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル稀有ノ大震災ノ爲メ直轄事業其他ニ受ケタル損害ハ多大ナルモノニシテ之レガ焦眉ノ急ト爲シ河川復舊工事トシテハ利根川及渡良瀬川、荒川、多摩川、富士川ノ五河川流域ニ對シ大正十二年度及同十三年度ノ兩年度ニ於テ應急施工シ又砂防復舊工事トシテハ相模川及酒匂川、早川、花水川、多摩川ノ五流域ニ對シ同十三年度以降十箇年度ノ繼續工事トシテ施工スルモノニシテ尙横濱港ニ對シテハ同十二年度以降三箇年度ニ施行スルモノニシテ其費額ハ從來ノ横濱港修築費ノ第三

期工事ト共ニ横濱港復舊及修築費トシテ施行スルコトナレリ

第五 大正十三年度施行工事

大正十三年度ニ於テ直轄工事ヲ施行シタルハ河川三〇、河川附屬物及水路維持三、砂防七、港灣十六、橋梁一、震災復舊三ノ六十工事ニシテ何レモ本省直轄ノ下ニ東京、横濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、神戸及下關ノ八土木出張所ニ於テ工事施行ノ任ニ當レリ而シテ是等ノ總工費豫算ハ河川改良工事費參億九千七百八拾五萬九千四百九拾圓、河川附屬物及水路維持費六百九拾九萬六千五百圓、砂防工事費參百九拾五萬九百參拾九圓、港灣改良工事費壹億四百五拾五萬九千八百八拾四圓、橋梁工事費九拾五萬貳千五百圓、震災復舊工事費壹千六百六萬貳千七百七拾五圓、合計五億參千參拾八萬貳千八拾八圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功額ヲ積算スレバ貳億八千七百八拾參萬八千五百參拾參圓ニ達シ其内本年度ノ竣功ニ屬スルモノハ參千貳百參萬六千九百四拾參圓ナリトス而シテ本年度未竣功歩合ハ河川改良工事費ハ其總工費ノ五割六分七厘ニ當リ河川附屬物及水路維持費ハ同二割四分八厘、砂防工事費ハ同六割六分、港灣改良工事費ハ同五割五分二厘、橋梁工事費ハ同十割、震災復舊工事費ハ同三割七分六厘ニシテ各工事ヲ通ジタル竣功歩合ハ四割五分五厘ニ當レリ

今以上ノ工事費ヲ各工事ニ區別シ更ニ其工事ノ著手順ニ依リ列記スレバ左表ノ如シ但シ表中、×ハ直營所出石材及採集砂利價額、△ハ製作品又ハ評價品價額、□ハ管理者負擔額、◎ハ縣負擔額、○ハ無償品使用見積額、▲ハ捨土出願者負擔額、■ハ寄附物品評價額、●ハ鐵道省依托工事ヲ示ス

河川	工事	工費豫算	竣功高			残高	歩合
			前年度	本年度	合計		
利根川	改修工事(東京)	六三、四〇三、一一七	五五、〇七二、八一五	二、二四六、二九七	五七、三一九、一一二	六、〇八四、〇〇五	〇・九〇〇
九頭龍川	改修工事(名古屋)	五、五四八、四三五	一、〇二八、八八一	九、九六八、一四三	一一、〇九七、〇三二	三、二八四	一・〇〇〇
信濃川	改修工事(新潟)	二二、一四一、九〇五	七二、一四一、五五二	一、〇三三、八八一	七三、一七五、三六三	五、一三三、七四三	〇・九六〇
吉野川	改修工事(大阪)	一、二〇一、二八五	一〇、四七七、七八五	四一、八七六、三三	一〇、八九六、五四八	一、一一九、七三七	〇・九〇〇
高梁川	改修工事(大阪)	七、九二六、〇八七	六、八八五、三五二	六七八、八四九	七、五六四、二〇一	三六一、八八六	〇・九四〇
渡良瀬川	改修工事(東京)	一、一四〇、〇〇〇	一〇、二八二、四一一	四五一、〇一八	一〇、七三三、四二九	六六六、五七一	〇・九四〇
北上川	改修工事(仙臺)	一、三三三、〇〇〇	九、六三六、二九三	一四、九八二	一〇、二八二、八三七	三、〇三九、一六三	〇・〇七七
荒川	改修工事(東京)	五三、一四四、〇〇〇	三三、三六七、四四八	六四六、五四四	三三、八六二、五二六	一八、二八一、四七四	〇・六六〇
阿賀野川	改修工事(新潟)	一、二〇〇、〇〇〇	一、四三六、五四六	二、四九五、〇七八	一、四九九、二九六	三、六九八、五〇〇	〇・六八〇
最上川	改修工事(新潟)	一五、〇〇〇、〇〇〇	八八六、二八三	三二四、七四二	一一、一〇〇、七三三	九、一五四、二二六	〇・三九〇
雄物川	改修工事(仙臺)	一、一七〇、〇〇〇	四、一八九、九五八	四七二、四九六	四、六六二、四五四	七、〇三七、五四六	〇・四〇〇
江合、鳴瀬	改修工事(仙臺)	六、四七四、〇〇〇	八四四、〇四七	四二四、〇六一	一、二六八、一〇八	五、二〇五、八九二	〇・二五〇
淀川	改修増補工事(大阪)	一、二〇一、三〇五	六、八三五、一六四	一、五五八、六四五	八、三九三、八〇九	三、六一九、二四二	〇・七〇〇
千曲川	改修工事(新潟)	一、二一〇、〇〇〇	四、八四七、〇二七	七三一、一三八	五、五七八、一六五	六、五二五、八三五	〇・四七〇
加古川	改修工事(大阪)	七、八五〇、〇〇〇	三、三一、六三二	五三七、四〇八	三、八四九、〇四〇	四、〇〇〇、九六〇	〇・四九〇
岩木川	改修工事(仙臺)	一〇、四〇〇、〇〇〇	三、四〇八、七五八	五一、五〇六	三、九二〇、二六四	六、四七九、七三六	〇・三八〇
神通川	改修工事(新潟)	九、二二、五〇〇	二、九一六、九二二	六四一、五六〇	三、五五八、四八三	五、六五四、〇一七	〇・三九〇
多摩川	改修工事(東京)	七、七六二、〇〇〇	三、八三三、七九一	七八一、四九六	四、六一五、二八七	三、一四六、七三三	〇・六一〇

總論

砂	河及川水 附屬物 維持	河川改良工事		工費豫算	竣工			殘高	竣功
		小	計		前年度迄竣功高	本年度竣功高	合計		
淀川流域砂防工事(大阪)	木曾川附屬物及水路維持(名古屋)	小	計	一三、九三八、一〇〇	三、六七三、二〇三	五三一、四六四	四、二〇四、六六七	九、七二三、四四三	別分層 〇・三〇〇
野洲川流域砂防工事(大阪)	淀川附屬物及水路維持(大阪)	△		四、八四三、〇〇〇	一、八〇二、四七一	三四〇、二六九	二、一四二、七四〇	二、七〇〇、二六〇	〇・四六〇
桂川流域砂防工事(大阪)	利根、渡良瀬兩川維持(東京)	△		一、二〇〇、〇〇〇	二、四七五、一一七	六四三、四三八	三、一八八、五五五	八、八八一、四四五	〇・二六〇
淀川流域砂防工事(大阪)	小	計		五、九一一、〇〇〇	一、五五六、〇一八	五七一、四〇〇	二、一二七、四一八	三、七八三、五八二	〇・三四〇
野洲川流域砂防工事(大阪)	小			二〇、〇〇〇、〇〇〇	二、六八六、一八八	八五七、〇九九	三、五四三、二八七	一六、四五六、七一三	〇・一八〇
桂川流域砂防工事(大阪)	小			六、二〇〇、〇〇〇	六、一七〇、七	一八〇、〇八一	二四一、七八八	五、九五八、二二二	〇・〇四〇
淀川流域砂防工事(大阪)	小			六、六〇〇、〇〇〇	六、三三四	二〇、九九九	二七、三三三	六、五七二、六六七	〇・〇四〇
野洲川流域砂防工事(大阪)	小			一、三三〇、〇〇〇	五、九七三	二六四、四〇〇	三三六、三七三	一、〇〇三、六二七	〇・〇三〇
桂川流域砂防工事(大阪)	小			六、六〇〇、〇〇〇	一、二七一	二二、六九〇	二三、九六一	六、五七六、〇三九	〇・〇〇四
淀川流域砂防工事(大阪)	小			四、七二〇、〇〇〇	一九、三九九	二六、一〇七	四五、五〇六	四、六七四、四九四	〇・〇一〇
野洲川流域砂防工事(大阪)	小			五、六六〇、〇〇〇	三三、一八四	一八、一五七	五一、三四一	五、六〇八、六五九	〇・〇一〇
桂川流域砂防工事(大阪)	小			五、六六〇、〇〇〇	一七、六六七	一四、五五六	三二、二二三	五、六二七、七七七	〇・〇〇六
淀川流域砂防工事(大阪)	小			三九七、八五九、四九〇	二〇七、三三〇、〇〇五	一八、三八〇、〇三七	二二五、七〇〇、〇四二	一七二、一五九、四四八	〇・五六七
野洲川流域砂防工事(大阪)	小			一、六九八、〇〇〇	六七七、八七八	八二、〇〇一	七五九、八七九	九三八、一一一	〇・四四七
桂川流域砂防工事(大阪)	小			一、二八八、一〇〇	三四三、一三八	六〇、一九六	四〇三、三三四	八八四、七六六	〇・三二一
淀川流域砂防工事(大阪)	小			四、一〇〇、四〇〇	二七四、二〇一	三三〇、三三一	五七四、五二二	三、四三五、八七八	〇・一四四
野洲川流域砂防工事(大阪)	小			六、九九六、五〇〇	一、二九五、二二七	四四二、五一八	一、七三七、七三五	五、二五八、七六五	〇・二四八
桂川流域砂防工事(大阪)	小			六九〇、〇〇〇	五三、五〇二	三一、〇七三	五四四、五七五	一四五、四二五	〇・七九〇
野洲川流域砂防工事(大阪)	小			六〇、〇〇〇	五三、五二三	六、三一〇	五九、八三三	一六七	一・〇〇〇
桂川流域砂防工事(大阪)	小			六〇、〇〇〇	四七、四九六	五、九八八	五三、四八四	六、五一七	〇・八九〇

防 工 事		港 灣 改 良 工 事		小 計	
大谷川流域砂防工事(東京)	六六四、五〇〇	二九五、三四四	四四、七〇七	三四〇、〇五一	三二四、四四九
千曲川(利根川)流域砂防工事(新潟)	七五六、六〇〇	三八九、六〇四	五三、五九九	四四三、二〇三	三三三、三九七
富士川流域砂防工事(東京)	一、四二五、〇〇〇	九三五、六一九	六九、四二三	一、〇〇五、〇四二	四一九、九五八
神通川流域砂防工事(新潟)	二九四、八三九	一三七、六四六	二二、八一三	一六一、四五九	一三三、三八〇
小計	三、九五〇、九三九	二、三七二、七三四	二三四、九一三	二、六〇七、六四七	一、三四三、二九二
關門海峡改良工事(下關)	一三、一五三、五二八	△ 一〇、〇七一、七六一	△ 七二三、一六四	△ 一〇、七九四、九二五	二、三五八、六〇三
鹽釜港修築工事(仙臺)	五、一九七、二〇〇	△ 四三八、六七一	△ 三四、四一六	△ 四七三、〇八七	〇・八二〇
新潟港修築工事(新潟)	二、一五八、九五五	二、七一四、五三五	三二七、九六二	三、〇三三、四九七	〇・五八〇
神戸港修築工事(神戸)	三五、一六八、六〇一	一、四五四、八八三	三二七、二三三	一、七九二、一一五	〇・八三〇
横濱港修築工事(横濱)	一一、八〇〇、〇〇〇	二、五八九、二六二	二、二八〇、五〇九	一七、〇八六、八二七	〇・四八五
門司港修築工事(下關)	四、九六〇、〇〇〇	二、八三八、六四四	七、一九五	二、五九六、四五七	〇・二〇〇
長崎港修築工事(下關)	二、三五六、〇〇〇	一、二五九、九一九	四一九、五五七	三、二五八、二〇一	〇・六六〇
清水港修築工事(横濱)	五、七八七、〇〇〇	二、一八九、七八〇	二八三、二二六	一、七七〇、三一八	〇・七五〇
下關港修築工事(下關)	三、三七〇、〇〇〇	● 七九二、七九七	● 八五、一七八	● 三、〇四〇、九五八	〇・五四〇
敦賀港修築工事(名古屋)	三、一九〇、〇〇〇	△ 一、五四八	△ 四七五、八一二	△ 一、二六八、六〇九	〇・三八〇
高松港修築工事(神戸)	二、〇六〇、〇〇〇	△ 一七四、二八〇	△ 二一〇、四四一	△ 三、八四、七二一	〇・一二〇
境港修築工事(大阪)	一、六八六、〇〇〇	七二五、〇九六	二八一、六四四	一、〇〇六、七四〇	〇・四八八
今治港修築工事(神戸)	二、一八七、〇〇〇	二五三、三〇四	一七一、六七九	四二四、九八三	〇・二五〇
鹿兒島港修築工事(下關)	二、八〇五、六〇〇	一六五、六七〇	一〇八、〇八〇	二七三、七五〇	〇・〇九七
小松島港修築工事(神戸)	三、〇二一、〇〇〇	二〇、九八五	二、三〇九	二、三三、二九四	〇・〇〇八
伏木港修築工事(新潟)	四、六六九、〇〇〇	八、六二二	六二、一五七	七〇、七七九	〇・二三六
小計	一〇四、五五九、八八四	四〇、二九四、〇二九	六、五五一、八四四	四六、八四五、八七三	〇・五五二

總	震災復舊工事		道路橋梁改良工事		工	事	名	工費豫算	竣功高			殘高	竣功合
	小計	計	利根川外四箇川流域震災復舊工事(東京)	相模川外四箇川流域震災復舊工事(東京)					橫濱港震災復舊工事(橫濱)	利根川架橋工事(東京)	前年度		
計	五三〇,三八二,〇八八	一六,〇六二,七七五	二,六六四,〇〇〇 四,五五〇,〇〇〇 八,八四八,七七五	〇 一,二八三,二八六 一,九七四	〇 一,三五一,二〇二 一九五,九四六	△ 七四一,〇二三 五,四二五	△ 一八五,二二六 三七六	△ 九二六,二四九 五,四六二	二四二,五四三,五五五	六,〇四一,七八八	一,六五八,二二二	四,三五四,〇五四	〇・四五七
小計	一六,〇六二,七七五	三,七七八,五八二	二,四九五,二九六	〇 一,二八三,二八六 一,九七四	〇 一,三五一,二〇二 一九五,九四六	△ 七四一,〇二三 五,四二五	△ 一八五,二二六 三七六	△ 九二六,二四九 五,四六二	六,〇四一,七八八	一,〇〇二,〇九七	七,一九〇,五五三	二九,五二二	〇・三七六
計	五三〇,三八二,〇八八	一六,〇六二,七七五	二,六六四,〇〇〇 四,五五〇,〇〇〇 八,八四八,七七五	〇 一,二八三,二八六 一,九七四	〇 一,三五一,二〇二 一九五,九四六	△ 七四一,〇二三 五,四二五	△ 一八五,二二六 三七六	△ 九二六,二四九 五,四六二	二四二,五四三,五五五	六,〇四一,七八八	一,六五八,二二二	四,三五四,〇五四	〇・四五七

第一章 河川改良工事

第一 利根川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ明治三十三年度ヨリ大正十六年度ニ至ル二十八箇年度繼續事業トシテ總工費六千參百四拾萬參千百拾七圓四拾八錢五厘ヲ以テ群馬縣佐波郡芝根村以下千葉縣銚子町海口ニ至ル二百籽及派川江戸川竝ニ中川ニ於ケル改修工事ヲ施行スルモノトス

本工事ハ當初工費五百八拾壹萬四千百貳拾六圓四拾八錢五厘ヲ以テ第一期工事トシテ下流部タル千葉縣印旛郡佐原町以下海ニ至ル間ヲ又五拾壹萬六千圓ヲ以テ妻沼以下海ニ至ル間竝ニ江戸川流頭附近ノ低水工事ヲ明治三十三年度ニ著手シ同四十二年度ニ於テ第一期工事ハ一旦竣功(低水工事ハ大正十一年度ニ竣功)シタリシガ先是八百貳拾壹萬四千七百七拾五圓ヲ以テ第二期工事トシテ取手、佐原間ヲ同四十二年度ニ著手シ次デ七百八拾壹萬壹千九百拾六圓ヲ以テ同四十三年度ヨリ其上流取手、芝根間ヲ第三期工事トシテ起工シタリ此工費合計貳千貳百參拾五萬六千八百拾七圓四拾八錢五厘ナリ然ルニ適同四十二年ノ夏期ニ至リ稀有ノ出水ニ遭遇セシヲ以テ第一期、第二期及第三期ノ既定計畫ニ擴張ヲ加ヘ増工事ヲ施スノ必要起レルト派川、江戸川ヲ改修スルノ得策ナルヲ認メタルニ依リ工費壹千參百貳拾萬圓ヲ追加シ(工費合計參千五百五拾五萬六千八百拾七圓四拾八錢五厘)大正八年度ヲ以テ竣功期限ト改メ工事實施中ノ處其精確ナル調査ノ進行ト共ニ再ビ既定工事ニ増額ノ必要ヲ生ジタルト江戸川改修工事ノ爲メ

同支川庄内古川ノ流路ヲ遮斷スル事トナリシヲ以テ之ヲ中川ニ注流セシメ(庄内古川ノ附帶工事ハ管理
者ニ代リ國ニ於テ施行ス)且中川ノ改修工事ヲ行ハンガ爲メ同五年度以降工費七百參拾八萬五千參百拾
五圓ヲ追加シ(工費合計四千貳百九拾四萬貳千百參拾貳圓四拾八錢五厘)事業年限四箇年度ヲ延長シ大正
十二年度ニ竣功セシムルコトトナリ引續キ施行中ノ處大正三年以來歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ諸物價及勞
銀ノ昂騰著シク爲ニ工費ニ不足ヲ生ジタルト第三期中川及低水工事ニ於ケル一部追加改修ノ必要ニ因
ル工費トヲ合シ貳千七拾六萬八千貳百圓増額方提出セリ然ルニ同十一年度以降ノ低水工事ハ利根、渡良
瀬兩川ノ維持工事ニ包含セララル事トナリタルヲ以テ右低水工費ヲ控除シタル貳千四拾六萬九百八拾
五圓ヲ追加セラレ竣功期限ヲ大正十六年度トシ前記ノ如ク總工費六千參百四拾萬參千百拾七圓四拾八
錢五厘ヲ以テ施行スルコトトナレリ

河狀並計畫大要

利根川ハ流域面積一萬五千七百六十二平方籽ニシテ一府六縣ニ互リ流路總延長四千四百二籽五(内幹川
三百二十二籽)航路總延長八百五十二籽(内幹川二百七十四籽九)ニ及ビ特ニ派川タル江戸川ヲ經テ沿川各
地ト帝都トノ聯絡ヲ有ス灌漑區域十一萬七千六百七十七町步(内幹川三萬三百十六町步)水害區域十三萬
七千七十五町步(内幹川十二萬一千九十四町步)ニ上リ從來本川ノ最大洪水ハ約十年ニ一回ト稱セラレシ
ガ近時著シク其度數ヲ増加シ明治二十三年、二十九年、三十一年、三十五年、三十九年、四十年、四十三年、大正三
年等大水害頻ニ臻リ以上八箇年ヲ平均スレバ實ニ壹千四百七拾八萬四千貳百九拾五圓ノ損害ヲ被レル
ノ狀況ニシテ最近非常ニ水害ヲ減少シ得タリト雖モ尙大正元年乃至十年ノ平均水害損失額ハ參百七拾

萬九百九拾八圓ノ多キニ達ス而シテ是等ハ農作物及堤防等ノ損害ノミヲ算シタルモノニシテ其間接ノ被害タル交通、商業、衛生等數字ニ計上シ得ベカラザルモノニ至リテハ殆ド測知スベカラザルモノアリ若シ夫レ權現堂ヨリ上流右岸堤ノ破壞ヲ見シカ洪水帝都ヲ襲フニ至ルヲ以テ本川ノ水災關係ハ古來最モ重大視セラレタルモノナリ蓋シ洪水ノ原因種々アルベシト雖モ河狀不良ニシテ堤塘薄弱、流積不足加フルニ漸次河床ノ埋沒ヲ來タシタルニ由因スルナランカ依テ本計畫ニ在テハ本川ノ流量ヲ左ノ如ク定メ快疏スルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルニ在ルナリ

芝根村以下江戸川分流口ニ至ル

五、五七〇

（支川渡良瀬川ノ流量ハ同川計畫ニ述アルガ如ク利根川最高水位ニ影響無キモノトス）

江戸川へ分流

二、二三〇

江戸川へ分流以下鬼怒川合流口ニ至ル

三、三四〇

鬼怒川合流口以下海ニ至ル

四、三一〇

（鬼怒川洪水量ノ内利根川最大高水流量ニ影響スルモノヲ九百七十四粒トス）

本川ノ堤防ハ右ノ流量ヲ標準トセル水位以上一米五乃至一米八ノ高サヲ保タシムルモノナリ元來五千五百七十粒ノ水量ハ本川ニ於テ五年乃至十年毎ニ襲來スルコロノ最大高水ヲ標準トセルモノナレドモ明治四十三年ノ洪水ノ如キハ六千九百六十粒ニ及ベルガ故ニ如斯場合ニ處スルガ爲メ前記ノ流量ヲ標準トセル水位以上尙〇米九ノ増水ヲ見ルモノトシテ築堤ハ尙〇米六乃至〇米九ノ餘裕ヲ存セシムルモノトセリ

今各區ニ就キ改修計畫ヲ述ブレバ第三期改修工事區域ニ屬スルモノノ内上流沼ノ上、妻沼間ハ急流部ニシテ高水勾配五百分ノ一乃至千五百分ノ一、妻沼境間ハ緩流部ニシテ二千二百分ノ一乃至三千三百分ノ一、境取手間ハ鈍流部ニシテ五千五百分ノ一乃至一萬分ノ一ヲ有セシムル事トセリ幅員ニ於テハ沼ノ上

以下赤岩ニ至ル間ハ利根川高原部ヨリ始メテ平地ニ出デタル部分ニシテ所謂汎濫部ニ屬シ其河幅ハ廣大ニシテ砂礫ノ沈澱多ク洪水毎ニ流量ヲ變ジ舊堤ハ斷續不同且河狀最險惡ノ部分タリ故ニ本改修計畫ニ於テハ大略現川ヲ中心トシテ五百四十五米ノ河道ヲ設ケ法線内ハ掘鑿ヲ施シ所要ノ斷面ヲ與ヘ尙兩岸ニ三百六十三米六ノ堤外地ヲ存ゼシメ游水區域トシ以テ危險性ノ河川ニ備ヘタリ然レドモ島村附近竝前小屋附近ハ屈曲甚シク流路數派ニ岐レ所謂亂流區域ナルヲ以テ在來ノ河身ニ關セズ計畫法線ヲ定メ不規則ヲ匡正シ禍根ヲ斷ツ事トセリ又中瀨及石塚附近竝秦村附近ハ論所堤ヲ控ヘ數百年來水論絶ユル事無キ箇所ナレバ此際大斧鉞ヲ加フルニ非ラザレバ到底完全ナル整理ヲ期スルコト能ハザルヲ以テ何レモ新堤ヲ築造シ水害ノ根源ヲ絶ツ事トセリ其結果福川吐口ニハ逆水樋門ヲ設置スル事トセリ

利根川、烏川合流口ハ殆ンド直角ヲ成シ之レガ爲メ幹線ノ水勢ハ入丁河原ニ衝突シ次デ入斗島ヲ襲フノミナラズ烏川ハ幹線ノ爲メ流路ヲ支ヘラルルヲ以テ幹川ノ流身ヲ左方ニ轉ズル様法線ヲ選定シ赤岩以下三ツ堀間ハ大體五百四十五米ノ河幅ヲ標準トシ法線ヲ規定セリ此區間ハ河狀比較的良好ナルヲ以テ可及的現川ニ依リ幅員ノ足ラザル部分ハ此ヲ擴張シ河積ノ足ラザル部分ハ掘鑿ヲ行ヒ河幅ニ餘地アル部分ハ舊態ニ委ネ餘裕ヲ與フルノ方針ヲ採レリ其結果富永、梅島、千江田、井泉、村君、大越、中田、塚崎、關宿、長須、川間、越打等ハ何レモ引堤ヲ爲ス事トナレリ派川權現堂川ハ分派點ニ於テ締切り專ラ赤堀川ヲ擴張シテ本川ト爲シタリ

木ノ崎地先ハ中利根川中著名ナル狹窄部ニシテ河幅僅ニ百二十三米六、河狀大屈曲ヲ爲セルヲ以テ直路ヲ開鑿スル事トシタリ又三ツ堀以下取手間ハ宛然游水地ノ如ク兩岸遠ク千六百三十米乃至三千二百七十米ヲ隔テテ丘陵ニ依リ圍繞セラレ勾配極メテ緩ナルヲ以テ高水法線ヲ八百十八米ト定メ新堤ハ可成

在來ノモノヲ嵩置シ游水地ノ働ヲ減殺セザル方針ヲ採レリ又鬼怒川ハ幹川ニ直角ヲ爲シテ合流スルヲ以テ幹川ノ洪水ヲ支ヘ其排除ヲ阻ム事大ナルヲ以テ吐口ヲ引下ダ逆水ノ影響ヲ減少セシムルコトトセリ而シテ堤塘高ハ計畫洪水位以上川俣鐵橋上流ハ一米八其下流ハ一米五ト爲シ馬踏七米二表裏二割法ニシテ川裏ニハ馬踏ヨリ一米八ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ其レ以下ヲ三割法トセリ

第二期改修工事區域ニ屬スル取手町以下佐原町ニ至ル間ハ河幅五百四十五米ヲ標準トシテ河道ヲ規定セルモ布川布佐兩町間ノ狹窄部ノ如キハ河幅ノ擴張ヲ許サザルニ依リ此部分ニハ土砂ノ浚渫ニ依リ河積ヲ補フコトトシ河身ハ迂曲甚シキ取手町片町井野村小堀間生板村藤藏川岸ヨリ長戸川合流點ニ至ル間及滑川町地先竝ニ金江津村十餘島村間東大戸村川尻ヨリ同村飯島ニ至ル各箇所バ孰レモ新川ヲ開鑿シテ河道ヲ改メ流心ヲ矯正シ派川將監川ハ締切リテ廢川ト爲シ長戸川ト本川トノ合流點ニハ水門ヲ設ケ印旛沼ヘノ逆流ヲ遮斷シ霞ヶ浦沿岸ノ汎濫ヲ防止スル爲メ横利根川合流口ニ閘門ヲ設置スル等ノ計畫ナリシガ四十三年八月ノ洪水ハ遙ニ二十九年第一期第二期共同年ノ出水ニ基キ流量三千七百五十六粒トシテ計畫シタルモノノ水位ヲ超エタルヲ以テ既定計畫ヲ變更シ且追加スルノ必要ヲ生ジ洪水流量ハ之ヲ四千三百粒ト爲ス可ナルヲ確メタリ然レドモ既ニ施行中ノ築堤ハ動カシ難キモノアリ高水波ノ推移上既定河幅ハ之ヲ變更スルノ不得策ナルヲ認メ上流ヨリ豊住村迄ハ計畫高水位ヲ更ニ〇米九ヲ高メ其レヨリ漸次減少セシメ下流佐原町附近ニ至リ從來ノ計畫高水位ニ合セシメ築堤ハ此ヲ擴大シテ下流第一期改修部内ハ約〇米三ノ嵩置ヲ施行スルコトトセリ又當初計畫ニ於テハ在來ノ堤塘ニシテ二十九年程度ノ出水ニ耐ユベキモノト認メタル所ハ其加工ヲ除キタレドモ追加計畫ニ於テハ之ヲ編入セリ即チ左岸取手町ヨリ金江津村ニ至ル間右岸我孫子町ヨリ木下町ニ至ル間及右岸佐原町ヨリ津宮村ニ

至ル間是ナリ要スルニ取手町以下小文間村ノ一部ヲ除キ總テ堤塘ヲ擴築又ハ新築連結セシメ遺ス所ナカラシム又香取郡橋村海上郡椎柴村間ハ第一期改修區域ノ下流ニ位スレドモ改良河川ニ伴フ河潮兩水ノ關係ハ大出水ノ影響ニ依リ水路ニ淺所ヲ生ジタルヲ以テ此部分ヲ浚渫シ佐原町地内小野川口ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スルコトトセリ支川小貝川ハ當初其合流點ニ逆水門ヲ築設スルノ計畫ナリシガ其後調査ノ結果之ヲ廢止シ上流相馬町常磐線鐵道橋以下約七杆入ヲ改修スルコトトシ内上流半部ハ縣ノ施工ニ委ネ下流半部ハ國ニ於テ施行スルモノトス而シテ幹川筋堤塘ハ其高ヲ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏五米四表裏共二割法ニシテ川表ハ馬踏ヨリ二米川裏ハ一米入ヲ下リテ各三米六ノ小段ヲ設ク但シ川裏小段以下ハ三割法ト爲シ尙法先ニ三米六ノ餘地ヲ存ゼシメタリ支川小貝川ノ堤塘ハ表小段及川裏ノ餘地ヲ廢シタル外幹川堤塘ト同形ナリトス

江戸川改修區域ハ猿島郡五霞村大字山王地先ヨリ開鑿シテ新川ヲ通ジ利根本川ト分流セシメ其流頭ニハ床固工ヲ施シ洪水ノ注入積ヲ規定シ尙低水路ニ開閉自在ノ洗堰ヲ設ケ其低水量ニ節制ヲ加フルト同時ニ洪水量ノ一部ニモ亦節制ヲ加フルノ具タラシム蓋シ江戸川ノ最大洪水量ハ二千二百三十粒ナルヲ以テ其大部ヲ洪水敷ヨリ放流セシメ殘餘ヲ低水路ニ依ラシムルコトトシ洪水敷ニ於ケル流量ノ如何ニ依リ低水路ヨリスルモノヲ加減シ得ベカラシム低水時ニ於テ節制ヲ加フルノ要ハ本流利根川ト江戸川トノ間ニ存セル既往水位ノ關係ヲ改修後ニ於テモ尙保有セシメントスルニ外ナラズ又低水路ニハ閘門ヲ設ケ水運ノ便ニ資スルモノトス

江戸川河道ノ現状ハ大體良好ニシテ甚シキ迂曲無キヲ以テ流末ヲ除キ其他ハ全ク現川ニ沿ヒ或ハ左岸ニ或ハ右岸ニ河幅ノ擴張ヲ行フコトトシ堤防ハ多ク舊堤ヲ利用シテ之ヲ増築シ又川床ヲ掘鑿シテ所要

ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ本川ノ低水路ハ利根沿岸ヨリ帝都ニ通ズル航路トシテ船舶ノ往來頗ル頻繁ナルヲ以テ可成の從來ノ低水路ニ觸ルルヲ避ケ堤外地洪水敷ノ掘鑿モ亦低水位以上〇米九ニ止ムルモノトシ以テ所要ノ河幅ヲ定メタリ如斯ニシテ流頭ヨリ下流行德迄ハ全然現川ニ沿ヒ改修ヲ加フルモ行德以下ハ流路迂回スルヲ以テ稍直線ニ新川ヲ開鑿シテ海ニ注ガシム而シテ行德ニ於ケル現川遮斷口ニハ閘門ヲ設ケ既往通航ノ便ヲ保タシメ又洗堰ヲ設ケテ航行灌漑ニ必要ナル水量ヲ通ズルモノトス而シテ河幅ハ流頭以下金野井迄ハ二百五十四米五、同所以下野田迄ハ二百三十六米三、野田町以下海口ニ至ル迄ハ四百米トス又堤高ハ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏ハ五米五、表法ハ右岸二割五分、左岸二割ニシテ川裏ハ馬踏ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ小段迄ヲ二割、其レ以下ヲ三割法トス中川改修區域ハ松伏領村下赤岩以下奥戸村上平井迄延長二十三籽五、地勢平坦ナルヲ以テ利根川本流其他ノ洪水ノ餘波ヲ受ケザル限り本川自身ニ水害ヲ起スコト無シト雖モ庄内古川外二惡水路ノ附換ニ依リ改修ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ是等ノ流量ヲ新ニ増加スルモ現在ノ高水位ヲ昂サズ且沿岸ノ排水ニ惡影響ヲ與ヘザルコトヲ目的トス依テ現河底ノ流心ニ於テ〇米九乃至一米五ヲ浚渫シ河積ヲ補充スルモノトシ只吉川町竝潮止村地先ハ甚シク迂曲セルヲ以テ直通ニ開鑿シテ新ニ河道ヲ設クルモノトス河幅ハ元荒川合流點迄ヲ百一米八トシ其下流ヲ百四十五米四トセリ而シテ築堤ハ前記吉川町及潮止新水路ノ兩岸ニ新設スルノ外二三箇所ノ移堤又ハ増築ニ止メ其他ハ大體舊堤ヲ其儘利用スルモノトス庄内古川ハ江戸川右岸地方ノ諸惡水ヲ集メタル河川ナルガ江戸川改修ニ伴ヒ之ニ接觸セル十籽二餘ノ附替ヲ要スルニ至レルモノナレドモ同川ニ竝行施設スルヨリハ寧ロ近距離ノ中川ニ流落セシムル方水利上竝工費節約上得策ナルヲ認メ且其上流權現堂川ニ注グ羽生領(島川)及島中領ノ兩惡水路ノ改修ヲ要

スルモノナルヲ以テ中川改修ノ附帶工事ト爲シ管理者ニ代リ國ニ於テ施工スルモノトス

施工狀況

當初計畫ノ第一期工事竝低水工事ハ既ニ竣功セルヲ以テ茲ニハ目下施工中ノ第二期、第三期及江戸川、中川ニ於ケル工事ノ概要ヲ記述スベシ

第二期改修工事ニ於テハ第一期工事ニ使用シタル諸機械ヲ其儘充用シ得ルノ便宜ヲ有セルヲ以テ幸ニ施工準備ニ幾多ノ日子ヲ要セザリシガ土地ノ買收ニ在テハ明治四十年七月以降佐原、安食、滑河、取手、河原代ノ各町村ニ收用事務所ヲ設ケ大正三年度迄前後九箇年度ヲ費シ殆ンド全部ノ買收ヲ了スルコトヲ得タリ其後少許ノ追加買收ヲ爲シ其段別一千四百八十四町九步此買收價額百五拾九萬貳千貳百九拾五圓、地上物件移轉料五拾萬五千六百五拾壹圓ナリトス而シテ工事施行ニ關シテハ明治四十二年一月佐原町及安食町ニ工營所ヲ新設シ滑河町以上ハ安食ニテ同所以下ハ佐原ニテ分擔セシガ大正二年四月兩所ヲ合併シテ安食町ニ改修事務所ヲ置キ全區域ヲ管セシム其後年ト共ニ功程益々進ミシガ六年度以降漸次戰時ノ好景氣ニ伴ヒ物價ノ騰貴ト勞力ノ不足トニ依リ大ニ其功程ヲ妨ゲラレ前年度ニ於テハ彼ノ九月一日ニ於ケル大震災ニ因ル被害復舊工事ニ全力ヲ傾注セル爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻礙セラレタルハ頗ル遺憾トスルトコロナリ而シテ起工以來本年度迄ノ竣功高ハ築堤土運搬(利用土ヲ含ム)千八百五拾九萬二千八百十八粒、浚渫土量(利用土ヲ含ム)三千七十六萬八千四百十粒、護岸制水延長二萬一千七百二十二米ナリトス

本年度施行區域ハ取手以下若松村ニ至ル七十九粒ニシテ其間ニ取手、安食、佐原ノ三工場ヲ置キ築堤八箇

所土運搬(利用土ヲ含ム)二十萬三千二百十八粒此工費八萬六千九拾壹圓、浚渫二箇所、土量一萬四千百八十六粒此工費四千八百九拾九圓、護岸制水十箇所、延長一千二十八米此工費六萬四千七百六拾八圓、工費合計拾五萬五千七百五拾八圓ヲ施工セリ今各方面ニ依リ其概況ヲ述ブレバ

取手新水路附近ノ新低水路開鑿工事ハ大正五年度ニ其附近ノ築堤其他附帶工事ハ總テ前年度迄ニ竣功シ新水路ニ沿フテ施設スベキ取手、青山竝ニ下流相野谷制水ハ略竣成シ湖北制水ハ其六割ノ竣功ヲ告ゲタルヲ以テ永年亂流セシ河道ハ漸次改善ノ域ニ達シツツアリ

木下附近ニ於テハ木下護岸ヲ前年度ニ引續キ施工竣功セシメタルヲ以テ此附近ノ各種工事ハ全部竣功セリ

安食附近ニ於テハ右岸長戸川締切及安食築堤竝ニ左岸十里築堤ハ何レモ年度内ニ竣功シ安食制水及十里護岸ハ各六割ヲ竣功セリ

滑河新水路附近ハ兩岸築堤竝右岸西大須賀護岸等皆前年度迄ニ竣功シ本年度起工ノ左岸金江津護岸又年度内竣功シタルヲ以テ附近各種工事ハ全部完成ヲ告ゲタリ

東大戸新水路附近ニ於ケル兩岸ノ築堤ハ其竣功古ク嵩置工事ヲ要スルモノアルヲ以テ右岸東大戸築堤三千百餘米ヲ大正九年度末ニ左岸東大戸築堤三千百五十餘米ヲ十年度末ニ起工シ何レモ年度内竣功セシメタリ

佐原附近ニ於テハ十年度起工ノ須保居護岸及本年度著手ノ同護岸根固工孰レモ年度内竣功シ前年度起工セシ横利根護岸ハ六割ノ竣成ヲ告ゲ未竣功ニ終レリ

小見川附近ニ於テハ既ニ第一期工事ニ於テ竣功セル堤塘ニ嵩置ヲ施行スル追加工事ニシテ右岸小見川

森山、左岸芝崎、豊浦ノ各築堤ハ前年度迄ニ竣功シ本年度ニ於テハ右岸大倉及前年度起工ノ佐津兩築堤ニ於テ各三割ヲ左岸大倉築堤ハ約一割ヲ竣功セリ

小支小貝川ニ於テハ左岸大留、右岸戸田井ノ二築堤及大留舊川締切ハ前年度竣功シ左岸豊田、右岸大留ノ二築堤ハ孰レモ年度内竣功シタルヲ以テ剩スハ本年度起工ノ神ノ浦護岸ニ於テ約四割ノ未成部ノミトナレリ

第三期改修工事ハ明治四十二年度ニ於テ施行準備ヲ爲シ同四十三年度ニ田中村、同四十四年度ニ稻戸井村ニ工營所ヲ設置シ土地買收ニ關係無キ現河川ノ浚渫ヲ施行セリ而シテ土地買收ハ明治四十四年一月以降取手、木間ヶ瀬、栗橋、赤岩及境ニ各收用事務所ヲ置キ大正五年度迄ニ約七箇年度ヲ費シ大部ノ買收ヲ了シ其後少許ノ追加買收ヲ爲シ其總段別三千五百二十三町七段歩此買收價額參百七拾萬九千貳百參拾參圓、地上物件移轉料百參拾八萬四千六百拾九圓ヲ支出セリ而シテ本工事ハ計畫掘鑿土量三千三百五萬八千粒、築堤土運搬千五百五十八萬二千粒ノ大土工ナルヲ以テ銳意機械ノ整備ヲ圖リ掘鑿機十六臺、機關車十七臺、浚渫船大小七隻、木造工業船二百十四隻、三十疔軌條約十五籽、十五疔軌條五十三籽、六疔軌條八十五籽、五合積土運車七百六十六臺、一合トロ二千三百三十八臺、其他附屬諸機械ノ準備成リタルニ依リ大正元年度ニ於テ全區域ヲ三分シ尾島、栗橋、田中ニ各工區事務所ヲ設置シ專心竣功ヲ急ギタル結果同六年度末ニ於テ略成功ニ近ヅキタルヲ以テ同七年五月三區ヲ合併シ栗橋町ニ第三期改修事務所ヲ置キ殘工事全部ヲ統轄スル事トセリ斯テ大正十年度ニ於テ殆ンド完成ノ域ニ達スルヲ得タリト雖モ其間歐洲戰亂ニ依リ物價及勞銀ノ昂騰竝同十二年九月一日ノ大震災ニ因ル復舊工事等ノ爲メ著シク進捗ヲ阻碍セラレタルモノアリ尙今後權現堂川締切工事ニ關スル築堤及掘鑿土量各三十萬粒、護岸制水六千五百米ノ施

工ヲ要スルモノニシテ本年度迄ノ竣功累計ハ築堤土運搬利用土ヲ含ム二千七百七十七萬四千七百九十一粒、浚渫土量四千五百八十一萬八千三十八粒、護岸制水十萬七千三十八米ナリトス
本年度施工區域ハ上流沼ノ上ヨリ取手ニ至ル百七籽八ニシテ沼ノ上、男沼、千江田、栗橋、木間ヶ瀬、田中ノ六工場ヲ置キ其下ニ若干ノ見張所ヲ設ケ各工事ヲ擔當ス其施工ハ護岸及制水ヲ主トシ其他ヲ合シ十四箇所ニシテ内竣功セルモノ十一箇所ナリトス今其概況ヲ記述スベシ
沼ノ上、赤岩間ハ利根川急流部ニ屬スルヲ以テ前年度來幾多ノ護岸、制水ヲ施工セラレ新設護岸ト之ニ舊護岸トヲ加フレバ其延長四萬六千三百二十七米トナリ正ニ河岸延長ノ七割六分ニ當リ危險ノ箇所ハ悉ク防禦セララルルニ至レルヲ以テ今年度ニ於テハ西島、前河原護岸ノ柳籠鐵筋材合掌枿及鐵線蛇籠出等ヲ前年度ニ繼續施工シタルニ止メタリ然レドモ沼ノ上、仁手、八斗島、長沼、前河原、間々田、古海、赤岩地先等ハ水流絶ヘズ既設護岸ニ激衝シ脚部ヲ洗ヒ去ル狀態ナルヲ以テ將來相當多クノ施設ヲ必要トスベシ
赤岩、境間ニ於テハ村君ノ舊堤除却後ニ堆積セル土砂ヲ掘鑿シ年度内四千三百二十四粒ヲ施工セリ此區間ノ土工ハ權現堂川締切工未著手ノ爲メ掘鑿、築堤各三十萬粒内外ヲ殘スノミトナレリ
護岸制水ハ前年度ヨリ續工中ノ井泉地先ノ柳枝護岸及床固制水ヲ竣功セシメ村君ノ大引堤箇所下流部前小段ニ柳枝工ヲ施行シ尙床固トシテ合掌枿ヲ設置セリ又大越原道及利島地先ハ引堤後一體ノ平濤トナリ舟航最困難ヲ極メタルヲ以テ數年來引續キ床固、制水ヲ施工シ本年度ヲ以テ完成セシメ尙原道ノ下手ニ柳籠護岸、栗橋地先ニ石張沈床護岸ヲ施工セリ
又主要殘工事ノ内川俣ニ於ケル東武鐵道橋繼足工事ハ管理者ニ於テ起工セシモ權現堂川用水ニ關聯スル新水路及水路橋竝堰堤工事ハ江戸川改修關宿分水工事ノ關係上尙未著手ニ屬セリ

境、取手間ニ於ケル掘鑿及築堤ハ全部完成シ只護岸及制水ヲ剩スノミトナリ前年度ヨリ續工ノ境町地先石張沈床護岸ハ年度内竣功シ小山護岸ハ前年度迄ニ合掌枿ヲ沈設シ本年度ハ根固ノ片合掌枿ヲ設置シ尙柳籠ノ伏込ミヲ了セリ其他ハ前年度迄ノ施工ニ依リ猿島、關宿、二川、木間ヶ瀬、小山、下原、目吹及鬼怒川ノ兩岸等水流激衝ノ箇所ハ悉ク防禦セララルニ至レリ

江戸川改修工事ハ明治四十四年四月施工準備ニ著手シ大正二年四月松戸町及野田町ニ土地收用事務所ヲ置キ買收協議ヲ開始セシガ其成績良好ニシテ大正四年三月迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ了シ其後少許ノ追加買收ヲ爲シ總段別一千七十六町四段五畝二十步此買收代金貳百九萬壹千六百拾貳圓、地上物件移轉料百拾九萬六千四百九拾九圓ヲ支出セリ而シテ工事施工ノ爲メ大正三年十二月野田町ニ改修事務所ヲ設置シ同年度ニ於テハ築堤及掘鑿ノ幾分ヲ施工シタルニ過ギザリシガ同四年度以降漸次功程ヲ舉ゲ本年度迄ニ築堤土運搬(利用土ヲ含ム)一千三百二十四萬九百六粒、浚渫土量一千三百七十五萬一千九百六十一粒及護岸制水延長三萬六千三百二十一米ヲ竣成セリ

本年度ニ於ケル工事施工ノ區域ハ逆川筋五霞村、江戸川筋關宿町以下海ニ至ル延長約五十九粒ニシテ其間山王、關宿、野田、流山、松戸、市川ノ六工場ヲ置キ其下ニ若干ノ見張所ヲ設ケ各工事ヲ施行セシガ大正十二年九月一日ノ關東大震災ニ因ル被害ハ相當多ク其損害見込額實ニ利根川第三期ニ次グノ慘害ヲ被リ此レガ復舊工事ニ全力ヲ傾注セシ爲メ前年度以降不尠改修工事ノ工程ヲ阻碍セシハ遺憾トスル所ナリ而シテ年度内竣成高ハ機械及人カヲ合セ掘鑿土量百三十三萬二千九百九十九粒此工費參拾八萬四千七拾參圓、築堤土運搬(利用土ヲ含ム)八十二萬二千六百五十八粒此工費拾五萬壹千九百五拾六圓、護岸制水延長一千八百八十二米此工費八萬六千參百壹圓、特種工事二箇所此工費拾九萬九千五百八拾四圓、工費合計八拾

貳萬壹千九百拾四圓ナリトス又附帶工事ハ前年度ヨリ續工セル利根運河堤防擴築其他ヲ合セ四箇所ト本年度著手ノ新入樋管其他一箇所合計六箇所ニシテ内四箇所ハ竣功シ其工費拾萬貳千五百貳圓ヲ支出セリ其他管理者施工京成電氣軌道變更工事ニ對シ國庫補助ヲ爲シタルモノ拾參萬圓ナリトス

中川改修工事ハ大正五年度創業直ニ施工準備ニ著手シ六年度ヨリ起工セリ而シテ土地買收ノ爲メ大正八年九月新宿町ニ收用事務所ヲ置キ買收調査ニ從事シ九年度迄ニ其大部分ヲ買收シ十一年度ニ至リテ完了セリ其段別百三町一段二畝步此買收代金四拾八萬四千八百拾壹圓地上物件移轉料拾參萬參千六百貳拾四圓ヲ支出セリ本工事ハ當初江戸川改修事務所ノ所管ナリシガ大正八年十一月分立シテ龜青村ニ改修事務所ヲ設置シ銳意施工ニ努メ起工以來築堤土運搬(利用土ヲ含ム)二十四萬八千六百十三粒、浚渫土量三百七十二萬九千四百九十五粒ヲ竣成セリ

本年度ニ於ケル施工區域ハ中川本川筋増林村以下本田村ニ至ル二十五籽七ト庄内古川筋吉田村以下松伏領村ニ至ル三十五粒三トニシテ前者ハ吉川、龜有ニ後者ハ幸松、島川ニ各工場ヲ置キ工事ヲ施行シタルモノニシテ其施工ノ概況ヲ述ブレバ本改修ハ浚渫ヲ主トスルガ故ニ機械浚渫ニ主力ヲ注ギ浚渫船五隻ヲ使用シ三十九萬九千餘粒ヲ浚渫シ尙人力ニ依リ高水敷ヲ掘鑿シテ五萬八千粒ヲ運搬セリ築堤ハ吉川、潮止ノ二新水路兩岸新堤ヲ前年度ニ續工竣功セシメタルヲ以テ今後殘レルハ潮止新水路ノ呑口ニ於ケル舊川締切堤ノミトナレリ又附帶工事ハ潮止新水路ニ架設スベキ縣道橋井堀惡水路附替工事、稻荷下樋管竝下八間堀道樋管ノ四工事ニシテ何レモ年度内ニ竣功シ剩スハ京成電車橋ノ橋脚補強工事ノミトナレリ而シテ本年度功程ハ浚渫土量四十五萬七千六百六十四粒此工費拾四萬五千六百四拾五圓、築堤壹千四百四拾貳圓、附帶工事四箇所此工費六萬壹千九百貳圓、工費合計貳拾萬八千九百八拾九圓ナリトス

庄内古川工事ハ附帶工事ノ一ナレドモ其實中川改修促進ノ因ヲ爲シ且工事ノ規模大ナルヲ以テ其施工ニ相當ノ準備ヲ要シ大正六年度幸松村ニ土地收用事務所ヲ設ケテ所要土地ノ買收（管理者負擔）ヲ爲シ工事ハ大正七年度ヨリ著手セリ本年度ニ於テハ上流吉田村新水路竝下流部ニ於テ浚渫船及人力ニ依リ土量二十一萬九千粒ヲ掘鑿シ築堤ハ松伏領竝吉田村新水路掘鑿ニ伴ヒ施工シ又雜工事トシテ前年度ヨリ續工セル橋梁一箇所本年度著手ノ二箇所計三箇所ノ内一箇所ヲ竣功セシメタルノ外八間堀吐口ニ護岸工ヲ施行シ年度内竣功セシメタリ斯クテ庄内古川ハ吉田村大字上宇和田地先權現堂堤防以下ノ工ヲ進メタレドモ權現堂川及島川筋ハ江戸川改修工事ノ關係上權現堂川ガ未ダ廢川トナラザルニ依リ行幸堤ノ上流ニ於テ僅ニ人力掘鑿ヲ施工セルノミナルモ是等ハ次年度末迄ニハ進捗ノ見込ナルヲ以テ其曉ニハ一氣ニ工ヲ進メ他工事ト竝行竣功セシムルノ豫定ナリトス而シテ本年度ノ工程ハ浚渫土量二十一萬八千五百五十三粒ノ工費四萬參千五百五拾圓築堤參萬九千九拾四粒（利用土）ノ工費參千五百九拾貳圓橋梁其他四箇所ノ工費四千貳百八拾圓工費合計五萬壹千四百貳拾貳圓ナリトス

石材斫出事業ハ本改修工事ニ使用スル石材ヲ直營斫出スル事業ニシテ大正五年度迄ハ概ネ銚子及岩舟産ヲ購入使用セシモ兩地トモ採石規模狹少ナルト運搬能力不充分ナルガ爲メ動モスレバ納期ヲ遲延シ急速ノ所要ニ應ズルコト能ハザルヲ以テ五年度ニ於テ栃木縣下都賀郡小野寺村ニ岩舟工場ヲ設置シ其裏山ヨリ石材ヲ斫出シ専用軌道ニ依リ之ヲ藤岡町赤麻沼沿岸ニ搬出シ夫レヨリ舟運ニ依リ渡良瀬川及利根川筋川俣以下ノ所要地ニ供給スル方針ヲ以テ設備ヲ整へ同六年度ヨリ斫出ヲ開始シタリシガ舟運ノ關係上同十年度ヨリ其搬出地ヲ石川沼沿岸ニ變更シ起工以來本年度迄ニ二十五萬九千四十三粒ヲ配送セリ而シテ本年度ハ震災復舊工事用ヲ合セ第三期改修五千八百四十一粒、江戸川改修一萬六千三十三

粒、渡良瀬川改修四千四百六十粒、合計二萬六千三百三十四粒ヲ配送シタリ

砂利採集事業ハ生産地ノ關係上便宜渡良瀬川改修工事事務所ニ於テ擔當スルコトトシ大正七年九月事務ヲ開始シ當初ハ地方採集業者ヲシテ請負ハシメシモ到底需要ヲ充タシ難キ狀況ニ鑑ミ同九年度ニ於テ其經營方法ヲ擴張シ思川筋穂積村地先砂利洲ヨリ直營採集ノコトトシ輕便軌條ニ依リ五噸機關車ヲ以テ同村乙女河岸迄陸送シ之ヲ所要工區ニ配送スルノ計畫ヲ定メ續工シ來リシガ前年度更ニ之ヲ高座口迄延長シ渴水期ニ於ケル船積場トシテ本年度ハ震災復舊工事用ヲ合セ第三期改修ニ二千三百粒、江戸川改修ニ一萬一千七百九十六粒、合計一萬四千九十六粒ヲ配送セリ而シテ起工以來ノ採集累計ハ改修工事用七萬八千六百四粒、震災復舊工事用八千五百五十粒ニ達セリ

本年度ニ於ケル利根川改修工事ノ竣功高ハ貳百貳拾四萬六千貳百九拾七圓ニシテ起工以來ノ總竣功高ハ五千七百參拾壹萬九千百拾貳圓ナリトス之ヲ總工費豫算六千參百四拾萬參千百拾七圓ニ比較スルトキハ九割ノ竣功タリ左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「*」ヲ附シタルハ利用土坪「x」ハ直營斫出石材及同採集砂利價額「△」ハ製作品及評價品價額「□」ハ管理者負擔額「◎」ハ縣負擔額「○」ハ無償品使用見積額「▲」ハ捨土出願者負擔額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	* 二二、六五六、九二九 四〇、〇八一、四五〇	五、九二二、二六三 八、九一五、五六六	* 四〇七、二四五 六一八、六三一	二二七、三三九 二、一一〇	* 二二、〇六四、一七四 四〇、七〇〇、〇八一	六、一四九、六四二 四、一六六、八九五	〇・九四 〇・九四
工浚費	* 一〇、三六二、三六〇 一、一〇、〇〇〇、六六六	一、〇、九四六、八二二 三、四四五	* 一、八〇七、八七三 五、七二〇	五、三五五、九三三 六、四二二	* 一〇、四四三、六三三 一、一〇、〇〇〇、三三六	一一、四八二、四一五 六、四二二	〇・九六 〇・九六
事護岸制水費	一五八、〇五五	△x 三、八三八、九七七 八三一、八二五 六三五	七、〇二七	x 一七六、七八四 七六、七七八	一六五、〇八二	△x 四、〇一五、七六一 八九八、六三一 六三五	〇・六六

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
本特種工事費	簡所 一四	一、九七二、三三九	簡所 二	一八〇、三四九	簡所 一六	二、一五二、六八八	〇・四分	
工事障害物除却費	粒 五三、一〇七	三、六八八、一一六		三七、三〇六	粒 五三、一〇七	三、四〇〇、五二六		
工事材料採集費		八、六九九				八、六九九		
用地費	段 六六、三三五・〇〇八	九〇、二二七		七七、五〇九	段 六六、三三五・〇二〇	九七九、七三六		
附帶直轄施行	簡所 一六七	一、七三三、八三三	簡所 八	二二七、八六九	簡所 一七五	一、九四九、四七一		
工事管理施行		一、七二一、六〇二		一、五〇五、五五九		二、二二七、一六六		
船舶及機械費	四四	三〇八、七二八	二	一八二、七五九	四六	四九一、四八七		
測量費		一、二〇七、五三三		三四六、三六六		一、二、四二一、六九七		
營繕費		八六六、〇七三		三四四、三三三		九〇〇、五〇六		
施行中諸費		一七八、一〇〇		六、一八九		一八四、二八九		
共濟組合給與金		六五六、五五七		一六、三二七		六七二、八八四		
死亡毀損其他		四、一三三、二八七		二四三、五四八		四、三五六、八三五		
低水工事費(諸費共)		一四、七〇八		一五、五九〇		三〇、二九八		
總計		六八八、七八五		一五、五九〇		六八八、七八五	〇・九〇	

更ニ本表ノ竣功額ヲ各改修別ニ示セバ次ノ如シ

第一期改修及低水工事

種別	竣功高		種別	竣功高	
	數量	金額		數量	金額
本築堤費	三、二一四、七〇六	五、一六一、二二六	船舶及機械費	二、八七一、七二二	計
	* 六九二、四二二			三〇、〇九二	
	二一、四八四、七一五	一、三〇二、〇三〇		一〇六、二六八	
	箇所	二〇、四四六		二五四、五四六	
	五	一九一		六八八、七八五	
工事費	一〇、一六四	二、二五〇	測量費	二、二五〇	計
	箇所	六三五、五二四		二、二五〇	
特種工事費	四、四六一	四八、七一四	營繕費	一〇〇	計
	箇所	一、九六九		一〇〇	
障害物除却費	一〇	四二、六四八	施行中諸費	一〇〇	計
	箇所	一〇〇		一〇〇	
附帶工事費	五		總計	一〇〇	計
	箇所			一〇〇	

第二期改修

種別	前年度迄竣功高		種別	本年度迄竣功高	
	數量	金額		數量	金額
本築堤費	一四、四四四、三七一	二、八一、一一三	船舶及機械費	一、九三、〇五二	計
	* 三、九四五、二七九			八六、〇九一	
	一九、六三七、八三八	二、二二、四二九		四、八九九	
	* 一、一〇、六六六	八〇三、二五二		六四、七六八	
	箇所	二〇、六九五		八二六、七〇二	
工事費	一七、二一四	三、六五五	測量費	二、二二七、三二八	計
	箇所	三、一九、二六〇		二、二二七、三二八	
特種工事費	三	三一、九二六	營繕費	一〇、二二八	計
	箇所	三一、九二六		一〇、二二八	
障害物除却費	一四、八四〇、九	二、〇九七、九四六	施行中諸費	一四、六三七、三三一	計
	箇所	二、〇九七、九四六		一四、六三七、三三一	
材料採集費	一四、八四〇、九	二、〇九七、九四六	總計	一四、六三七、三三一	計
	箇所	二、〇九七、九四六		一四、六三七、三三一	

江戸川改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
材料採集費	段	三五,二二七・四			段	三五,二二七・四		
用地費	箇所	五,〇九三・八五二			箇所	五,〇九三・八五二		
附直轄施行	箇所	二二六・八六一			箇所	二二六・八六一		
工事管理者施行	箇所	二一八・一五〇			箇所	二一八・一五〇		
船舶及機械費	四	二二,四〇二			四	二二,四〇二		
測量費		三,五五六・五四九				三,五五六・五四九		
營業繕費		九七,五四八				九七,五四八		
施行中諸費		五一,一〇三				五一,一〇三		
共濟組合給與金		一八三・一六二				一八三・一六二		
亡失毀損其他		一,三四八・七九二				一,三四八・七九二		
總計		一,〇三三・四六七				一,〇三三・四六七		
築堤費	米	一,二,二五七・七〇一			米	一,二,二五七・七〇一		
濬深費	米	一〇,一六〇・五四六			米	一〇,一六〇・五四六		
護岸制水費	米	一,二,四一九・七六二			米	一,二,四一九・七六二		
特種工事費	箇所	三,四,四三九			箇所	三,四,四三九		
合計		一,二,二五七・七〇一				一,二,二五七・七〇一		
築堤費	米	一,二,二五七・七〇一			米	一,二,二五七・七〇一		
濬深費	米	一〇,一六〇・五四六			米	一〇,一六〇・五四六		
護岸制水費	米	一,二,四一九・七六二			米	一,二,四一九・七六二		
特種工事費	箇所	三,四,四三九			箇所	三,四,四三九		
合計		一,二,二五七・七〇一				一,二,二五七・七〇一		

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
材料採集費		二九三、六一三		七五、五二八		三六九、一四一
用地費	一〇、七六四・五〇八	三二八、〇七五	〇・〇一一	三六	一〇、七六四・五二〇	三二八、一一一
附直轄施行	箇所 二七	一七六、三〇三	箇所 四	一〇〇、七一五	箇所 三一	二七七、〇一八
工事管理者施行	二七	一〇六、七八七		八、二七三	三一	一一五、〇六〇
船舶及機械費	二三	一七五、七六五	一	一三〇、〇〇〇	二四	三〇五、七六五
測量費		二、三八九、二七八		二四六、二三八		二、六三五、五一六
營繕費		三、三四四、五二八		二八、五〇二		三、三七三、〇三〇
施行中諸費		三三、四三九		二、一一一		三五、五六〇
共濟組合給與金		二二九、五七七		七、六六八		二四七、二四五
亡失毀損其他		一、〇一九、三七八		一四九、〇二九		一、一六八、四〇七
總計		八二		九、一六八		八二

中川改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本築堤費		二一、七四七		一、四四二		二三、一八九
工事浚費	* 三、二七二・三三三 一、三三三・三三三	九二五、七九六	四五七、一六四	▲ 一四九、六四五 六、四二一	* 三、七二九・四九五	▲ 一、〇〇七・一八四 六、四二一
竣功		〇・八二		〇・八二		〇・八二
合計		〇・七九		〇・七九		〇・七九

總計	附帶工事						用地費
	船隻及機械費	測量費	營繕費	施行中諸費	共濟組合給與金	管理施行者費	
							1,031.2
◎□△	△					◎□△	二 箇所
三、六三三、九六八 三七〇〇、三九六 七二一、八四〇、八六五 八四〇、八六五	八五九、五三一 六七六、〇〇六 五、〇〇一	四六、三四七	二八九、八九五	三、四三四	六、八七三	八五六、九〇九 三七〇、七〇四 二七一、八〇五 四〇六、四四	六一八、四三五
							四 箇所
▲◎□△	△	△				◎□△	一 箇所
四一〇、六九二 一五六一、六三二 一六三、三九二 六八、六五九	七九、〇一九 五、三七一 一、三四三 一、七七一	四六一、五〇	四、二三〇	四、〇〇〇	一、二七一、一五四 一五八、六八二 三八、六六三 六五、九二		
							六 箇所
▲◎□△	△	△				◎□△	二 箇所
四、〇四六、六六二 四二七、四一五 九二五、〇六八 六〇、五二八	九三八、五五〇 七二、九七七 六、三四四 七、九九	四八、〇五八	三三六、〇四五	七、六六四	一〇、八七三	九八四、〇六三 四三三、四五六 九〇、五八四 二五、〇六三	六一八、四三五
〇〇六					〇・五三	〇・八一	

第一 九頭龍川改修工事

（名古屋土木出張所）

緒言

本工事ハ工費豫算參百八拾壹萬壹千貳百拾圓ヲ以テ幹川福井縣吉田郡松岡村、五領ヶ島村以下海ニ至ル約七里及支川日野川筋同縣足羽郡東安居村下市以下幹川合流點迄約一里十餘町、支川足羽川筋同縣足羽郡東郷村、酒生村以下日野川合流點ニ至ル約四里ノ間ニ高水防禦ノ目的ヲ以テ明治三十三年度ヨリ著工シ同四十四年度ニ至リ全部ノ竣功ヲ告ゲタリシガ引續キ第二期計畫トシテ既定工費ノ殘額參拾萬圓ト追加工費七拾萬圓（内福井縣負擔貳拾壹萬圓）トヲ併セ百萬圓ノ豫算ヲ以テ支川日野川上流部及同淺水川竝鞍谷川ノ改修工事ヲ明治四十三年度ヨリ起工セリ然ルニ大正五年度ヨリ工費貳拾五萬圓（内福井縣負擔六萬參千圓）ヲ追加シテ支川天王川ノ工事ニ著手スルコトナリ大正八年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ施工中ナリシガ淺水川附替部ニ於ケル土地收用ノ困難ナリシト時局ノ影響トニ因リ竣功期限ヲ大正十一年度迄延長シ大正八年度ニ於テ九萬八千四百五圓ヲ追加シ同十年度ニ四拾萬圓ヲ増額シ更ニ同十一年度ニ於テ貳拾四萬八千七百八拾七圓ヲ増額セシガ大正十年、十一年ノ水害ニ因リテ更ニ十二年度ニ於テ四萬貳千圓ノ追加ヲ得シヲ以テ總工費豫算額五百五拾五萬四百貳圓トナレリ即チ本工事ハ本年度ヲ以テ竣功ヲ見ルニ至レリ而シテ其第二期計畫改修區域ハ左ノ如シ

支川 日野川

左岸 福井縣丹生郡豐村以下同郡西安居村

右岸 同 縣今立郡舟津村以下足羽郡東安居村

ニ至ル約五里

同	足羽川	左岸	同	縣足羽郡社村	ニ至ル約三十町
		右岸	同	縣同 郡東安居村	
	小支川淺水川	左岸	同	縣今立郡中河村	以下日野川合流點ニ至ル約二里十町餘
		右岸	同	縣同 郡北中山村	以下淺水川合流點ニ至ル約二十町餘
	小々支川鞍谷川	左岸	同	縣今立郡中河村	
		右岸	同	縣同 郡北中山村	
	小支川天王川	左岸	同	縣丹生郡朝日村	以下日野川合流點ニ至ル約一里餘
		右岸	同	縣丹生郡朝日村	

河狀並計畫大要

日野川ハ九頭龍川ノ最大支川ニシテ流域面積七十六方里、流路延長十八里沿岸平野遠ク開ケ頗ル灌漑ノ便ニ富メリト雖モ水災亦多ク上流部ハ明治二十八、九年ノ水害以來河身堤防等著シク改良セラレタレドモ武生町ノ下流吉野村大字家久以下ハ舊態ノ儘ニ存シ堤防薄弱且無堤ノ處アリテ高水毎ニ侵入スルヲ見ルノ狀況ナリ特ニ同部ニハ淺水川(流域面積十一方里)及天王川(流域面積七方里)ノ合流スルアリテ高水ノ際ハ其ノ合流部附近ノ平野一帯ニ浸水シ游水池ノ狀ヲ呈ス浸水面積家久以下清水山ニ至ル日野川左岸ニ於テ一千三百町步、家久鐵道橋ヨリ線路ニ沿ヒ福井市足羽川ニ至ル間三千町步及下江守ヨリ足羽川合流點ニ達スル兩岸竝足羽川放水路ト幹川間トノ平野八百町步、合計五千百町步ナリ而シテ水害ノ著大ナリシハ明治二十八年及同二十九年ノ洪水ニシテ其損害高前者ハ百七拾萬圓、後者ハ貳百四拾五萬圓ヲ

算スルニ至リ人畜ノ死傷モ亦尠カラザリシ

本計畫ハ家久以下ノ日野川、淺水川及天王川ノ改修ヲ行ヒ上記五千百町歩ノ水災ヲ除カントスルモノニシテ最大流量ヲ左記ノ如ク決定シ之ヲ快疏スルノ河積ヲ具備セシメントス

日野川

足羽川合流點以下	六〇、〇〇〇 <small>毎秒立方尺</small>	淺水川	一〇、〇〇〇 <small>毎秒立方尺</small>
合流點以上	五〇、〇〇〇	天王川	九、〇〇〇

日野川ノ改修ハ家久以下足羽川合流點迄約五里餘ノ間ニシテ一部分舊堤ヲ利用スル處アレドモ他ハ皆新堤ヲ築キ志津川及未更毛川合流部ノ如キ河道ノ屈曲甚ダシキ部分ハ之ヲ矯正シ新ニ低水路ヲ掘鑿ス而シテ下江守以下角折迄ハ流積不足セルヲ以テ掘鑿或ハ浚渫ヲ施シ河積ヲ充實セシムルモノトス其河幅ハ百間乃至二百七十間ナリトス

淺水川ノ改良ハ本計畫中最モ重要ナルモノニシテ德尾ヨリ上流及支川鞍谷川ハ略ボ現川ニ沿ヒ法線ヲ規定シ築堤ヲ行ヒ屈曲部ノ矯正ヲ行フニ過ギザレドモ德尾以下ハ全川附替ヲ行ヒ從來ノ吐口ヨリ少シク上流ナル三尾野ニ於テ日野川ニ合セシムルモノナリ蓋シ德尾以下ノ同川ハ全線ニ互リ屈曲迂回ヲ爲シ而モ鈍流ニシテ其疏通完カラズ高水ノ際ニハ沿川廣大ナル平野ヲ浸水セシムルノ狀況タリシガ前記ノ如ク改修スルニ於テハ現川延長八千三百間ヨリ五千間ヲ短縮シ又舊川ニ沿フテ改修ヲ加フルニ比シ大ニ工費ヲ輕減スルノミナラズ福井市以南足羽郡一帯ノ安全ヲ計リ得ベケレバナリ而シテ其河幅ハ中野以下德尾迄ヲ二十間、德尾以下ヲ三十間トシ鞍谷川ノ河幅ヲ通ジテ二十五間トセリ

天王川ハ當初ノ計畫ニ於テハ其合流口ニ背割堤ヲ築キテ下流五百五十間ノ處ニ導キ日野川ノ逆流ヲ防ギ其疏通ヲ圖ルニ止メタリシモ尙同處ヨリ上流約一里ノ點即チ同川ノ山間部ヨリ平地ニ出タル處迄改

修ヲ加ヘ沿川ノ廣大ナル平野ヲ防禦スルノ必要ヲ認メタルニ依リ之レガ追加施工ヲ爲スコトトセリ其河幅ハ二十四間乃至三十二間ナリ
右ノ外諸惡水路吉野瀬川、志津川、未更毛川、舊淺水川及和田川、片上川吐口等ニハ相當ノ樋門ヲ設ケテ逆水ヲ防禦スルモノトス

施工狀況

本年度ハ北陸地方ニ於テ稀ナル好天候ニシテ上半期ハ事業ノ進捗ヲ見シモ舊淺水川ニ秋季出水ノ汎濫ヲ防禦センガ爲メ盛夏期ニ於テ締切ヲ敢行シ新淺水川ニ通水セシ結果低水工事ノミナル土工及附帶工事、橋梁架設工事ノ施行上非常ナル困難ヲ來シタリ而シテ本年度ニ於ケル工事ハ前年度ニ引續キ施行セル箇所以外ニ新ニ著工セルハ日野川筋ニ簡易ナル假護岸及新淺水川ニ附帶工事橋梁ノ各一箇所ノミニシテ施行工事ハ浚渫、築堤、護岸、附帶工事ノ各種ニシテ其概況ハ左ノ如シ

浚渫工ハ新淺水川筋德尾、三尾野間ノ一工事ノミニシテ最低水路ノ掘鑿且其區域縮少セシヲ以テ施工上困難ナリシモ專ラ手積汽車運搬ノ方法ヲ以テ年度内ニ土砂八百五十九坪九合五勺、工費參千六百壹圓九拾錢四厘ヲ以テ竣功セリ

築堤工ハ新淺水川筋吉江、三尾野間、德尾、鳥羽間、淺水川筋上河端、德尾間ニシテ總土坪六千二百三十二坪三合九勺外ニ百七十四坪九合七勺ヲ利用ス其工費貳萬百九拾參圓九拾壹錢四厘ヲ以テ竣功ヲ見タリ
護岸工ハ上石田、下石田地先假護岸ノミニシテ本年度ヲ以テ竣功シ工費壹千五圓參拾五錢ヲ要セリ
附帶工事ハ下江尻地内、吉江地内第一號第二號兩番地内、第三號ノ四鐵筋コンクリート橋梁ニシテ總工費

總計	共濟組合給與金	施行中諸費	營繕費	測量費	船舶及機械費	用地費	附帶工事費	石材研出費
						九、二〇〇		三、六九四
五、四六六、六〇八	三三〇	二八四、三一五	五七、九三三	二〇、四五二	九三四、九六六	一、一八五、〇七一	二八六、一四〇	三八、二九〇
七八、五四三	六五	五、七八八		七	一、九四九		四五、九三三	
						九、二〇〇		三、六九四
五、五四五、一五一	三八五	二九〇、一〇三	五七、九三三	二〇、四五九	九三六、九一五	一、一八五、〇七一	三三三、〇七三	三八、二九〇
一、〇〇								

第三 信濃川改修工事

（新潟土木出張所）

緒言

本川ハ航路改良及洪水防禦ノ目的ヲ以テ河身工事ハ新潟縣長岡市以下新潟市ニ至ル約二十里間ヲ工費百九拾貳萬五千餘圓砂防工事ハ本川上流長野縣犀曲兩川流域ニ於テ拾壹萬餘圓合計貳百參萬五千餘圓ヲ以テ明治九年度ヨリ同三十八年度ニ至ル二十九箇年度間ニ於テ一旦施行ヲ了シタルモ尙治水ノ要アルニ依リ更ニ同四十年年度ヨリ大正九年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ工費豫算壹千參百萬圓（内新潟縣負擔額參百四拾九萬參千圓）ヲ以テ起工セシガ時局ノ影響ト再度ノ地辻トニ因リ豫算ニ不足ヲ生ジ大正八年度ヨリ同十二年度迄五箇年度間ニ於テ壹千拾四萬壹千九百五圓（内新潟縣負擔額貳百五拾參萬六千圓）ノ増額ヲ受クルト共ニ施工期間ヲ同十四年度迄繰延ベラレシガ大正十二年九月一日ノ關東大震災ニ依リ同年十一月更ニ一箇年度ヲ延長シ大正十五年度ニ竣功セシムルノ豫定ニシテ總工費豫算貳千參百拾四萬壹千九百五圓（内新潟縣負擔額六百貳萬九千圓）トナレリ然ルニ本年十一月前回地辻箇所ニ於テ第三回ノ地辻突發シ之ヲ除去セシガ到底既定ノ豫算額ニテハ遂行至難ナルヲ以テ十二月ニ入り四拾貳萬七千貳百五圓餘ノ追加増額ヲ稟請セリ

本工事ハ左岸新潟縣三島郡與板町右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル新水路ノ開鑿並新潟市信濃川河口ノ改修工事ヲ施行シ洪水ノ汎濫及河口ノ埋塞ヲ防禦セントスルモノナリ

河狀並計畫大要

本川ハ流域面積七百九十五方里ヲ有シ長野、群馬、新潟ノ三縣ニ互リ幹川流路延長九十四里、航路延長百七十八里、内幹川七十二里、灌漑段別七萬六千二百二十一町步、内幹川一萬二千三百三町步、水害區域六萬二千九百三町步、内幹川一萬九千八百七十七町步ニシテ廣大ナル越後平野ヲ貫流スルヲ以テ灌漑ノ利甚ダ大ナリト雖モ水災モ亦實ニ甚シキモノアリ彼ノ明治二十九年ノ出水ノ如キハ各所ニ破堤ヲ見、沿岸平野一帯ハ水底ニ葬ラレ被害住民ハ爾來數年間立ツ能ハザルノ疲弊ニ陥リシコトアリ尙本川沿岸ハ惡水停滯ノ害ヲ被ルコトモ亦大ニシテ明治三十八年ノ如キ格別ノ出水無カリシ場合ニ於テスラ其損害莫大ニシテ中、西南ノ三蒲原郡ニ於ケル冠水段別ハ田三萬一千八百三十九町步、畑九千四百六十町步ニ達シ其損害高四百參拾六萬四千四百八拾六圓ニ及ベリ、信濃川全川ノ大正元年乃至同十年ノ平均水害損失價額ハ百八拾貳萬參千貳百八拾參圓ニシテ其内大正二年ハ四百參拾參萬參千百圓、同三年ハ五百七拾貳萬七千七百參拾參圓、同六年ハ參百四拾八萬五千七百九拾圓ナリ。

上述ノ如ク惡水ノ被害ニ至テハ殆ンド毎歲脱ガレズ其損害亦實ニ揣ルベカラザルヲ以テ是等ノ除害工事トシテ本工事ヲ計畫セルモノニシテ本川中流部ノ最モ北海ニ接近セル箇所即チ大河津ヨリ寺泊ニ至ル間ニ延長二里二十町餘ノ一大新水路ヲ開鑿シ本川ノ最大流量毎秒二十萬立方尺全部ヲ新川ニ導キ之ヲ北海ニ放流シ、大河津以下本流筋十四里ニ互ル沿岸一帯ノ水災ヲ根絶セシムルニ在リ而シテ大河津、舊川分派口ニハ洗堰ヲ設ケテ航通及灌漑ニ必要ナル平水量ヲ送り且同所ニ閘門ヲ設置シテ航行ノ便ヲ保タシム其洗堰以下ノ本川水位ハ常ニ低水ニ保タルル結果沿岸破堤ノ害無キハ勿論惡水ノ停滯モ亦改善セラレ從テ本流及支流ノ修堤費ヲ輕減セラルベシ素ヨリ洗堰以下ニモ支川ノ合流スルモノ無キニアラザルモ是等ノ水量ハ本流ニ比スレバ僅少ナルガ故ニ本川ノ流量ヲ絶チタル後ハ何等ノ危懼損失等無ク

流下スルヲ得ベク尙從來洪水毎ニ惱メル河口新潟港埋塞ノ患害モ亦改修後ハ大ニ減少スルヲ得ベシ
大河津ニ於ケル新川ハ起點(十四町杭ノ位置)ニ於テ堰堤ヲ築キ其高ヲ本川既往ノ流出状態ニ於テ洗堰以
下ニ約一萬五千立方尺ヲ通ズベキ水位ヲ標準トシテ之ヲ規定シ(洪水敷川床以上約四尺)河幅四百間ノ内
洪水敷ノ部河幅三百間ハ固定堰トシ出水ノ際ハ越流セシメ低水敷幅百間ハ可動堰トシ出水ノ際ハ取拂
ヒ得ベカラシム而シテ新川ハ海岸ニ近クニ從ヒ落差ヲ有スルヲ以テ同所以下ハ漏斗形ニ河幅ヲ縮メ海
口ニ至リ百五十間ト爲シ水面勾配ヲ上流ニ於テ二千分ノ一、中流ヲ八百分ノ一、下流ヲ五百分ノ一トシ堰
堰ヨリ上流舊川ヲ利用シ改修ヲ加フル部分ハ三千八百三十六分ノ一ト爲ス而シテ同所ノ河幅ハ舊川ニ
準ジ之ヲ定メタリ新川ノ築堤ハ掘鑿土ノ利用上其體積ヲ大ニシ馬踏八間、兩法二割トシ最高水位以上五
尺ノ餘裕ヲ與ヘシメ同水位以上二尺ノ點迄石張護岸工ヲ施行スルコトトセリ

新潟港ノ改良モ亦河口ノ整理トシテ本計畫ノ一部ニ屬ス本計畫ニ於テハ大河津以下本川ノ高水流量ヲ
遮斷セル結果河口ニ濁水ノ流下ヲ見ルコト無ク從テ既往ニ比シ埋塞少カルベキヲ以テ河口ニ充分ノ水
深ヲ與フルコトトシ幅員百間、水深低水面以下二十五尺ニ浚渫ヲ加フル計畫ヲ立テタリ又河口ニ於テ左
岸舊突堤ヲ増築シ以テ防波、防砂及導水ノ目的ニ供セントス

増築突堤ノ總延長ハ八百三十四間半ニシテ之ヲ三箇ノ區間ト頭部トニ分ツ地元ニ近キ區間ハ多少其構
造ヲ異ニセルモ大體一箇ノ重量半噸乃至五噸ノ天然石ヲ以テ舊突堤ヲ基礎トシテ上幅五間、兩側一割五
分法ニ高サ低水面ニ達スル山形ヲ造リ其上ニ幅二十四尺、高十二尺ノ混凝土直壁ヲ築造シ更ニ其海側ニ
於テハ一箇ノ重量二十四噸半及十四噸ノ混凝土塊ヲ投入シテ其全部ヲ包被シ河側ニ於テハ十四噸塊ヲ
以テ其一部ヲ包被スルヲ以テ規定ノ斷面トセリ

右ノ外河口工事トシテ突堤根元ヨリ上流六百五十間ノ左岸ヲ保護スル爲メ沈床根杭及石張ヲ以テ護岸工ヲ施シ尙西突堤尖端ニ燈臺ヲ新設スルモノトス

施工狀況

本工事ハ明治四十年年度ノ創業ニシテ起工以來再度ノ地ニト時局ノ影響ニ因ル諸物價暴騰トニ基キ材料勞力ノ供給不如意且手戻工事ノ爲メ不尠支障ヲ招キタリシモ銳意工事ノ進捗ニ努メ掘鑿築堤浚渫護岸閘門洗堰堰堤突堤燈臺ノ諸工事ヲ實施セリ本年度ニ於テハ掘鑿浚渫等ニカヲ注ギ掘鑿機五臺浚渫船五隻ト人力トヲ併用シ工事ノ進捗ニ努メ掘鑿土五萬五千八坪浚渫土十八萬三千三百三十五坪ヲ了セリ然ルニ本年十一月舊地ニ箇所ニ於テ突如第三回ノ地ニヲ爲シ現川敷内ニ土砂ヲ押出シ低水路ヲ一時遮斷セシガ極力除去ニ努メ殆ンド之レヲ處理セリ今其施工ノ概要ヲ左ニ述ベシ

掘鑿工事ハ本年度モ亦山間部高水敷以上ニ於ケル殘土ノ處理ニカヲ盡シ掘鑿機五臺ト人力トヲ用ヒ土量四萬四千百一坪餘ヲ切取レリ又平地部ニ於テハ縣道渡部橋附近上流ノ低水路ニ殘存セル土量一千百十六坪ヲ人力ニ依リ渴水時ニハ輕運車出水時ニハ搔流シ通水上大ニ工程進ミシニ本年十一月十日午前八時舊地ニ箇所ニ於テ第三回ノ地ニ突發シ土量十一萬坪ヲ川敷内ニ押出シ一時ハ流水ヲ齟止スルノ状態トナリシモ極力之レガ除却ニ努メ九千七百八十一坪ノ土量ヲ處理シ低水路ノ開鑿ヲ計レリ浚渫工事ハ河口ニ於テ前年度ト同様唧筒式浚渫船浦賀大阪阿賀ノ三隻ト鋤簾式浚渫船神通榛名ノ二隻ト計五隻ヲ使用シ河ノ部ニ於テ細泥若クハ粘土ニ近キ土質ノ箇所ヲ實施セシガ其吸揚ゲ意ノ如クナラ

ズ船艙内ニ沈澱セズ再ビ船艙ニ溢レ川中ニ流入シ一時間ニ船艙ニ充ツベキモノガ三時間以上ニ互リ作業上不尠支障ヲ來セシモ極力工事ノ進展ニ努メ十六萬九千六百九十五坪ヲ浚渫セリ而シテ神通丸ハ本年十一月伏木港修築工事開始セラレルヤ同港ニ廻航シタルト榛名號ハ一月ノ暴風浪ニ因リ左舷硝子窓ヲ損シ浸水ノ爲メ轉覆ノ厄ニ遭ヒ三月ニ至リ之ヲ引揚ゲタリシモ其修理ニ日子ヲ費シタリ

河口ノ濬筋ハ四、五月ノ融雪出水ト雖モ十五尺八寸以上ヲ持續シ十月ニ至リ十五尺二寸迄低下セシガ直ニ恢復セリ尙上流洗堰、閘門ノ前後ニ於ケル浚渫ハ前年度ヨリ引續キ「プリストマン」式浚渫船ヲ使用シ閘門々扉ノ狹隘箇所ハ人力ニ依リ施行ス其土量一萬六百四十坪ヲ了セリ

築堤工事ハ前年度ニ於テ大部分竣功シ本年度ハ僅ニ其殘工事ノ小部分ヲ實施シ左岸舊堤ト新堤トノ接續點約四十間ノ未成部アルノミニシテ左右兩岸ヲ通ジ延長六千四百四十五間ヲ竣功ス此外締切堤防モ前年度迄ニ殆ンド完成セシモ築設當時本堤中央部川面ニ存セル寄洲漸次流失シ新堤護岸ノ基礎ヲ缺潰スルノ虞アリシヲ以テ捨石工ヲ施行セシニ過ギザリキ

護岸工事ノ本年度ハ高水敷及低水敷ニ施行シ前者ハ右岸石湊ヨリ下流土質軟弱ノ箇所凡ソ一千間トシ内百八十間餘ヲ完成ス此外早向川ノ放水路ヲ築設シ本川ノ流水ヲ掘鑿水路面ニ導ケリ又後者ハ自在堰以下石湊ニ至ル右岸二千六百七十間ヲ施行スルモノニシテ内四百六十間餘ノ竣功ヲ見タリ

床固工事ハ本年度ノ著手ニシテ渡部橋下流低水路ニ築設スルモノナリ而シテ該箇所ハ通水後自然川床ヲ深掘シ計畫川床ヨリ約九尺モ低下シ之ヲ放棄センカ益々深度ヲ示スヲ以テ之ガ防止トシテ幅四十四間、長十五間ノ木工沈床ヲ二層ニ用ヒ上流ヲ一割、下流ヲ十五割法トシ七月著手シ九月中旬竣功セリ

制水工事ハ前年度ノ殘工事タル捨石ノ一部ニ十六坪餘ヲ施工シ本年八月竣功セリ

洗堰工事ハ前年度ノ殘工事タル下流護岸ノ石張ト前橋軌道鐵扉等ノ据付ヲ了シ十四年三月全部ヲ竣功セリ

堰堤工事ハ堰堤下流ノ常時溢流スル水勢ノ爲メ計畫川床ハ漸次低下シ遂ニハ本體ニ迄惡影響ヲ及ボス虞アルニ依リ捨石工ニ力ヲ注ギ自在堰下流ニ割石千五十坪固定堰ノ下流ニ八十五坪ヲ投棄シ以テ本體ノ安全ヲ計レリ

閘門工事ハ前年度ノ殘工事タル下流護岸ノ石張ト萬一門扉ノ修理ヲ要スル際扉ノ前後ニ流水ヲ防止スベキ角落ノ裝置ヲ施シ又周圍百三十五間ニ鐵柵ヲ施設ス前者ハ十四年三月後者ハ十三年八月何レモ竣功セリ

突堤工事ハ本年度モ亦「ゴライアス」機關車「タイタン」ヲ用ヒ東西兩突堤ノ補修工事ヲ施行セリ西突堤ハ前年度迄ニ全部竣功セシモ冬季激浪ノ爲メ捨石ノ沈下移動ニ依リ直壁ニ被害ヲ及ボス虞アルニ依リ海側ニ捨石百六十四坪場所詰混凝土五十六坪餘ヲ又元付堤ニ於テハ捨石六十六坪餘ノ混凝土塊ヲ以テ何レモ填充ス此外之ニ接續スル海岸缺止工事モ前年度ヨリ著手ノ所本年十一月ニ至リ竣功セシガ冬季波浪ノ爲メ石材沈下シ杭木折レタレドモ海岸ノ缺潰ハ防止スルコトヲ得タリ東突堤ハ前年度ヨリ繼續シ舊堤上ニ粗石積三百三十七坪餘延長四百三十八間ヲ完成セシモ一部新潟臨港株式會社ノ船渠工事ノ爲メ打切リタリ其竣功延長七百十間トス

前記工事ニ對スル石材ハ主トシテ佐渡郡水津及河崎ノ兩村海岸及阿野川沿岸ヨリ直營ヲ以テ採取ス其數量百七十七坪餘ニ達セリ

燈臺工事ハ前年度ニ於テ塔體ノミ完成セシモ遞信省航路標識管理所(橫濱)ニ製作ヲ依託セシ燈籠、燈器、其

他附屬品ハ客年九月一日ノ關東大震災ニ遭遇シ燒失セシヲ以テ更ニ横濱日本光機株式會社ニ製作ヲ依頼シ本年九月ヨリ取付ニ著手十一月ニ竣功セリ

採石工事ハ築堤、護岸、床固、堰堤等ニ使用ノモノニシテ前年度迄ハ主トシテ彌彥地内ヨリ採取ノ上鐵道ニ依リ現場迄運搬シタリシガ本年度ハ工事殆ンド竣功ノ域ニ達セルヲ以テ彌彥ヨリ採取スルヲ廢止シ專ラ野積、國上兩地内ヨリ採取スルコトトシ運搬線路ヲ延シ機關車ニ依リ運搬セシヲ以テ工程大ニ進ミ年内ニ於テ千五百三十五坪ヲ直營ニテ施行セリ

機械工場ハ本年度モ亦渡部、河口ノ兩工場ニ於テ專ラ土工器械、船舶等ノ修理ヲ爲セリ

附帶工事ハ直營施行ノモノ無ク左記補助工事ノ三箇所アルノミナリ

町村道(野積、渡部地内)改築工事ハ管理者寺泊町長ノ自營ニ係リ大正十一年十月三日著手シ同十二年八月十三日完成シ本年十一月八日竣功ノ承認ヲ得タリ

直野代用水取入口樋管新設工事ハ管理者中之島村長ノ自營ニ係リ大正十二年七月五日著手シ同十三年九月十二日完成ヲ告ゲシモ未ダ竣功認可ヲ得ルノ運ビニ至ラザリキ

郷本川改修工事ハ前年度ヨリ引續キ管理者新潟縣知事ノ自營ニシテ目下工事中ニ係リ竣功スルニ至ラズ

本年度ニ於ケル本川竣功額ハ七拾八萬四千七百九拾壹圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ貳千貳百六拾貳萬八千百六拾貳圓ナリ之ヲ總工費豫算額貳千參百拾四萬壹千九百五圓ニ比スレバ九割六分ノ竣功ナリ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但退職手當五千參拾參圓七拾錢ハ本表竣功高ニ之ヲ包含セズ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	四、五九〇、六三〇 <small>立坪</small>	七、九〇〇、二三六	四五、二二三 <small>立坪</small>	一七〇、九六八	四、六三五、八五三 <small>立坪</small>	八、〇七一、二〇四	〇・九七
浚渫	一、〇七六、七五二	三、八〇、一九五	一七二、七九九 <small>立坪</small>	一、二二、七六六	一、二四九、五五一	五〇二、九六一	
築堤		七八三、九三一		一、二二二		七八五、一五三	〇・九九
舊堤取拂		一一七、三九三				一一七、三九三	一・〇〇
護岸及削水		一二六、二八八		一四、四三三		一四〇、七二一	一・〇〇
床固				一〇、九五〇		一〇、九五〇	一・〇〇
閘門		二〇三、二六四		五、一七三		二〇八、四三七	
洗堰		一、四八六、七三一		七〇、三二二		一、五五七、〇四三	
突堤		八八八、三一九	四三八 <small>間</small>	四四、一九六		九三二、五一五	
燈臺		五、七四八		八、三九一		一四、一三九	一・〇〇
採石		三一九、四三〇		一八、四八四		三三七、九一四	
自在堰及洗堰運轉		六、六二二		三、三九〇		一〇、〇一一	
用地		九三〇、〇三八				九三〇、〇三八	
運搬		八二、三九六		九、六二二		九二、〇一八	
附帶工事		七八四、六二三		九、〇三一		七九三、六四四	
船舶及機械		五、九四一、六二三		一六、三九四		六、一〇三、〇二七	
施行中諸費		一、八八六、五三五		一三四、四六九		二、〇二一、〇〇四	
總計		二一、八四三、三七一		七八四、七九一		二二、六二八、一六二	〇・九六

第四 吉野川改修工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ明治十六年七月測量ニ著手十八年二月ヨリ改修工事ヲ施行シ同二十年度ヨリ工費總額七拾萬九千五百八拾八圓竣功年限十箇年度ノ豫定ニテ德島縣名西郡第十村(今ハ藍畑村ノ大字)以下別宮川筋ノ航路ヲ改良スルノ目的ヲ以テ工事ヲ續行セシニ偶二十一年七月及九月ノ洪水ニ因リ西覺圓村(今ハ藍畑村ノ大字)外數箇村ノ堤防決壊シタルガ爲ニ地方人民改修工事ノ中止ヲ希望セシヲ以テ遂ニ二十二年度限り施行ヲ見合ハスニ至レリ其後同四十年年度ヨリ大正十年年度ニ至ル十五箇年度繼續事業トシ工費豫算八百萬圓(内德島縣負擔貳百七萬五千圓)ヲ以テ左岸德島縣阿波郡林村宇西林右岸同縣麻植郡川田村以下海ニ至ル約三十九軒間ニ工事ヲ施行スルコトトナリ大正十年年度ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシガ大正八年度ニ於テ時局ノ影響ト第十堰以上ノ無堤部ニ堤防ヲ新設スル等ノ爲メ工費百參拾九萬圓ヲ増額シ四箇年度ヲ延長セラレシガ十一年度ニ於テ更ニ八拾萬圓ヲ十二年度ニ於テ八拾萬圓ヲ十三十四ノ兩年度ニ於テ百貳萬六千貳百八拾五圓ヲ増額セラレ結局工費總額壹千貳百壹萬六千貳百八拾五圓ヲ以テ著々進捗中ノ處偶十二年九月關東大震災ノ不幸アルヤ經費緊縮ノ餘波ヲ受ケテ更ニ一箇年度ヲ繰延ルノ已ムナキニ至リタレバ來ル十五年度ヲ以テ成功ノ豫定ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ德島高知及愛媛ノ三縣ニ亙ル一大河川ニシテ流域面積三千六百六十平方軒ヲ有シ流路延長一千

四百糎(内幹川二百四十糎)航路延長二百四十糎(内幹川百十糎)灌溉段別三百四十六平方糎(内幹川八十四平方糎)水害區域二千二百八十平方糎(内幹川九百八十八平方糎)ナリトス

河口ヨリ凡ソ四十糎ノ地點ナル阿波郡林村宇西林ハ本川ノ山間部ヨリ平地部ニ移ル處ニシテ同處以上ハ平地無キニ非ザルモ小區域ニ屬シ水災ノ及ブ範圍モ亦大ナラザレドモ西林以下ハ海口ニ至ル迄平地次第ニ擴張展開シ本川ハ其中間ヲ貫流シ沿岸ハ霞堤若クハ無堤ノ狀況ナルヲ以テ一朝高水ニ際會センカ上記ノ平野一面ニ洪水汎濫シ非常ノ損害ヲ被ルヲ例トス加之本川ノ流量ハ非常ノ巨量ニ上リ水勢モ亦急ナルヲ以テ損害ノ及ブ處一層甚シキモノアリ就中麻植郡川島町大字川島附近ニ在リテハ對岸ニ善入寺島アリ之ヲ擁シテ本川ヲ兩分シ而モ同島面積四百九十六ヘクタールハ頭部ニ水勢ヲ殺グノ堤防アルモ下方ニ堤防ノ設ケ無キヲ以テ高水ノ際ハ同島ヲ中心トシテ兩川同一トナリ茲ニ一大游水部ヲ形成スルガ故ニ同處ノ被害ハ特ニ著シキモノアリ又下流第十以下ハ廣大ナル平野ヲ控ヘナガラ河川ハ殆ンド自然ノ狀態ニ放置セラレ適堤防無キニ非ザルモ水勢衝突部ニ限ルヲ以テ洪水ハ各所ヨリ侵入シ平野ノ全部ハ浸水ヲ被ルノ狀態(最近十箇年間ノ水害損失平均額九拾四萬四千四百拾九圓)内大正元年貳百六拾八萬九千百五拾參圓同四年百七萬七千四百壹圓)ナリ

本計畫ハ高水防禦ヲ目的トシ改修ヲ行フモノニシテ先ヅ河狀最モ不良且水災ノ及ブ範圍ノ廣大ナル第十以下ニ一大改良ヲ加ヘントスルモノナリ即チ別宮川ヲ以テ放水路ト爲スノ案ヲ立テ第十ニ於テ本流ヲ遮斷シ同處以下海口ニ至ル迄十二糎ニ互リ別宮川筋ニ對シ新ニ法線ヲ定メ屈曲ヲ矯正シ河幅ヲ規定ス河幅ハ起點ニ於テ之ヲ七百三十米トシ海口ニ至リテ一千二百七十米ニ擴張スレドモ尙此河幅ニテ規定ノ流量ヲ流下スルニ不足ノ斷面ハ河身ニ淺渌及掘鑿ヲ加ヘ以テ最大流量十三萬九千百三十立方米ヲ

快疏スルノ河積ヲ具備セシムルモノナリ而シテ別宮川ニ改良ヲ加ヘテ放水路ト爲セシ所以ハ同川ハ第十以下稍直線ニ海ニ通ジ勾配急ナルヲ以テ現状ニ在リテモ廣濶ナル河幅ヲ有シ河床低ク河積大ナルニ反シ本流ハ迂曲ヲ極メ勾配緩ナルヲ以テ漸次埋没ヲ來シ河狀不良ナルヲ以テ事實上ノ本流タル別宮川ニ依リテ高水ヲ疏通セシムルヲ適當ナリト認メタレバナリ然レドモ同川ハ第十堰ノ低水位ヲ絶ツアリテ航行ハ從來本流ニ依リシヲ以テ改修計畫ニ於テモ亦此點ニ關シテハ既往ノ慣行ヲ保存セシムルコトトセリ但シ現在ノ分流口ハ河床高ク低水ニ於テ淺游ヲ感ジ且航行ニ不便ナルヲ以テ少シク上流ニ之ヲ附換ヘ取入口ニ水門ヲ設ケ洪水時ニハ之ヲ閉鎖スルモノトス併シ乍ラ全然洪水ヲ遮斷シ低水ノミヲ通ズルトキハ下流ニ於テ鹹水ノ害ヲ醸ス恐レ無キニ非ザルヲ以テ洪水時ニ在テハ時々二百七十八立方米以內ノ水量ヲ流下シ其患害ヲ防グコトトセリ

第十ヨリ上流ハ大體ニ於テ現状ニ委ネ舊堤ニハ一齊ニ嵩置ヲ行フモノトス而シテ其霞堤ノ部分ハ地方ノ狀況ニ鑑ミ適宜締切ル事アルベシ又上流水災ノ中心タル善入寺島ハ之ヲ買收シテ河川敷ニ編入シ障害物ヲ取拂ヒテ游水地ノ作用ヲ完全ナラシメ沿岸竝下流ノ水災ヲ輕減スルノ策ヲ採レリ

第十堰ヨリ上流西林ニ至ル區間ハ當初ノ計畫ニ依レバ左岸柿島村、右岸川島町以下ハ在來ノ堤防ニ對シ擴張ヲ施スコトトナリ居タルモ無堤地ニ對シテハ上流西林ノ市街裏洪水漲溢部ニ築堤スルノ外何等ノ計畫無カリシヲ以テ洪水ニ際シテハ依然汎濫ニ委スルノ外無キ狀態ナルノミナラズ下流改修部トノ權衡上ニ於テモ相當區間ニ堤防ヲ新設スルト同時ニ右支川田川ノ改修ヲ行フコト最モ緊要ナルヲ認メタルニ依リ之レガ計畫ヲ立テ追加工事トシテ施行スルコトトセリ

本川ノ堤防ハ第十以下ハ馬踏ヲ七米二トシ高水位以上二米七ノ高ヲ保タシメ表裏ノ法ヲ三割トシ川裏

法ニハ中腹ニ幅一米八ノ小段ヲ設ケ第十ヨリ上流ハ馬踏ヲ五米五トシ高水位以上一米八ノ高ヲ保タシメ兩法ヲ二割トシ川裏法ニハ幅一米八ノ小段ヲ設ク

德島市ヨリ新町川ヲ經テ新川タル別宮川ニ出テ更ニ榎瀬江古川ヲ經テ撫養町ニ通ズル航路ハ現狀ヲ維持シ尙洪水ノ際別宮川ヨリ上記兩川ニ對スル浸水ヲ防グ爲メ新堤ノ兩川ヲ横斷スル所ニ閘門ヲ設置ス

施工狀況

本年度施行ノ主要工事ハ築堤、浚渫、護岸ノ三種ニシテ之ニ二三ノ附帶工事ヲ加ヘタリ

築堤ハ左岸ニ在テハ柿原堤、八幡堤、八幡第二堤、西林堤ノ四箇所、右岸ニ在テハ川島堤、學島堤、川田川兩岸堤、川田堤ノ四箇所、合計八箇所トス内八幡第二堤、西林堤及川田堤ハ本年度ノ著手ニ係リ柿原堤ハ同所附帶工事タル惡水樋門ニ關シ二箇所聯合ノ水利組合不成立ノ爲メ大正十一年以來休工中ニ在リシヲ本年度漸ク其設立成ルニ及ンデ再ビ工ヲ始メタリ他ハ凡テ前年度ヨリ繼續施工シ川島、學島、川田川ノ各堤ハ早クモ成工シ八幡堤ハ中途暫ク休工セシモ年度末ニ近ク再ビ始工シ之ヲ竣功セリ

吉野川筋及別宮川筋ヲ通ジテ既成新堤ノ手入補修ハ本年度モ漸ク遂フテ施行シ之ガ維持完備ヲ計レリ浚渫ハ前年度ニ繼續セル第十運河、浚渫一箇所アルノミ引繼キ工事中ニ在リ

護岸ハ前年度ヨリ繰越ノモノ別宮川筋ニ古川第二護岸、祖母ヶ島第七護岸アリ川田川筋ニ川田川護岸アリシガ何レモ竣功シ新ニ別宮川筋ニ高崎第三護岸、古川第三護岸、新居護岸ノ三箇所、善入寺川筋ニ柿原第二護岸、吉野川筋ニ柿原第三護岸、西林護岸、川田護岸ノ三箇所及鮎喰川筋ニ今切第二護岸ノ合計八箇所ヲ施行シ内高崎第三、古川第三、柿原第二、今切第二ノ四箇所ヲ竣功シ其他ニ修繕追補ヲ爲セルモノ三箇所ア

リタリ

五二

附帶工事ハ柿原樋門及同水路附替工事、大嘗紀念用水吸水井戸及暗渠改築工事、西林第一及第二樋門ノ三者ヲ直轄施工シ水路附替ハ年度内ニ竣工ヲ見他ハ何レモ近ク竣工ノ運ビニ在リ又川田川附替ノ結果縣道筋ニ橋梁新設ノ必要ヲ生ジ之ヲ直轄施行スルコトトシ本年二月著工セリ

本改修工事ハ明治四十四年九月起工以來十三箇年度餘ヲ經過シ其間時局ノ影響追加工事等ノ爲メ數年ノ繰延ヲ決セラレシモ大體ニ於テ順調ニ進工シ前年度迄ニ計畫上ニ關スル重要工事ハ殆ンド達成シ餘ス所ハ上流方面ニ於ケル數箇所ノ斷續堤防ト局部的護岸工事ニ過ギズ從テ本年度ニ入ルヤ作業區域頗ニ狹減シ延テ施工規模ノ縮少トナリ事業功程ハ從來ニ比シ稍々遜色ヲ示セリ

右岸改修起點ニ當レル川田堤ハ本年度ヲ以テ其盛土ヲ終リ之ニ伴フテ護岸石張モ亦進捗セシカバ今ヤ右岸ハ全川ニ互ツテ洪水防禦上遺憾無キニ至レリ左岸ハ一條堤以下前年度迄ニ竣工シ本年度ニ於テ改修起點ノ西林堤及善入寺川筋ノ柿原堤ハ大部分成工セシモ八幡町下流ニ位セル八幡第二築堤ハ最近ノ著手ニ係リ外ニ尙一、二調査中ノモノヲ殘セリ

第十樋門ハ前年度竣工シ同運河内浚渫モ次第ニ進行セシ結果本年夏季ノ大濁水ニ際シテモ通水ニ何等ノ支障ヲ來サズ下流關係地方ニ幸セシコト尠カラザリキ

本年度ニ於ケル出水ハ十月八日佐野塚量水標五米二五八ヲ以テ最大トシ計畫洪水水位九米一〇六ニ比シ三米餘ノ低位ニ在リ從テ被害ト稱スベキ程度ノ損害モ無カリキ

本改修費本年度ノ竣工額四拾壹萬八千七百六拾參圓、起工以來本年度迄ノ累計額壹千八拾九萬六千五百四拾八圓ニシテ總豫算壹千貳百壹萬六千貳百八拾五圓ノ約九割ニ當レリ其内譯ハ左表ノ如シ但シ「*」ハ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 三、七三九、三七一 六、三五九、九一三 立米	一、四三七、三三八	二九七、三六五 立米	一、三二一、〇一四	* 四、〇三六、七三六 六、三五九、九一三 立米	一、五六八、三五二	〇・七〇
掘鑿費	九、五八七、七六三	九二一、〇九九			九、五八七、七六三	九二一、〇九九	〇・九八
浚渫費	一、七九四、一七一 米	二三五、二一四			一、七九四、一七一 米	二三五、二一四	〇・九一
護岸制水費	四六、三七七 箇所	六〇三、四八八	二七、二〇四 米	九三、一八〇	七三、五八一 箇所	六九六、六六八	〇・七四
特殊工事費	八 段	一、〇七九、二九〇	二 段	一〇、三九六	一〇 段	一、〇八九、六八六	〇・九一
用地費	一一、四三八 箇所	三、二五〇、七九〇	一四 箇所	二六、五七〇	一一、四五二 箇所	三、二七七、三六〇	〇・九六
附帶工事費補助	二〇	一一三、〇六五	六	三二、四七五	二六	一四五、五四〇	一・〇〇
船舶及機械費		二、〇八〇、六一二		五八、九三六		二、一三九、五四八	
施行中諸費		七五六、八八九		六六、一九二		八二三、〇八一	
總計		一〇、四七七、七八五		四一八、七六三		一〇、八九六、五四八	〇・九〇

第五 高梁川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本工事ハ明治四十年年度ノ創業ニ屬シ大正九年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ左岸岡山縣吉備郡總社町宇港井右岸同縣同郡秦村以下海口ニ至ル間ヲ改修スルモノニシテ總工費豫算四百七拾八萬參千參百七拾圓（内岡山縣負擔百參拾七萬壹千圓）ヲ以テ工事ニ著手シタリシガ大正五年八月一川主義ヲ採リ一部改修計畫ヲ變更シタル結果吉備郡川邊村地内小田川落口ニ導流堤ヲ築造シ都窪郡中洲村地内ニ山腹ノ切取ヲ必要トスルニ至リタルノ外大正五年十一月高梁川東用水組合工事ヲ附帶工事トシテ認可セラルルヤ其一部ハ本省直轄トシテ施行スルコトトナリシト其外築堤護岸ノ追加施設ヲ必要トスルニ至リタル等ノ爲メ當初豫定ノ工費年限ニテハ竣功困難トナリシニ加ヘ偶々大正六年以來歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ諸物價勞銀漸次昂騰セシヲ以テ大正八年四月豫算六拾五萬圓ヲ増額セラレタルガ其後物價騰貴ノ爲メ尙多額ノ不足ヲ告グル見込ヲ以テ大正十年四月豫算増額施工年度延長ヲ要求シ現在ノ總豫算七百九拾貳萬六千八拾七圓トシ大正十三年度竣功ノ豫定トナリシモ客年九月ノ關東大震火災ノ結果一箇年度ヲ繰延べ大正十四年度ヲ以テ完成セシメントスルモノナリ

河狀並計畫大要

本川ハ廣島及岡山ノ兩縣ニ跨リ流域面積二千四百八十平方杆ヲ有シ流路延長一千百八十杆（内幹川百十杆）航路延長百六十杆（内幹川八十杆）灌漑段別一萬六千三百ヘクタール、水害區域二萬二百二十ヘクタール

トス而シテ本川ノ水源地方ハ酸化花崗岩質ノ禿山多キヲ以テ豪雨ノ際ハ土砂一時ニ流下シ流量モ亦甚大ニシテ流路爲ニ埋塞シ諸所ニ破堤ヲ見沿岸ニ浸水スルコト頗ル多シ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ堤防護岸ノ破損縣費復築費ノミニテモ七拾萬圓ニ上リ作物其他ノ諸損耗四百七拾萬圓ニ達シ其後同三十二年ニ於テモ亦總額百八拾五萬餘圓ノ水害ヲ見タルコトアリ

本改修計畫ハ本流分派點以上每秒六千四百立米、支小田川同一千四百立米、分派後ノ本流同七千立米ノ最大流量ヲ快疏スルニ足ルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルモノナリ即チ本川ハ河口ヨリ約十二軒ノ地點吉備郡川邊村字南山ニ於テ小田川ヲ合流シ又直ニ山ヲ擁シテ二派ニ分流ス分派後ハ平地最モ多ク其水害ノ波及スル所モ亦甚大ナルニ依リ此部分ノ改修ハ最モ重要ノモノナリトス而シテ分派後ノ河川ニ對シテハ治水計畫上一川主義ヲ採リ西派ハ分流口ニ於テ之ヲ遮斷シ古地以下酒津迄東派ニ依リ酒津以下ハ西派ニ導クコトトセリ堤防ハ努メテ舊堤ヲ利用シ必要ニ應ジテ河幅ヲ擴張シ以テ上記ノ最大流量ヲ快疏スルニ足ラシム河幅ハ上流部約五百四十五米、河口一千二百七十米トス

支川小田川ニ對シテハ導流堤ヲ築造シ幹川トノ合流點ヲ引下ゲ平水位ノ低下ヲ圖ルモノトス

小田川合流口ヨリ上流ハ在來ノ儘ニテ相當河積ヲ有スルヲ以テ之ニ依リテ改修ヲ加フルコトトシ舊堤ヲ擴張シ亦迂曲甚シキ部分ハ之ヲ矯正シ約五百四十米以上ノ河幅ヲ保タシムルモノトス

堤防ハ馬踏七米二(東派)締切堤ハ九米一(川裏)法二割五分、川表二割ニシテ川表ニ在テハ中腹以下張石護岸ヲ施工ス

施工狀況

本工事ハ明治四十年年度創業以來本年度迄十八箇年度ノ星霜ヲ經タリ此間施工ノ狀況ニ依リ自ラ之レヲ左記ノ四期ニ區分スルコトヲ得ベシ

第一期	自明治四十年年度 至同四十三年年度	實施上ノ調査期	第三期	自大正九年度 至同十二年年度	直營附帶工事施工期
第二期	自明治四十四年度 至大正八年度	築堤工事期	第四期	自大正十三年度 至同十四年度	改修完了期

第一期ハ實施設計資料トシテ專ラ測量調査ニ從事セシニ過ギザルモ第二期ニ至リ本川改修ノ主要工事タル堤防築造ニ著手シ之レガ使用土砂ハ主トシテ河敷内ニ堆積セル土砂ヲ用ヒ概シテ下流ヨリ工ヲ起シ順次上流ニ及ボスコトトセリ堤腹石張竝ニ堤脚護岸ニ用ヒタル石材ハ一部分ヲ購入セシニ止マリ其大部ハ中洲村地内新川敷トナルベキ山嶽掘鑿ヨリ生産セルモノ又ハ工事場附近ヨリ直營採石工場ニ依リテ得タルモノナレバ極メテ安價ニ且豊富ニ花崗石ヲ使用シ得タルハ他ニ其類例ヲ見ザルベシ

本期間末ヲ以テ堤防工事ハ凡ソ九步通りノ成工ヲ告グタリ而シテ本川改修ノ主眼タルベキ東派締切工事ハ大正五年十一月附帶工事トシテ認可セラレタル高梁川東西用水組合工事ノ内本省ニ於テ直營施工スルコトトナリタル數多ノ特種工事ノ密接ナル關係ヲ有シ且至難ナル大工事タルノミナラズ其施工箇所ハ僅々四料ノ範圍内ニ數多ノ建設工事點在シ彼是相關聯シテ之レガ施工ニハ定マレル順序アルベキヲ以テ後日ニ讓ルコトトセリ

本改修工事ニ於テ使用スル勞働者ハ主トシテ土著ノ農民ナルヲ以テ從テ勞力ノ需要ハ一年ヲ通ジテ一定セズ農事ノ繁閑ニ伴ヒ其消長アリト雖モ起工以來概ネ出役人夫ニ不足ヲ訴フルコトナカリシガ歐洲大戰以來勞銀漸騰シテ人夫ノ減少著シキヲ以テ大正六年以來數回ニ互リテ之レヲ増額セシモ元來賃格

ヲ以テ直チニ民間營利事業ト人夫職工ノ爭奪ヲ爲スハ到底堪ヘ得ザル所ナレバ常ニ彼レニ比シ多少低位ニ在リシ爲メ十分ナル人夫數ヲ得ルコト能ハズ殊ニ大正八年度ニ於テハ勞銀ノ昇騰愈甚ダシク已ムヲ得ズ臨機増額又ハ勤務獎勵法ヲ設ケテ出役ヲ促シタリシモ尙常ニ不足勝ナリシヲ以テ充分ナル工程ノ進捗ヲ見ル能ハザリシハ遺憾トスル所ナリキ

第三期ニ於テハ酒津以下新川敷内ニ於ケル舊堤取拂山地掘鑿等通水ノ準備ヲ爲スト共ニ專ラ直營附帶工事ノ進捗ニ努力セリ偶本年度初期ヨリ世上ノ景氣ハ急轉シ民業頓ニ衰ヘ特ニ地方的副業タル花蒔賃業甚ダシク不振ノ状態トナリ出役人夫漸次増加スルニ至リタルヲ以テ一氣呵成ノ方針ヲ採リ銳意事業ノ速成ヲ期シ本期間ノ終リニ於テハ直營附帶工事ハ勿論東派締切堤並新川敷内掘鑿工事等著シク進捗シ特ニ完成ノ域ニ達セントスルニ至レリ

第四期中大正十三年度ニ於テ施行シタル主ナルモノハ小田川尻導流堤、東高梁川締切堤、山腹切取、堤外地掘鑿、乙島導流堤工事並附帶工事、高梁川東西用水組合委託ノ各種水利工事ナリトス而シテ本年度末ニ於テハ乙島導流堤ノ未完成ナルト護岸制水工事ニ少許ノ整理的殘工事ヲ餘スノ外大部分ノ工事ハ既ニ完了スルニ至レリ

即チ茲ニ改修ノ目的タル洪水防禦ニ對シテ充分ナル效果ヲ齎シ湛井以下ノ平地部ニ於ケル沿川一萬一千五百ヘクタールノ在來水害區域ヲシテ洪水汎濫ノ災禍ヲ免レシムルノミナラズ湛井ヨリ上流ノ地方ト雖モ洪水位ノ上昇ト停滯期間ヲ減少シ從テ其被害ノ程度ヲ輕減スルニ至ルベシ加之附帶事業トシテ施設セラレタル各所水利系統ノ改善ニ依リテ收穫ノ増進ト確實性ヲ増加セルコト多大ナルモノアルベシ

本年度ノ竣功高ノ主ナルモノヲ記スレバ築堤五千四十八立方米此工費五千五百八拾八圓掘鑿二十八萬四千二百二十七立方米此工費九萬四千七百六圓護岸四千八百七十九米此工費拾五萬八千八百九拾貳圓ナリトス而シテ本改修工事本年度竣功額ハ六拾七萬八千八百四拾九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計七百五拾六萬四千貳百壹圓ナリ故ニ總豫算七百九拾貳萬六千八拾七圓ノ約九割四分ニ當レリ其内譯ハ左表ノ如シ但シ築堤土量ニハ貫土ヲ含ム

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩功
	數	金額	數	金額	數	金額	
築堤費	五、六〇四、五七五 <small>立米</small>	一、六九七、〇一九 円	五、〇四八 <small>立米</small>	五、五八八 円	五、六〇九、六二三 <small>立米</small>	一、七〇二、六〇七 円	〇・七四 <small>割分</small>
掘鑿費	一、九六一、三二一	五七六、六三五	二八四、一二七	九四、七〇六	二、二四五、四三八	六七一、三四一	〇・九九
浚渫費	四六、九八四	六、三七七			四六、九八四	六、三七七	一・〇〇
護岸制水費		七五八、六六九		一五八、八九二		九一七、五六一	〇・二五
用地費	四、六一二 <small>段</small>	一、五一三、五一四			四、六一二 <small>段</small>	一、五一三、五一四	一・〇〇
附帶工事補助費		一、四〇五、七三三		三四四、二四三		一、七四九、九七六	
船舶及機械費		六一〇、九八一		三三三、八三三		六四四、八一四	
施行中諸費		三一六、四三四		四一、五八七		三五八、〇二一	
總計		六、八八五、三五二		六七八、八四九		七、五六四、二〇一	〇・九四

第六 渡良瀬川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ明治四十三年度ノ創業ニシテ總工費七百五十萬圓ヲ以テ大正八年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ起工セシガ大正四年度末ニ至リ第三十七議會ノ協賛ヲ經テ施行年限ヲ延長シ大正十年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ同時ニ年度割ヲモ更正シ大正五年度以降實施シ來タリシガ偶大正七年度ニ至リ時局ノ影響ヲ受ケ物價並勞銀ノ昇騰ヲ來シタルヲ以テ工費八拾萬圓ヲ増額シ其年度割ヲモ三箇年度延長スル所アリシガ爾後物價並勞銀ノ騰貴益高潮ヲ來シ既定工費ニテハ到底之ヲ支辨シ難キニ至リシヲ以テ更ニ十年度ニ於テ六拾萬圓ヲ十一年度ニ於テ百萬圓ヲ十二、十三ノ兩年度ニ於テ百五十萬圓ヲ追加シ前後四回ノ増額ヲ經テ總額壹千四百拾萬圓トナリ一般事業繰延ベ關係上更ニ施行年限ヲ大正十四年度迄ニ延長セラレタリ其施工區域ハ幹川筋ニ在テハ左岸栃木縣足利市、右岸同縣足利郡山邊村以下利根川合流點ニ至ル間、支川秋山川ニ在テハ左右岸栃木縣安蘇郡植野村以下、同思川ニ在テハ左右岸栃木縣下都賀郡穗積村以下各渡良瀬川合流點ニ至ル間及同巴波川ニ在テハ左岸栃木縣下都賀郡寒川村、右岸同郡部屋村以下思川合流點ニ至ル間ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ栃木縣足尾大嶽山ニ發シ足尾、大間々ノ兩町ヲ過ギ下流桐生市ニ至リテ桐生川ヲ入レ足利市以下袋、旗、矢場、秋山等ノ支川ヲ合セ藤岡町、海老瀬村ヨリ古河町ニ至リ更ニ思川ヲ合シ茨城縣猿島郡新郷

村大字中田地先ニ至リテ利根川ニ注グ其全流面積三十六萬八千六百ヘクタールヲ有シ栃木群馬埼玉茨城ノ四縣下ニ互リ流路延長八百二十九籽（内幹川百六籽）航路延長幹支川ヲ合セテ百三十七籽灌漑段別一萬九千五百ヘクタール、水害區域四萬五千五百ヘクタールナリ而シテ足利市以下ハ平地部ニ屬セリト雖モ尙霞堤或ハ無堤ノ所多クシテ洪水毎ニ浸水シ堤塘アル部分ト雖モ其薄弱ナルト河積狹少ニシテ流積ヲ存ゼザル爲メトニ因リ出水毎ニ溢流崩壞ヲ來シ頻年水災ヲ醸スヲ例トセリ殊ニ下流思川合流部附近地一帶ハ利根川ノ逆流ヲ受ケ利根、渡良瀬、思、巴波各川ノ高水赤麻沼ヲ中心トシテ停滯シ附近一帶ノ平地ヲ悉ク水面ニ化シ尙堤塘各所ニ破壊シ堤内ノ平地數萬ヘクタールヲ舉ゲテ濁海タラシムルヲ免レズ加之其浸水期間頗ル長期ニ互レルガ爲メ其慘害ノ及ブ所揣リ難キモノアリ今既往大出水ニ於ケル實際ノ被害高ヲ記スレバ明治二十九年ハ百六拾貳萬圓、同三十一年ハ貳百五拾萬圓、同三十五年ハ百八拾四萬圓、同三十九年ハ百六拾五萬圓ナリ

本改修計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トセルモノニシテ其計畫ニ採用シタル最大流量ハ本川毎秒二千五百四立米、支川思川同一千六百九十六立米ナリトス

足利市以下藤岡町ニ至ル延長二十籽間ハ現川ノ河身迂曲狹隘且兩岸堤外地ニハ土砂洪積シ到底前記流量ヲ通ズルノ河積ヲ有セズ堤塘亦薄弱而モ各支川ノ流末無堤開放セラレ洪水各所ニ汎濫溢流セルヲ以テ改修法線ヲ規定シ河幅ヲ起點ニ於テ百八十二米トシ漸次擴張シテ四百十八米ニ至ラシメ無堤部ニ堤塘ヲ築設シ河身ヲ掘鑿シテ高水ノ疏通ヲ計リ兩川堤塘ヲ擴築シテ其安全ヲ期スル事トシ藤岡以下ハ迂曲セル現川ヲ廢シテ藤岡高地ノ狹窄部ニ於テ上下二米四分有餘ノ落差ヲ有セル箇所ヲ開鑿シテ敷幅百六十四米ノ新川ヲ通ジ直チニ赤麻沼ヲ中心トセル游水地ニ流下セシムル事トセリ

赤麻沼ハ之ヲ擴張シテ其游水作用ヲ大ナラシムル爲メ舊谷中輪中竝思巴波ノ兩流末ニ於ケル低地部ノ舊堤ヲ撤去シテ游水區域ニ編入シ其周圍ニハ堅牢ナル築堤ヲ施行シ廣袤三千五百ヘクターノ面積ヲ保タシメ赤麻沼ノ最高水位(堀口標五米九四)ニ於テ約一億六千六百九十六萬立米ノ水量ヲ收容セシメ利根、渡良瀬及思巴波兩支川合流流量ヲ緩和シテ五千六百立米ニ低減スルノ作用ヲ爲サシメントス之レ蓋シ渡良瀬、思等ノ諸川ハ利根ニ比シ其水源近キガ故ニ其最高水位ハ利根ノ水位未ダ高カラザル間ニ赤麻沼ニ注ギ夫レヨリ利根ニ流下シ利根ノ高水ハ其後徐々トシテ増進シ赤麻沼ニ逆流シ其偉大ナル調節ヲ受ケ渡良瀬川合流以下ノ流量ヲ輕減セルノ状態ナルヲ以テ此水理關係ヲ重ンジ渡良瀬及思ノ高水疏通ヲ一層速カナラシメ(後記流路ノ改修ハ破堤防禦ノ外其效果ヲ含ムモノナリ)同時ニ赤麻沼ヲ擴張シ其調節ヲ從來ニ比シ益々顯著ナラシメ大ニ利根ノ流量ヲ緩和シ三川合流流量ヲシテ前記ノ程度ニ止メントスルニ在リ

思川ハ右岸穂積村附近ノ開放部ニ新ニ堤塘ヲ築設シテ汎濫ヲ防ギ間々田町以下法線ヲ規定シテ改修ヲ加ヘ野木村地先ニ於テ新水路ヲ開鑿シ巴波川ハ又部屋村以下新川ヲ開鑿シ直路赤麻沼ニ導ク事トセリ古河町以下利根川合流口ニ至ル間ノ渡良瀬川ハ迂餘屈曲セルヲ以テ新ニ河幅五百四十五米ヲ有セル直路新川ヲ開鑿スル事トセリ渡良瀬川及思川ノ堤塘ハ馬踏ヲ五米五、内外法ヲ二割トシ高水位以上一米五ノ高ヲ保タシメ堤裏ニハ適宜小段ヲ設ケ藤岡以下遊水地ノ周圍堤ハ馬踏七米三、外法ヲ三割、内法ヲ二割トシ表裏ニ小段ヲ設ケ古河町以下利根川合流口ニ至ル間ノ堤防ハ馬踏七米三、内法ヲ三割、外法ヲ二割トシ堤裏ニ小段ヲ設ケ遊水地周圍堤ト共ニ堤高高水位以上一米八ノ高ヲ有セシムル事トセリ

施工狀況

本工事ハ明治四十三年度ノ創業ト共ニ直ニ施工準備ニ著手シ翌四十四年度ヨリ土地買収ヲ實施シ以後大正五年度ニ至ル六箇年度ヲ費シ殆ド所要土地全部ノ買収ヲ了リ其施工ハ大正元年度ニ一部買収濟ノ箇所ヨリ工事ニ著手シ藤岡新川開鑿部、支川巴波、思ノ兩川及古河町下流ニ於ケル新川ノ附替工竝遊水地周圍ノ築堤及浚渫工等主トシテ下流部ノ速成ヲ圖リ大正五年先ヅ古河町以下ノ新川竝高座口以下ニ於ケル新思川ヲ貫通セシメ同七年部屋村以下新巴波川竝藤岡新川ノ開鑿ヲ了シテ各之ヲ疏通セシメ其他ノ諸工事ハ大正十一年度迄ニ殆ンド完成シ上流部ハ藤岡新川疏通以來銳意其進捗ニ努メ大正八年度以降旗川左岸輪所部竝右岸矢場川流末部ノ閉塞、旗川右岸堤ノ築設及秋山川附替其他ヲ完成シ本年度ニ於テハ支川袋川逆水門樋竝接續堤塘ヲ竣成シ今後剩セルハ岩井附近ニ於ケル護岸工事ノ一部及既設部整理補修工事ノミトナリ思川亦大約施工ヲ了リ殘スハ鹽澤地先築堤竝逆水門樋工ト既設工事ノ補修等ノミトナレリ

斯テ起工以來浚渫一千五百三十七萬六千四百三十七粒、築堤土運搬（利用土ヲ含ム）一千三十二萬一千六百八十七粒、護岸制水百二十三箇所、特種工事三箇所、附帶工事三十四箇所ヲ施工セリ

本工事事務所ハ茨城縣古河町ニ設置シ其下ニ梁田、袋川、早川田、船津川、藤岡、乙女、古河ノ七工場ヲ置キ各工事ヲ分擔施行シ古河町ニ機械工場ヲ置キ工事用船舶及諸機械器具ノ製作及修理ニ當ラシメタリ今本年度施工ノ概況ヲ各地方別ニ述ベンニ

藤岡新川以下遊水地周圍堤ヨリ利根川合流點ニ至ル間竝巴波川方面ハ既ニ竣成ヲ告ゲ年度内ニ於テハ

只一部遊水地内ノ低水路ニ於ケル浚渫工事ト野木村野渡先ノ護岸工事ニ多少ノ修補ヲ加ヘタルニ過ギズ而シテ藤岡新川及其下流部ニ於ケル既施工事ノ修繕ヲ要セシモノハ主シトテ其維持ニ屬スルモノナルヲ以テ是等ハ利根、渡良瀬兩川維持費ニ讓レリ

藤岡下流部ニ在テハ藤岡新川ノ開鑿ハ既往藤岡地先ニ於テ舊川ト赤麻沼トノ二米四有餘ノ高低ヲ有セシ兩水面ヲ連絡セシメテ上流一帶ノ水位ヲ低下シ且其疏通ヲ好良ナラシメタリ而シテ遊水地竝其下流部ノ竣成ハ利根川ノ流量ヲ緩和スルト共ニ三川合流ノ流量ヲ調節シテ又昔日ノ慘狀ヲ見ザルニ至ラシメ遊水地周圍二十七軒ノ内自然高臺ヲ除キ延長十一軒ノ堤塘ノ築設ハ側ラ交通上ニ裨益セシコト多ク特ニ川邊村ヨリ利島、海老瀬村ニ連レル部分ハ往時谷中堤ヲ通過セシ古河、藤岡兩町間ノ街道ヲ本堤塘上ニ移シテ坦々タル堤上ヲ一瀉駛走シ得ラルルニ至リ定時自動車往復ノ餘澤ヲ受ケテ地方開發上ニ資スル事亦大ナリトス

思川上流工事モ亦既ニ河積ノ掘鑿兩岸堤塘ノ築設及右岸上流無堤部遮斷堤竝主要箇所ノ護岸工等殆ンド其工ヲ竣ヘ前年度尙左岸上流終端部ニ於テ殘セシ高水敷ノ掘鑿竝堤塘擴築工モ亦前年度ニ之ヲ完成セシメタリ其他前年度ニ於テ施工區域ヲ延長セシ上流鹽澤地先ノ開放部ニ於ケル逆水門樋竝築堤工事ハ年度内ニ於テ專ラ其進捗ニ努メ略々之ヲ了シ其下流間中屈曲部ハ流勢激突ノ要所ニ當レルヲ以テ更ニ其堤塘ノ補修擴築工ヲ開始セリ下流野木村地先新川附換口ノ上流ニ於テ管テ兩岸ニ洪積凸出シテ流勢ヲ狭窄セシ箇所ハ尙其後ノ出水時ニ徵スルニ完カラザルモノアルニ依リ之ニ整理掘鑿ヲ加ヘ護岸工事ニ於テハ舊水路接續部竝新川左岸ノ一部ニ修補工ヲ施セリ左岸間々田町田崩地先ニ於ケル堤塘屈折點ハ上流ノ廣濶ナル河形ヲ受ケテ俄ニ整調セル下流掘鑿法線ニ接續スルモノナルニ其間河身迂曲兩岸

洪積セルヲ以テ流勢ノ疏通ヲ妨グル事多キニ依リ之ヲ緩和スベク更ニ所要土地ヲ買収シテ之ニ掘鑿工ヲ開始セリ是等ハ主トシテ補修工事ニ屬スルモノニシテ今ヤ此區域モ亦其工事ハ殆ンド完成ノ域ニ達セルモノナリ

藤岡上流部ハ新川疏通ノ結果水位ニ一大低下ヲ齎ラシ既往ノ水理關係ヲ一變シ其疏通ヲ良好ナラシメ管テ兩岸ニ洪積セシ高水敷竝舊堤取拂等ノ掘鑿工ハ年度末ニ於テ殆ンド了セリ其本年度ニ於テ施工セシモノハ左岸舊秋山川合流點以下高取地先ニ於ケル高水敷竝新舊秋山川口間ニ於テ一大凸出セシ馬門高山地先ノ洪積部ヲ前年度ニ引續キ機械掘鑿工ヲ施シ其區域狹少トナルニ及ビ人力掘鑿機關車運搬法ニ變ゼリ新秋山川口ヨリ上流ニ方リテ凸出セシ船津川地先ハ其後ノ沈澱土砂夥シキヲ以テ之ニ整理掘鑿ヲ施セリ右岸ニ於テハ舊秋山川流末部ノ對岸ニ方リ洪積凸出セシ西岡地先ノ高水敷尙高水ノ疏通ヲ妨グルモノアルヲ以テ更ニ之ヲ掘下グル事トシ上流上新田地先及下早川田地先ニ又之ヲ施セリ早川田ヨリ上流部ハ既ニ其工ヲ餘サザルニ至リシモ只袋川末部ハ同樋門工事ノ關係上殘存セシ區域アリシヲ以テ本年度ニ於テ同所以下川崎凸出部及樋門前面ノ新水路竝上流猿田地先ニ掘鑿工ヲ施セリ上流部一帶ニ於ケル兩岸堤塘工事モ亦年度末ニ於テ殆ンド竣成セリ其年度内ニ於テ築設シタルモノハ前年度ニ於テ殘セン舊秋山川口袋川流末遮斷堤竝梁田惡水排除樋管附近等主ナルモノニシテ他ハ既設堤塘ノ内左岸馬門高橋地先右岸西岡大島早川田野田茂木地先ニ於テ沈下セシ箇所ニ對シ各修補工ヲ加ヘタリ内茂木地先下流ニ於ケル區域ハ流勢堤脚ニ偏倚シ從來ヨリ激突ノ難所ニ方リ且堤裏滲透湧水多キ箇所ナルニ依リ寧ろ護岸工ニ巨費ヲ投ゼンヨリ内部ニ引堤施設スル事トセズ河狀ノ矯整ヲモ併セ得ラルベキヲ以テ此區域ハ更ニ引堤施設スル事トセリ

地元關係上最モ難工事ニ屬セシ秋山川方面ノ諸工事モ漸ク前年度ニ於テ大略其途ニ就キシヲ以テ本年度之ヲ繼承シテ極力其完成ニ勵ミ年度内ニ於テ殆ンド之ヲ竣功セリ

斯クシテ爾來藤岡新川上流部ニ於テ各所ニ洪積凸出セシ除川、高取、西岡、馬門、高山、西谷田、船津川、大島、中船渡、正儀内、椿田、野田、高橋、奥戸、上野田、川崎、梁田ノ高地ハ皆其掘鑿工ヲ竣ヘ除川、西岡、船津川、中船渡、野田、奥戸、川崎ノ河幅狹窄部ハ舊堤ヲ撤シテ内部ニ引堤築設ヲ了セシヲ以テ高水ノ疏通好良ナルニ至リ尙舊來纖弱狹少ナリシ兩岸堤塘ハ皆擴築、新設ヲ竣ヘ舊來無堤開放部トシテ汎濫ニ委セシ秋山、旗、才、野堀、矢場、袋ノ各川流末部ノ内前二者ハ之ヲ附換ヘテ兩岸堤塘ヲ以テ圍繞シ之ニ流下セル菊澤、出流、尾名ノ三川ハ更ニ之ニ逆水門樋ヲ施シ袋川、才川等ノ各支川ハ皆逆水門樋ヲ施設シテ接續堤ヲ築設シ洪水ノ汎濫ヲ防止シ得ルニ至レルヲ以テ沿岸一帶ノ洪水防禦ヲ全フシ得ルニ至リ又從來ノ慘害ヲ見ザルニ至リシヲ以テ耕地開發各所ニ起リ昔時ノ面目ヲ一新スルニ至レリ

本川上流部ハ増水急激ニシテ勾配強ク屈曲甚シク河身ノ堤脚ニ接セルヲ以テ相當防禦ヲ要シ且掘鑿工ノ進捗ニ伴ヒ河身ニ變革ヲ與ヘタルガ故ニ新ニ護岸ヲ要スル箇所亦多カリシヲ以テ從來是等土工事ノ進捗ト河身ノ矯整ニ伴ヒ主要箇所ニ於ケル護岸工事ノ施設ニ努力シ既ニ袋川合流部以下ハ殆ンド之ヲ了ヘ其上流部竝在來工ノ補足等急施ヲ要セザル區域ハ之ヲ殘存セシヲ以テ本年度ニ於テ逐次之ヲ完成セシムベク中船渡、大島、山王、野田地先ニ於テ在來堤脚護岸工ニ補足工ヲ加ヘ下早川田竝附近二箇所ト川崎地先ノ低水路トニ護岸工ヲ施セリ

袋川ヨリ上流部ハ旗川流末ノ開放部猶閉塞ノ域ニ達セザリシト土工事ノ關係上猶之ヲ餘セシモノナリシモ本年度ニ入り本區域モ亦竣成ヲ告ゲタルヲ以テ先ヅ袋川新水路ノ合流部竝其上流左岸ノ常見觸木、

猿田、右岸梁田、小壬川、福富地先ニ各防禦工ヲ施設セリ特ニ本川上流終端部タル岩井丘陵附近ハ廣濶ナル足利方面ノ河狀ヲ俄カニ此狹窄部ニ受ケテ矯整セル最モ主要ナル箇所ニシテ上流足利方面ヨリ下流一帯ニ互リテ重大ナル關係ヲ有セル箇所タルヲ以テ本區域ハ徐ニ改修ノ實蹟ニ鑑ミテ之ヲ施設スル事トシ本年度ニ於テハ先ヅ右岸低水路ニ沿ヒ防禦工ヲ施シ兩川主要箇所ハ本期ノ出水ニ對シ暫ク現形ヲ保持セシムベク假護岸工ヲ施シ渇水期ニ入ルト共ニ更ニ兩岸要所ノ防禦工事ヲ開始シ逐次之ヲ完成センコトヲ期セリ

秋山川ハ兩川堤塘河身ニ接セルヲ以テ相當護岸工事ヲ要スルモノ多キモ其大略ハ既ニ之ガ施設ヲ竣ヘシヲ以テ年度内ニ於テハ殘存工事一部ノ完成ニ努メタリ

護岸工事施設ノ下流部ハ主トシテ基礎沈床、法石張工或ハ法留杭柵工ニ依リシモ上流部ハ成ルベク附近產出物ヲ利用スベク鐵線蛇籠或ハ鐵筋混凝土工ヲ併用シ尙割石比較的高價ナルヲ以テ極力附近玉石ノ採集ニ努力シ貨物自動車ヲ利用シテ上流三重村今福地先ヨリ山前村鹿鳥地先ニ至ル間ヨリ採集運搬ニ力メ更ニ是等附近產出物ニノミ依リ難キヲ以テ岩舟石材工場ヨリ東武鐵道足利驛ニ搬出シ同驛ヨリ神明地先迄輕便軌條ヲ敷設搬出シテ不足ヲ補ヒタリ其他鐵筋混凝土又ハ古軌條類ヲ利用シテ制水工用材料ノ一部ニ供シ或ハ古枕木ヲ以テ基礎固又ハ杭柵材ニ供スル等各其利用ヲ講ゼリ

特種工事ハ全部前年度ニ於テ竣功ヲ告ゲ巨多ノ附帶工事モ亦悉ク完成シ足利市以下左岸上流部ニ於テ重大關係ヲ有セル袋川樋門モ亦本年度ニ於テ竣功シ僅カニ殘存セルハ思川筋ノ鹽澤樋門竝其接續水路ノ一部ト秋山川筋ニ於ケル鐵筋混凝土構造ノ道路橋ニ止マリ内前者ハ其接續水路ノ外他ハ之ヲ年度内ニ竣成シ後者モ亦其下部工事ノ大半ヲ了セリ

遊水地内低水路ノ内藤岡新川以下ハ上流部ヨリ流下スル土砂ノ沈澱シテ航路ヲ杜絶スベキヲ以テ一部
浚渫ヲ施シ尙新巴波川低水路竝同川ヨリ分岐シテ岩舟石材船積場ニ達スル濬筋ニ於ケル沈澱土砂ヲ浚
渫セリ是等浚渫工事ハ赤麻沼一帶ノ水深ヲ減ジ吃水ヲ有セザルヲ以テ低水時ニハ鋤簾式浚渫船ノ兩舷
ニ樋ヲ繼ギ足シテ直接兩岸ニ排出セシメ他ハ人力土運搬船ニ受ケテ附近池沼ニ投棄セシメタリ
從來使用セシ土工器械ハ單梯鋤簾式一千二百立米掘鑿機五臺、四輪連結タンク式二十噸機關車六臺、單
梯鋤簾式一千二百粒掘浚渫船三隻、ポンプ式三百粒掘浚渫船二隻ナリシモ斯ク工事進捗ノ結果本年度ニ
於テ運轉セシモノハ高山方面ニ於テ一組ノ掘鑿機關車ト下早川田、船津川、馬門、西岡地先ニ於ケル人力掘
鑿機關車運搬工事ニ使役セシ各一臺ノ機關車ナリシモ是等工事モ又漸次竣功ヲ告ゲント共ニ年度末ニ
於テハ掘鑿機ハ全部之ヲ廢止スルニ至リ僅ニ西岡地先ニ於テ一臺ノ機關車ヲ使役セシニ止マリ他ハ舉
ゲテ之ヲ人力工ニ讓レリ斯ク殘餘工事ト震災復舊工事ハ寧ロ輕便軌條ヲ使用スルノ得策ナルニ依リ所
屬九封度軌條三十四軒餘、○粒三積鐵製及○粒四積木製土運車合計千九百臺ヲ主トシテ使用シ人、馬匹ニ
依リ之ヲ運搬セシメタリ其他砂利採集運搬事業ニ於テハ五噸機關車一臺、ダンプ式○粒九積土運車三十
臺ヲ使用セシ事モ又前年度ト同ジ

斯クテ年度内築堤土運搬二十二萬九千六百七十七粒此工費九萬參千九百五拾四圓、浚渫土量三十萬六千
三百九十九粒此工費七萬參千四百八拾八圓、護岸制水二十九箇所此工費拾六萬四千六百貳拾六圓、附帶工
事三箇所此工費壹萬六千拾壹圓、工費合計參拾四萬八千七拾九圓ヲ施工セリ

本改修工事本年度ノ竣功額ハ四拾五萬壹千拾八圓ニシテ起工以來ノ累計ハ壹千七拾參萬參千四百貳拾
九圓トナレリ之ヲ既定工費壹千四百拾萬圓ニ比較スル時ハ九割四分ノ竣功ナリトス而シテ其工事竣功

表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ製作品又ハ評價品價額「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	1,009,210	1,058,065	229,677	93,954	1,238,887	1,152,016	93%
浚深費	15,070,075	2,482,423	306,399	73,488	15,376,474	2,555,911	16.6%
護岸制水費	105	958,114	118	164,626	223	1,122,740	0.8%
特種工事費	3	134,908	1	102	4	135,010	0.8%
用地費		2,751,936		17,385	3	2,769,321	0.9%
附帶直轄施行	竣功	277,602	竣功	16,011	3	293,613	
工事管理者施行	未竣功	29,684	未竣功	810	3	30,494	
船舶及機械費	竣功	267,027	竣功	14,982	3	282,009	
測量費	九	33,558	二	1,919	11	35,477	
營繕費		42,742		3,570	0	46,312	
施行中諸費		65,200		3,570	0	68,770	
共濟組合給與金		1,697,718		24,273	0	1,721,991	
總計		11,157,978		1,172,882		12,330,860	0.9%

第七 北上川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本川筋ニ於テハ曩ニ航路改良ノ目的ノ下ニ盛岡市ヨリ宮城縣牡鹿郡石卷港ニ至ル五十里間ヲ工費百貳拾參萬五千六百五拾六圓五拾參錢九厘ヲ以テ明治十三年度ヨリ同三十五年度ニ至ル二十三箇年度間ニ互リテ低水工事ヲ施行シ一旦結了ヲ告ゲタリシモ洪水防禦工事トシテ其後同四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル十二箇年度ノ繼續工費八百萬圓(宮城縣負擔額貳百九萬貳千圓)ヲ以テ左岸宮城縣登米郡錦織村右岸同縣同郡上沼村以下海ニ至ル間ヲ更ニ改修スルコトトシ施工中偶歐洲大戰亂以後物價ノ騰貴ニ因リ工費貳百六拾貳萬貳千圓ヲ增額シ合計壹千六拾貳萬貳千圓ト爲シ竣功期限ヲ二箇年度繰延ベ大正十三年度竣功ノコトトナリシモ此增額セラレタル大正八年度末期ヨリ更ニ急激ニ勞銀物價ノ昇騰ヲ現ハシ大戰亂ノ終息後ト雖モ猶下落ヲ呈セザルニ大正九年度ニハ北上川筋ニ於テ二回ノ大洪水アリ其後全川結氷莫大ナル氷雪ノ流下稀有ノ大雪霖雨等年毎ニ特異ノ天禍ニ襲ハレシガ爲メ春秋兩季農繁期以外ノ期間ニ連月工事休止ノ厄ニ罹リ工程ハ豫想ノ半バニ過ギザルノ悲境ニ陥レリ昨十二年度ノミハ上半期ニ於ケル稀有ノ霖雨ト帝都震災トノ一時的工事材料ノ缺乏ニ惱ミタル外ハ下半期ニ於テ天候順調ニ經過シ今日ニ及ベルモ過去四箇年度間ノ連續的工事ノ澁滞ハ到底本年度即チ最終年度ノ一箇年度ヲ以テ挽回スベクモアラザレバ工費ヲ更ニ貳百七拾萬圓增額シ竣功年度ヲモ六箇年度延長シテ大正十九年度迄トセリ斯クテ總工費豫算額ハ壹千參百參拾貳萬貳千圓トナレリ

河狀並計畫大要

本川ノ流域ハ宮城、岩手ノ兩縣ニ互リ其面積六百九十五方里ヲ有スル大河川ニシテ流路延長九百六十二里（内幹川六十二里）灌漑段別五萬六千九百町步（内幹川三千七百二十三町步）水害區域五萬二千九百十四町步（内幹川二萬二千二百二十一町步）航路延長百五十四里（内幹川五十九里）ナリトス而シテ本川ノ航路ハ岩手縣下狐禪寺以下及派川追波川等ニシテ航行ノ便古來ヨリ開ケ尙維新後北上運河、東名運河、貞山運河等ニ依リ阿武隈川ニ連絡ヲ有スル事トナリ眞ニ東北地方ノ一大運輸機關タリ現今鐵道ノ便漸ク開ケ稍々不況ヲ呈セルガ如キモ水運ヲ利トスル貨物モ亦少ナカラザルヲ以テ幹川狐禪寺、米谷、和淵等ノ如キ狹隘部アリテ狐禪寺ノ狹隘部ハ山間部ニ屬スルヲ以テ破堤無シト雖モ上流部ニ一大湖水ヲ現出シテ沿岸ノ水災ヲ醸シ米谷及和淵ノ狹隘部ハ上流ノ水位ヲ高メ破堤ノ因ヲ爲ス而シテ米谷ノ右岸ニシテ破堤セシカ南方廣大ナル平野ニ瀰漫シ直ニ支川迫川ノ堤防ヲ突キ沿岸ヲ浸水セシムルノミナラズ逆流シテ其慘害ヲ逞フシ又和淵右岸堤ノ破堤ヲ見シカ是亦遠ク南方ニ波及シ且石卷町ヲ襲フニ至ル明治八年以降被害數萬町步以上ニ達シタルモノ數フルニ違アラズ尙本川沿岸ハ高水直接ノ結果タル惡水ノ災害モ亦甚ダ多ク其區域登米、本吉、桃生、牡鹿、遠田、栗原ノ六郡ニ達シ就中迫川及江合川沿岸ヲ主ナル被害トス今最近十箇年（明治四十三年乃至大正八年）ノ水害高ヲ見ルニ一箇年平均額貳百貳拾九萬六千七百七圓ノ多額ニ上リ就中最被害甚シカリシハ明治四十三年ノ壹千六拾壹萬壹千五百參拾壹圓、大正二年ノ八百八拾壹萬壹千參百四拾九圓等ナリトス以テ本川沿岸ノ水害甚ダシキヲトスルニ足ルベシ

本川改修ノ目的ハ高水防禦ヲ主トシ傍ラ航路ヲ修正シ併テ惡水排除ノ便ヲ圖ラントスルニ在リ而シテ

改修計畫ニ採用シタル最大流量ハ北上川本流每秒二十萬立方尺、追川同四萬六千立方尺、江合川同二萬五千立方尺ナリトス

今計畫ノ主トスル所ヲ記スレバ本吉郡柳津町ニ於テ本川ヲ締切り同所以下之ヲ合戦ヶ谷ニ附替ヘ飯野川町地先ニ於テ追波川ニ合セシメ以下追波川ニ改修ヲ加ヘ以テ之ヲ本流タラシメントスルニ在リ如スルトキハ柳津町以下舊川沿岸ニ於ケル廣大ナル平野ノ浸水ヲ根絶シ又舊川ニ合流スル迫及江合兩川ノ高水流下ヲ急速ナラシメ同川沿岸ノ水災ヲ輕減スルト同時ニ惡水排除ヲ快クスルノミナラズ航海ノ改良ヲ見ル等各種ノ利益ヲ得ベケレバナリ

柳津町以下新川ニハ最大流量二十萬立方尺ノ内十七萬立方尺ヲ通ズルノ河積ヲ保タシムルモノトシ新川河積ハ柳津町ニ於テ二百四十五間トシ合戦ヶ谷ニ於テ百六十間乃至二百四十五間トス合戦ヶ谷新川部ノ兩岸山麓ニ接スル所ハ築堤ヲ要セザレドモ平地部ニハ築堤ヲ爲シ中央ニ六十間乃至八十間ノ開鑿ヲ施シテ流積ヲ與フ飯野川町地先ニ於テハ新川殆ド直角ニ廻轉シ追波川ヲ利用シテ東方ニ向フ同所以下ノ河幅ハ二百五十間乃至四百間ニシテ築堤ヲ施シ浚渫ヲ行ヒ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ追波川右岸二俣村地先ニハ延長三千間ノ運河ヲ設ケ其下流端ニ舊川ト航路ノ連絡ヲ保ツ爲メ閘門ヲ設置ス

柳津町舊川分派口ニハ閘門ヲ設ケ以テ既往航行ノ便ヲ失ハザラシメ又洗堰ヲ設ケテ平水量四千七百立方尺ヲ送り以テ航路ヲ便ニシ且高水時ニハ本川最大流量二十萬立方尺ノ内三萬立方尺ヲ分流スル柳津以下石卷ニ至ル舊川筋ハ航路ヲ維持スル爲メ浚渫又ハ低水工事ヲ行ヒ流末石卷ニハ突堤ヲ築キ浚渫ヲ施シテ添筋ヲ設ケ航行ノ便ニ供セントス

柳津町ヨリ上流國境改修起點迄ハ日根牛ノ如キ狹隘部ニ限リ引堤ヲ爲シ河幅ノ擴張ヲ爲スノ外河狀ヲ現狀ニ委ネ舊堤ヲ増築スルニ止メタリ

築堤ハ馬踏四間乃至八間ニシテ表裏トモ二割法トシ高水位以上四尺乃至五尺ノ高ヲ有セシメ水勢激衝ノ部分ハ場所ニ依リ三割法ト爲シ且張石護岸ヲ施工ス

施行狀況

北上川改修工事ハ明治四十四年度ニ起工シ爾來鏡意進捗ヲ計リタルモ前項記述ノ如ク工費ニ不足ヲ告ゲ豫算増額ノ已ムナキニ至レリ其工事ノ功程ハ別項竣功表ニ示スガ如クナルヲ以テ茲ニ其施工概要ヲ掲グレバ本川上流部柳津町以北ノ堤防嵩置工事ハ僅ニ日根牛地内ノ一部分ヲ殘シ他ハ全部竣功シ合戦ヶ谷筋新川ノ工事ハ柳津町舊市街地及飯野川町附近ノ築堤及掘鑿ヲ施行中ニシテ其中間工事ハ大體完了セリ但シ柳津町市街地ハ家屋ノ移轉ニ伴ヒ進行ヲ左右セラレ飯野川町ノ工事ハ古川惡水路附替完成ノ上ニアラザレバ全部竣功ヲ告ゲザルモノナリ

追波川筋ニ於テハ築堤ハ下流部月濱竝釜谷地内中間部及福地、横川上流部、飯野川地内ニ於ケル盛土又ハ住上ヲ主トシテ施行中ニシテ其他ノ築堤ハ殆ンド竣功セリ浚渫工事ハ福地地内堤外地及舊堤ノ外ハ大體目途ヲ達シタルモノト見做シ得ベシ追波川筋左右岸堤内排水路即チ二俣、釜谷、竝皿貝ノ三水路開鑿工事ハ本年度ニ於テモ大ニ力ヲ致シ竣功ヲ急ギシモ尙幾多ノ工事ヲ殘存セリ合戦ヶ谷新川上流端鵠波及下流端二俣ノ兩締切工事ハ他ノ工事進行程度ニ關係在リテ未ダ起工ノ運ビニ至ラザルナリ

以上土工事業ノ外特種工事ニ至リテハ鵠波附近ノ洗堰及閘門ノ内平水洗堰ハ基礎工事ヲ終へ本體ニ著

手中ナレドモ洪水洗堰竝開門ハ今尙基礎トナルベキ岩盤掘鑿工事ヲ施行中ナリ福地地内ニ設置スル開門ハ未著手ニ屬シ釜谷月濱、二俣、柳津ノ四箇所ニ建設スベキ排水路口水門ハ唯ダ釜谷水門ガ本年度ニ竣功セルト月濱水門ノ一部ニ施工セルノ外ハ今後ノ施工ニ俟ツベキモノニシテ更ニ床固工ニ至リテハ未ダ設計確定セズ專ラ調査中ナリトス護岸工事ハ合戦ヶ谷新川筋ニ又追波川筋ニ築堤ト相伴ヒ施行セシ箇所尠カラズト雖モ尙未ダ完キヲ得ズ北上川幹川石卷河口ノ導水突堤ハ東西兩岸ヨリ海中ニ捨石ヲ爲シ上裝石張ヲ施行中ニシテ今ヤ添筋直通シ沿岸漂砂安定ノ域ニ達セル程度ニ迄進行セルモ水深未ダ充分ナラズシテ是亦繼續施行ノ必要アルモノナリトス

本工事本年度ノ竣功額ハ六拾四萬六千五百四拾四圓ニシテ起工以來ノ累計壹千貳拾八萬貳千八百參拾七圓ナレバ總豫算額壹千參百參拾貳萬貳千圓ニ對シ約七分七厘ノ竣功ニ當ル而シテ其竣功表ヲ示セバ次ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	六〇二、一八〇	七五二、五〇二	二一、六七四	五八、五二九	六二三、八五四	八一一、〇三一	〇・九三
浚深費	一、二五四、三四三	一、六〇七、〇六四	四六、九三一	八八、六四六	一、三〇一、二七四	一、六九五、七一〇	〇・九六
築堤費	八八八、九六九	三八七、一五三	七五、九〇四	九四、九二六	九六四、八七三	四八二、〇七九	〇・九五
堤防嵩置費	一六四、五一七	三〇三、五三三	一七二	八一九	一六四、六八九	三〇四、三五二	一・〇〇
排水路費	一八一、二一一	五九七、二九三	二〇、九一四	六四、〇五三	二〇二、一二五	六六一、三四六	〇・八六
洗堰及開門費	—	二五三、三六九	—	四五、九六四	—	二九九、三三三	—
護岸費	—	四八、三〇六	—	—	—	四八、三〇六	—
突堤費	—	二六三、〇五三	—	三五、七七〇	—	二九八、八二三	—

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
水門費		四一、八二〇		三〇、三〇三		七一、一二三	
用地費		一、一一、六五一		九一六		一一、一一、五六七	
附帶工事費補助		二五、七七八		一、六七二		二七、四五〇	
船舶及機械費		三、〇七四、九六七		八七、七七七		三、一六二、七四四	
測量費		一一、五五一		七一二		一二、二六三	
水量標費		六、五六五		一〇四		六、六六九	
營業繕費		一一五、八〇七		一、九九一		一二七、七九八	
電話費		三〇、一九一		二、五七一		三二、七六二	
惠傷與		一四〇、二八七		二七、六九九		一六七、九八六	
死傷當		三五、一八二		一、二四六		三六、四二八	
臨時失當		三九、四四三				三九、四四三	
亡失高		一、四四三		三		一、四四六	
施行中諸費		七七三、三一九		九六、五四五		八六九、八六四	
共濟組合給與金		六、〇一六		六、二九八		一二、三一四	
總計		九、六三六、二九三		六四六、五四四		一〇、二八二、八三七	〇・七七

第八 荒川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ分チテ上流、下流ノ二工事トス即チ下流工事ハ當初明治四十四年度ヨリ大正九年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費壹千貳百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ大正五年度ニ至リ施工年限ヲ三箇年度延長シテ大正十二年度迄トシ工費參百拾萬圓ヲ増額シ總工費ヲ壹千五百拾萬圓ニ改メ施工中ノ處大正七年度以降時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ翌八年度ニ於テ七拾四萬四千圓、九年度以降ニ於テ時局ニ因ルモノノ外一部追加設計ノ必要ニ因ル工費トヲ合シ五百八拾八萬五千圓ヲ増額シ、更ニ十年度ニ於テ百四拾萬圓、十二年度ニ於テ六百壹萬五千圓ヲ増額シ施工年限ヲ三箇年度延長シ大正十五年迄十六箇年度繼續事業トシ總工費貳千九百拾四萬四千圓ヲ以テ施行スルコトナレリ其施工區域ハ左岸埼玉縣北足立郡川口町、右岸東京府北豐島郡岩淵町以下海ニ至ル延長約二十三籽六ノ間ナリトス上流工事ハ大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費豫算壹千四百萬圓ヲ以テ施工中ナリシニ時局ノ影響ニ因リ當初ノ豫算ヲ以テ到底遂行シ能ハザルガ故ニ十二年度以降ニ於テ工費壹千萬圓ヲ増額シ施工年限ヲ五箇年度延長シ大正二十一年度迄十五箇年度繼續事業トシ總工費貳千四百萬圓ヲ以テ施工スル事トナレリ其施工區域ハ本川筋ニ於テハ埼玉縣大里郡武川村以下同縣北足立郡川口町ニ至ル延長六十二籽三及支川入間川筋ニ於テハ左岸埼玉縣比企郡伊草村、右岸同縣入間郡山田村落合橋以下合流點ニ至ル五籽九、同支川新河岸川筋ニ於テハ埼玉縣北足立郡新倉村地内ノ現在荒川合流點以下東京府北豐島郡岩淵町地先洗堰水門下ニ至ル新水路延長十一籽一ノ間ニ施工スルモノトス

河狀並計畫大要

本川ハ其流域埼玉及東京ノ兩府縣ニ跨リ面積凡三千百方籽(内支川入間川七百八十方籽、新河岸川三百四十方籽)流路延長三百六籽(内入間川九八籽、新河岸川二八籽)ヲ有シ關東平野ノ中央ニ當ルヲ以テ其概半千六百方籽ハ平坦ナル沃野ニシテ本川ニ依リ灌漑スル水田約百二十方籽ニ達ス本川ノ出水ハ主トシテ夏期豪雨ニ基因シ其流量頗ル大ニシテ出水ニ急ニ減水ハ緩ナルヲ以テ沿川地方ノ被害ハ年々巨額ニ昇リ其上流改修區域ノミヲ舉グルモ水害區域尙五百七十方籽ニ達シ無堤地ノ冠水ハ勿論或ハ堤防ヲ破壊シ冠水十數日ニ互ルノミナラズ決水ハ滔々武藏野ノ平野ニ漲リ東京市本所、深川ト中川トノ中間ニ流下シ來リ時ニ利根川ノ汎濫ト合シテ遂ニ帝都ヲ襲フコトアリ其水害關係ノ重大ナル推シテ知ルベキナリ

河狀ノ概略ヲ記スレバ本川ハ源ヲ甲武信嶽ノ東坂ニ發シ諸所盆地ノ水ヲ集メ東流スルコト十數里秩父郡樋口村ニ至リテ盆地東嶂ノ斷層谷ニ隨テ漸ク武藏野平野ノ西北隅ニ出ヅ之レヨリ東流數里ニシテ改修區域ノ上流端武川村ニ至リ茲ニ兩岸漸ク平夷トナリ廣濶ナル川敷ヲ占有シ亂流シ始メテ兩岸ニ堤塘ヲ見ルニ至リ久下村附近ニ下リテハ堤内ノ田圃却テ河床ヨリ低キ處アリ一朝破堤ノ厄ニ會セバ大水元荒川筋ノ低地ニ奔流シ埼玉縣過半ノ平野ヲ侵シ餘勢遠ク東京附近ニ達ス吹上村ヲ過グルニ及ビ水流ハ漸ク其勢ヲ失ヒ低水路ハ此ニ一定シ幅員ハ六七十米間ヲ保ツモ高水敷ハ益其幅員ヲ擴大シ平方村ニ至ル間廣キハ二千七百米狹キモ尙二千米ヲ下ラズ而シテ低水路ニ沿ヒ別ニ畑圃ノ小堤ヲ設ケ小洪水ノ汎濫ヲ防ゲリ田間宮村以下左岸一帶ハ丘陵起伏シ浸水深ク内ニ及バズト雖モ右岸ハ比企郡一帶ノ低地ヲ

控へ破堤ノ災ヲ被ルコト頻繁ナリ平方村ニ於テ入間川ヲ合シテ後ハ緩流トナリ迂曲益甚シク低水路ノ幅員八九十米間ナリト雖モ高水敷ハ愈濶ク千百米乃至三千三百米ニ達ス是ヨリ以下兩岸共ニ堤防アレドモ右岸新河岸川合流點以下ハ武藏野ノ高臺近ク迫リ岩淵町ニ至ル間ハ概ネ無堤ナリ而シテ久下村以下本川ノ堤外地ハ頗ル廣漠トシテ田園開ケ村落散在シ樹林畑園等ヲ繞ラシ僅ニ一條ノ低水路ヲ通ジ恰モ原始的河川ノ状態ニ在ルヲ以テ遊水地トシテハ其効頗ル大ナリト雖モ高水ノ疏通ニ關シテハ支障尠カラザルナリ

河狀如斯ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ上流部ハ現在堤外遊水地ノ大勢ヲ保有セシメ新ニ水路ヲ開鑿シテ流水ノ疏通ヲ計ルト共ニ低水路ノ屈曲ヲ矯正シ下流流量ノ調節ニ努メ下流部亦高水防禦工事ヲ目的トスレドモ傍ラ水利ノ改善ヲ計リ第一期計畫ニ於テハ利害關係ノ最モ重大ナル川口町鐵道橋以下二十三軒間ヲ改修セントス

下流改修ノ主眼トスル處ハ川口町以下現川外ニ一大放水路ヲ開鑿シ高水ヲ防禦セントスルニ在リ蓋シ本計畫ニ依ルトキハ帝都ヲシテ洪水ノ範圍外ニ立タシメ又現川(川口町以下)竝其河口ニ於ケル土砂ノ埋塞ヲ輕減シ航路ノ改良ヲ企圖シ得ベキ外沿岸人家櫛比ノ現川ニ改修ヲ加フルノ不利ヲ避ケ得ベケレバナリ

本計畫ニ採用シタル最大流量ハ每秒(十五萬立方尺)四千七百七十粒ニシテ尙非常出水ノ場合ハ每秒五千五百七十粒ヲ流下シ得ルモノトシ該流量ノ内八百三十五粒ヲ岩淵町以下ノ現川ニ流下セシメ殘餘ハ新ニ開鑿スル新水路ニ放流セシム蓋シ舊川ニ於ケル上記ノ流量ハ新ニ築堤ヲ行ハズシテ汎濫ヲ見ルコトナク流下シ得ベキ適量タレバナリ

放水路トシテ開鑿スル新川ハ川口町鐵道橋以下舊川ノ左側ニ沿ヒ千住町ノ北端ヲ過ギ國有鐵道常磐線及私設東武鐵道線路及京成電車軌道ヲ横斷シ奥戸村ノ南端ニ至リ國有鐵道總武線ヲ横斷シ之レヨリ一大彎曲ヲ爲シ中川口ニ注ガシム河幅ハ起點ヲ四百五十四米、河口ヲ五百八十二米トス

新荒川放水路ニ依テ横斷セララル綾瀨川ニ新放水路ノ左側ニ沿ヒ中川ニ落シ中川ハ又新放水路ノ左側ニ沿ヒ海ニ通ゼシム而シテ綾瀨川ヨリ隅田川ニ通ズル航路又平井ニ於ケル舊中川ノ新放水路兩岸堤ニ依リ横斷セラレタル箇所及小名木川ヨリ江戸川ヲ經テ利根川運河ニ通ズル航路ナル新川（船堀川）ノ新放水路兩岸堤ヨリ遮斷セラレタル處ニハ水門又ハ閘門ヲ設置ス又右岸岩淵町舊川分派口ニハ水門ヲ設置シ平時ニハ平水量ヲ通ジ高水時ニハ規定ノ流量以內ヲ通ゼシム又必要ノ場合ハ同所ニ閘門ヲ設ケ如何ナル出水時ニ於テモ既往航行ノ便ヲ保タシメントス分派口以下ノ舊川ハ一部附替ヲ要スル所アルモ大體舊川ニ依リ幅員ヲ上流部百九米、下流部百四十五米ト規定シ流量ニ修整ヲ加フルノ外上述ノ如ク築堤ヲ行ハズ

堤防ハ掘鑿土ノ處分上其體積ヲ大ニシ右岸堤ハ帝都ヲ防護スル關係上特ニ堅牢ヲ期セリ即チ右岸堤ハ馬踏十四米五、外法ハ通ジテ三割、內法ハ二割ト爲シ馬踏ヲ下ルコト一米八ノ處ニ三米六ノ裏小段ヲ附ス堤高ハ計畫高水以上約二米ヲ保タシメ非常出水時ニ對シテモ尙一米内外ノ餘裕ヲ存セシム左岸堤ハ馬踏十米九ニシテ法及小段堤高等凡テ右岸ニ同ジ

綾瀨川堤防ハ馬踏五米五、馬踏ヨリ一米八下リニ一米八ノ裏小段ヲ附シ中川堤防ハ馬踏七米三ニシテ小段ヲ附セズ兩川トモ内外法何レモ二割トス

上流改修工事ノ計畫流量ハ既往洪水ノ實測調査ニ依リ每秒五千六粒ト定メ廣濶ナル遊水地ヲ有スル河

狀ニ鑑ミ下流ニ至ルニ從ヒ遊水地面積ニ約比例シテ漸次遞減シ赤羽鐵道橋下ニ至リ每秒四千二百粒トナリ以テ下流改修區域ニ入ルモノトス而シテ計畫高水位ハ既往ノ最大洪水タル明治四十三年及大正二、三年ノ水位ヲ標準トシテ新河道ニ要スル河積ヲ算定セリ低水路ハ大體其現狀ヲ存置シ屈曲甚クシテ水流ヲ阻碍シ河岸ノ維持困難ナル所若クハ新高水敷ヲ別ニ選定シタル所ハ新ニ之ヲ開鑿ス其幅員ハ大體現狀ニ依リ入間川合流點ノ上流部ハ五十五米、同下流部ハ七十米乃至九十米ト定メタリ

高水敷ハ大里、祁久下村(右岸同郡市田村)以下田間宮村ニ至ル間ハ現低水路ヲ挾デ幅員百八十米乃至三百六十米、田間宮村以下平方村ニ至ル間ハ低水路著シク曲折シ其兩岸高キヲ以テ新河道ハ之ヲ左岸高臺沿ヒノ低地ニ遷シ四百五十米ト爲シ東吉見村地先ニ於テ新堤ヲ築設スル部分ハ特ニ之ヲ五百五十米ニ擴大セリ入間川合流點(平方村)以下ハ新川敷ノ幅員ヲ五百五十米ト定メ土合村(右岸宗岡村)ニ至ル間ハ大體現低水路ニ隨フト雖ドモ其間馬宮村附近ニ於テハ其屈曲急且河岸地高キヲ以テ左岸ノ低地ニ川敷ヲ選定シ土合村以下ニ於テハ低水路ノ屈曲愈甚シク之ニ沿フテ適當ナル川敷ヲ索ムルコト難キヲ以テ堤外地ノ地形ニ從ヒ新ニ川敷ヲ選定シ笹目村以下上流遊水地ノ調節ニ因リ流量著シク緩和サレ更ニ遊水地ノ必要ナキヲ以テ掘鑿ニ依テ充分ナル河積ヲ與ヘ河幅ヲ一定シ五百五十米ト爲シ新堤ヲ築キテ川口町(右岸岩淵町)ニ至リ下流改修堤塘ニ接續セシム堤外ノ田圃及濕地ハ新高水敷ノ開鑿ニ依リ排水ヲ良好ニシ浸水ノ機會ト期間トヲ著シク減少セシムベシト雖モ猶溢水ノ流勢ヲ殺ギテ耕宅地ヲ保護シ流水ヲ河心ニ集注セシメンガ爲メ流勢ノ強弱堤外地ノ廣狹等ヲ參酌シテ横堤ヲ適當ノ間隔ニ配置シ改修ノ效果ヲ全カラシメントス

支川入間川ニ在テハ入間郡植木村地先ハ新ニ堤塘ニ依リテ圍繞セラレ河積ヲ縮少スルヲ以テ同郡芳野

村以下北足立郡平方村ニ至ル低水路ヲ挾ンデ幅員百八十米ノ高水敷ヲ買收シ之ヲ低水位上一米八ニ掘リ下ゲ疏通力ヲ増大セシム

支川新河岸川ハ現在ノ合流口ヲ遮斷シテ荒川ノ新堤内ニ附替ヘ東京府下岩淵町地先岩淵水門下ニ於テ新隅田川ニ合流セシメ荒川ノ高水ト全ク絶縁シ逆流ノ患ヲ除キ同沿岸惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ併セテ水運ノ便ヲ増進セシム

堤防ハ大部分舊堤ノ擴築ニシテ在來無堤ノ部分及新ニ高水敷ヲ選定セル一部ニハ新堤ヲ築ケリ堤形ハ兩者トモ馬踏六米五及七米五兩法二割五分ニシテ堤頂ハ計畫高水位一米八乃至二米一タラシメ堤頂ヨリ一米八下リテ川裏ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ小段上法ヲ二割トス横堤ハ馬踏六米乃至七米五兩法二割ニシテ頂ハ高水位上約一米トシ突端ハ三十分ノ一勾配ヲ以テ高水敷ニ傾斜セシムルモノトス

施工狀況

本工事ハ先ヅ下流ヨリ述ベンニ明治四十四年度創業ト同時ニ所要土地ノ買收ヲ開始シ大正二年度ニ至リ稍進捗シ一部完了セル處アリシニ依リ該區域ヨリ工事ニ著手シ以來孜々トシテ其進捗ヲ圖リシモ如何セン用地ノ買收未濟箇所各所ニ點在セルト改修區域中常磐、東武、總武ノ三鐵道及京成電車軌道ノ横過セルアリ且帝都連互ノ樞要道路無數ニシテ是レガ爲メ施工區域ヲ極限セラレ隨所著手ノ自由ヲ有セザリシガ漸次買收ノ進ムニ隨ヒ幾分工事ノ進捗ヲ圖リ得ルニ至レルモ尙一部買收不承諾者アル爲メ不便少カラズ惹テ工事遅延ノ虞アルニ依リ大正五年十一月土地收用審査會ノ裁決ヲ求メ同六年五月其決定ヲ受ケ爾來銳意進工中不幸ニシテ同年十月一日竝翌七年九月二十四日等相次デ暴風竝海嘯襲來シ之レ

ガ爲メ船舶及諸機械ノ毀損又ハ流失ヲ見シヲ以テ事業ノ進捗ヲ妨ゲラレシコト尠カラザリシト雖モ爾來全區域ニ互リ其工ヲ進メ其效果相當ニ見ルベキモノアリシガ大正十二年九月一日突發セル關東大震災ノ爲メ本工事ノ進行ヲ阻碍サレタリシモ被害ノ僅少ナリシハ幸ナリト云フベシ而シテ本年度末ニ於テ尙其築堤約六千四百米水中工事ニ於ケル浚渫工事ノ約一割二分ヲ殘シタリト雖モ大正十三年九月ノ洪水ハ岩淵水門ノ調節ニ依リ新舊兩川水位ノ差二米一ヲ示シ起工以來本年度ニ於テ始メテ之ヲ新荒川放水路ニ下流セシメ同水門下流舊荒川及隅田川沿岸ニ於ケル被害ヲ除却セシト共ニ荒川上流部ノ水害ヲ輕減スル事ヲ得タリ又同年十月十二日ニハ新荒川通水式ヲ舉行シ同月二十五日畏クモ攝政宮殿下ニハ親シク岩淵水門以下江北橋迄ノ工ヲ御視察アラセラレタリ

本工事事務所ハ明治四十四年度創業ニ際シ東京府下千住町ニ設置シ其下ニ工場及派出所ヲ置キ工事ノ施行監督ヲ爲サシメツツアリシモ本年度ニ於テハ岩淵、綾瀨、砂町ノ三工場及八派出所ヲ設ケ各工事ヲ分擔セシメタリ又本改修事務所隣地ニ千住機械工場ヲ置キ工事用諸機械器具ノ製作及修理ヲ爲サシメタリシガ同工場ヲ中央工場トシ内務省千住機械工場ト稱シ大正七年九月十六日ヨリ工場設備ノ全部ヲ擧ゲテ同工場ニ繼承セシメ他川ノモノト共ニ製作及修理ヲ爲サシメタリシモ大正十二年七月一日再ビ本所ノ所轄ニ移リ當初ノ如ク作業スルコトナレリ

今本年度施行ノ概況ヲ述ベンニ浚渫工事ハ川口筋第二、天狗鼻、西新井、梅島、千住、吾嬬、平井、小松川、船堀第四(以上本流)松江、宇喜田(以上新中川)堀切、満久里(以上新綾瀨川)ノ十三箇所ヲ鋤簾式又ハ唧筒式及ブリストマン式浚渫船ニ依リ掘鑿工事ハ川口第四舊熊谷街道、千住新橋附近、綾瀨川右岸、綾瀨川左岸(以上本流)新川(新中川)ノ六箇所ヲ人力ニ依リ施工シ其土砂ノ一部ハ築堤工事ニ利用シ其他ハ主ニ民有地理立ニ捨土セリ

其浚渫掘鑿總土量百十八萬九千六百三十七粒ニシテ工費貳拾壹萬七千貳拾八圓外ニ捨土出願者負擔額參拾壹萬貳千七百七拾九圓ヲ支出セリ

築堤工事ニ於テハ川口第二、南平柳、山王落堀締切、岩淵第二、下村、下村締切、王子上流締切、王子下流締切、小臺、千住第一、五反野、小菅、滿久里、中平井締切、中平井、隅田、木ノ下、下木下川締切、下平井、小名木川、中川締切、砂村以上本流堤防根固第一、同第二、新川、宇喜田第三（以上新中川）綾瀬第四（新綾瀬川）ノ二十七箇所ニシテ延長四千七百六十二米ヲ完成シ工費拾貳萬九千五百六拾參圓外ニ捨土出願者負擔額五千參拾七圓ヲ支出セリ
特種工事ハ小名木川閘門ノ一箇所ニシテ殆ンド竣功シ工費貳萬四千參百七拾四圓外ニ製作品價額貳百九拾六圓、捨土出願者負擔額貳千六百貳拾圓ヲ支出セリ

本年度附帶工事ハ全部管理者施工ニ係リ埼玉縣施行ノ芝川吐口、改良工事一箇所、砂町水路新設工事一箇所、東京府施工ノ橋梁三箇所、東武鐵道線變更工事一箇所等ニシテ何レモ竣功シ工費ノ補助ヲ爲シタルモノ參拾七萬六千參百七拾九圓ナリトス

又上流改修工事ハ大正七年度ノ創業ニシテ先ヅ埼玉縣浦和町ニ土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買收調査ニ著手シ同九年度ニ至リ埼玉縣北足立郡馬宮村以下川口町ニ至ル所要地ヲ買收シ同年十月事務所ヲ鴻巣町ニ移シ十二年度迄ニ馬宮村ヨリ下流ノ所要地ヲ買收セリ此總段別千五百四十七町步（内高水敷千二百七十三町步、堤塘敷百九十五町步、横堤敷三十七町步、新河川敷四十二町步）ニシテ本年度ニ於テハ四町步（内堤敷二町步、横堤二町步）ヲ買收シ全部ノ七割餘ヲ買收シ終レリ然ルニ十三年度ヨリ事業縮少セラレタル爲メ十一月三十日限り事務所ヲ閉鎖セリ

工事ハ大正九年一月荒川改修事務所ヲ同縣古谷村ニ設置シ先ヅ低水路ノ屈曲甚シク川敷ノ附替トナル

ベキ箇所若クハ掘鑿土量ノ比較的多少竣功ニ長年月ヲ要スル下流部ヨリ著手シ順次上流ニ及ブ方針ヲ以テ専ラ機械及器具ノ整備ニ努メ九年度末ニ至リ始メテ工事ヲ開始シ本年度迄ニ築堤土運搬五百四十九萬七千三百十二粒、浚渫土量九百十萬二千五百五十粒及護岸制水延長千三百米ヲ施工セリ
本年度ニ於テハ事業縮少ノ爲メ人力掘鑿工事ヲ中止シ機械掘鑿工事ノミ續工シ浚渫土量二百四十七萬四千二百四十九粒、築堤土運搬百六十五萬六千三百六十五粒及護岸制水八百五十米ヲ施工セリ
是等諸工事ハ改修事務所ノ下ニ戸田、内間木、馬宮及川田谷ノ四工場ヲ置キ其下ニ十一派出所ヲ設ケ各工事ヲ分擔セシメタルナリ

使用器械ノ主要ナルモノハ梯子鋤鏈掘鑿機十臺、二十疋機關車十臺、蒸汽シヨベル型掘鑿機一臺、ドラックライン型掘鑿機一臺、三粒積片側傾斜土運車九百三十臺、三粒六積兩側傾斜土運車二十四臺、〇粒六積土運車千二百四十臺、三十疋軌條十五籽(二本竝列)、二十疋軌條四籽(同上)、十五疋軌條六十六籽(同上)、六疋梯子型軌條五十二籽、工業船大小八十八隻、易搬機關車七臺、離心動唧筒九個等ナリ

左ニ工事ノ概況ヲ叙述スベシ

川口町ヨリ笹目村ニ至ル間ハ上流改修工事區域ノ最下流ニ屬シ高水ハ上流遊水地ニ於テ緩和セララルヲ以テ新高水敷幅五百五十米ニ限定シ下流改修工事ニ接續セシメ高水流量四千二百粒ヲ快流セシム此部分彎曲甚シキ低水路三箇所ヲ短縮スル爲メ横曾根地先一千九百二十六米、戸田村地先七百二十五米、及笹目村地先六百三十米ノ開鑿ニ從事シ何レモ年度内竣功シ横曾根村地先流路約二分ノ一、戸田村地先約三分ノ一、笹目村地先約八分ノ五ハ短縮セラレ流水ノ疏通頗ル佳良トナレリ高水敷ノ掘鑿ハ掘鑿機ニ依レルモノ横曾根(低水路ヲ含ム)ハ其九割、戸田、笹目及赤塚ハ何レモ其全部、赤塚第二掘鑿ハ其七割ヲ竣功シ

人力ニ依レルモノ志村ハ其九割、同第二ハ其二割、戸田ハ其六割、新曾掘鑿ハ其全部ヲ竣功シテ高水ノ疏通著シク佳良トナレリ、築堤ハ右岸浮間、赤塚、左岸横曾根、戸田、笹目ノ五箇所ノ内横曾根ノ大半ハ舊堤ノ擴築ナレドモ他ハ總テ新堤ニシテ何レモ舊堤以上ノ高ニ盛土セルモ未ダ完成セズ、浮間、赤塚ハ各其四割、横曾根及笹目ハ各其五割、戸田ハ其三割ヲ竣功セリ

笹目村ヨリ土合村ニ至ル間ハ低水路ノ紆餘屈曲殊ニ甚シク所謂雜丹袋ト稱シ新タニ低水路ノ附替ヲ要スルモノ四箇所、内白子村地先六百五十米、下内間木村地先六百七十五米ハ前年度迄ニ竣功シ流路ハ夫々約三分ノ一及四分ノ一ニ短縮セラレ他ノ二箇所新倉村地先七百十米及上内間木村地先六百七十五米ハ何レモ本年度ヨリ開鑿ニ著手シ前者ハ其四割、後者ハ一割ヲ竣レリ、高水敷掘鑿ノ内白子、内間木ハ前年度中ニ竣功シ機械掘鑿ニ依レル美谷本ハ其七割、本年度著手ノ上内間木ハ一割ヲ竣成セリ、此部分右岸ハ無堤地ニシテ新倉村ニ於テ新河岸川ト合流シ一帶ニ洪水ノ汎濫區域ニ屬スルヲ以テ新ニ堤塘ヲ築造スルモノトシ白子及内間木ハ既ニ著手シ前者ハ其三割、後者ハ四割ヲ竣成セリ、又十一年度著手セル左岸白子地先低水路護岸工事ハ本年度ニ至リ延長八百五十米ヲ全部竣成セリ

土合村ヨリ馬宮村ニ至ル間ハ廣漠タル遊水地ヲ控ヘ堤塘ハ右岸大久保及馬宮村地先ヲ除キ他ハ全部舊堤ノ擴築ニシテ既ニ其大部分ハ舊堤ノ高サニ達セシメタルモ新堤ノ築立ハ僅ニ右岸ノ一部ニ著手セルノミナリ、飯田新田及西遊馬地先ノ舊水路ハ曲折甚シク且著シク右岸堤塘ニ接近セルヲ以テ新ニ高水敷ヲ左方ニ移シ十年度ヨリ新低水路延長四千三百米ノ開鑿ニ著手シ飯田新田ハ其七割、西遊馬ハ六割ヲ竣成セリ

高水敷ノ掘鑿ハ機械ニ依レルモノ、左岸大久保村地先ニ於テ其一割ヲ竣リ人力ニ依レルモノ、飯田新田ハ

全部、西遊馬ハ其八割ヲ竣成セリ而シテ大久保ノ對岸ナル南畑ハ其八割、宗岡ハ其二割ヲ竣成セルモ共ニ工事上ノ都合ニ依リ一時中止セリ

平方村ヨリ川田谷村ニ至ル間ハ左岸ニハ丘陵相連リ其裾ノ突出セルアリ其豁間ニ多少ノ耕地ヲ抱擁シ所謂山附堤防六箇所アリ其内大石村及川田谷村地先ニ於ケル五箇所延長千五百米ノ擴築ハ前年度ニ續工セルモ用惡水路ノ關係ニ依リ只僅ニ其三割ヲ竣功セリ低水路ト屈曲甚シキヲ以テ左岸丘麓ニ近ク新低水路二箇所ヲ選定シ上流大石村及川田谷村地先ニ於ケルモノ延長三千四百九十五米ノ箇所ハ既ニ著手シ低水路ハ機械掘鑿トシ高水敷ハ人力ニ依リ施工シ前者ハ其三割、後者ハ八割ヲ竣功セリ

新河岸川筋ノ新河岸川現在落合地點新倉村地先ヨリ岩淵水門下流ニ至ル延長一萬一千百米内舊川ノ利用部ヲ除キ八千八百米ノ新水路開鑿工事ハ其幅川敷六十三米六、低水路九米六乃至三十米九、水深一米七乃至二米八ニシテ前年度ヨリ「ドラツクライン」掘鑿機ヲ使用シ府下志村ノ一部ヲ竣功セルニ止マレリ機械工場ハ使用機械ノ修理製作ノ爲メ大正十年四月改修事務所ニ隣接シテ機械工場ヲ設置シ同九月千住機械工場ノ所管ニ移リ其分工場トシテ作業ヲ開始シ尙戸田村及宗岡村ニ派出所ヲ設ケ夫々分擔作業セシガ同十二年七月再ビ當所々屬古谷機械工場トナリ戸田村分工場ヲ置キ本工事用器具ノ製作及修理ヲ施行スル事トナレリ

本年度荒川改修工事ノ竣功高ハ上下流ヲ通ジ貳百四拾九萬五千七拾八圓ニシテ起工以來ノ累計ハ參千四百八拾六萬貳千五百貳拾六圓トナレリ之ヲ總工費豫算五千參百拾四萬四千圓ヨリ見ルトキハ六割六分ノ竣功ナリトス

工事竣功表ヲ掲グレバ左ノ如シ但シ表中前年度迄竣功高ノ總計前回年報ニ比シ七拾貳萬八千九百五拾

八圓ノ差アルハ製作品價額七拾貳萬九千五百拾八圓ヲ控除シ退職手當五百六拾圓ヲ加算シタルニ因ル
又表中「△」ハ製作品及評價品價額「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ捨土出願者負擔額ヲ示スモノナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	歩
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
築堤費	一五、〇五三、九九〇	八七九、五二二	一、八七〇、〇〇七	一六三、〇一七	一六、九二三、九九七	一、〇四二、五三九	下流	
浚深費	二四、三五四、九五二	四七九、三七一	三、六六三、八八六	五、〇三三、三七	二八、〇一八、八三三	五二、二四八	上流	
護岸制水費	二四、三五四、九五二	五、〇九九、九六五	三、六六三、八八六	八七四、五六九	二八、〇一八、八三三	一、〇七四、五三四	上流	
特種工事費	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	上流	
直轄施行	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	上流	
工事管理者施行	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	上流	
用地費	二六、三七八、八〇九	三、四四八、七八三	四六、二二五	三七六、二七九	二六、四二四、九三四	三、八二五、〇六二	下流	
船舶及機械費	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	下流	
測量費	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	下流	
亡失毀損其他費	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	下流	
營繕費	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	下流	
施行中諸費	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	下流	
共濟組合給與金	未竣功	▲	未竣功	▲	未竣功	▲	下流	
總計		▲		▲		▲	〇・六六	

更ニ前表ノ竣功額ヲ上下流ニ區分スレバ次ノ如シ

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	三、八四〇、九四七	四八、八九三	一、六五六、三六五	三三、四五四	五、四九七、三一二	八二、三四七	〇・〇三
工事費	六、六二七、九〇一	一、七四三、四五八	二、四七四、二四九	六五七、五四一	九、一〇二、一五〇	二、四〇〇、九九九	〇・三〇
附帶工事費	未竣功 竣功	八二〇、六八八	未竣功 竣功	一〇〇、〇〇八	未竣功 竣功	八三〇、七六六	〇・〇二
用地費	一五、四七一、二〇九	三、八六三	四二、五〇六	一五、〇八八	未竣功 竣功	四一、一九六	〇・〇二
船舶及機械費		四、〇八六、七四八		一九、一六〇	一五、五一一、七一五	四、一〇五、九〇八	
測量費		二、四五六、五五五		二二四、四六二		二、六八一、〇一七	
營繕費		二八、九八四		二、一七九		三一、一六三	
施行中諸費		一一二、七三七		六、四五〇		一二九、一八七	
共濟組合給與金		五四〇、九六三		一二九、九四六		六七〇、九〇九	
總計		七、三一九		九、二五三		一六、五七二	〇・一九
	▲▲	九、〇六五、六二八	▲	一、〇九七、五三三		一〇、一六三、一六一	
		二五八、〇二五		一、〇〇八		八三八、〇七六	
		六八八				七六六	

第九 阿賀野川改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本川ハ當初航路改良ノ目的ヲ以テ新潟縣東蒲原郡津川町以下海ニ至ル約十六里半ノ間ヲ工費四萬餘圓ヲ以テ明治十七年七月ヨリ起工シ同十九年ニ至リ一時工事ヲ中止セシモ尙改修ノ要アルガ爲メ大正四年度ヨリ同十二年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百萬圓(内新潟縣負擔額貳百貳拾九萬貳千圓)ヲ以テ更ニ工ヲ起シタリシガ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月四百萬圓(内新潟縣負擔額百萬圓)ノ増額ヲ受クルト共ニ施行期限ヲ大正十七年度迄繰延ベラレシガ更ニ九月一日關東大震災突發ノ爲メ十一月ニ至リ二箇年度ヲ延長シ大正十九年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算壹千貳百萬圓ヲ以テ左岸新潟縣中蒲原郡川東村、右岸同縣東蒲原郡下條村以下海ニ至ル約九里間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ以テ洪水ノ患害ヲ除キ一面舟楫ノ利便ヲ計ラントスルモノナリ

河狀並計畫大要

本川ハ福島及新潟ノ兩縣ニ互リ流域面積五百四十一方里ヲ有シ流路延長七百十三里(内幹川四十三里)航路延長百四十九里(内幹川三十八里)灌溉段別四萬町步(内幹川四千四百四十六町步)水害區域二萬三千二百五十町步(内幹川七千五百五十六町步)ニシテ本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ低氣壓ニ伴フ暴風雨トニ基因シ上流地方ニ於テ一日ノ雨量百耗以上ニ達スレバ警戒ヲ要スベキ洪水ヲ來タスコト多シ其水災ノ最モ

甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル中蒲原郡川東村大字馬下ヨリ海ニ至ル間延長約九里ニシテ地勢平坦西ハ遠ク信濃川沿岸ノ平野ニ連リ我國有數ノ米產地タリ兩岸概ネ堤塘ノ設ケアリト雖モ斷續不同、屈曲迂回構造モ亦薄弱ナルヲ以テ洪水ノ際ハ沿川各地ニ浸水セザルコトナク又派川小阿賀野川ハ出水毎ニ多量ノ土砂ヲ信濃川ニ流送シ新潟港ヲ埋塞ス水害損失額ハ大正元年ヨリ同十年ニ至ル十箇年間平均百貳拾八萬壹千四百拾參圓ニシテ其内大正元年、同二年、同三年、同九年ノ四箇年ハ何レモ百萬圓以上ノ損害ヲ受ケタリ即チ大正元年ハ百五拾參萬參千四百七拾九圓、同二年ハ五百參拾七萬七千四百拾五圓、同三年ハ百七拾八萬五千四百參圓、同九年ハ百七拾五萬七千九百四圓ナリトス

本計畫ハ馬下以下海ニ至ル區間ノ水災ヲ防止スルヲ以テ目的トシ最大流量ヲ毎秒二十五萬立方尺ト定メ尙非常ノ場合ニ於ケル三萬立方尺ノ餘裕ヲ有スル河積トセリ而シテ河幅ハ起點附近ヲ二百四十間トシ一里餘ノ下流論瀨附近ヨリ河口ニ至ル間ヲ五百間ニ擴張セリ改修法線ハ現川ニ沿ヒテ之ヲ定メ中流澤海附近ノ如キ屈曲甚シキ部分ハ之ヲ矯正ス堤防ハ主トシテ舊堤ヲ利用擴張シ其他ハ新堤ヲ築ク又低水敷及高水敷ニハ掘鑿ヲ施シ河積ノ不足ヲ補ヒ尙下流ハ水路ノ浚濶ヲ行ヒ以テ流積ヲ完備セシム

小阿賀野川ハ滿願寺ニ於テ之ヲ締切り沿岸ノ水災ヲ絶ツト共ニ同川ニ合流スル能代川及其他惡水ノ疏通ヲ便ナラシメ又洪水毎ニ新潟港ニ流送スル土砂ヲ止メ信濃川ノ改修ト相俟テ同港埋塞ノ主因ヲ除カントス而シテ信、阿兩川舟運ノ聯絡ニ對シテハ滿願寺地内ニ一閘門ヲ設置スルコト、セリ又河口近ク本川ニ合流スル加治川及新井郷川ニ對シテハ當初合流點ニ水門ヲ設ケテ逆水ノ浸入ヲ防止スルノ計畫ナリシガ其後新井郷川水害豫防組合ノ出願ニ依リ前記逆水門ニ替フルニ新水路ヲ開鑿シ直接海ニ放流スルコトニ變更セリ

堤防ハ早出川落口ヨリ下流ハ凡テ馬踏ヲ五間トシ夫ヨリ上流ハ四間ト爲シ何レモ表裏二割ノ法ヲ附シ
洪水位以上五尺ノ高ヲ保タシメ水勢激衝ノ箇所ニハ適當ノ護岸ヲ施工スルモノトス
掘鑿ハ左岸論瀨高山ノ堤外地ニ於ケル低水路五百四十間及左岸巢本村一本杉右岸安田村小浮ヨリ以下
流心ニ沿ヘル三百間(平均低水位上三尺ノ面迄)ニ施行ス其他満願寺澤海間ニ於ケル直通低水路約八百四
十間ナリ

浚渫ハ大淵以下ニ之ヲ施行ス其深ハ平均低水面以下六尺乃至九尺幅ハ底面ニ於テ六十間乃至百五十間
トシ又小阿賀野川筋ニモ現在ノ流心ニ沿ヒ底幅八間ノ浚渫ヲ行ヒ深サハ満願寺ニ設置スル閘門ノ底面
ヨリ一尺ヲ増シ基線以下三尺五寸タラシメントス

施工狀況

本工事ハ大正四年度ノ創業ニシテ直ニ土地買収ニ著手シ其進捗ニ從ヒ掘鑿浚渫築堤護岸制水閘門等ノ
諸工事ヲ實施セリ本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續セル三十三箇所新ニ七箇所計四十箇所ノ工事ヲ實施
ス而シテ本年ハ冬期ニ於ケル降雪近年ニ稀ナル少量ヲ示シ年内ニ大ナル出水モ無ク作業上好都合ナリ
シト一面出役者モ例年ニ比シ農繁期ヲ除キ潤澤順調ニ作業スル事ヲ得タルニ依リ掘鑿築堤護岸等ノ諸
工事モ意外ニ進捗シ大ニ見ルベキトコロアリシニ十月中旬ニ至テ財政緊縮ノ餘波ヲ受ケ工事ノ緩急ヲ
考慮縮少シ爲ニ豫期ノ工程ヲ擧ゲ得ザリシモ掘鑿土七萬七千三百二十一立坪餘築堤土六萬五千六百四
十三立坪餘ヲ竣功セシメタリ今其施工概要ヲ左ニ述ベン

掘鑿工事ハ前年度ヨリ引續キ施行シツツアル四箇所ト新ニ著手ノ八箇所ト計十二箇所ノ工事ヲ施行セ

リ而シテ本年度モ亦掘鑿機四臺ヲ用ヒ機械掘ニカヲ盡シ一面手掘ニハ人力及馬力ヲ使役シ専ラ工事ノ進捗ニ努メ土砂運搬ニハ二十噸機關車六臺及輕運車等ヲ用ヒ新堤敷又ハ附近低地へ投棄セリ其土量七萬七千三百二十一坪餘ニシテ前年度ニ比スレバ三萬四千百十九坪餘ヲ減少ス此坪當壹圓七拾五錢五厘ナリ

築堤工事ハ前年度ヨリ引續ケル十四箇所ニシテ内三箇所ハ工事上ノ都合ニ依リ中止シ他ヲ實施ス其築立ニハ掘鑿土ヲ利用スルモノト堤内堤外ノ兩地ヨリ採土スルモノトノ二種ニシテ運搬ニハ人力又ハ馬力ニ依リ輕運車ヲ用ヒ土量六萬二千百二十一坪餘ノ築立ヲ爲セリ

護岸工事ハ前年度ヨリノ六箇所ト新ニ二箇所計八箇所ヲ施行セリ其工法ハ石張、柴工沈床、金網蛇籠、混凝土塊、簾單床等ニシテ内五箇所ヲ殘シテ他ハ何レモ竣功シタリ

假設制水工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ一箇所ト新ニ一箇所ト計二箇所ヲ實施ス其工法ハ柴工沈床、金網蛇籠、川倉枿等ニシテ全部竣功セリ

開門工事ハ前年度ヨリ引續キ蒸汽捲揚機ヲ使用シ前後兩庭部側壁鐵筋混凝土二百三坪餘隅石角落ノ切石積及前後翼壁石積四十七面坪餘、開室石積九十五面坪餘、後方水路石積等ヲ積立テ「ストニーゲート」裝置四箇、角落五十六本ヲ竣へ更ニ舟溜護岸工事ノ一部ニ著手セリ

水門工事ハ新ニ著手セシモノニシテ小阿賀野川及通船川ノ二箇所トス前者ハ小阿賀野川現堤外地ニ築造スルモノニシテ其掘鑿ニ際シ河水滲透ノ虞アルニ依リ渴水期ヲ利用シテ十一月ヨリ基礎掘ニ著手シ土砂ハ輕運車及人力ニ依リ土量二千五百十三坪ヲ運搬捨土ス然ルニ工事ノ進捗ニ從ヒ湧水著シク二十五馬力、十五馬力ノ二電動機ト八馬力發動機二臺トヲ用ヒ排水ニ努メタリ杭打ニハ「ウオシントンポンプ」

ヲ据付ケ水射式押込法ヲ利用シ基礎杭及矢板親柱ヲ施シ混凝土十二坪ヲ了セリ又後者ハ假水路ノ掘鑿及敷掘ノ一部ヲ實施シ土量七百九十七坪餘ヲ輕運車ニ依リ運搬シ一面湧水ノ排除ニハ二十馬力電動機八吋渦卷「ポンプ」ヲ使用シ杭打ニハ前者ト同様水射式ニ依リ假締切延長百間ト本締切ノ一部ヲ終了セシメタリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ川敷ノ買收及物件移轉等ヲ實施シ本川上流部タル安田村、川東村、巢本村ノ殘部ヲ終了シ尙下流部ニ於ケル未承諾者ニ對シ應諾方ヲ交渉セリ其支出額貳萬八百拾貳圓ナリ

機械工場ノ木工事ニ使用スル船舶及諸機械ノ修理製作ハ主トシテ專屬機械工場ニ作業シ規模大ナル修理製作ハ信濃川河口機械工場ニ依託ス

附帶工事トシテ施行シタルモノハ左ノ如シ

龜田鄉用水路工事ハ前年度ヨリ引續キ大江山村外二箇村地内水路ノ掘鑿、築堤、樋管、橋梁等ノ諸工事ヲ施工ス掘鑿ハ主トシテ人力ニ依リ其運搬ニハ輕運車及五噸機關車ヲ使用シ土量一萬一千五百九十四坪餘ヲ搬出シ一部ノ土量二千七百八十坪餘ヲ築堤ニ利用ス又取入口樋管ハ捲揚機及扉ノ一部ヲ殘シテ竣功セリ此外橋梁長四間二箇所、同五間一箇所ノ架設ヲ了シタリ

新井郷川改修工事ハ前年度ヨリ引續キ人力ニ依リ水路ノ浚渫ニ力ヲ注ギシモ切取面ノ低下スルニ從ヒ湧水甚ダシク水中作業トナリ意ノ如ク進マザルニ依リ輕運車ヲ廢シ小舟トシ一面浚渫船一隻ヲ用ヒ五合積長船ニ依リ土量二萬二千六百六十七坪餘ヲ運搬捨土シ其一部ヲ築堤土ニ利用セリ此土量三百十五坪ナリ

護岸工ハ下流ニ於テ延長三百十間ノ兩岸ニ水射式押込法ニ依リ箴杭打ヲ竣功セリ橋梁ハ木造ニシテ長

百七十尺、有効幅十二尺ノモノ一箇所ヲ架設ス、此外本水路ニ合流スル加治川ニハ柴工沈床ニテ床固工二箇所ヲ實施シ内一箇所ヲ完成セリ

古川樋管工事ハ前年度ヨリ土地買収ニ著手シ其進捗ニ從ヒ床掘工ヲ施工セシトコロ湛水甚シク排水ニ水車及十馬力石油發動機、六吋渦卷「ポンプ」等ヲ用ヒ基礎杭、矢板工、本體底部ノ混凝土工ヲ了シ尙呑口、片補胸壁及樋體一部ノ鐵筋混凝土工事ヲ實施セシノミナリ

中島排水樋管新設工事ハ本年度著手ニシテ床掘ノ進ムニ從ヒ湧水著シク十馬力及十五馬力ノ石油發動機六吋渦卷「ポンプ」二臺ヲ用ヒ排水ニ努メタルニ依リ大ニ工事進展シ水路掘鑿ノ一部ヲ殘シ基礎、體部扇等ヲ竣功セシメタリ

黒瀬樋管新設工事ハ管理者京ヶ瀬村長ノ申請ニ屬シ工費壹萬五百七圓貳拾錢（内國庫補助金七千四百圓）ニテ同村大字窪川原地内ニ鐵筋混凝土樋管ヲ直接施行ニ依リ新設スベク本年十一月認可ヲ得タリ然レドモ時恰モ冬季ニ入リシヲ以テ年内ニ起工スルコト能ハザリキ

此外管理者自營ニ係ル補助又ハ負擔工事八箇所アリ内灰塚、潟堀、新江、高森ノ四樋管工事ハ前年度ヨリ引續キ施行中ニシテ竣功ノ運ビニ至ラズ

津島屋樋管工事ハ大正耕地整理組合ノ管理ニシテ前年度ヨリ引續キ施行中ノ處本年六月二十日完成シ翌十四年一月十五日竣功認可ヲ得タリ

大芻樋管工事ハ管理者大形村長ニシテ前年度ヨリ引續キ施行中ノ處本年五月二十三日ニ竣功セシモ未ダ竣功認可ヲ得ルノ運ビニ至ラザリキ

泰平橋架換工事ハ新潟縣知事ノ管理ニ屬シ大正十一年度ヨリ著手シ同十二年六月三十日完成シ本年八

月六日其竣功認可ヲ申請セリ

横雲橋架換工事ハ管理者新潟縣知事ノ申請ニ係リ工費拾貳萬九千八百四拾八圓(内國庫負擔金拾貳萬九千八百四拾八圓)ニテ横越村ヨリ京ヶ瀬村ニ通ズル縣道新潟福島線ニ介在スル橋梁ノ架換工事ニシテ本年六月二十六日施行認可ヲ得管理者ニ於テ目下施行中ナリ

本年度ニ於ケル本川竣功額ハ六拾六萬五千七百貳拾五圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ八百參拾萬壹千五百圓ナリ之ヲ總工費豫算壹千貳百萬圓ニ比スレバ六割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ退職手當九百七拾四圓七拾錢ハ本表竣功高ニ之ヲ包含セズ

種別	前年度		本年度		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	四五二、三二七	七七七、〇二四	七七、三二一	一三五、四六二	五二九、六四八	九一、四八六	〇・五七
浚深費	六、〇〇〇	五四、〇三七			六、〇〇〇	五四、〇三七	〇・二〇
築堤費	四六九、一五四	三九七、四二二	六五、六四三	七七、四八三	五三四、七九七	四七四、九〇五	〇・七三
護岸及制水費		二一六、七八三		八七、一五三		三〇三、九三六	〇・二四
閘門費		二〇三、六一六		五二、四五二		二五六、〇六八	〇・九五
水門費				二九、六七三		二九、六七三	〇・一四
運搬費		一四、三四三		一五七		一四、五〇〇	
附帶工事費		四〇七、九一〇		八一、〇三四		四八八、九四四	〇・四二
用地費		二、三二八、九一六		二〇、八一三		二、三四九、七二八	
船舶及機械費		二、五六七、六三〇		七九、六四九		二、六四七、二七九	
施行中諸費		六六八、〇九四		一〇一、八五〇		七六九、九四四	

第一章 河川改良工事（阿賀野川改修工事）

種別	前年度		本年度		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
總計	—	七、六三五、七七五 円	—	六六五、七二五 円	—	八、三〇一、五〇〇 円
						歩合 〇・六八 割分

第一〇 最上川改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本工事ハ曩ニ政府ニ於テ工費七拾六萬四千九百八拾四圓ヲ以テ專ラ航路ノ改良ヲ目的トシテ明治十七年度ヨリ起工シ同三十六年度ニ至リ之レガ竣功ヲ告ゲタリシガ其後年々水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費八百貳拾萬圓(内山形縣負擔貳百拾九萬九千圓)ヲ以テ高水防禦ヲ目的トシテ改修工事ヲ施行スルニ至レリ其區域ハ幹川左岸山形縣東田川郡清川村右岸同縣飽海郡上郷村以下海ニ至ル約三十二籽間支川赤川ノ左岸同縣東田川郡齋村右岸同縣同郡廣瀬村以下幹川合流點ニ至ル約二十三籽六間ナリシガ大正十年三月四日支川赤川ノ改修工事計畫ヲ變更シテ最上川ニ注入セシメズ大山川合流點ヨリ高四十五米五ナル西田川郡袖浦村大字濱中地内西山ノ開鑿ニ依ル最捷水路ヲ通ジテ日本海ニ放流スルコトトシ尙同年五月十八日最上川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ山形縣知事稟申ニ係ル酒田港修築工ヲ百五拾萬圓ノ追加工費ヲ以テ同十七年度迄ノ繼續事業トシテ併セ行フ事トセリ更ニ物價騰貴ニ依リ總工費ヲ壹千五百萬圓ニ増額シ大正二十一年度迄ニ工期ヲ延長セリ

河狀並計畫大要

本川ハ流域面積七千四百三方籽、流路延長二千三百六十八籽(内幹川二百十六籽)航路延長四百五十九籽(内幹川百九十六籽)水害區域三萬七千二百九十七町步(内幹川一萬四千四百町步)灌溉段別五萬七千三百十六

町歩(内幹川一千九百四十九町歩)ナリトス

元來庄内平野ハ山形縣下第一ノ米產地ナルニ本流域内ノ降水量ハ一箇年二千耗以上ヲ示シ本邦ニ於テモ有數ノ降雨地ニシテ洪水汎濫ノ害亦甚シク其損害價額ハ最近十箇年ノ平均額百四拾參萬壹千六百圓(大正元年乃至大正十年)ニ上リ就中大正二年ニ於ケル五百拾五萬四千五拾八圓同九年ハ貳百四拾四萬六拾七圓同十年ハ八百參拾五萬參千七百七拾圓ニ達スル大損害ヲ見タリ

本川改良ノ計畫ハ高水防禦ヲ目的トスルモ傍ラ水路ノ改善ヲ計ラントシ工事ヲ水害ノ最モ大ナル範圍ニ限局シ幹川ハ東田川郡清川村以下海ニ至ル間約三十二軒支川赤川ハ西田川郡鶴岡市附近以下海ニ至ル約十九軒六ノ間ニ施工スルモノニシテ其計畫最大流量ハ幹川六千九百五十五立米赤川一千六百七十五立米ト定メ之ヲ快通セシムルニ遺憾無キヲ期セリ

幹川最上川ハ急流ニシテ河狀極メテ不規律ニ屬シ支川赤川ハ緩流ニシテ兩岸相當ノ堤防アルモ廣狹不同ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ次ノ如ク河幅ヲ一定セリ

清川附近	二五五 ^米
中牧田、落野目間	六三六 ^米
菅原橋、横山間	二七三 ^米
幹川	狩川、白ヶ澤間 三六四
幹川	落野目以下 七二七
赤川	横山以下 三六四
京田川合流點以下	八一八
京田川合流點間	七二七
大山川合流點ヨリ河口(西山開鑿水路)迄	一〇〇
兩岸ニ割法底幅百米	

新堤ハ左右兩岸共馬踏六米三、兩法二割トシ其頂天ハ計畫最高水位以上一米五ノ高タラシメ在來ノ堤防ハ相當増築シ水勢ノ激突著シキ箇所ハ總テ石張ヲ以テ護岸ヲ施スモノトス而シテ三米以上ノ直高ヲ有スル築堤ニハ頂天ヨリ三米下リテ幅一米八以上ノ小段ヲ裏法ニ設ケ其以下ヲ二割五分法トシ直高五米

四五以上ノ場合ニハ頂天ヨリ五米四五下リテ二米七以上ノ小段ヲ兩法ニ設ケ其以下ヲ三割法トス
其他計畫ノ流量ヲ快通セシムル爲メ或ハ河身ヲ浚渫シ或ハ兩岸ノ掘鑿ヲ行ヒ殊ニ最上川河口ハ酒田港
ト全然分離シテ左岸ニ偏移シ右岸堤防ハ酒田町對岸中洲上ニ築キ其先端ニ接續シ長六百四十四米水深
九米ノ海中ニ達スル突堤(中央)ヲ設ケ突堤(南)ハ其長二百二十七米ニシテ水深四米五ノ海中ニ達セシム酒
田港ハ其港口ニ最上川突堤(中央)ト相對シテ同ジク水深九米ノ海中ニ達スル突堤(北)ヲ築キ港内ハ低水面
以下一米八乃至七米六ニ浚渫シ且適當ノ護岸工事ヲ施スモノトス
附帶工事トシテハ橋梁ノ増設、架換、水門ノ移動、用惡水路ノ改築及樋門工事等ヲ施行シ以テ惡水ノ排出ヲ
良好ナラシメ從ツテ水害ヲ除去シ航行ノ利便ヲ増進スルモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度幹川右岸全部ノ土地買收ヲ了シ本年度迄ニ同左岸ノ一
部赤川新放水路用地及鶴岡市附近ノ買收ヲ行ヒ土工ハ大正八年秋砂越鐵橋下流ノ幹川右岸ニ著手シ爾
來買收ノ後ヲ追ヒ工事ヲ施行セリ而シテ大正九年ニハ機械工場ヲ設置シ船舶諸機械ノ修理製作等ヲ經
營スルコトトセリ

起工以來八箇年ヲ閱シタル本年度ハ工事用諸機械漸ク充實セラレ其進工ヲ期待セルニ工費ノ削減ニ遭
遇セルヲ以テ極力緊縮ノ方針ニ依リ勞銀ノ低下諸費ノ節約ヲ計リ工事ノ進捗ニ屆メシカバ本年度内ノ
掘鑿百八十餘萬立米ノ工程ヲ收メタリ

今年度内施工ノ概況ヲ述ブレバ幹川最上川筋ニ在テハ新堤ノ築立ヲ見タルモノ總延長ノ約五割ニ達シ

右岸ハ相澤川合流點下流ニ於テ著シク水害ヲ輕減シ左岸ハ新堤未ダ斷續的ナルモ水防上利スル箇所尠ナカラズ掘鑿工事ハ前年度ニ引續キ主トシテ上流部白ヶ澤山寺澤新田竹田小牧等ニ人力ニ依リ施工シ後竹田山寺ハ工費ノ都合ニ依リ之ヲ休止シ横島地内ノ掘鑿機ニ依ルモノハ年度末ニ至リ竣功ヲ告ゲ下流ニ於テハ宮野浦地内ニ前記白ヶ澤ト共ニ「ガソリン」機關車ヲ使用シ海岸砂丘ノ掘鑿ヲ開始セリ下瀬地内新水路浚渫工事ハ前年度末著手シ唧筒式浚渫船最上號ニ依リ銳意施工セル結果川幅五十五米延長八百五十五米七ノ新水路ヲ貫通スルニ至リ又床固制水工事ヲ澤新田及新堀地内ニ施シ河身ノ變動ヲ防禦スルコトトセリ

支川赤川筋ニ在テハ改修起點菅原橋附近ノ兩岸ニ舊堤嵩置工事ヲ繼續シ土運搬ニハ「ガソリン」機關車ヲ使用セリ流末放水路ニ該當スル西山掘鑿工事ハ酒田港及最上川河口工事ト密接ノ關係アルヲ以テ其工ヲ促進スルコトトシ本年度亦掘鑿機四臺ヲ運轉シ傍ラ人力ヲ併用シテ土量百四十二萬立米其立米當リ工費拾壹錢五厘ヲ成功セリ

大正十年年度起工以來ノ工程ハ四百二萬立米ニシテ總土量ノ五割ニ相當シ標高十二米三ノ地盤迄在來地盤最高點ハ四十八米五掘リ下グルニ至レリ

酒田港修築工事ハ方塊工場ノ設備概ネ整頓セルヲ以テ十月ヨリ方塊ノ製造ヲ開始シ年度内二十二噸塊百九十個ヲ製造セリ因ニ一月以降ノ冬季間ハ其製造ヲ休止セリ

又前年度來施工ノ假突堤ハ延長四百米ニ互リ略捨石完了セルヲ以テ本年度ハ之ニ接續スル北突堤二百米及中央突堤二百米ノ基礎工事ヲモ施行スル計畫ナリシガ海上靜穩ノ日僅カニシテ豫定ノ通り進工スルコト能ハザリキ

該工事用石材ハ十一海里ヲ距ツル鳥海山麓吹浦村海岸ニテ採取曳船ニ依リ運搬セリ
 附帶工事ハ茨野排水門ヲ直轄施工セルノミニテ年度内之ヲ竣工シ其他立谷澤川筋ニ於テ護岸制水甲野
 面石ノ採取ヲ繼續セリ

之ヲ要スルニ本年度ハ酒田松嶺余目黒森鶴岡落野目吹浦各工場擔當ノ下ニ施行セルモ掘鑿九箇所浚
 漂一箇所築堤七箇所制水四箇所附帶工事二箇所突堤工事三箇所石材採取工事二箇所等ニシテ其掘鑿土
 量百八十一萬三千四百十六立米此工費貳拾四萬六千五百七拾六圓浚漂土量十五萬五千七百七十四立米
 此工費四萬八千參百五拾九圓築堤築立十七萬五千二百三十九立米此工費四萬貳千九百參拾六圓等ヲ竣
 功セリ

本年度ニ於ケル竣工額ハ七拾六萬五千四百五拾九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ五百八拾四萬五
 千七百七拾四圓ナリ之レヲ總工費豫算額壹千五百萬圓ニ比スレバ三割九分ノ竣工ナリ其工事竣工表左
 ノ如シ

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合		計	竣工歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
掘鑿費	五、四九九、九六七 <small>立米</small>	一、一〇七、〇九〇 <small>圓</small>	一、八一三、四一六 <small>立米</small>	二四六、五七六 <small>圓</small>	七、三一三、三八三 <small>立米</small>	一、三五三、六六六 <small>圓</small>	〇・四三	
浚漂費	六三、六〇七	一六、六八〇	一五五、七七四	四八、三五九	二一九、三八一	六五、〇三九	〇・〇四	
築堤費	一、七〇二、八七八	一八五、八九二	一七五、二三九	四二、九三六	一、八七八、一一七	二二八、八二八	〇・二六	
護岸費		三四、八〇一		一二四		三四、九二五		
制水費		一八、〇五一		一五、〇二四		三三、〇七五		
突堤費		二六、一一二		一六、一〇〇		四二、二一一		

費目	前年度迄		本年度		合		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
附帶工事費		五〇、七六〇 <small>円</small>		三、四九〇 <small>円</small>		五四、二五〇 <small>円</small>	
用地費		九〇九、三五九		二二、四二七		九三一、七八六	
船舶及機械費		二〇八七、三六六		一九七、四七三		二、二八四、八三九	〇・五三
施行中諸費		六四四、二〇五		一二七、九五〇		八一七、一五五	
總計		五、〇八〇、三一五		七六五、四五九		五、八四五、七七四	〇・三九

第一 雄物川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本工事ハ大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ總工費七百貳拾萬圓ヲ以テ施行スルモノナリシガ物價騰貴ノ爲メ年限ヲ大正二十年度ニ延長シ工費ヲモ壹千百七拾萬圓(内秋田縣負擔額參百四萬七千圓)トセリ而シテ其區域ハ幹川ニ在テハ左岸秋田縣河邊郡戸米川村、右岸同縣同郡川添村以下海ニ至ル間延長二十六軒、支川岩見川ニ在テハ左右岸秋田縣河邊郡豐島村以下雄物川合流點ニ至ル間ナリトス

河狀並計畫大要

雄物川ハ流域面積四千八百八十平軒、流路延長一千二百四十五軒(内幹川百四十九軒)航路延長三百三十四軒(内幹川百三十七軒)灌溉段別三萬九百五十四ヘクター(内幹川三千三百三十三ヘクター)水害區域二萬二千六百九十ヘクター(内幹川一萬一千五十ヘクター)ヲ有ス而シテ其沿岸ハ幹支川共無堤ノ部分多ク偶一部ニ堤防ヲ見ルモ極メテ不規律ニシテ且河幅一定セズ殊ニ幹川ノ下流部ハ土崎港ニ至ル迄流心不定加之屈曲甚シキヲ以テ洪水ノ際ハ每ニ其疏通ヲ妨ダラレ從テ支川岩見、旭ノ如キハ逆流ニ因ル水災著シク明治二十九年ノ如キハ汎濫面積一萬七千八百五十一ヘクターニ及ビ其損失價額實ニ壹千參百萬圓ニ達セリ其後同四十三年ノ被害ノ如キモ亦參百拾餘萬圓ニ達シタルノ狀況ナリ

本計畫ハ秋田市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ以テ主眼トシ併セテ河口ヲ改善セントスルモノナリ而

シテ計畫高水流量ハ幹川河邊郡川添村以下海ニ至ル間每秒五千五百六十五立米支川岩見川ハ豊島村以下幹川合流點ニ至ル間每秒五百五十六立米ト定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ有セシムルモノトス
 本川ノ改良ニ就テハ二三ノ考案アリシモ彼是比較研究ノ結果河邊郡新屋町ニ於テ現水路ヲ全ク締切り同町西方ノ丘陵ヲ横斷シテ日本海ニ注グベキ一大新水路ヲ開鑿スルヲ以テ最モ良策ナリト認メタリ而シテ放水路トシテ開鑿スル所ノ新水路ハ長サ二千米餘ニシテ水面幅ハ高水時ニ於テ約三百六十四米トシテ上游ニ於ケル流路ニ對シテハ堤防ヲ築キ水積ヲ補ヒ屈曲ヲ矯メ制水ヲ設クル等諸般ノ施設ヲ爲スモノトス又締切堤ノ東方秋田市牛島町ニ閘門ヲ設ケ以テ航行ニ便シ之ヨリ以下舊川ハ幅五十五米乃至九十米ヲ限り低水時一米五ノ水深ヲ保ツ程度ニ浚渫ヲ加ヘ舟筏航行ノ用ニ供シ併テ下流幹支川惡水排除ノ便ニ備ヘントス

土崎港ハ雄物川ノ土砂河口ニ流下シ來リテ堆積スルヲ以テ船舶ノ出入ヲ妨ゲラレ倍不良ノ状態ニ陥ルノ虞アルヲ以テ差當リ現在出入船舶ノ狀況ニ鑑ミ之ニ適應スル工事ニ止ムル事トシ突堤ヲ築キ浚渫ヲ爲シ以テ干潮面以下四米五ノ水深ヲ保持セシムルモノトス
 支川岩見川ハ其合流點附近ノ河狀不自然ナルガ爲メ一朝洪水ニ際シテハ其慘害ノ怖ルベキモノアルヲ以テ現在ノ流末水路ヲ附替ヘ適當ノ築堤ト掘鑿トヲ施シ以テ洪水防禦ニ備フルモノトス
 本工事施行部ハ前述ノ如ク多クハ無堤地ニ屬シ河幅一定セザルヲ以テ河狀ニ應ジ築堤ヲ以テ河幅ヲ制限シ左ノ標準ニ依リ之ヲ整正セントス

區

間

堤防中心間ノ距離

區

間

堤防中心間ノ距離

新川ノ部 (高水敷幅)

自新川入口至

$\frac{4}{2}$

三五五^米

自

$\frac{4}{2}$

至

椿

川

自

三八〇^米
六〇〇

六〇〇

支

川

岩

見

川

自

一四五
一八〇

堤防ハ施工ニ際シ計畫断面ヲ變更セリ即チ幹支川共馬踏幅五米五、表法二割トシ天端以下三米五ニ幅九米、支川岩見川三米五ノ小段ヲ設ケ以下三割法トス裏法ハ上部ヲ二割五分トス天端以下三米五ノ小段ヲ設ケ夫ヨリ下部三割トス而シテ法先ノ水中ニ没スルモノハ相當犬走、下埋ヲ施ス天端ハ幹川ニ在テハ計畫高水面ヨリ一米五ノ高トシ支川岩見川ニ在テハ一米五乃至一米ノ高トス新川下流突堤ニ接續スル部分ハ馬踏七米、表法一割五分ニシテ護岸ヲ施シ裏法ハ二割トス

施工狀況

本工事ノ創業ハ大正六年度ニシテ翌七年度ニ於テ一部ノ土地買収ヲ行ヒ同八年度ヨリ本改修ノ主要大工事タル河邊郡新屋町地内新川開鑿工事ニ著手シ改修ノ主力ヲ傾注スルコト本年度ニ至ル間六箇年ヲ經過セリ

本年度施工工程ハ掘鑿工事三箇所土量八十一萬一千七十八立米、築堤工事ハ三箇所土量十四萬四千百八十七立米、護岸法留工事一箇所及突堤一箇所ニシテ起工以來ノ步通竣功ハ既定計畫ニ對シ掘鑿ハ四割、築堤ハ其一割七分ニ相當セリ

今工事施行ノ大要ヲ記述スルニ本年度ハ豫算ノ關係上年割額減少ニ伴ヒ主要工事ノ新川開鑿工事ニモ

全力ヲ盡ス能ハズ僅カニ一箇年ヲ通シ短梯掘鑿機二臺及二十噸機關車二臺ヲ以テ操業ヲ繼續シ、土量四十八萬九千六百五十三立米ヲ施工シ外「ドコビール」工事ニ依ル土量十六萬七千七百六十一立米ヲ掘鑿シ合計本年度六十五萬七千四百十四立米ノ功程ニシテ起工以來ノ全土量ハ五百七十一萬六千二百七十四立米ニシテ新川開鑿計畫土量ニ對シ其四割一分ヲ竣成シタリ其他四ツ小屋掘鑿五萬八百十三立米、牛島掘鑿十萬二千八百五十一立米ノ掘鑿土運搬ヲ爲セリ

築堤工事ハ全部掘鑿土利用ニシテ本年度功程ハ仁井田築堤七千八百二十九立米、四ツ小屋第一築堤四萬十八立米、牛島築堤九萬六千三百四十立米ノ築立ヲ施工セリ

新川開鑿部ノ法留工ハ本年度芝付面積一萬五千八百八十一平方米ニシテ累計四萬三千六百五十二平方米ノ芝張工ヲ施行セリ

本川土崎河口ニ於ケル防波堤ノ假突堤ハ前年度辨慶梓十三個、延長三十八米六ヲ施工シ本年度辨慶梓六十四個、延長九十五米四ヲ成工シ累計延長二百三十四米ニ達セリ

工事用石材ノ産出地ハ昨年度南秋田郡面瀨村ニ求メ十七哩間ノ運搬ハ鐵道省ニ依託スルコトトシ本年度採掘斫出ニ著手セリ石質ハ角閃安山岩ニシテ比重平均二・四ナリ而シテ所要豫定總量ハ約十二萬立米トス本年度ニ於テハ主トシテ採集ノ準備的設備及運搬線路ノ敷設等ヲ爲セリ

尙本年度附帶工事トシテ施工セル排水路新設工事ハ工費豫算八萬九千九百五拾圓（內國庫負擔五萬九千九百五拾圓、管理者負擔參萬圓）ニシテ河邊郡四ツ小屋村御野場排水路、仁井田村古川排水路及秋田市牛島大野下排水路ノ三水路ヲ併合シ改修築堤ニ關係無キ太平川下流ヲ開キ川ニ流下セシメントスルモノニシテ大正十三年六月六日工事ニ著手シ年度内ニ於テ總延長四千四百米ニ涉リ殆ト九割ノ工事ヲ遂行シ

來年度早々竣工ノ豫定ナリ本年度工費五萬七千八百拾貳圓貳拾四錢六厘外管理者負擔材料費六千七百貳拾九圓九拾壹錢九厘五毛ナリトス
 本川改修工事ノ本年度竣工高四拾七萬貳千四百九拾五圓餘ニシテ起工以來本年度迄ノ竣工高ハ四百六拾六萬二千四百五拾四圓餘ナリ而シテ總工費豫算額壹千七百七拾萬圓ニ對シ約四割ノ竣工ナリトス其工事竣工表ハ次ノ如シ

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	五、五五一、三三八 <small>立米</small>	一、二八四、八六七 円	八三、〇七八 <small>立米</small>	一八九、一九五 円	五、六三三、四一六 <small>立米</small>	一、四七四、〇六二 円	〇・四〇
築堤費	四〇二、五九九	三三、二五四	一四四、一八七	三、三二六	五四六、七八六	三四、五八〇	〇・二七
護岸及制水費		三九、五七二		四、〇一八		四三、五九〇	
突堤費		四、八六五		二〇、〇〇三		二四、八六八	
附帶工事費		四五二		五七、八一三		五八、二六五	
用地費	二、九二二 段	三六〇、三七六	一六二 段	三五、六七六	三、〇八四 段	三九六、〇五二	〇・六二
船舶及機械費		二、〇三三、七五八		七六、五〇一		二、一〇〇、二五九	
測量費		三一、七〇二		三、〇九九		三四、八〇一	
營繕費		八九、九七三		三、九一五		九三、八八八	
施行申請費		三二〇、三六九		七五、五八七		三九五、九五六	
共濟組合給與金		二、七七〇		三、三六三		六、一三三	
總計		四、一八九、九五八		四七二、四九六		四、六六二、四五四	〇・四〇

第一二一 江合鳴瀨兩川改修工事

（仙臺土木出張所）

緒言

本川改修ハ明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ大正十年年度ヨリ内務大臣ニ於テ宮城縣ノ起業ニ係ル工事ヲ直接施行スルモノニシテ工事繼續年限ハ大正十年年度乃至同十五年年度ノ六箇年度工費豫算額五百六拾九萬貳千圓其内百參拾壹萬貳千圓ハ縣施行額四百參拾八萬圓（内工費四百拾四萬圓、事務費貳拾四萬圓）ハ國ニ於テ施行スル金額ナリ而シテ爾來實施中ナリシガ大正十二年年度ニ至リ河川法ニ依ル國ノ直轄工事トナリ豫算額ヲ改メ總額ヲ六百四拾七萬四千圓（内百參拾壹萬貳千圓ハ舊來ノ縣施行額ニ屬シ五百拾六萬貳千圓ハ國ノ施行額ニシテ其内五百八萬貳千圓ハ工事費トシ八萬圓ヲ事務費トス）ト爲シ大正十八年度迄ノ繼續事業ト定メラレタリ而シテ其改修區域ハ鳴瀨川ハ宮城縣志田郡高倉村ヨリ河口ニ至ル約十二里間、吉田川ハ黒川郡落合村ヨリ小川落口二子屋ヲ經テ鳴瀨川ニ沿ヒ河口ニ至ル八里間、江合川ハ江合橋上流栗原郡宮澤村ヨリ下流トシ志田郡荒雄村大字福沼ヨリ新川ヲ開鑿シ鳴瀨川ニ合流セシムルモノニシテ其距離二里ナリトス

河狀並計畫大要

鳴瀨川流域ハ江合川流域ニ連リ其面積五十七方里餘ヲ有ス本川ノ最上流ヲ夕日川ト稱シ源ヲ陸羽國境宮城縣加美郡小野田村舟ヶ嶽ニ發シ同郡山間一帶ノ溪流ヲ合シテ流下シ保能川、田川、荒川、多田川ノ各支川ヲ容レ志田、遠田兩郡ノ平坦部ヲ貫流シ數多屈曲ノ後二子屋ニ至リテ品井沼ノ吐口小川ヲ加ヘ桃生郡

小野村ヲ經テ同郡野蒜村ニ至リ海ニ注ギ幹川ノ流路約二十三里ニ及ブ本川中治水上重要ナル區域ハ加美郡中新田附近ヨリ海口ニ至ル約十三里餘ノ間ニシテ流心概シテ統一シ流勢亦緩和シ志田郡三本木町附近以下河床ニ粗礫ヲ見ルコト稀ナリ中新田以下本川ノ右岸ハ山勢稍逼リ耕地大ナラザルモ左岸ハ末流二里餘ヲ除キ廣大ナル平野ニシテ洪水被害ノ大ナルモ亦此區域ナリトス(大正二年ノ水害損失價額參百八拾四萬貳千貳百七拾四圓同九年ノ水害百貳拾七萬參千八百六拾八圓)ナリ

吉田川ハ源ヲ黒川郡吉岡町ノ西方北泉岳ニ發シ溪流ヲ集メ流程凡八里ニシテ品井沼ニ入ル流域二十方里餘ニシテ落合附近ヨリ下流兩岸ハ概ネ堤防ヲ有シ新舊二個ノ潛穴ヨリ高城川ニ出デ松島灣ニ注グ江合川ハ北上川ノ一大支川ニシテ宮城縣玉造郡荒雄嶽ニ發源シ同郡鬼首村ヲ過ギ大澤、大谷等ノ支流ヲ加ヘ同郡岩出山町ニ至リ漸ク平地ニ臨ミ鳴瀬川ト相竝ビテ東流シ遠田郡涌谷町ヲ經テ桃生郡前谷地村和淵ニ於テ北上川ニ合ス流路約二十五里餘流域面積四十一方里ヲ有ス該川ハ志田郡古川町北方江合橋附近ヨリ上流ハ一般ニ流勢急激ニシテ亂流ノ狀態ヲ呈シ諸所ニ砂礫ノ附洲ヲ横フルモ同所ヨリ下流ハ河狀一變シ勾配大ニ緩ミ流心漸ク統一ス

今各川灌溉面積竝水害區域ヲ調査スルニ灌溉段別ハ鳴瀬川一萬二千町步、小川上流吉田川ハ七百町步、江合川ハ七千七百九十町步ニシテ水害區域ハ鳴瀬川ニ於テ一萬四百九十三町步、小川ニ於テ一千二百町步、江合川ニ於テ五千七百町步ヲ有ス

改修計畫ハ鳴瀬、江合兩川筋ノ高水防禦ノ目的ヲ達シ尙江合川ニ於テ江合橋以下約七里ノ兩岸堤防ヲ節約スル目的ヲ以テ荒雄村福沼ヨリ一條ノ新川ヲ開鑿シ以テ江合川洪水全部ヲ導キ之ヲ鳴瀬川ニ合流セシメ鳴瀬川ハ河幅ヲ擴張整理スルト同時ニ堤防ヲ堅牢ナラシメ河積不足ノ箇所ハ掘鑿又ハ浚渫ヲ爲シ

著シキ屈曲ハ之ヲ直通セシメ以テ江合、鳴瀬兩川高水ノ全部ヲ快通セシメ傍ラ吉田川ハ之ヲ鳴瀬川ヨリ分流シ河口近クニ於テ鳴瀬川本流ニ注ガシメ品井沼ノ湛水ニ依ル害ヲ輕減セントスルモノナリ
 計畫高水流量ハ鳴瀬川(小川合流)每秒五萬五千立方尺、江合川同三萬七千立方尺、吉田川同二萬立方尺ナリ
 又河幅ハ鳴瀬川八十間乃至二百間、新江合川ハ七十間、吉田川上流ハ五十間乃至二百間下流ハ二十間乃至三十間ナリ

築堤ハ其堤項ヲ最高水位以上四尺トシ馬踏三間、兩法二割トシ尙水流衝激ノ局部ニ對シテハ特ニ護岸工事ヲ施シ其他屈曲部ヲ緩和シ用惡水路ノ改築等ヲ圖ルモノナリ
 突堤ハ野蒜築港當時築造セシモノヲ利用増築スルモノニシテ東西兩突堤ニ於テ四十間ヲ延長ス

施工狀況

本川改修工事ハ内務省施行ニ移リシ以來計畫變更問題ニ付幾多ノ時日ヲ空費セシガ結局當初ノ計畫案ニ修正ヲ加ヘ繼續施行ニ決定シ大正十一年十月一日ニ至リ工場ノ設置機械ノ配備等諸般ノ準備ニ著手スルト共ニ先ヅ以テ鳴瀬川筋桃生郡小野村ニ存在スル山地掘鑿ヲ開始セリ次テ十二年度ニ至リ同川筋左岸小野南郷及敷玉村右岸鹿島臺村地内ノ築堤工事ニ著手シ現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續ケル工事ノ外十月ヨリ起工ノ鹿島臺村鎌卷地内川敷ノ掘鑿工事ニシテ小野村山地切取ハ爆藥ニテ崩壞シ「スチームシヨベル」二臺、機關車一臺及土運車五十臺ト一部ニ人力ヲ併用シ鎌卷掘鑿ニハ一立方碼四分ノ一、マリオン三十二番型「ドラグラインエキスカベーター」一臺、機關車一臺及土運車七十五臺ヲ用ヒ土量一萬七千七百六十三坪ヲ掘取リ附近ノ洪水敷又ハ民地ヘ運搬投棄ス又築堤工事ハ前年度ニ

著手セル小野、南郷、敷玉及鹿島臺村ノ工事ヲ繼續施行セリ築堤用土砂ハ何レモ堤外洪水敷ヨリ採取シタルモノニシテ鹿島臺村ノ一部鎌卷ニ於テ前記「ドラグライン」エキスカベーターヲ用ヒタル他ハ人力及馬力ニ依リ輕運車或ハ畚ヲ使用シ土量三萬六千八百十八坪ヲ築立テタリ

土地買收ハ工事施行上急ヲ要スル志田郡敷玉村及桃生郡小野村地内ニ於テ合計段別十町九段步餘、外宅地二千五十一坪此代金貳萬五千五百餘圓ノ發表ヲ爲セリ抑本川ノ土地買收ニ就テハ縣施行當時相當紛議ヲ重ネタルモノニシテ今猶其慣習ヲ脱セザルモノノ如ク觀察セラレ買收表價格ニ對シ一二割ノ増額ヲ提唱スル考アリシト雖モ其根據薄弱ナルト工事遲延ニ因ル利害ノ重大ナルヲ覺リ漸次應諾スルニ至リ今ヤ承諾歩合ハ發表高ノ約九割ニ達セリ

江合、鳴瀬兩川改修工事ノ本年度竣功額ハ四拾貳萬四千六拾壹圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百貳拾六萬八千八百八圓ナリ之ヲ總工費豫算額五百八萬貳千圓ニ對比スレバ二割五分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	立坪 一四、九八一	四 六四、九八五	立坪 一七、七六三	四 五四、三三七	立坪 三二、七四四	四 一一九、三二二	四〇・三
築堤	九四、五六四	一七六、三一	段 三六、八一八	一〇四、〇三三	段 一三、一三八二	二八〇、三三三	〇・一三
用地	八二七	一九四、五三一	段 四五三	一五八、四〇一	段 一、二八〇	三五二、九三二	〇・一六
機械		三三五、七三一		五一、〇三三		三八六、七五四	
測量		四、五二八		六六一		五、一八九	
營繕費		八、九四五		二、四八四		一一、四二九	

費目	前年度迄		本年度		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
電話費	立碑	五、二八九	立碑	一、二七〇	立碑	六、五五九
死傷手当費		七九〇		一、九五七		二、七四七
惠行中諸費		三、一〇七		四、九六三		八、〇七〇
施行中諸費		四八、六一一		四二、九三六		九一、五四七
共濟組合給與金		一、三一九		二、〇〇七		三、三二六
總計		八四四、〇四七		四二四、〇六一		一、二六八、一〇八
						〇・三五

第一三 淀川改修増補工事

(大阪土木出張所)

緒言

淀川改修工事ハ明治二十九年ニ創始シ同四十四年三月工費壹千五萬六千八百拾貳圓ヲ以テ滋賀縣瀬田川以下海ニ至ル高水工事ヲ一旦結了シタルモ大正六年十月計畫高水ニ達スル大出水ニ際シ改修區域外ナル支川數箇所ニ破堤ヲ生ジ惹テ右岸大阪府三島郡大冠村淀川本堤ノ破堤ヲ見ルニ至レリ之レガ爲メ直接損害高六百四拾餘萬圓ノ多額ニ上リ其他交通衛生ノ障害ニ因ル間接ノ影響ハ實ニ計數ヲ以テ揣リ難キモノアリ政府當局ニ於テモ亦此慘害ニ鑑ミ尙増補工事ヲ行ヒ安全ヲ計ルノ緊急ナルヲ認メ京都府伏見町以下ニ對シ大正七年度以降同十二年度ニ至ル六箇年間ノ繼續事業トシテ工費五百七拾六萬圓事務費貳拾壹萬圓合計五百九拾七萬圓ノ豫算ヲ以テ高水工事ヲ施行スルコトトナリシガ其後物價及勞銀暴騰ノ爲メ豫算ヲ増額シ總額壹千貳百壹萬參千五拾壹圓トシ施行年限ヲモ亦大正十六年度迄延長セラレタリ尙本川伏見以下大阪安治川口ニ至ル間ニ對シテハ明治八年度ヨリ同二十一年度迄同四十年年度ヨリ大正十一年度迄前後二回ニ互リ低水工事ヲ施行セリ之レガ爲メ低水流路ヲ一定シ舟運ノ便ヲ益スルコト甚大ナルノミナラズ高水工事ニ對シテモ堤脚護岸ノ安全ヲ期スルヲ得タリ

河狀並計畫大要

淀川ハ流域八千二十平方糎其内五割弱ハ琵琶湖ノ水域、二割ハ木津川、一割三分ハ桂川、殘餘二割弱ハ本流沿岸ノ水域ニ屬ス幹川流路ノ延長ハ湖水流出口、伏見間三十糎、伏見以下海口間四十六糎、合計七十六糎ニ

シテ其滋賀縣ニ屬スル部ヲ瀬田川、京都府ニ屬スル部ヲ宇治川ト稱ヘ京都、大阪兩府界山崎ニ於テ宇治、木津、桂ノ三川ヲ合流シテ淀川本流トナル

流域内耕宅地ノ總段別ハ約一千九百八十平方糎トシ其内沿岸平坦部ハ琵琶湖沿岸三百四十七平方糎、山城平地部百五十九糎、攝河平野三百四十七平方糎、合計八百五十三平方糎ニシテ本川改修ト密接ノ利害關係ヲ有スルモノナリ

既往調査ノ結果ニ依レバ洪水ノ最大流量（毎秒立方米）ハ宇治川八百三十五立米、木津川四千六百五十立米、桂川一千九百五十立米、三川合流以下淀川本流五千五百六十立米トス低水流量ハ淀川本流平均低水位ニ於テ百九十五立米餘ニシテ如何ナル渴水時ト雖モ八十三立米ヲ下ルコトナシ但シ渴水量ノ大部分ハ宇治川ヨリ來ルモノニシテ琵琶湖貯水ノ放流ニ因ルモノナリ

今回ノ改修區域ナル伏見以下幹川ノ水面勾配ハ高水、低水共ニ概ネ三千分一以下ノ緩流ニシテ舟運上最モ利用サルル區域トス

増補工事ノ計畫ハ大正六年十月ノ洪水ニ鑑ミ第一伏見觀月橋以下ニ於ケル堤防ノ餘裕ヲ同年ノ洪水位以上一米二乃至一米五ニ増築スルコト、第二伏見町ノ浸水ヲ防止スル爲メ新堤ヲ築造スルコト、第三三川合流點ノ附換ヲ爲スコト、第四橋本下流ニ在ル中洲ヲ除去スルコトヲ主要ナル工事トス尙前改修ニ於テハ包含セザリシ各支川堤防モ幹川洪水ノ及ブ範圍ニ限リ相當補強スルコトトセリ

幹川堤防ハ馬踏幅大體五米五、所定洪水水位以下〇米六及三米三ノ處ニ各幅三米七ノ裏小段、同上三米ノ處ニ幅九米一ノ表小段ヲ設ケ法勾配表小段以上二割、同以下三割、裏上部小段以上二割、同以下二割五分ヲ標準断面トシ地形及地質ニ應ジ小段ニ多少ノ變更ヲ爲スモノニシテ大體ハ外腹付ナルモ地形之ヲ許サザ

ル區間及屈曲矯正箇所ハ内腹付トス

三川合流以下堤防高ハ所定洪水位以上(大正六年十月洪水位)一米五トシ非常特別流量毎秒六千六百八十一立米ヲ疏通シ尙堤防ニ〇米九一ノ餘裕ヲ保タシメントス而シテ宇治川筋ハ木津川合流點附換ニ依ル水位低下ヲ豫想シ所定洪水位以上一米二ニ止ムルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年五月調査測量ヲ開始シ同年末略之ヲ終ヘ同八年二月ヨリ大阪府枚方町ニ事務所ヲ設置シ工事ニ著手セリ爾來水防上比較的不安ナル重要區域ニ對シ先ヅ以テ工ヲ進ムル方針ニテ人員及土功機具ヲ配置シ專ラ築堤、中洲掘鑿及護岸ノ普及ヲ計レリ本年度迄ノ竣工總高ハ築堤五百十一萬二千餘立米此工費百六拾萬參千餘圓、掘鑿二百九十四萬四千餘立米此工費九拾萬五千圓、護岸延長二萬八千三百米此工費九拾六萬壹千餘圓ニシテ其内本年度竣工高ハ築堤百四十四萬九千餘立米此工費四十五萬七千餘圓、掘鑿九十二萬二千餘立米此工費貳拾五萬餘圓、護岸延長七千五百餘米此工費拾五萬六千餘圓ヲ算セリ

以上本工事ノ竣工總高ハ計畫ノ全量ニ對シ略七割弱ニ當レルモ此外ニ制水工、特種工事、樋門其他ノ附帶工事ノ進行ハ未ダ本工事ニ及バザルヲ以テ全體ノ工事ニ對スル出來形ハ約六割ノ功程ト見ルベキナリ今之ガ施行ノ概況ヲ上流部ヨリ順ヲ追フテ述ブレバ

一、伏見向島方面ニ於テハ本増補工事ノ上流起點ナル觀月橋下手兩岸ノ築堤、護岸及平戸川、締切樋門ハ殆ント竣工順次下流、淀及御牧方面ニ向ツテ進行シツツアリ在來高瀬川(京都疏水)、派川、平戸川、伏見内堀

ノ流末落合ニ設クベキ三栖閘門及洗堰ノ内洗堰ヲ今春著工シ基礎并筒沈下ヲ終ヘ閘門ハ十四年度中ニ著手ノ豫定ナリ高瀬川築堤、横大路築堤及護岸工事ハ何レモ本年度ニ於テ開始シ目下専ラ施工中ナリ其他高瀬川及横大路築堤用土砂入用ノ爲メ新ニ堤外中島掘鑿ヲ起シ宇治川低水路ヲ横斷スル運搬線路用假橋延長二百七十米ヲ架設シ略準備工ヲ了セリ

二、淀、御牧方面ニ於テハ第一期淀川改修ノ際附換ヘサレタル新宇治川堤防ニ對シ嵩置表腹付ヲ爲スモノナリ左岸淀大橋ヨリ木津川落合附近大池樋門迄ノ築堤及護岸ハ計畫ノ全部ヲ終了シ引續キ上流ニ向ツテ小段以上ノ築造ヲ進メツツアリ

右岸淀町地先大橋上流築堤ハ前年度起工シ本年度末迄ニ功程凡八割ニ達ス同橋下流ハ今後三川合流工事ノ掘鑿土砂ヲ利用シ築造ノ豫定ナリ

三、三川合流方面ニ於テハ八幡町地内淀川本流筋、左岸築堤護岸ハ前年度ニ於テ木津川筋兩岸築堤ハ今年度ニ至リ竣功シ此築堤土量二十七萬五千立米此工費拾參萬六千餘圓、護岸延長一千九百米此工費參萬參千餘圓ヲ要セリ

三川合流附換ノ爲メ必要ナル木津、宇治脊割堤、山崎引堤ノ諸工事ハ十四年度ヨリ著手ノ豫定ナリ

四、樟葉、牧野、五領方面申樟葉（府界附近電車併行箇所ヲ除ク）五領（前島ヲ除ク）堤防ハ何レモ十二年度迄ニ計畫馬踏迄ノ嵩置腹付ヲ完了シ前者ハ約三十萬立米、後者ハ約二十四萬立米ノ土量ヲ要セリ前島堤防ハ略小段築造ヲ終レリ

左岸牧野堤防、右岸島本堤防、船橋穗谷、水無瀬ノ三支川堤防ハ各地先中洲掘鑿土砂ヲ使用シ本年度ニ於

テ全土量ノ過半ヲ運搬シ左岸ハ牧野堤防ヲ下流ニ右岸ハ島本堤防ヲ上流ニ向ツテ進行シツツアリ樟葉村地先中島及洪水敷掘鑿ハ本年度ニ至リ完了セリ中島ハ人力ニ依リ十八萬七千餘立米此工費拾萬四千餘圓、洪水敷ハ主トシテ掘鑿機ニ依リ三十四萬七千餘立米此工費八萬四千餘圓ヲ要シタリ目下掘鑿機ヲ牧野村地先ニ移シ掘鑿中ニシテ本年度ニ於ケル機械掘鑿土量ハ樟葉、牧野ヲ合セ三十萬八千餘立米此工費六萬六百餘圓ナリ

五領村大字上牧護岸延長四百五十五米八十一年度ニ竣功シ同村前島護岸延長一千七百米ハ功程八割餘ニ達ス之レヲ以テ此方面主要護岸ヲ終了スルコトトナル

五、枚方、大冠、三箇牧方面ニ於テ水防上重要區域ナルヲ以テ大正八年著工以來極力築堤土功ノ進行ヲ急ギ表小段上〇米九迄ノ腹付ハ已ニ十年度迄ニ大體終了セリ大正十年九月ノ出水ハ枚方標最高五米四十四糎ヲ示シ同六年ノ洪水ニ比シ僅カニ十二糎下位ニシテ馬踏以下一米ニ達スル大出水ナリシモ水防上危険ト認ムル事故ヲ見ズシテ濟ミタリ之レハ殆ンド前例無キ事實ニシテ増補腹付工事ノ效果ト認ムルヲ得ベシ

其後機械掘鑿土砂ヲ利用シ下流ニ向ツテ順次計畫馬踏高迄ノ嵩置腹付ヲ施工シ左岸枚方町當改修事務所以下蹉跎、友呂岐ノ各堤防此土量約四十萬立米、右岸大冠、三箇牧堤防此土量約六十萬立米ノ築堤ヲ完了セリ支川天野川及檜尾川ノ築堤ハ本年度末ニ於テ八割ノ功程ヲ示シ支川芥川ハ樋門箇所以外ノ土功ヲ終レリ唐崎堤防ハ目下小段上腹附工事中ニシテ此外枚方町地先小段上腹附ヲ施行セバ此方面ノ築堤工事全部ノ完結ヲ見ルベキナリ

蹉跎村、友呂岐村、大冠村及三箇枚地先洪水敷又ハ中島掘鑿ハ主トシテ機械ニ依リ大正九年度以降施工

中ノ處本年度ニ至リ殆ンド終了スルニ至レリ此掘鑿總土量ハ約百三十三萬立方米此工費參拾八萬餘圓ニシテ殘餘土量ハ僅カニ二萬立方米トナレリ目下此掘鑿土砂ヲ下流へ入籽ノ距離ヲ運搬シ大道村地先築堤ニ使用シツツアリ

護岸ノ主ナルモノハ既ニ前年度迄ニ竣功セリ此總延長七千五百三十七米此工費貳拾參萬九千餘圓ヲ要セリ此内枚方護岸ハ一千九百十八米此工費五萬壹千參百餘圓、蹠跔護岸ハ五百五十三米此工費壹萬四千七百餘圓、友呂岐護岸ハ百二十七米此工費五千貳百餘圓、大冠護岸ハ一千五百十四米此工費壹萬八千七百餘圓、三箇牧護岸ハ三千四百二十五米此工費拾四萬九千餘圓ナリ

六、佐太、鳥飼方面モ枚方方面ト同様急速腹附施工ノ必要アルヲ以テ表小段上○米九ノ高迄ハ十一年度迄ニ略全區域ニ互リ施工ヲ終リ其後機械掘鑿土砂ヲ使用シテ小段上全築堤ヲ成功セリ

左岸九箇庄築堤ハ前年度迄ニ約二十二萬二千立方米、庭窪築堤ハ本年度迄ニ約四十四萬立方米ノ築立ヲ爲シ兩村共築堤全部ヲ終了セリ右岸鳥飼及味生ノ築堤ハ目下小段上築立ヲ施行中ニシテ約九割ノ功程ナリ

掘鑿ハ九箇庄村地先中洲ヲ機械及人力ニ依リ鋤取リ本年度ニ於テ完了セリ此土量約十六萬六千立方
米工費四萬壹千七百餘圓ナリ

護岸ハ何レモ十二年度迄ニ竣功セリ其總延長九千五百七十米工費參拾八萬四千餘圓ニシテ此内左岸九箇庄護岸ハ延長三千三百四十五米工費拾萬四千餘圓、左岸庭窪護岸ハ延長二千四百四十五米工費拾四萬壹千餘圓、右岸鳥飼護岸ハ延長三千七百八十米工費拾參萬九千圓ナリ

七、守口、大道、豐里方面ニ於テハ左岸橋寺、赤川間ノ築堤及右岸大道、豐里ノ築堤ハ本年度ニ至リ成績著シク

舉リ本年度未迄ノ運搬土量左岸ハ二十六萬立方米功程約九割右岸ハ十六萬立方米功程約七割ニ達セリ而シテ大道村大字辻堂地先ノ護岸延長二百九十八米及同町堤防裏法尻石張延長六百四十九米ハ本年度ニ著手シ功程何レモ約五割ニ達セリ

豐里村地先堤防裏法先用水路ニ接近セル區域ノ石張延長千七百二十七米ハ前年度竣功シ工費參萬六千百餘圓ヲ要シタリ

八、毛馬城北柴島方面ニ於テ城北築堤及柴島築堤ハ本年度ニ於テ著手シ何レモ功程二割餘ニシテ略小段ノ築立ヲ終リ目下極力進行中ナレバ特別ノ障害無キ限り明年度中ニハ竣功スルヲ得ン乎

柴島及長柄護岸竝毛馬以下ノ築堤工事ハ十四年度ヨリ開始ノ豫定ナリ

九、附帶工事トシテ施行セルハ築堤及掘鑿工事ニ伴フ用惡水ニ關スル工事及堤上工作物除却工事ニシテ起工以來本年度迄ノ支出工費五拾參萬四千餘圓(内國庫補助額參拾參萬八千餘圓)施行場所二十二箇所總附帶工事ノ約三割強ニ當ル其内本年度支出工費ハ貳拾六萬六千餘圓(内國庫補助額拾六萬壹千餘圓)施行場所十一箇所ナリ目下施工中ノ主ナルモノハ前年度ヨリ繼續セル京都市營疏水放水路工事及大冠村芥川伏越樋改築工事ナリ

前者ハ伏見締切堤防新築ノ爲メ疏水未處分上必要トナレルモノニシテ工費豫算五拾六萬圓ヲ要シ進行程度約七割ニ及ブ後者ハ芥川堤防嵩置ノ爲メ改築ヲ要スルモノニシテ工費豫算拾六萬壹千餘圓ヲ要シ芥川底及左岸堤防下ノ改築ヲ終リ全工事ニ對シ功程約四割ヲ進行セリ尙今後起工ヲ要スルモノ約四十箇所アリ

一〇、土地買收ノ本年度支出額ハ拾五萬五千餘圓ニシテ其主ナルモノハ宇治川筋横大路野島トス

起工以來本年度未迄ノ用地費支出總額ハ百六拾參萬九千餘圓ニシテ其内田畑ハ三百十六町六段餘此價額百參拾萬七千百餘圓宅地工場敷地ハ二町三段餘此價額七萬七千貳百餘圓雜種地六十五町四段餘此價額九萬九千百餘圓地上物件移轉費及補償費等拾五萬壹千五百餘圓ニシテ豫定總額ノ九割弱ニ當リ何レモ圓滿ニ各所有者ノ應諾ヲ得タルモノナリ

以上工事狀況ヲ綜合スルニ築堤掘鑿護岸工事ニ就テハ京都方面ニ於テハ宇治川筋功程過半ニ達シ高瀬川筋漸ク其緒ニ就クヲ得今後著手スベキ三川合流工事ノミトナレリ大阪府下ニ於テハ毛馬以上府界迄ハ平均八割ノ功程ニシテ全ク著手セザルハ同所以下トナレリ附帶工事ハ功程本工事ニ及バザルコト遠ク用地買収ハ既ニ大部分ヲ完了シ剩ス處僅少トナレリ

淀川増補工事ノ本年度竣功額百五拾五萬八千六百四拾五圓ニシテ起工以來ノ累計八百參拾九萬參千八百九圓ナリ之ヲ總工費豫算壹千貳百壹萬參千五拾壹圓(事務費ヲ含ム)ニ比較スレバ七割ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ貫土土量「△」ハ千住機械工場へ委託製作セシ機關車代ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 一、八二八、二〇一 立米	一、一四五、五九九 円	* 八〇六、二九六 立米	四、五七七、一〇〇 円	* 二、六三四、四九七 立米	一、六〇三、三〇九 円	〇・六三
掘鑿費	二、〇二一、六六九	六五三、七六六	九二二、四六七	二五〇、八八九	二、九四四、一三六	九〇四、六五五	〇・四四
護岸及制水費	萬所	八四九、〇〇二	萬所	一五六、〇六六	萬所	一、〇〇五、〇六八	〇・五九
特種工事費	萬所	二二、四九一	萬所	六一、五四六	萬所	八四、〇三七	〇・一三
用地費	段 二	一、四八三、三七三	段 二	一五五、九八七	段 四	一、六三九、三六〇	〇・八九
附帶工事費補助	段 二	一七、四一七	段 二	一六、一〇五三	段 四	三三八、〇九三	〇・三〇

總計	船 舶 及 機 械 費	施 行 中 諸 費
		△
六、八三五、一六四	一、七八九、八五五 一九、二二六	六九四、八一二
一、五五八、六四五	一六、五三〇	一五三、八六四
		△
八、三九三、八〇九	一、九五、三八五 一九、二二六	八四八、六七六
〇・七〇		

第一四 千曲川改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本川ハ長野縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ流域ノ廣大ナルト共ニ其水害モ亦甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百五十萬圓(内長野縣負擔額四百貳拾五萬圓)ヲ以テ起工セシニ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月參百參拾貳萬九千圓(内長野縣負擔額五十拾貳萬壹千五百圓)ノ増額認可ヲ受クルト同時ニ施行期限ヲ大正二十年迄繰延ベラレシニ同年九月一日關東大震災突發ノ爲メ同年十一月ニ至リ更ニ五箇年度ヲ延長シ大正二十五年年度ニ竣功セシムルノ豫定トナリ總工費豫算壹千貳百拾萬四千圓ヲ以テ幹流ニ在テハ左岸小縣郡城下村、右岸同郡神川村以下下高井郡高丘村ニ至ル十四里十四町竝其下流下高井郡倭村以下下水内郡太田村ニ至ル三里八町、支流犀川ニ在テハ右岸更級郡共和村以下幹川合流點ニ至ル二里二十町、此總延長二十里六町ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ爲シ以テ洪水ノ害ヲ防禦セントスルニ在リ

河狀竝計畫大要

本川ハ流路延長四百五里、内幹川五十一里、流域面積四百六十一方里、平地面積六十七方里ヲシテ灌溉段別五萬百七十四町步ナリ而シテ改修區域内ニ於ケル水害區域一萬五千百九十三町步、水害損失價額一箇年平均百拾八萬六千七百五拾八圓(明治三十九年ヨリ大正九年ニ至ル十五箇年間)ナリトス
本川改修ノ目的ハ主トシテ沿岸地籍ノ洪水防禦ニ在テ被害激甚ナル地方ノ無堤部ニ堤防ヲ築造シ有堤

部ニ在テモ亦其構造薄弱ナル箇所ハ之ヲ増築シ以テ堤内地ノ安全ヲ計ラントス即チ改修區域内下高井郡立ケ花橋以下下水内郡秋津村大字蓮ニ至ル狹窄部ヲ除キ河積足ラザル所ハ之ヲ掘鑿シ常ニ汎濫スル箇所ハ堤防ヲ築キ以テ河狀ヲ整理スルト同時ニ舊堤ハ努メテ之ヲ利用シ洪水ノ疏通及惡水ノ排除ニ遺憾無キヲ期セリ

流量ハ主トシテ明治四十三年及大正三年ニ於ケル高水位ニ據リ調査考究ノ末千曲犀合流點迄ハ兩川共各一秒時十萬立方尺トシ合流點以下ノ幹川ヲ二十萬立方尺ト定メタルモ元來河狀著シク不規則ニシテ且屈曲甚シク霞堤或ハ無堤ノ箇所斷續シ到底河幅ノ整一ヲ期シ難キヲ以テ大體次ノ如ク整理スルモノトス

上	田	附	近	一 二〇〇 ^間	犀川合流點以下	五〇〇 ^間
鼠	附	近	二〇〇	飯	山	四五〇
稻	荷	山	附	二三〇	平	三〇〇
稻	荷	山	附	二七〇	犀川	三〇〇
稻荷山附近以下犀川合流點迄						

築堤ハ馬踏四間兩法ヲ各二割トシ其頂天ヲ計畫高水位上五尺トシ成ルベク舊堤ヲ利用ノ上嵩置腹付ヲ施シ尙其安全ヲ期スル爲メ裏法ニ小段ヲ設ク堤高十二尺乃至十五尺ハ小段幅九尺(堤頂以下九尺)堤高十五尺乃至十八尺ハ小段幅十五尺、堤高十八尺以上ハ小段幅二十四尺トス而シテ築堤ノ總延長ハ三十五里四町三十八間、土量ハ九十六萬三千三百坪ナリトス

掘鑿トシテハ本川ハ著シキ箇所無キガ爲メ悉ク人力掘トシ輕運車ニ依リ大部分築堤敷ニ運搬投棄スルモノニシテ其總土量十五萬九千九百十二坪ナリ

護岸ハ堤腹ニ通常筋芝ヲ施行スト雖モ法面直接河水ニ接觸スル所若クハ其ノ侵害ヲ被ムルノ虞アル箇所

所ニハ石張ヲ施行ス石張ハ大體ニ於テ高水位ニ達セシムルモノナレドモ流勢緩舒タル箇所ニ在テハ其高ニ多少ノ斟酌ヲ加フルモノトス又流勢竝河狀ニ照ラシテ木工沈床、金網蛇籠、片枠留等ノ根固工事ヲ施行シ或ハ杭柵、聖枠等ノ制水工事ヲ添加スルモノトス

特種工事ハ支川蛭川、赤野田川、百々川、淺川、篠ノ井川、樟川、其他小支流ニハ幅一間乃至十二間ノ水閘ヲ設ケ洪水ノ際ニハ門扉ニ依リ逆流ヲ防止スルモノトス其數二十七箇所ヲ算ス

附帶工事ハ用惡水路ノ水門(幅三尺乃至三間ノモノ)六十六箇所ト其他水路及道路橋梁ノ附替等ヲ施行スルモノアリ内道路三十五路線、橋梁五箇所ナリトス

施工狀況

本工事ハ大正七年ノ創業ニシテ直ニ施行準備ニ著手シ同八年二月ニ入り土地買収ヲ初メ其進捗ニ從ヒ千曲川、犀川ノ左右兩岸ニ築堤、護岸、制水、水門等ノ諸工事ヲ施行シツツ現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ施行ノ四十箇所及新ニ著手セシ八箇所、計四十八箇所ヲ實施シ築堤六箇所、護岸制水四箇所ヲ竣功セリ其中主ナルモノハ築堤護岸ニシテ人力ヲ用ヒ輕運車ニ依リ工事ノ進捗ニ努メタリシモ出役者ノ多クハ沿岸住民ニシテ農蠶業ノ餘暇ヲ求メテ出役スルヲ以テ夏季ニ勞力ノ不足ヲ告グルモ冬季ノ農閑ニ際シテハ稍々増加シ見ルベキトコロモ在リキ然レドモ十月中旬ニ至リ財政緊縮ノ爲メ工事ヲ縮少セシモ築堤八萬八千五百四十三坪、護岸二千五百九十一間ヲ完成セリ今其施工ノ概要ヲ左ニ述ベン

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續セル二十九箇所及新ニ著手ノ四箇所、計三十三箇所ノ工事ヲ實施シ内六箇所

ヲ竣功セリ而シテ築立ニハ根掘土ヲ利用スルノ外舊堤及堤外地ヨリ採土シ運搬ニハ人力又ハ馬力等ニ依リ輕運車、策、畚等ヲ使用シ土量八萬八千五百四十三坪ノ築立ヲ了セリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノ入箇所及新ニ著手ノ三箇所計十一箇所ヲ實施シ内三箇所ヲ了セリ石張ヲ主トシ木工沈床、金網蛇籠、捨石等ヲ施設シ延長二千五百九十一間ヲ竣功セシメタリ

制水工事ハ前年度ヨリ繼續セル一箇所及新ニ著手シタル一箇所計二箇所ノ内一箇所ヲ竣功セリ本工事ハ主トシテ抗柵ニシテ幅十尺、長十間乃至十一間ヲ九本完成セシメタリ

水門工事ハ前年度ヨリ繼續セル篠井川及生仁川水門ノ二箇所ニシテ何レモ著手以來河水ノ滲透及ビ地下水ノ湧出等甚シク石油發動機及電動機ヲ用ヒ專ラ排水ニ努メ又基礎杭打ニハ人力竝動力杭打器ヲ併用シ兩者共基礎混凝土ノ大部分ヲ終了セリ

採石工事ハ前記諸工事ニ使用スル石材ヲ主トシテ生萱工場ヨリ採取シ人力ニ依リ假置場迄輕運車ヲ用ヒ運搬ノ上使用各地ヘ荷馬車ヲ以テ配給スルモノニシテ年内ニ五百五十二坪餘ノ石材ヲ採取シ内使用地ヘ五百九十五坪餘(前年度採取ノモノヲ含ム)ヲ搬出セリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ改修工事區域内ニ屬スル上田市外二十一箇町村内ノ堤敷及堤外地買收並地上物件ノ移轉ヲ實施ス右ハ何レモ土地收用法ニ依ラズ協議ヲ以テ施行シ拾貳萬六千六百六拾貳圓ノ支出ヲ爲セリ

機械工場ニ在テハ本川ニ使用ノ諸機械ノ修理製作ニシテ規模大ナルモノハ信濃川河口機械工場ニ依嚙シ他ハ現場附近ノ民間鐵工所ニ請負ハシメタリ

附帶工事中若宮水門工事ハ管理者更級村長ノ申請ニ依リ鐵筋混凝土樋管ヲ新設スルモノニシテ大正十

二年八月一日直接施行ノ命ヲ受ケ同年十月一日著手シ本年六月二十八日完成セシモ年内ニ於テ管理者
ヘ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

鯨澤堰第一次暗渠工事ハ管理者小島田村長ノ申請ニ依リ鐵筋混凝土樋管ヲ新設スルモノニシテ大正十
二年十二月一日直接施行ノ命ヲ受ケ同十三年一月十六日著手シ同十四年三月十五日ニ竣功セシモ是亦
管理者ニ引渡スノ運ビニ至ラズ

小山堰第二暗渠工事ハ管理者青木島村長ノ申請ニ依リ鐵筋混凝土暗渠ヲ新設スルモノニシテ大正十二
年十二月五日直接施行ノ命ヲ受ケ同十三年一月十六日著手シ同十四年三月十五日竣功セシモ之モ年度
内ニ於テ管理者ヘ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

鹽尻用水取入口水門工事ハ管理者鹽尻村長ノ申請ニ依リ現在ノ石造水門ヲ増築スルト同時ニ工法ヲ變
更シ鐵筋混凝土樋管ニ改築スルモノニシテ大正十二年十月八日直接施行ノ命ヲ受ケ本年二月十六日著
手シ同年六月三十日竣功セシモ年度内ニ於テ管理者ヘ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

竹原堰暗渠工事ハ管理者同堰總代東福村小林清良ノ申請ニ依リ鐵筋混凝土暗渠ヲ新設スルモノニシテ
大正十二年八月一日直接施行ノ命ヲ受ケ同十三年三月十一日著手シ目下工事中ナリ

内川用水取入口水門工事ハ管理者五加村長ノ申請ニ依リ現在ノ石造水門ヲ増築スルト同時ニ工法ヲ變
更シ鐵筋混凝土樋管ニ改築スルモノニシテ大正十二年十一月二十八日直接施行ノ命ヲ受ケ本年十月二
十日著手シ同十二月三十一日竣功セシモ年度内ニ管理者ヘ引渡ヲ爲スノ運ビニ至ラザリキ

下堰第一次排水暗渠工事ハ管理者御厨村長ノ申請ニ依リ鐵筋混凝土暗渠ヲ新設スルモノニシテ大正十
二年十月十八日直接施行ノ命ヲ受ケ本年五月六日著手シ目下工事中ナリ

北岡堰暗渠工事ハ管理者長野市長ノ申請ニ依リ工費壹千六百五拾七圓五拾錢(内國庫補助千五百圓)ニテ同市大字川合新田地先ニ於テ新堤ニ遮斷セラレタル本堰排水路ニ鐵筋混凝土暗渠ヲ新設スルモノニシテ本年十月九日直接施行ノ命ヲ受ケ同月二十五日著手シ同十四年三月三十一日竣功セリ然レドモ管理者ヘ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

屋代水門工事ハ管理者屋代町長ノ申請ニ依リ工費壹千四百四拾六圓五拾錢(内國庫補助七百六拾四圓)ニシテ隣村五加村地先ニ於テ新堤ニ遮斷セラレタル現在ノ石造水門ヲ増築スルト同時ニ工法ヲ變更シ鐵筋混凝土樋管ニ改築スルモノニシテ本年十一月十四日直接施行ノ命ヲ受ケ十二月二日著手シ同十四年三月九日竣功セシモ管理者ヘ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

三箇用水水門工事ハ管理者五加村長ノ申請ニ依リ工費七千七百貳拾八圓(内國庫補助四千四百六拾壹圓)ニテ同村地先ニ於テ新堤ニ遮斷セラレタル現在ノ石造水門ヲ増築スルト同時ニ工法ヲ變更シ鐵筋混凝土樋管ニ改築スルモノニシテ本年十二月十日直接施行ノ命ヲ受ケ同十四年二月六日著手シ目下工事中ナリ

國道十號路線(青木島村地内)及府縣道松代篠ノ井停車場線(右岸八里二丁邊)ノ各一部附替工事ハ前年度中ニ竣功大正十四年一月二十八、二十九日ノ兩日ニ互リ實地ニ就キ管理者長野縣知事ヘ引渡シヲ了セリ
府縣道屋代松代線(清野村雨宮縣村地内)同松代篠ノ井停車場線(東福寺村地内)國道十號路線(屋代町地内)府縣道眞島綿内線(眞島村地内)同長野松代線(西寺尾村千曲川左岸)等ノ各一部附替工事ハ前年度ヨリ引續キ
施工中ノ處國道十號路線(屋代町地内)工事ハ本年五月三十一日又府縣道眞島綿内線(眞島村地内)工事ハ大正十四年三月九日何レモ竣功セリ然レドモ年内ニ管理者ヘ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

府縣道長野松代線(西寺尾村千曲川右岸)一部附替工事ハ管理者長野縣知事ノ申請ニ依リ工費貳千貳百九圓(全部國庫負擔)ヲ以テ大正十四年二月十三日直接施行ノ命ヲ受ケシモ年内ニ著手スルニ至ラザリキ
市道小牧御所線(上田市地内)一部附替工事ハ管理者上田市長ノ申請ニ依リ工費七百七拾圓(全部國庫負擔)ヲ以テ本年五月二日直接施行ノ命ヲ受ケ同十一月十六日著手シ同十二月二十五日竣功セシモ年内ニ管理者ヘ引渡スコト能ハザリキ

國道十號路線(鳥居村地内)及府縣道神郷小布施線(小布施村地内)各一部附替工事ハ何レモ工事ノ都合ニ依リ目下未著手ニ屬セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ七拾參萬壹千參拾八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ五百五拾七萬八千六百六拾五圓ナリ之ヲ總工費豫算壹千八百八拾貳萬九千圓ニ比スレバ四割七分ノ竣功ナリ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但シ退職手當九百七圓ハ本表竣功高ニ含マズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	立坪 三五三、四八八	一、三六四、六六七	立坪 八八、五四三	二八一、七九六	立坪 四四二、〇三一	一、六四六、四六三	劃分 〇六二
水門費	三	四八、八七四		四〇、八五八	三	八九、七三二	〇一六
護岸及制水費		二八四、二八五		六六、四五三		三五〇、七三八	
採石費		三九八、四九七		一〇、二七二		四〇八、七六九	
運搬費		三六、六七八		一〇、四八〇		四七、一五八	
用地費		一、五二八、三〇一		一一六、一六二		一、六五四、四六三	
附帶工事費		五一、七三九		二六、三三五		七八、〇七四	

第一章 河川改良工事（千曲川改修工事）

總計	船舶及機械費 施行中諸費	
四、八四七、〇二七	五五二、一九六 五八一、七九〇	
七三一、一三八	一九、一三五 一四九、六四七	
五、五七八、一六五	七三一、四三七 五七一、三三一	
〇、四七		

第一五 加古川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算四百八拾五萬圓（内兵庫縣負擔百五拾四萬六千圓）ヲ以テ著手シタルモノナリシガ物價騰貴ノ爲メ參百萬圓ノ増額ヲ爲シ總額七百八拾五萬圓トシテ年度割モ亦同十九年度迄延期セラレシガ同十二年九月一日ノ關東大震災ノ影響ニ依リ更ニ同二十二年迄延長施行ノ事トナレリ而シテ其區域ハ左岸兵庫縣加東郡市場村、右岸同縣同郡來住村以下海ニ至ル間ニシテ左岸ハ一六千六、右岸ハ一六千八ナリ

河狀並計畫大要

加古川ハ流域面積一千八百六十六平方糎、流路延長八百四十四糎（内幹川九十三糎）航路延長九十糎（内幹川七十五糎）灌溉段別百十九平方糎（内幹川四十六平方糎）ヲ有スル河川ニシテ一名印南川又氷河ト稱ス源ヲ兵庫縣丹波國氷上郡神樂村稻土粟鹿山ニ發ス氷上郡内ニ在テハ神樂川又佐治川ト稱シ丹波、播磨ノ國界ニ至リテ篠山川ト合シ初メテ大河ト爲リ南流シテ多可郡ニ入り幾多ノ河川ヲ合シテ國包ニ至リ加古川ト稱ス夫ヨリ山陽線加古川驛ノ西南ニ於テ東西二派ニ分レ其幹流ハ高砂ト尾上トノ間ニ於テ海ニ入り派流ハ高砂ヲ抱圍シテ荒井村ノ西ニ於テ海ニ注グ流路延長幹川七十八糎、流域面積一千五百四十平方糎ニ過ギザル一小河川ナリト雖モ其下流ハ播州ノ沃野ヲ橫斷シテ古來灌溉ノ利ト運輸ノ便トニ依リテ流域ハ文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ナルノミ

ナラズ比年上流ノ土砂流出シテ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク明治四十年ノ水害ノ如キハ浸水田畑百八十一平方秆、損失價額百萬六千六百六拾六圓ニ上レリト云フ(大正十年ニモ亦百壹萬八百貳拾五圓ノ損害アリ)而シテ是等大洪水ハ凡四年目毎ニ發生シ小水害ニ至リテハ殆ンド枚舉ニ遑アラザル状態ナレバ全川ヲ通ジテ洪水防禦ノ必要ヲ感ズルコト切ナレドモ上流ノ被害區域比較的狭ク損害ノ程度モ亦尠小ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ先ヅ下流水害ノ最モ顯著ナル部分約一七秆七ノ間ヲ限り改修工事ヲ施行スルコトトシ左支美囊川合流點附近河積ノ充分ナラザル所ハ河幅ヲ擴メ或ハ河底ヲ掘リ下ゲ又同處以下加古川町ニ至ル間ハ在來ノ堤防中利用シ得ベキモノハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ河狀ヲ整理シ以テ必要ナル河積ヲ與ヘ又無堤ノ箇所ニハ新堤ヲ築造シテ高水量四千四百五十立米ヲ快流セシムルヲ程度トシ尙堤防ハ高水以上堤頂迄ノ餘裕ヲ一米五ト定メタリ本川ハ加古川町ノ下ニ於テ東西ニ分派スレドモ派川洗川ノ方ハ維持上ノ必要ニ依リ之ヲ締切リテ只平水量ノミヲ通ズルニ止メ幹川ノ方ハ河積充分ナラザルヲ以テ河幅ヲ擴メ尙感潮部ハ河底ヲ浚濬スルコトトス又河口ニ於ケル高砂港ハ從來非常出水ノ場合ニハ必ズ浸水ヲ免カレザリシヲ以テ同町ノ掘川ハ新堤ヲ以テ之ヲ本川ト隔離シ其上端ニハ樞門ヲ設ケ平時ハ通水通船ノ用ニ供シ洪水ノ際ニハ之ヲ閉鎖シ以テ高砂町ヲシテ全然洪水ノ患害ヲ免カレシムルモノトス河幅ハ在來ノ堤防位置極メテ不整ナレドモ河積不足ノ爲メニ已ムヲ得ザル場合ノ外ハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ法線ヲ定メタルヲ以テ改修計畫ニ於テモ亦河幅ノ廣狹一様ナラズ即チ改修區域ノ上端(左岸加東郡市場村、右岸同郡來住村間)ニ於テハ三百二十七米ノモノ一縮一張シテ左岸加古郡加古川町、右岸印南郡米田村間ニ於テハ四百九米トナリ特ニ加古川町以下ハ從來兩派ニ分流シタル洪水量ヲ一川ニ

合併スルコトトナリタルガ爲メ勢ヒ廣大ナル河幅ヲ要スルヲ以テ河口(左岸加古郡尾上村、右岸同郡高砂町間)ニ於テ六百二十四米ト定メタリ

堤防ハ全川左右岸共馬踏七米二、裏二割五分トシ堤天ヲ計畫高水位一米五ノ高ニ在ラシム只洗川締切ノ箇所ニ限り堤裏ニ於テ堤頂ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ附シ小段以下ノ法ヲ三割ト爲サントス而シテ是等築堤用土ハ全部掘鑿土ト舊堤土トヲ充用スルノ方針ナリ又堤防法先ハ全川ニ互リ張石土ヲ施シ堤天ハ礫ヲ撒布シテ路面ヲ形成シ堤腹ニハ適宜張芝若クハ筋芝ヲ施スモノトス左ニ堤防ノ延長及土量等ヲ表示ス

種別	區域		延長	土坪張	石張均法	芝付	平地平均高上
	左岸	右岸					
合計	海口ヨリ 一六・六 軒	同 一四・〇	一六、三三〇 米	九二九、三〇〇 立米	一一一、一六〇 平米	二二九、六七〇 平米	三・六 米
			一四、三九〇	一、一〇一、七三〇	一、一〇、二五〇	二二二、一四〇	四・六
			三〇、六二〇	一、〇三二、〇三〇	二二一、四一〇	四六二、八一〇	四・四

掘鑿土量ハ左岸百七十三萬三千四百三十立米、右岸百八十八萬四千九百立米、合計三百六十一萬八千三百三十立米ニシテ掘鑿運搬ハ主トシテ人力、牛馬力用ニ依ラントス而シテ右掘鑿土ノ内二百三萬一千五百六十立米ハ左右岸ノ築堤ニ充用シ殘餘ハ之ヲ捨土處分ニ委ヌルモノトス

浚渫ハ主トシテ下流部ニ於テ行フコトトセリ蓋シ洪水ノ疏通ヲシテ良好ナラシムルト同時ニ潮汐ノ昇騰ヲシテ容易ナラシメ將來解船ヲシテ昇潮ノ際ニハ高砂掘川ヲ通過セズシテ高砂鐵橋附近迄遡航スル

ノ便ヲ得セシメ又退潮ノ際ニハ之ガ流勢ヲ利用シテ些少タリトモ河底維持ノ作用アラシメントスルニ在リ而シテ浚渫ノ深サハ上端ニ於テ平均低水面以下約〇米九トシ之ヨリ深サヲ増シ零町零間ニ於テ二米二ト爲シ夫ヨリ中等潮位以下二米四ノ水深線ニ達シテ止ム此土量約百三十二萬立米ニシテ内十三萬立米ハ人力ニ依リ百十九萬立米ハ浚渫船ニ依リテ掘上ゲ甲ハ堤内ニ捨土シ乙ハ海上ニ投棄スルモノトス

堤腹ニハ總テ堅固ナル張石ヲ施ス計畫ナレドモ更ニ堤法保護ノ爲メ流心ノ彎曲部堤防ノ低水路ニ接近セル處等水勢ノ激突スル箇所ニハ護岸工ヲ施スモノトス其總延長一萬八千八百三十米ナリ

流末二千百八十米間ヲ浚渫スル結果上流河床ノ低下ヲ來タシ既設工作物ニ影響スル處尠カラザルベキヲ慮リ浚渫區域ノ上端適當ノ位置ニ平水路ヲ横斷シ床固堰堤ヲ設ケテ河床ノ低下ヲ防止セントス

現在ノ左岸堤防ハ海口ニ於テ急激ニ喇叭狀ヲ成シ爲ニ退潮ノ流勢ヲ殺ギ土砂ノ沈澱ヲ誘致スル傾向アリ因テ本計畫ニ於テハ左岸堤防ヲ延長シテ右岸ノモノト略ボ同長ナラシメ其構造ハ根元四五米五ハ普通土堤ニシテ夫ヨリ堤端迄二百八十二米ノ間ハ全部張石堤トシ馬踏七米二兩法二割堤面ハ高潮面上一米五ト定メ洪水ノ際ニ於テモ平常ノ場合ニ於テモ流水ヲシテ成ルベク海中ノ深處ニ射出セシメントス樋門ノ大ナルモノハ洗川樋門高砂掘川樋門ノ二ニシテ甲ハ幅三米六高三米五乙ハ幅三米六高四米二ノ拱形隧道ナリ

附帶工事ノ主ナルモノハ播州鐵道株式會社ノ高砂鐵橋及相生加古川都染ノ三人道橋延長若クハ架換其他全區域内兩岸ノ用惡水樋門擴築若クハ改築又ハ同水路ノ附換等ナリトス

施工狀況

加古川改修工事ハ大正七年度ノ著工ニシテ七八兩年度ハ主トシテ準備測量、九、十兩年度ハ土地收用及工事ノ一部ヲ施行シ以後専ラ工事ヲ施シタリ本年度工事施行區域ハ前年度ニ引續キ右岸加古郡高砂町、荒井村、印南郡米田村地先ニシテ新ニ八月ヨリ印南郡平莊村及東神吉村地先ヲ加ヘ左岸ハ加古郡尾上村、鳩里村、加古川町、氷丘村及神野村地先ニシテ築堤工事ハ左岸氷丘村地先以下右岸荒井村以下殆ンド成功セリ石堤工事ハ設計變更ヲ爲シ天端頭部三十六米ヲ除キ堤肩ヨリ〇米九ノミ石張スル事ト爲シ年度内ニ竣功セリ掘鑿工ハ五噸機關車二臺、四十噸掘小形掘鑿機一臺、一立米積鐵製土運車五十臺、〇立米六積木製土運車七百四臺、〇立米三積鐵製土運車五十臺ヲ使用シ人力、馬力ヲ併用シ左岸氷丘村地先以下殆ンド竣功シ上流神野村地先ハ五分通りノ功程ニシテ右岸荒井村地先以下殆ンド竣功シ米田村地先ハ七分通り東神吉村地先ハ殆ンド成功セリ河口浚渫ハ前年度ニ引續キ二百噸掘鋤簾式浚渫船一隻、曳船一隻、其他鐵製底開或ハ側開土運船七隻ヲ使用シ約零里一町ニ達セシガ神戸土木出張所ニ於テ埋立土砂ノ必要上加古川河口浚渫ノ希望アリシヲ以テ之ヲ容レ代行セシメ加古川改修工事トシテハ八月ニテ中止セリ護岸工ハ前年度ト同ジク工費不足ノ爲メ止ムヲ得ザル箇所ノミニ止メタリ即チ左岸ハ神野村、附帶工事、西之山樋門前後加古川町地先、右岸ハ荒井村地先ノ高砂町ニ接近セル部、高砂町地先及洗川樋門上下ノ區域ノミナリ

斯ノ如クニシテ本年度迄ニ築堤ハ全延長ノ約三分ノ一ノ成功、石堤ハ全部竣功、掘鑿ハ全土量ノ約五割、浚

深ハ全土量ノ四割ノ成功護岸ハ全延長ノ約三分ノ一ノ成功ニシテ洪水防禦上大半ノ効ヲ奏セルモノナ
 リ
 特種工事ノ内十一年度ヨリ著手セル高砂樋門ハ竣功シ高砂町ハ最早洪水ノ憂ヨリ脱セリト云フベク又
 上流洗川樋門ハ十二年度ヨリ著手セシガ扉及其他ノ附屬工事ノミヲ殘シ成功セルヲ以テ洗川下流ハ以
 後洪水ヲ免ルベク且ツ右岸ノ惡水排除上大ナル利益アルモノナリ

附帶工事ハ前年度ヨリ著手ノ神野村長管理惡水樋管竣功シ兵庫縣知事管理ノ國道橋加古川橋モ竣功ス
 本年度竣功高ノ主ナルモノヲ掲グレバ築堤三十八萬二千二百十五立米其工費參萬參百拾四圓、浚濶九萬
 八百十三立米其工費壹萬九百七拾參圓、掘鑿五十一萬七百八十八立米其工費貳拾壹萬五千八百八拾壹圓、護
 岸石張二千九十九米其工費五萬八千五百五拾四圓等ナリ加古川改修工事ノ本年度竣功高ハ五拾參萬七千四
 百八圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ參百八拾四萬九千四拾圓ナリ之ヲ總工費七百八拾五萬圓ニ比
 較スレバ四割九分ノ竣功トナル而シテ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「*」ハ貫土々量ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
築堤費	* 九六八、九三四	九二、五一七	* 三六三、六〇三	三〇、三二四	* 一、三三三、五三六	一、二二二、八三一	〇・七九	
掘鑿費	一、四六四、四〇九	六二二、〇四六	五一〇、七八〇	二二五、八八一	一、九七五、一八九	八三七、九二七	〇・五五	
浚濶費	三九六、六三五	八四、三〇九	九〇、八一三	一〇、九七三	四八七、四四八	九五、二八二	〇・三一	
護岸制水費		二七一、三七〇		九六、五八四		三六七、九五四	〇・九九	
特種工事費		五三、五六四		五七、五八〇		一一一、一四四	〇・五一	

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費	一、四八九・三	一、一〇二、一四八			一、四八九・三	一、一〇二、一四八	〇・九九
附帶工事費補助		二五四、二六九		四五、五三七		二九九、八〇六	〇・九五
船舶及機械費		六三二、六〇三		四六、九六〇		六七九、五六三	
施行中諸費		一九八、八〇六		三三、五七九		二三二、三八五	
總計		三、三一一、六三二		五三七、四〇八		三、八四九、〇四〇	〇・四九

第一六 岩木川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費七百萬圓(内青森縣負擔額百八拾參萬五千圓)ヲ以テ施行ノ豫定ナリシモ諸物價昂騰ノ爲メ既定豫算ノ範圍内ニテハ工事ノ遂行不可能ノ爲メ參百四拾萬圓ヲ増額セラレ總工費壹千四拾萬圓トシ是ニ伴ヒ繼續年限モ大正二十一年度迄繰延ベラルルニ至レリ而シテ施行區域ハ幹川ハ左岸青森縣中津輕郡新和村大字種市右岸同縣北津輕郡鶴田村大字大性以下十三湖迄此距離四十四籽九及支川十川ニ於テハ右岸同縣北津輕郡梅澤村以下新合流點迄此距離六籽八支川山田川ニ在テハ同縣西津輕郡館岡村菰樋下流約二十籽九ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ水源ヲ秋田縣界ニ發シ流域面積二千六百六十八平方籽、流路延長八百三十六籽五(内幹川九十籽三)航路延長百六籽(内幹川七十籽七)灌溉段別二萬三千九百八十二町步、水害區域九千二百四十九町步(内幹川四千八百七十七町步)ヲ有シ青森縣西津輕、中津輕、南津輕、北津輕ノ四郡ニ跨ル大河ニシテ流末ニ十三湖ト稱スル周圍約二十三籽六、面積二千町步ノ湖水ヲ通ジテ一小口ヲ以テ日本海ニ注グ

幹川ハ流路ノ廣狹甚ダ不規則ニシテ其下流部ハ河幅最モ狹キガ故ニ出水毎ニ必ズ破堤或ハ溢水ヲ來シ沿岸耕地ニ汎濫スルヲ以テ本計畫ニ於テハ堤防ノ改築並川敷ノ掘鑿ヲ爲シ河積ヲ擴張シ以テ洪水量ヲ安全ニ流下セシメ又支川十川ハ流路狹ク且迂曲甚シク殆ンド無堤ノ狀態ナルヲ以テ出水毎ニ湛水シ殊

ニ春季融雪ノ際ノ如キハ沿川一帯ニ湛水數週間ニ互ルコトアリ故ニ十川上流部ノ水量ハ新川延長約三千二百七十三米ヲ掘鑿シテ現在ノ合流點ヨリ約十五軒七上流ニ於テ幹川ニ合流セシメ十川下流部ニ對シテハ逆水門ヲ設置シテ岩木川ノ逆流ヲ防グモノトス幹川ノ海口即チ十三水戸口ハ其閉塞ヲ防ギテ排水ヲ完全ナラシメ以テ十三湖沿岸湛水ノ害ヲ防ガンガ爲メニ突堤ヲ築設セントス又十三湖ニ直接注入スル山田川沿岸ニ就テハ幹川擴築ノ結果其破堤及湛水ヨリ來ルベキ水害ハ除去セラレ又十三湖ノ逆水ヨリ生ズル湛水ハ水戸口ノ施工ヲ以テ輕減スル方針ナリシモ尙更ニ調査ノ上直接相當工事ヲ施シ其完成ヲ期スル方針ナリ計畫高水流量ハ十川上流部ヲ三百三十四立米、下流部ヲ百六十七立米トシ幹川ハ全十川ヲ合シテ後千六百七十立米ト定ム幹川河幅ハ上流ニ於テ二百十八米トシ漸次擴大シ下流部ニ於テ六百三十六米四トシ支川十川ハ幅六十三米六ト定ム

掘鑿土量ハ七百八十四萬三千七百立米、浚深五百二十三萬五千六百六十立米、合計掘上土量一千三百七萬八千八百六十立米ニシテ其大部分ハ築堤用土ニ使用ス築堤ハ大部分新堤築設ニシテ舊堤増築ハ一小部分ニ過ギズ築堤延長ハ幹川約八萬米、支川十川約一萬三千米、合計九萬三千米ニシテ其構造ハ馬踏五米四五、外法二割、内法ハ二割乃至二割五分ノ勾配ト爲シ芝附ヲ施シ必要ノ箇所ニ護岸工ヲ施スモノトス海口突堤ハ大體ニ於テ捨石竝混泥土塊ヲ用ヒ兩岸ヨリ各三百六十三米六ヲ築造シ先端ニ於テ二百七十二米七ノ間隔ヲ保タシムルモノトス

附帶工事ノ主ナルモノハ木橋架換七箇所、水路伏越樋二箇所、水門三箇所、其他用水路附換等ナリトス

施工狀況

本工事ハ大正七年六月ノ創業ニシテ初年度及八年度ニ於テハ測量其他施工準備ヲ爲シ九、十兩年度ハ一部分ヲ人力ヲ以テ掘鑿シ十一年度以降ニ至テハ土工用諸機械稍々完備セルヲ以テ人力並機械ヲ以テ掘鑿セリ而シテ掘鑿工事ノ進行ニ伴ヒ其土砂ヲ利用シテ築堤工事モ著々進行セシムルコトヲ得タリ

元來當地方ハ冬季即チ十二月ヨリ翌年三月迄ハ嚴寒降雪多量ノ爲メ工事ノ施行全然不可能ニシテ尙十月、十一月ハ天候不良、四月ハ殘雪ノ爲メ作業殆ンド中止ノ状態ニ在リテ五月、六月、及九月ハ工事ノ進行ヲ計ルニ最モ好時季ナルニモ拘ラズ農繁期ナルガ爲メ勞力需要ノ點ニ於テ満足シ得ズ要スルニ一箇年ヲ通ジテ本工事ノ生命トスル處ハ只七、八ノ兩月アルノミナリ本年度ニ於ケル掘鑿工事ハ人力掘取ニテ八十米四五積トロヲ以テ人力トロ、馬トロ運搬ヲ爲シ地形ニ依リ畚運搬ヲモ施行セリ機械作業ニ在リテハ三臺ノ掘鑿機、三臺ノ機關車、三立米土運車ヲ運轉シ極力工種ノ進行ニ努メタリ掘鑿施工ノ區域ハ本川筋北津輕郡鶴田村、五所川原町、中川村、三好村、武田村、西津輕郡水元村、柏村、出精村、川除村、稻垣村、中津輕郡新和村ノ各地先ニシテ掘鑿總土量六十三萬九千六百九十八立米此工費拾九萬參千七百五拾四圓ニシテ土量ノ大部分ハ此區域内ニ於ケル築堤用ニ供シタリ

築堤工事ハ前述ノ如ク掘鑿土ヲ利用シ北津輕郡鶴田村、三好村、武田村、西津輕郡水元村、柏村、川除村、出精村、稻垣村、中津輕郡新和村ノ各地先ニ互リ施行セリ築立土量五十七萬六千四百三立米ニシテ此工費貳萬八千四百八拾四圓其竣功延長六千六米ニシテ工事中ノモノ一萬七千八百三十八米ナリ

護岸工事ハ北津輕郡鶴田村大字菖蒲川、同村大字大卷、榮村大字湊ノ各地先ニ於ケル延長一千百五十米ニ互リ箇所ニ依リ根固トシテハ沈床又ハ杭柵ヲ施シ法留トシテハ石張又ハ柳枝工ヲ施セリ此工費貳萬九千四百六拾壹圓ニシテ未竣功ノ儘次年度ニ繰越シタリ

障害物除却工事ハ掘鑿並築堤敷ニ存在セル木根密生セル柳樹其他工事に上障害トナルベキモノノ除却ニシテ此工費五千八百拾九圓ナリ

假設工トシテハ假護岸假復舊ニシテ假護岸ハ西津輕郡水元村大字木筒並北津輕郡鶴田村大字大卷地先ニ前者ハ杭柵土俵詰ヲ以テ後者ハ合掌杵ヲ以テ假制水ヲ出シ流心ヲシテ河岸ニ遠カラシメタリ此工費五千參百五拾五圓ナリ假橋復舊ハ前年度中島掘鑿土砂ヲ機關車ヲ以テ川越運搬ノ爲メ架設セル假橋橋脚保護杭流水ノ爲メ切斷セラレタルヲ以テ是レガ復舊ヲ施シ工費五百五圓ヲ要セリ

斯クシテ本年度ハ差當リ必要ナル器具機械ヲ整備シ工事進捗上稍々至便トナリシモ事業繰延ニ伴ヒ工費年度割額削減ノ憂目ニ遭ヒ八月末ヲ以テ機械掘鑿ヲ除キ一切ノ工事を中止スルノ已ムナキニ至レリ土地買収ハ工事に上必要ニ迫リ已ムヲ得ザル箇所ノミ點々買収シ本年度ニ完了セル土地二十六町七段歩此金額六萬九千參百貳拾八圓ニシテ地上物件移轉料八千九百四拾圓ナリ

本川改修工事ノ本年度竣功額ハ五拾壹萬壹千五百六圓起工以來本年度迄ノ總竣功額ハ參百九拾貳萬貳百六拾四圓ナリ之ヲ總工費壹千四拾萬圓ニ比スレバ三割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
掘鑿費	一、四〇七、八二七	四六一、七五〇	六三九、六九八	一九三、七五四	二、〇四七、五二五	六五五、五〇四	〇・二六	
築堤費	八二九、四〇七	六七、一三三	五七六、四〇三	二八、四八四	一、四〇五、八一〇	九五、六一七	〇・四二	
護岸費		一、二二〇		二九、四六一		三〇、六八一		
障害物除却費		四四、五七〇		五、八一九		五〇、三八九		

總計	假設工事費	用地費	附帶工事費	船舶及機械費	測量費	營繕費	施行中諸費	共濟組合給與金
	三、五六八							
三、四〇八、七五八	二二、八四八	一、二二四、九八七	五七、五〇〇	一、一五二、一〇九	二六、三五八	一一三、二二六	二二五、一三四	一、九一三
		二六七						
五一、五〇六	五、八六〇	七八、二六八		八九、九九五	二、三〇五	一一、四八五	六二、四八〇	二、五九五
		三、八三五						
三、九二〇、二六四	二八、七〇八	一、三〇三、二五五	五七、五〇〇	一、二四二、一〇四	二八、六六三	一一三、五七二	二八七、六一四	四、五〇八
〇・三八	〇・三七							

第一七 神通川改修工事

（新潟土木出張所）

緒言

本川ハ富山縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ源ヲ飛驒國ニ發シ其流域ハ富山、岐阜兩縣ニ跨リ富山縣ハ其下流ニ位シ水害甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算六百五拾萬圓（内富山縣負擔額百七拾六萬參千圓）ヲ以テ起工セシガ其後富山縣知事ノ稟申ニ依リ本川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ之レト同時ニ東岩瀨港修築工事ヲモ施スベク工費五拾八萬圓（全部富山縣負擔）ヲ増額シ總工費ヲ七百八萬圓ニ改メ施行スルコトトセリ然ルニ起工以來時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月貳百拾參萬貳千五百圓（内富山縣負擔額五拾參萬四千圓）ノ増額ヲ受クルト共ニ施行期限ヲモ同十九年度迄繰延ベラレタルガ更ニ九月一日關東大震災突發ノ爲メ止ムナク同年十一月ニ至リ四箇年度ヲ延長シ同二十三年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算九百貳拾壹萬貳千五百圓ヲ以テ右岸富山縣上新川郡大澤村、左岸婦負郡杉原村以下海ニ至ル約五里半ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ洪水ノ被害ヲ除却セントスルモノナリ

河狀並計畫大要

本川ハ飛驒北半ノ一部庄川流域ヲ除ケル一帯ノ諸水ヲ聚メテ越中ニ入り富山平野ヲ北流シテ東岩瀨港ニ至リ海ニ注グ其流域面積百八十方里、内飛驒ニ屬スルモノ百三十方里ニ達スレドモ平地僅ニ十一方里

ニ過ギズ流水急湍ニシテ舟筏ヲ通ゼズ越中ニ屬スルモノハ五十方里ニシテ其内平地面積十七方里ヲ有シ河口ヨリ上流七里笹津ニ至ル迄舟楫ノ便アリ地勢漸ク平坦ニシテ其汎濫面積七千町歩ニ達ス水害ノ狀況ハ急流河川ノ特性トシテ大水ノ襲來極メテ迅速且猛烈ニシテ忽チ護岸ヲ覆滅シ瞬ク間ニ堤防ヲ闕壞シ濁流滔々村落市街ニ奔流シ汎濫區域廣カラズト雖モ其向フ所家屋ヲ流失シ人畜ヲ損傷スル等戰慄スベキモノアリ其浸水期間ハ長カラズト雖モ耕土ハ洗滌セララルニ非ズンバ砂礫ノ埋没スル所トナリ其害實ニ甚大ナリ今既往洪水ノ被害高ヲ示セバ大正元年乃至同十年平均損失價額八百四拾萬參千八百八拾六圓ニシテ此十箇年間中ノ最大水害ハ大正三年ノ九百參拾壹萬八千四百四拾四圓之ニ次グモノハ大正九年ノ參百六拾六萬九千參拾圓ナリトス

本川改修ノ目的ハ洪水防禦ニ在リテ富山市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トスルモ一面東岩瀨港ノ改善ヲ謀ラントスルモノニシテ即チ本川ノ計畫洪水量ヲ二十萬立方尺ト定メ之ヲ放流セシムルニ足ルノ河積ヲ有セシメ東岩瀨港ニ在テハ本川ヲ附換ヘ全ク港内ヲ分離シ突堤ヲ築キ以テ水深ヲ保チ船舶ノ出入ニ便ナラシメントスルモノナリ

由來本川ハ堤防ノ築設比較的普及スレドモ未ダ統一の施設ニナレルモノ無ク多クハ不規則ナル霞堤ヲ爲シ河積概ネ狹隘ニシテ堤高亦不足シ屢破堤汎濫ノ因ヲ爲セリ故ニ全川ヲ通ジテ河幅ヲ擴メ尙所要ノ掘鑿ヲ行ヒテ專ラ河積ノ増加ヲ圖リ兩岸ニハ鞏固ナル堤防ヲ築キ周到ナル護岸ヲ施シ以テ洪水ノ横溢ヲ防ガントス

河道ノ位置ハ比較的良好ニシテ屈曲部其他疏通上不良ノ箇所ヲ見ザルヲ以テ多クハ現狀ニ準據シ努メテ在來ノ堤防ヲ利用セントス上流起點城生以下成子ニ至ル間流路東西ニ岐ルル所モ之ヲ合一セズ現在

ノ形狀ニ依リ兩岸ニ築堤シ添島以下熊野川落合ニ至ル亂流部ハ河幅已ニ廣濶ナレバ兩岸舊堤ヲ増築スルニ止ムレドモ河道内寄洲ノ著シク發達セル所ニ在テハ相當掘鑿ヲ行ヒ之ヲ整理シ富山市附近ノ新舊兩川ノ内舊川ハ平時全ク通水ヲ見ズ且高水ノ疏通ニ對シテモ其利用甚ダ乏シキヲ以テ全ク之ヲ締切り新川乃チ馳越川ヲ多少擴大シテ全流量ヲ之ニ依リ疏通セシメ舊川ノ落合ハ之ヲ閉鎖シ其惡水ハ本川ニ沿テ水路ヲ造リ下流ニ導キ以テ富山市ノ逆水ニ因ル水害ヲ輕減スルモノトス又河口ニ近ヅクニ從ヒ流積特ニ減少スルハ全ク洪水ノ際流下シタル土砂隨所ニ堆積シ流路ヲ壅塞シ益々圓洲ノ發達ヲ促進シタルガ如シ故ニ要所ニ制水工ヲ配置シ河狀ヲ整理シ且^{0.18}以下河道ヲ西ニ移道シ瀨割堤及突堤ヲ設ケ適當ニ河口ヲ掘鑿シ全ク東岩瀨港ト分離セシメ直ニ海ニ通ゼシム而シテ其連絡ハ水門ニ依ルコトトセリ又東岩瀨港ハ港内ヲ低水位以下十五尺ノ水深ニ浚渫シ東突堤ヲ水深三十尺迄延長シ堆砂ノ西遷ヲ防ギ新川ノ右岸突堤ト相俟テ水深ノ維持ヲ謀リ以テ船舶ノ出入ニ便ナラシメントス

河幅ハ水理上障害ヲ認メザル限リ現状ニ適應シ施行スルヲ得策ト認メ河岸ノ利用シ得ベキハ努メテ之ヲ利用シ瑣々タル廣狹及局部的小屈曲ノ如キハ之ヲ許スコトトシ兩岸堤防中心間距離ハ凡ソ左ノ標準ニ據リ施行スルコトトセリ

區	間	區	間
岩木、成子間	兩岸堤中心間距離	添島、布瀨間	兩岸堤中心間距離
同上派川部	一八〇 ^間	布瀨、四ツ谷間	二六〇 ^間
	八〇		四〇〇 ^間
			二四〇 ^間
			二八〇〇
			至自
			至自

成子、添島間

自

二〇〇〇
二二〇〇

四ツ谷、河口間

自

二六〇〇
三〇〇〇

堤防ハ總テ馬踏四間、表裏共ニ二割法トシ其高ハ計畫高水位上五尺ノ餘裕ヲ存置ス、築堤ハ舊堤ヲ利用シ一方ヲ増築シ他方ヲ引堤トシ又霞堤ノ喰違箇所ハ一、二箇所ヲ除クノ外凡テ連絡セシム其用土ハ合計三十六萬坪トシ其延長二萬四千二百二十八間ニシテ一般ニ掘鑿土ヲ以テ之ニ充當スベキモ其運搬遠距離ニ涉ルカ又ハ持ニ良質ノ土砂ヲ要スル場合ニハ他ニ土採場ヲ求メザルベカラズ其土量ヲ五萬坪ト概定ス又堤防ノ流水ノ衝ニ當リタル所其他地形上必要ナル箇所ニハ適當ナル小段ノ類ヲ設ケテ之ヲ補強スルモノトス

掘鑿工事トシテハ流積擴大ノ爲メ河幅ノ整理ヲ行フモ猶掘鑿ニ俟ツベキモノ尠カラズ其土量合セテ四十九萬七千坪(内二萬七千坪ハ設計一部變更ノ爲メ増加シタルモノ)ニシテ築堤用土ニ充用スル外尙十八萬七千坪ノ剩餘ヲ生ズ是等ハ主トシテ築堤小段ノ成形及卑低地ノ埋立等ニ使用シ更ニ若干民有地ニ投棄ス又河口ニ近キ所ニ在テハ土運車又ハ土運船ニテ海中ニ放棄ス

浚渫工事ハ $\frac{0}{18}$ 以下海ニ至ル間ニシテ其底幅ハ百四十間ヨリ二百間ニ達シ其深度ハ上流ニ於テ基線以下七尺二寸五分ニ始マリ $\frac{0}{0}$ ニ至ル迄順次ニ同十五尺七寸二分ニ遞下シ以下同深トス其土量ハ約二十萬坪ナリ其浚渫ニハ自奔鑿硬土器付唧筒浚渫船(能力一時間六百噸)ヲ用ヒ浚渫土ハ凡テ海中ニ放棄スルモノトス

護岸工事ハ本計畫中特ニ必要ナルモノニシテ石張及沈床若クハ沈棹等ヨリ成ル即チ築堤ニハ三里附近ヨリ上流ハ表法全部ニ同下流ハ計畫高水位以下ノ表面ニ張石シ其法先ハ基礎ヲ深クシ堤外小段ヲ有ス

ル箇所ニ在テハ更ニ法面ヲ二割勾配ニ張石ス又水面以下ノ保護ニ關シテハ富山市ヨリ上流ハ川倉、蛇籠、木床、沈枿及混凝土單床類ヲ適宜按配シ下流ハ概シテ柴工沈床ヲ用ユルモノトス

制水工事ハ主トシテ下流々路ヲ限定スベキ區域ニ配設シ浚漂ト相俟テ流心ヲ定メ水深ヲ維持セントス凡テ柴工沈床、木工沈床及石張ヲ用ユルモノトス

突堤工事中右岸突堤ハ瀨割堤防ノ末端 $0/0$ ニ接續シ其長百七十五間ニシテ緩曲線ヲ以テ水深三十尺ノ箇所ニ達セシメ本川ヲ流下スル土砂ヲ深水ニ導クト同時ニ現在東岩瀨地先突堤ノ延長工事ト共ニ兩々相俟テ港口ノ保護及港内ヘノ土砂浸入ヲ防止セシム又左岸突堤ハ延長八十間ニシテ單ニ沿岸漂砂ノ東進ヲ防止スルモノナリ

水門工事ハ富山市ヲ貫流スル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキ設計ヲ變更シ水路ヲ設クルヲ良策ト認メタルニ依リ之ヲ廢止逆水門ヲ廢シ水路ヲ造リ惡水ヲ下流ニ導キ且之ニ因リテ本川トノ舟運ヲ計リ逆水ノ害ヲ經減シ舊神通廢川地帯ノ利用ニ便ナラシムセリ其他右岸 $0/7$ 附近ニ設置スル一箇所ハ本川ト東岩瀨港トノ聯絡用ニ供スルモノナリ

附帶工事ハ用惡水樋門、用惡水路、道路及橋梁等改築ヲ要スルモノ多キヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス東岩瀨港ハ神通川ノ河口ニ位シ富山市唯一ノ海門ニシテ往時帆船時代ニ在テハ日本海ノ要港トシテ繁榮ヲ極メタリシガ時勢ノ變遷ハ汽船海運ノ時代トナリ河口ノ狀況ハ其入港ヲ妨ゲ偶寄港スルモノアルモ河口ヲ隔ル七、八町ノ沖合ニ碇繫シ貨物ノ揚卸ヲ爲サザルベカラズ殊ニ秋冬ノ候ニ際シテハ波浪ノ險惡土砂ヲ壓シテ河口ヲ閉塞シ水深漸ク二尺ニ過ギザルコトアリ明治四十三年河口右岸ニ突堤ヲ増築シ對岸草島地先ニ制水工ヲ施シ更ニ左岸ニ突堤ヲ築造スル等河口ノ改良ヲ企圖セリト雖モ規模小ニシテ

其效果大ナラズ依然トシテ航路壅塞シ小船ノ出入ニモ不便ヲ來スコト尠カラズ從テ出入貨物ハ益減退シ明治四十一年頃ニ比スレバ其量三分ノ一ニ減ジタリ富山市ヨリノ出入貨物モ亦其價格ニ於テ僅ニ十分ノ一ニモ達セザルノ悲境ニ在リ茲ニ於テカ神通川改修ヲ好機トシ本港ヲ修築シ航路壅塞ノ源ヲ絶チ其利用ノ途ヲ増進シ從來ノ衰運ヲ挽回シ且近キ將來ニ於テ縣内豐富ナル水力電氣事業ノ完成ニ伴フ各種生産業ノ隆起及名富鐵道ノ貫通ニ依リ激増スベキ出入貨物ノ運輸ニ資スル所アランドス是レ本港修築ノ起リタル所以ナリ

曩ニ神通川改修工事ノ計畫ヲ立ツルヤ併テ河口ノ改良ヲ企圖シ東岩瀨港沿岸ニハ特殊ノ護岸工事ヲ施シ其終端ヨリ水深三十尺ニ至ル迄突堤ヲ築造シ地先ノ水面ハ之ヲ水深十七尺ニ浚渫シ河流自然ノ水勢ニ依リ其水深ヲ維持セシメ一千噸内外ノ船舶出入碇繫ニ便セシムルコトトセシモ一般河口ニ見ルガ如ク自然ノ水勢ニ依ル水深ノ維持ハ極メテ困難ニシテ殊ニ本港ノ如キハ日本海ノ漂沙ト神通川ヨリ流下シ來ル土砂トハ港内ニ堆積シ常ニ浚渫ヲ施サザレバ到底所要ノ水深ヲ維持スルコト能ハザルナリ故ニ若シ河口ヲ完全ニ港灣トシテ利用セントセバ神通川ト東岩瀨港トヲ全然分離スルヲ以テ得策ナリトス本改修計畫ハ以上ノ理由ニ依リ神通川改修計畫中下流ノ一部ヲ變更シ河道ヲ四方ニ移動セシメ下流現在ノ低水路ノ水面積ヲ本港灣ノ施設ニ提供スルコトトシ港口ハ現在ノ東突堤ヲ約二百二十五間延長増築シテ東岸ヨリスル漂砂ヲ防ギ之ト相對シテ改修工事ニ於テ築造スベキ右岸突堤(延長百七十五間)ニ依リテ西方ヨリスル漂砂ヲ防ギ内部ノ水面凡ソ三萬八千坪ヲ深十五尺ニ浚渫シテ一千噸級船舶ノ碇繫及貨物ノ揚卸ニ便ナラシメントス是本港ハ西ニ近ク伏木港ヲ控ヘ目下大船ノ出入ヲ要セザルヲ以テ其急ヲ救フニ止メタルモノナリ若シ夫レ他日出入貨物激増シ大型汽船ノ寄港ヲ要スルニ至ラバ水深ヲ増大

シ繋船壁ヲ増築スルモ敢テ遅キニ非ザルベシ

施工狀況

本工事ハ大正七年七月ノ創業ニ係リ同年十月東岩瀬港内河流ノ不整ヲ修ムル目的ヲ以テ其對岸ナル草島村地先ニ制水工ヲ施シ次デ土地買收ノ進捗ニ從ヒ逐年下流ヨリ施工シ上流ニ溯リ左岸ニ於テハ草島、百塚、神明、鶉坂、熊野、宮川ノ六箇村及富山市、右岸ニ於テハ豊田、奥田、堀川、蟻川、新保ノ五箇村及富山市ノ各地先ニ於テ掘鑿、築堤、護岸等ノ諸工事ヲ實施スルニ至リ其區域兩岸各四里半ニ達セリ本年ハ專ラ前年著手箇所ノ竣成ニ努メシガ十月中旬ニ至リ財政緊縮ノ結果到底現在ノ廣汎ナル區域ヲ維持スル能ハズ工事ノ緩急ヲ斟酌ノ上區域ヲ縮少セシニ依リ豫期ノ工程ヲ擧ゲ得ザリシモ掘鑿土量五萬八千七百三十五坪、築堤土二萬九千五百三十六坪ノ築立ヲ爲セリ其施工ノ概況ヲ左ニ述ベシ

掘鑿工事ハ前年度以來繼續ノ九箇所ト新ニ著手セル一箇所ト計十箇所ヲ施工シ一箇所ハ年内ニ竣功セリ本工事ハ主トシテ土運車ヲ使用シ人力及馬力ニ依ルモノニシテ土量三萬二千四十八坪ヲ掘鑿シ内二萬四千五百六十二坪ヲ堤防敷へ運搬投棄セリ機械掘鑿ハ湧水及透水ノ爲メ水替ニ非常ナル困難ヲ來シ僅ニ土量二萬六千六百八十七坪ノ竣功ヲ見タルニ過ギザリキ

築堤工事ハ前年度ヨリ引續キ築立ハ主トシテ掘鑿土ヲ利用シ左岸宮川村下流、右岸新保村下流延長一萬六十間ニ至ル箇所内ニ施工シ二萬九千五百三十六坪ノ盛土ヲ了セリ内四千七百二十四坪ハ附近ヨリ採土ス又石張ハ工事ノ都合ニ依リ本年度ハ中止セリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノ二十箇所ト新ニ著手セシ四箇所ト計二十四箇所ニ施行シ木工沈床一千六

百二十坪、鐵線蛇籠二百七十五本、川倉二十箇及石張一萬七千六百九十一坪ヲ竣功セシメタリ其場所四箇所ニ達ス

水路工事ハ富山市内右岸舊川ニ流入スル赤江川、舩川、助作川其他ノ惡水ヲ排除スルト共ニ神通川逆水ノ被害ヲ輕減シ併セテ本川トノ舟運ニ便セジムルモノニシテ前年度ヨリ引續キ施工シ土量八千七十七坪ヲ掘鑿シ一部ハ水路築堤及本川築堤ニ利用シ他ハ舊川敷ニ運搬捨土セリ

突堤工事中西突堤ハ左岸築堤ノ尖端ニ位シ前年度ヨリ引續キ基礎柴工、沈床ノ一部ヲ實施ス又東突堤ハ東岩瀬地先ニ施工スルモノニシテ本年四月著手セシモ諸材料ノ蒐集ニ努メ僅ニ第一區根固柴工、沈床工ニ著手セシニ過ギザリキ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ本年度モ亦上新川郡大廣田、堀川、新保、大久保ノ各町村及婦負郡鶴坂、熊野、宮川、杉原ノ各村並富山市内ニ於テ七十三件、此段別一町六段一畝十六步餘ヲ買收シ物件移轉ハ僅ニ三件ノミナリキ

機械工場ハ前年度ト同ジク諸機械ノ修理製作ニシテ其程度大ナルモノハ信濃川河口機械工場ニ依託シ其他ハ附近ノ鐵工業者ニ請負ハサシム

附帶工事トシテ施行シタルモノハ次ノ如シ

中島排水樋管工事ハ前年度ヨリ引續キ水路ノ掘鑿ニ力ヲ注ギ年内ニ於テ其工程大ニ見ルベキトコロアリシモ竣功ノ域ニ達スルコトヲ得ザリキ

有澤用水路附替工事ハ管理者神明村長ノ申請ニ依リ同村有澤地内ニ於ケル現在水路ノ一部新堤ノ爲メ遮斷セラレ用水灌溉ノ途ナキニ至リシヲ以テ更ニ新堤内側ニ水路ヲ新設スルモノニシテ大正十四年二

月十七日工費貳千四百五拾貳圓六拾貳錢貳厘（内國庫補助額壹千六百參拾四圓）ニテ直接施行ノ認可ヲ得
タリ然レドモ時冬期ニ屬スルヲ以テ未ダ著手ノ運ビニ至ラザリキ

松川及搗屋川改修工事ハ管理者富山市長ノ申請ニ依リ同市安野屋町地内ニ於テ從來神通川ニ流入スル
松川ト同川ヨリ引水スル揚屋川トノ兩川ハ新堤ノ爲メ遮斷セラレ流水ノ處理ニ困難ナルヲ以テ松川ヲ
新堤内側ニ添ヒ新水路ヲ開鑿シ現在ノ搗屋川ニ流末ヲ合併シ一面搗屋川ノ用水口ヲ上流新堤ニ移シ鐵
筋混凝土樋管ヲ新設セントスルモノニシテ大正十四年三月三十一日工費壹萬八千百貳拾參圓六拾參錢
五厘（内國庫補助額九千七拾圓）ニテ直接施行ノ認可ヲ得タレドモ著手ノ運ビニ至ラザリキ
此外管理者自營ニ係ル補助工事三箇所アリ即チ下記ノ如シ

柳挿川排水路工事ハ管理者草島村長ノ自營ニシテ前年六月十二日完成ヲ告ゲ本年十月二十八日竣功認
可ヲ得

齋藤用水附替工事ハ管理者齋藤與一郎ノ自營ニ屬シ本年二月十二日終了シ十四年三月十三日其竣功認
可ヲ得

上野新排水樋管工事ハ管理者豊田村長ノ自營ニシテ本年三月十七日完了シ同十月九日竣功認可ヲ得タ
リ

本年度ニ於ケル竣功額ハ六拾四萬壹千五百六拾圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計參百五拾五萬八千四
百八拾參圓ナリ之ヲ總工費九百貳拾壹萬貳千五百圓ニ比スレバ三割九分ノ竣功ナリトス其工事竣功表
ハ左ノ如シ但シ退職手當金四百貳拾五圓貳拾錢ハ之ヲ含マズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功合歩
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	一八〇、七九一・五	四〇七、七七七	五八、七三四	一五九、二一九	二二九、五二五・五	五六六、九九六	〇・四一
築堤費	石張 築立 一四二、九二六・〇 二、〇六三	一一八、六〇一	二二、九六三 三、八六一	二七、六七二	一六六、八八九・〇 五、九二四	一四六、二七三	〇・五一
護岸制水費	制護水岸 三、五二二 二五五	五二七、七二七	三、九九七	一六六、五三八	七、五一九 二五九	六九四、二六五	〇・二〇
水路費		三七、四二〇		四二、七七八		八〇、一九八	一・〇〇
突堤費		六六二		六五、八六八		六六、五三〇	〇・一〇
雜工事費		一、三一九		五、〇四八		六、三六七	
運搬費				一、〇七三		一、〇七三	
用地費		八二五、二二三		四、七二七		八二九、九四〇	
附帶工事費		七〇一二		四、五九二		一一、六〇四	
船舶及機械費		七五二、三七五		九八、二八八		八五〇、六六三	
施行中諸費		二三八、八一七		六五、七五七		三〇四、五七四	
總計		二、九一六、九二三		六四一、五六〇		三、五五八、四八三	〇・三九

第一八 多摩川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本川ハ第二期河川ニ屬シ當初明治三十年法律第三十七號ニ依リ河川改良費トシテ大正七年度ヨリ同十四年度ニ至ル八箇年度繼續事業トシ工費五百六拾萬圓、事務費貳拾八萬圓、合計五百八拾八萬圓(内東京府及神奈川縣負擔貳百九拾四萬圓)ヲ以テ左岸東京府北多摩郡砧村、右岸神奈川縣橋樹郡高津村以下海ニ至ル約二十二籽ノ間ニ工事ヲ施行スルモノナリシガ、歐洲大戰以來勞銀其他諸物價ノ昇騰ヲ來セル爲メ到底當初ノ豫算ヲ以テ遂行シ能ハザルヲ以テ大正十二年度ニ至リ總工費七百七拾六萬貳千圓(内東京府及神奈川縣負擔參百參拾九萬八千圓)ニ増額シ施工年度ヲモ三箇年度延長シ同十七年度ニ竣功セシムルコトトシ同時ニ改良費ヲ治水費ト爲シ河川法第八條ニ依リ施行スルコトトナレリ

河狀並計畫大要

多摩川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡金村字市之瀬ニ發シ日原、秋川、淺川等ノ支川ヲ合流シテ東京、神奈川ノ府縣界ヲ流レ東京府荏原郡羽田町ニ至リ數條ノ滯ヲ分岐シテ東京灣ニ注グ流路約百二十八籽、流域一千六十四方籽ニ過ギザレ共其清流ハ東京市ヲ初メ附近一帶ノ飲料水トシテ上水ノ水源ヲ爲シ水路ハ京濱間ヲ貫流スルヲ以テ其利害ハ直ニ帝都ニ係リ直接水害損失額ハ明治四十三年乃至大正八年ニ於ケル一箇年ノ平均約五拾萬圓ヲ算スルノ外交通ノ杜絶其他ニ因ル損害蓋シ揣ルベカラザルモノアルベシ
改修ノ計畫ハ從來ノ洪水量ヲ參酌シテ定メタル高水量四千百七十一粒ヲ快流セシムベク無堤、霞堤等廣

狭ナラザルモノヲ河狀ニ應ジ上流三百八十二米、河口五百四十五米ノ間ニ河幅ヲ整正シ兩岸ニ其天端ヲ計畫高水位以上一米五トシ馬踏五米五、兩法各二割、川裏ニ一米八下リテ三米六ノ小段ヲ附シタル堤防ヲ新築又ハ擴築ヲ爲シ其高水敷ヲ定メ障害物ヲ除却シテ通水ヲ圓滑ナラシメ尙水積不足ノ箇所ニハ掘鑿或ハ浚渫ヲ施シテ之ヲ補フモノトス

低水路ハ下流地方ノ狀勢ニ鑑ミ施行スルモノニシテ大サ其上流ニ於テ平均干潮時水深一米五、底幅七十
三米ニ起リ漸次増大シテ河口ニ至リ水深三米六、底幅百四十六米ニ達シ以下海中滲筋ニ於テハ水深三米
六、底幅百九米ヲ保持セシムルモノトス

其他若干ノ惡水路樋門竝水路附替等ノ附帶工事及水流急ナル部分ニ施工スベキ護岸工事ヲ爲スモノナ
レ共著大ナルモノナシ

施工狀況

本工事ハ大正七年度施工準備トシテ實地調査ニ著手シ大正八年四月一日川崎市小向(元橘樹郡御幸村小向)ニ土地收用事務所ヲ設置シ同年度ニ於テ全部ノ査定ヲ了ヘ大正九年五月二十一日第一次ノ發表ヲ爲シテ以來本年度ニ至ル迄發表八次ニ及ビ砧村地内外二、三ヲ除ク外殆ンド買收ヲ了セリ、其段別東京府側百八十五町四段五畝二十二步二合一勺此買收費(物件移轉料共)百七萬參千六拾壹圓參拾參錢、神奈川縣側二百二拾六町四畝二十七步七合一勺此買收費百四拾萬六千參百七拾七圓參拾八錢、合計四百一十一町五段十九步九合二勺ノ買收費貳百四拾七萬九千四百參拾八圓七拾壹錢ニシテ計畫段別ニ對シ約九割二分ニ當リ爰ニ收用事業ハ大部分完了セルヲ以テ大正十三年十一月三十日限リ事務所ヲ閉鎖シ殘餘ノ分ハ改

修事務所ニ於テ處理スルコトナレリ

改修事務所ハ大正八年六月十六日ヲ以テ同所ニ設置シ實地測量ヲ終リ九年度ニ於テ買收濟ノ箇所ヨリ掘鑿、築堤及護岸工事ニ著手シ用土ハ總テ掘鑿土ヲ利用セリ

其後著々工ヲ進メ本年度迄ニ人力掘鑿ハ左岸東京府側ニ於テ玉川村地先四、調布村地先一、矢口村地先三、六鄉村地先七、羽田町地先三、計十八箇所、右岸神奈川縣側ニ於テハ大師地先三、御幸地先四、中原村地先三、高津村地先二、計十二箇所ヲ施行シ内十四箇所ハ竣功セリ

機械掘鑿ハ右岸ニ於テ御幸地先二、中原村地先一、高津村地先一、計四箇所ヲ施工シ内二箇所ヲ竣功セリ而シテ其掘鑿土砂ハ何レモ一部ヲ築堤ニ利用シ一部ハ民地ニ棄捨セリ

築堤工事ハ左岸玉川村地先一、調布村地先一、矢口村地先一、六鄉村地先三、羽田町地先二、計八箇所、右岸大師地先一、御幸地先三、中原村地先二、高津村地先一、計七箇所ニ施行シ内二箇所ヲ竣功セリ

浚渫工事ハ本年度ニ至リ左岸ニ於テ唧筒式浚渫船ヲ以テ羽田町地先ニ右岸ニ於テハバケット式浚渫船ヲ用ヒ大師地先ニ夫々其工ニ著手シ前者ハ鐵管ニ依リ直接後者ハ土運船運搬ニ依リ陸揚シ更ニトロ運搬ニ依リ共ニ民地ニ捨土セリ

護岸工事ハ左岸玉川村地先一、右岸御幸、中原兩地先ニ各一、計三箇所ヲ施行シ何レモ竣功セリ

本改修工事本年度竣功額ハ七拾八萬壹千四百九拾六圓ニシテ起工以來ノ累計ハ四百六拾壹萬五千貳百八拾七圓トナレリ之ヲ總工費豫算七百七拾六萬貳千圓中十一年度迄ノ事務費貳拾壹萬九千七百拾貳圓(十二年度以降事務費ハ治水事業費事務費ニ編入サル)ヲ控除シタルモノニ對比スレバ六割一分餘ノ竣功ナリトス

工事竣功表ヲ掲グレバ左ノ如シ但シ表中「△」ハ製作品價格「▲」ハ捨土出願者負擔額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
築堤費	一、六三〇、五四二	八四、八〇〇	一五八、七二八	三一、七二九	一、七八九、二六〇	一一六、五二九	〇・七一	
浚渫費	二、八六一、一〇一	七三九、三三一	八九五、五六〇	八四、四七八	三、七五六、六六一	八二二、七八九	〇・五九	
護岸制水費	未竣功 二、五五二、二二二	九、七九〇	竣功 五六二、七二八	八一、八四八	未竣功 四、一一四、九五〇	一八、六三八	〇・三三	
用地費	三、五五二、二二二	二、二二九、二二九	二	二四〇、二〇九	四、一一四、九五〇	二、四七九、四三八		
船舶及機械費		四七五、二〇一		三三三、五八七		八〇八、七八八		
測量費		四九、三五三		三五〇、九四八		八四、四四七		
營業繕費		一六、四八三		二、九三五		一九、四一八		
施行中諸費		二九、七九四		六、一九		三五、九一三		
共濟組合給與金		二、七七八		六八、四七八		三〇四、八五三		
總計		三、八三三、七九一		七八一、四九六		四、六一五、二八七	〇・六一	
		五二〇、四七五		五五四、五九九		一、〇七五、〇七八		

第一九 阿賀川及阿武隈川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本工事ハ大正八年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トシテ工事費壹千參百七拾貳萬百五拾圓(内阿賀川七百參拾參萬九百七拾七圓、阿武隈川六百參拾八萬九千七百七拾參圓)事務費貳拾萬七千九百六拾圓、合計壹千參百九拾貳萬八千百拾圓ヲ以テ施行スルモノニシテ阿賀川改修區域ハ幹川ハ福島縣北會津郡大戸村大字雨屋以下同縣河沼郡川西村大字長井ニ至リ支川宮川ハ北會津郡荒井村以下阿賀川合流點迄支川湯川ハ若松市以下阿賀川合流點ニ至ル又阿武隈川改修區域ハ幹川福島縣安積郡永盛村以下同縣田村郡小泉村ニ至ル間同縣安積郡本宮町附近及福島市ヨリ下流同縣伊達郡五十澤村ニ至ル間ト支川荒川筋ハ同縣信夫郡荒井村地藏原以下幹川合流點ニ至ル郡山平野本宮市街地竝信達平野ノ主要部ヲ包含ス而シテ兩川改修區域距離ハ二十一里五町ナリトス

河狀竝計畫大要

阿賀川ハ阿賀野川ノ上流福島縣ニ屬スル部分ノ稱呼ニシテ阿賀野川全部ノ流域面積五百二十五方里(内福島縣管内四百十六方里)流路延長ハ五十八里(内福島縣管内三十一里十七町)ヲ有ス而シテ支川只見川及同川合流點以下ハ概ネ山間部ニ屬シ灌溉ノ利ニ乏シク、水害モ亦少シト雖モ只見川合流點ヨリ上流ハ會津平野ヲ貫流シ灌溉ノ利多キニ伴ヒ水害モ亦甚シク明治四十三年ヨリ大正八年ニ至ル十箇年ノ損害價額一箇年平均八拾六萬參千百拾六圓ニ達ス加之河道亂レ堤防薄弱若クハ無堤部ノ所多キニ依リ之ヲ現

狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明カナリ

阿武隈川ハ福島宮城ノ兩縣ニ互リ流域面積三百二十方里(内福島縣管内二百六十一方里)流路延長六十六里(福島縣管内五十里)ニ及ビ灌溉ノ利ヲ享クルコト多シト雖モ水害ヲ被ムルコトモ亦甚大ナリ殊ニ福島附近信達平野及郡山附近ニ於テ甚シク又信達平野左岸ニ在ル各支川ハ急流ニシテ其水源地ヨリ土砂ノ搬出甚シク從テ亂流ノ狀態ニ陥リ且洪水流量比較的多キヲ以テ一朝洪水ニ際會センカ其慘狀甚シク以テ本流ノ河狀ヲ害シ其被害亦年ト共ニ激甚ヲ極ム

本改修計畫ノ主眼トスル所ハ洪水防禦ニシテ即チ侵水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シ在來ノ無堤地ニ堤防ヲ築キ其薄弱ナルモノハ之ヲ補強シ低キモノハ之ヲ高メ河積不足ノ箇所ハ掘鑿竝浚渫等必要ノ工事ヲ施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニ在リ

高水流量ハ阿賀川本流ハ最大每秒時十五萬三千立方尺、支川宮川ハ一萬四千立方尺、支川湯川ハ六千五百立方尺、阿武隈川ノ本流ハ下流終端ニ於テ十九萬立方尺、支川荒川ハ四萬五千立方尺ト定メ河幅ハ大體阿賀川ノ本線ハ平地部二百間乃至三百間、山間部八十二間、支川宮川ハ五十間、支川湯川ハ四十間、阿武隈川ノ本流ハ百間乃至二百二十間、支川荒川ハ八十間乃至百二十間ニ整理セントス

施工狀況

阿武隈川改修工事ハ創業以來六箇年度ヲ經過シ各種ノ設備用地ノ買收モ殆ンド完了シ工事進捗ニ努ムベキ秋ナリシニ圖ラズモ行政整理ニ際會シ事業ヲ著シク縮少スルノ已ムヲ得ザルニ至リシハ甚遺憾トスルトコロナリ現今ノ施行區域ハ十二年度ト略々同様ナリ即チ幹川筋福島下流信達平野、本宮市街地及

本表ヲ更ニ流域ニ依リ區分スレバ次ノ如シ

阿賀川改修

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合		計
	數	金額	數	金額	數	金額	
護岸及制水費		四七、二四五		二一、五〇七		六八、七五二	
堰堤費		九四、一三二		四三、二七五		一三七、四〇七	
樋門費		一三、一七五		一八、四三五		三一、六一〇	
用地費	五、一八一 <small>段</small>	八七〇、七七六	三五五 <small>段</small>	四七、四〇八	五、五三六 <small>段</small>	九一八、一八四	〇・七八
附帶工事費補助		六、七九三		二、六七三		九、四六六	
機械費		一、二五六、〇〇二		五四、二五六		一、三一〇、二五八	
測量費		五、八一九		四		五、八二三	
水量標費		一六八		七四		二四二	
營業繕費		五〇、六三六		四、七〇一		五五、三三七	
電話費		一四、八八八		一、三二四		一六、二〇二	
惠傷與費		二四、八七〇		一三、七二四		三八、五九四	
死傷當當		九、一九一		四、四八八		一三、六七九	
臨時手當		二、七六八				二、七六八	
施行中諸費		二四二、五八八		七七、六四一		三二〇、二二九	
共濟組合給與金		一、八三四		二、六八〇		四、五二四	
總計		三、六七三、二〇三		五三一、四六四		四、二〇四、六六七	〇・三一

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘地費	立坪 三〇〇・三九	一〇六、一七九	立坪 二六、〇二八	八三、一三九	立坪 五六、〇六七	一八九、三一八	〇・二四
機械費	六・一五	一〇一、三四九	一・七九	二一、四三八	七・九四	一二二、七八七	
測量費		三六四、九七八		二五、七六七		三九〇、七四五	
水量標費		二、二一六				二、二一六	
營業繕費		一八		三二		五〇	
電話費		一三、六三六		三、二五三		一六、八八九	
惠賜費		四、三三七		一七九		四、四一六	
死傷手当費		八、三四二		五、七四五		一四、〇八七	
施行中諸費		三、〇〇五		二、三七五		五、三八〇	
死傷手当費		一〇五、九五六		三四、九五三		一四〇、九〇九	
共濟組合給與金		七一八		一、三四〇		二、〇五八	
總計		七八六、三三三		二〇八、八〇〇		九九五、一三三	〇・二四

阿武隈川改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚深費	立坪 八八、七八六	三三二、二五九	立坪 九、四七三	二一、四五〇	立坪 九八、二五九	三五二、七〇九	〇・三七
掘堤費	九二、一九二	一五四、六四七	六二、六三三	六八、〇八二	一五四、八二五	一二二、七二九	
築堤費	一六〇、〇六一	三六四、五四四	三一、八〇〇	三六、〇三四	一九一、八六一	四〇〇、五七八	
合計							

總計	共濟組合給與金	施行中諸費	臨時手当當	死傷手当當	惠與費	電話費	營業繕費	量水標費	測量費	機械費	附帶工事及補助費	用地費	樋門費	堰堤費	護岸及制水費
												四、五六六			
二、八八六、八八〇	一、一六六	一三六、六三三	二、七六八	六、一八六	一六、五二八	一〇、六五一	三七、〇〇〇	一五〇	三、六〇三	八九一、〇三四	六、七九三	七六九、四二七	一三、一七五	九四、一三二	四七、二四五
												一七六			
三三二、六六四	一、三四〇	四二、六八八	二、一一三	七、九七九	一、一三五	一、四四八	四二	四	二八、四八九	二、六七三	二五、九七〇	一八、四三五	四三、二七五	二一、五〇七	
												四、七四二			
三、二〇九、五四四	二、四五六	一七九、三二〇	二、七六八	八、二九九	一、七八六	三八、四四八	一九二	三、六〇七	九一九、五一三	九、四六六	七九五、三九七	三一、六一〇	一三七、四〇七	六八、七五二	
〇・五〇												一二三			

第二〇 太田川改修工事

(名古屋土木出張所)

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ當初工費參百四拾四萬圓、事務費貳拾壹萬圓、合計參百六拾五萬圓(内靜岡縣負擔百八拾貳萬五千圓)ヲ以テ同十四年度ニ至ル七箇年度繼續事業トシテ起工セシガ同十二年度ノ初メニ於テ施行年限ヲ延長シテ同十八年度ニ至ル十一箇年度繼續事業トシ更ニ時局ノ影響ヲ受ケ物價及勞銀ノ騰貴ニ依リ工費百拾九萬參千圓ヲ増額シ又河川法ニ依リ工事ヲ國ニ於テ直轄施行シ地方費負擔額モ十二年度以降ノ分ハ同法ニ依ルコトトナレルヲ以テ結局工費四百六拾九萬七千五百八拾圓、事務費拾四萬五千四百貳拾圓、合計四百八拾四萬參千圓(内地方費負擔額貳百六萬九千圓)ニ變更セラレタルガ偶大正十二年九月ニ於ケル關東地方未曾有ノ大震災ノ爲メ再ビ事業繰延ノ已ムナキニ至リ同二十年度迄ニ施行スル事トナレリ其施工區域ハ幹川筋ニ在テハ靜岡縣周智郡森町以下海ニ至ル約二十二籽、支川敷地川ニ在テハ同縣磐田郡三川村以下幹川合流點ニ至ル約七籽、支川原野谷川ニ在テハ同縣小笠郡原谷村以下幹川合流點ニ至ル約十九籽、小支川逆川ニ在テハ同縣小笠郡西山口村以下原野谷川合流點ニ至ル十籽、小々支川倉真川ニ在テハ同縣小笠郡西鄉村以下逆川合流點ニ至ル二籽餘、其他是等諸川ニ相關聯セル支川ノ一部ヲ合セ總計約六十籽ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ大井及天龍ノ二大河ノ間ニ介在シ中遠ノ南部ヲ貫流スル一小河川ニシテ流域面積五百八平方籽、

降水量饒多ナレドモ急流ニシテ平時水量乏シク殆ンド水運ノ便ヲ有セズ幹川流路ハ僅ニ四十四軒ニ過ギズト雖モ分合スル支派川二十有餘アリテ其總延長三百軒ニ達ス從テ灌溉段別モ亦比較的多ク九千六百八十ヘクタールニ互リ其利益大ナルモノアレドモ水害區域モ亦廣濶ニシテ九千二百二十四ヘクタールヲ算シ小河川ノ割合ニ損失ヲ受クルコト甚大ナリ其原因ハ主トシテ河狀ノ不良及堤防ノ薄弱ニ歸因ス明治四十三年乃至大正八年ノ十箇年間ニ於ケル水害損失價額ノ如キハ一箇年平均參拾貳萬百七拾五圓ニ當リ就中明治四十四年ノ水害ハ百貳拾六萬貳千六百七拾貳圓ノ多額ニ達シタリ而シテ本川ノ水害ハ獨リ田畑ヲ荒廢セシムルノミナラズ第一號國道タル東海道ヲ初メ重要道路ヲ數箇所ニ於テ橫斷スルヲ以テ一朝出水ノ際ハ忽チ交通ヲ杜絶シ從テ國有鐵道東海道線ノ如キモ不通ノ厄ニ會フコト稀ナラザルノ狀態ニ在ルナリ

本計畫ハ主トシテ洪水ノ疏通ヲ良好ナラシメ之ヲ防禦スルニ在リ改修ノ方法トシテハ在來ノ不規則ナル堤防ヲ改廢整理シ其薄弱ナルモノハ之ヲ擴築シ必要ノ箇所ニハ新ニ堤防ヲ設ケ河積不足ノ箇所ハ引堤或ハ掘鑿ヲ施シ以テ河狀ヲ矯正シ屈曲ヲ緩和シ時ニ新川ヲ開鑿シテ之ニ換ヘ支川ニシテ逆流ノ虞アルモノ及各用惡水路等ニハ必要ニ應ジ水門等ヲ築設シテ洪水ノ侵入ヲ防ガントス本計畫ニ採用セル最大流量及河幅等ハ次ノ如シ

河川名	流量	河幅	高水位勾配	河川名	流量	河幅	高水位勾配
太田川 原野谷川 合流點以下	自 一、九五〇 至 七〇〇	四二〇	自 一、二〇〇分一 至 二、四三分一	原野谷川	自 二、五五〇 至 三、〇〇〇	四〇〇	自 四、〇〇分一 至 七、三七分一
	自 七〇〇 至 九七五	九〇	自 二、四三分一 至 八七〇分一		自 三、三〇〇 至 九七五	七五	自 二、〇四分一 至 一、二〇〇分一

河川名	流量	河幅	高水位勾配	河川名	流量	河幅	高水位勾配
逆川	自 三五〇 ^{毎秒粒} 至 五〇〇	自 三六 ^米 至 六	自 五五分一 至 七五分一	倉真川	自 一六五 ^{毎秒粒} 至 三六	自 六〇分一 至 六三分一	

堤防ノ標準的斷面ハ太田川原野谷川合流點以下河口ニ至ル間ハ馬踏三米五、表法二割、裏法二割五分トシ
 太田川原野谷川合流點以上及敷地川、逆川ハ大部分馬踏幅三米乃至三米五、兩法共二割トシ其他ノ小支川
 ハ馬踏幅二米七、兩法二割トス尙勾配ノ急ナル箇所及水勢ノ激突スル虞アル箇所ニハ相當ノ保護工事ヲ
 施スモノトス

施工狀況

本工事ハ大正八年度創業以來施行準備ニ著手シ八年度及九年度ニ於テ實地測量及土地買收調査ヲ施行
 シ同十年度ヨリ同十二年度ニ至ル三箇年度ニ於テ第一次、第二次、第三次ノ三回ニ互レル買收ヲ行ヒ改修
 區域ノ殆ンド全部ニ互リテ約百五十三町歩ノ土地買收及地上物件移轉ヲ完了セルガ本年度ニ至リ更ニ
 局部買收ノ要ヲ生ジ之レガ一部ヲ殘シ土地約一町一段歩ヲ買收セリ而シテ本年度支拂ヒタル買收費ハ
 右土地買收費六千九百八拾四圓餘、地上物件移轉料壹千參百四拾八圓ノ外前買收ニ對スル手續上遲延セ
 ル物件移轉料參千七百貳拾七圓ナリトス
 工事ニ在テハ大正十年度中買收區域ノ一部ヨリ著手シ漸次各所ニ及ボシ前年度ニ至リテ區域殆ンド全
 川ニ互リ專ラ築堤工事ノ進捗ニ努メタリシガ本年度ニ於テ更ニ築堤十箇所、掘鑿五箇所、護岸二箇所、附帶
 工事十一箇所ヲ著手シ工事ノ遂行ヲ圖ルト共ニ特ニ太田川及原野谷川中流新川開鑿部ノ工事ニ力ヲ致

シ其疏通ヲ急ガシメタリ而シテ前年度ヨリ施行中ノモノハ築堤二十箇所、掘鑿十五箇所、假設物一箇所、附帶工事五箇所ニシテ本年度中竣功セルモノ築堤八箇所、掘鑿六箇所、附帶工事十一箇所ヲ除キ本年度未施行中ノモノハ築堤二十二箇所、掘鑿十四箇所、護岸二箇所、假設物一箇所、附帶工事五箇所ナリトス本年度ノ功程ハ掘鑿土砂約四十三萬六千三百立米ニシテ内掘鑿費支辨ノモノ二萬一千二百立米餘此工費五千九百四拾六萬圓餘、築堤工事土量約六十萬三千三百立米全部築堤費支辨ノモノニシテ此工費貳拾壹萬八千七拾九圓餘ナリトス而シテ工事ハ爾來主トシテ人力ニ依リ又處ニ依リ土運搬ニ馬力ヲ以テシタルガ土取箇所ハ凡テ低水路ノ開鑿或ハ切擴ゲニシテ加フルニ土質概ネ砂利又ハ硬粘土ニシテ掘鑿運搬共ニ困難ニシテ加之人夫ノ出役意ノ如クナラズ工程ノ不振ト共ニ工費ノ不廉ヲ來シ工事區域ノ擴大ニ從ヒ其度ヲ益々甚シカラシムルニ鑑ミ本年度ニ至リ小型掘鑿機並機關車各一臺ヲ使用スルコトトシ專ラ新水路開鑿部ニ利用セルヲ以テ幾分工程ノ遲滯ヲ緩和スル事ヲ得タリ

本年度太田川改修工事ノ竣功額ハ參拾四萬貳百六拾九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ總竣功額ハ貳百拾四萬貳千七百四拾圓トナリ總工費豫算四百六拾九萬七千五百八拾圓ニ對シ約四割六分ニ當ル其工事竣功表ハ次ノ如シ但シ「*」ハ利用土ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 八四五、四四九 立米	三〇四、〇二六 円	六〇〇、三二〇 立米	二一八、〇八〇 円	* 一、四四五、七六九 立米	五二二、一〇六 円	〇・五五
浚渫費	* 七〇、四二六 立米	一八、九二〇 円	* 四一、一三三 立米	五、九四六 円	* 一一、二八、〇五七 立米	二四、八六六 円	〇・三二

種別	前年度迄		本年度		合		計	功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
護岸費				四、〇七八		四、〇七八		割合
假設物費		三、一六三		二、八五三		六、〇一六		
用地費	一、五二六 <small>段</small>	一、〇六三、四八一	二	一、二〇五九		一、〇七五、五四〇		
附帶工事費		六、八三五		一四、七二三		二一、五五八		
船舶及機械費		三三二、七〇八		三三、三三〇		三五四、〇三八		
測量費		一一、四四九		八七六		一二、三二五		
營繕費		一〇、六〇二		四九七		一一、〇九九		
施行中諸費		一六〇、二〇七		四八、〇三六		二〇八、二四三		
共済組合給與金		一、〇八〇		一、八〇一		二、八八一		
總計		一、八〇二、四七一		三四〇、二六九		二、一四二、七四〇	〇・四六	

第二二 富士川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ工費九百參拾萬圓(上流部七百萬圓、下流部貳百參拾萬圓)ナリシガ豫算編成當時ニ比シ一般物價及勞銀ノ昂騰甚シク工費ニ不足ヲ告グルヲ以テ同十二年度以降工費ヲ増額シテ壹千貳百萬圓(上流九百萬圓、下流部參百萬圓)ニ改メ施行年限ヲ延長シテ同二十年度ニ至ル十二箇年度繼續事事トセリ其施行區域ハ上流部ニテハ幹川山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ同縣南巨摩郡五開村至ニル二十村、支川、笛吹川ハ同縣東八代郡石和町ヨリ同縣西八代郡市川大門町三川合流點ニ至ル十九村、又下流部ニテハ靜岡縣庵原郡富士川町ヨリ以下海ニ至ル八村、合計四十七村ノ間ニ改修ヲ施行スルノトス

河狀並計畫大要

富士川ハ其流域長野、山梨、靜岡ノ三縣ニ跨リ流域面積四千五百三十方村ニシテ内平地ハ六百十方村ニ過ギズ支派川ヲ合セ流路延長一千七百七十八村、航路延長九十二村、灌溉面積百八十二方村、水害區域百三十五村ニシテ明治四十三年ヨリ大正八年ニ至ル十箇年間ニ於ケル平均一箇年水害損失價額九拾五萬八百五拾六圓ニ達シ其内最大水害ハ明治四十三年ノ五百拾壹萬參千九百八圓ナリ
本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスル

モノニシテ本計畫ニ採用シタル洪水流量ハ左ノ如シ

山梨縣下	釜無川	龍王村ヨリ笛吹川新合流點ニ至ル區間	每秒三、一〇〇 <small>粒</small>	
	石和町ヨリ荒川合流點ニ至ル區間	同	二、二〇〇	
山梨縣下	荒川合流點ヨリ蘆川合流點ニ至ル區間	同	二、五〇〇	
	蘆川合流點ヨリ富士川合流點ニ至ル區間	同	二、八〇〇	
靜岡縣下	富士川	笛吹川新合流點ヨリ天神瀧ニ至ル區間	同	五、六〇〇
	富士川	松野村ヨリ海口至ル區間	同	九、八〇〇

改修方法トシテハ上流部山梨縣下ニ屬スル區域中釜無川筋龍王寺村以下花輪村地先淺原橋ニ至ル部分ハ現今左右兩岸共堤防堅固且其位置宜シキヲ以テ在來ノ儘トシ唯兩岸堤脚ヨリ制水ヲ出シ流心ノ堤脚ニ接近スルヲ防ガントス又笛吹川ニ於テハ河積不足ナル箇所ハ河幅ヲ擴張シ掘鑿ヲ施シ又一部河床ノ隆起著シキ部分ニハ浚渫ヲ行ヒ堤防ノ薄弱ナル箇所ハ嵩置腹付ヲ爲サントス而シテ現今笛吹、蘆ノ兩川ハ共ニ中巨摩郡忍村ニ於テ釜無川ニ合シ然カモ釜無、蘆ノ兩川ハ共ニ急流ニシテ河床高ク笛吹川ハ其間ニ介在シ勾配緩ナルガ爲メ其合流口閉塞セラレ洪水ノ排疏頗ル困難ナルヲ以テ本改修ニ於テハ笛吹川ノ蘆川ト共ニ新河道ニ依リテ三籽ノ下流ニ導キ西八代郡高田村地内ニ於テ幹川ニ合セシメ笛吹川ノ疏通ヲ助ケントス

富士川(釜無、笛吹、蘆ノ三川合流點以下富士川ト稱ス)ハ猷澤町地先禹ノ瀨ニ於テ狹塞セラレ水面勾配緩トナリ從テ三川合流以下現川敷ハ計畫流量ヲ排疏スルニ足ラザルヲ以テ前述ノ如ク笛吹川ヲ分流シ河幅ヲ擴張シ堤塘ヲ嵩置シ加フルニ掘鑿ヲ施シ充分ナル流積ヲ與ヘントス又禹ノ瀨以下ニ在テハ大柳川殆

シド直角ニ本流ニ合流シ本川ノ高水疏通ヲ阻ムノ虞アルニ依リ床固ヲ築造シ其河床ヲ整正セントス尙
蘆川、戸川及小柳川等ニモ床固ヲ設クルモノトス

下流部静岡縣下ニ屬スル區域中岩松村以下東海道線鐵道橋以上ハ流勢ノ激衝スル所略一定スルヲ以テ
現在工作物ノ機能ヲ増進セシムルニ努メ鐵道橋以下ニ於テハ水勢ノ激衝スル堤脚ニハ制水ヲ出シ左岸
下流無堤ノ箇所ニハ新ニ堤塘ヲ設ク尙上下流部改修區域ヲ通ジ堤塘護岸等ハ必要ニ應ジテ擴築或ハ増
築ヲ爲スモノトス

山梨縣南巨摩郡五開村ヨリ静岡縣庵原郡富士川町ニ至ル約五十軒ノ間ハ殆ント山間部ニシテ平地少ク
洪水ニ因ル被害比較的重大ナラザルヲ以テ本改修計畫ニ計上セズ堤防ハ上流部釜無川及富士川ニテハ
馬踏六米、兩法二割五分、笛吹川ニテハ馬踏六米、兩法二割トシ天端ヲ計畫高水以上歟澤町附近ニテ一米八
ト爲シ上流ニ至ルニ從ヒ漸次此餘裕ヲ減ジ釜無川筋淺原橋ニテ一米五、笛吹川筋鶉飼橋ニテ一米二タラ
シム、又下流部ニテハ左岸堤ハ馬踏八米ニシテ岩松村地先ニ於ケルモノハ表法三十割、裏法二割、加島村及
田子浦村地先ニ於テハ表法二割、裏法六割トシ右岸堤ハ馬踏六米、表法二割五分ヲ標準トシ天端ヲ計畫高
水位以上一米八トシ河口ニ至ルニ從ヒ此餘裕ヲ減ジ一米タラシム

施工狀況

本工事ハ大正九年度ノ創業ニシテ同年度ニ於テハ上下流ニ土地收用事務所ヲ開設シテ土地買收調査ニ
著手シ翌十年度ヨリ買收協議ヲ開始セシガ買收事務ノ進捗ニ伴ヒ下流土地收用事務所ハ大正十年八月
又上流土地收用事務所ハ同十三年六月ニ閉鎖セラレ殘務ハ上下流改修事務所ニテ夫々處理シ本年度迄

ニ殆ンド全部ノ買収ヲ終レリ其段別百八十七町三段九畝四歩之レニ地上物件移轉料及補償費ヲ合セ用地費九拾貳萬六千貳百參拾六圓ヲ支出セリ工事ノ施行ニ關シテハ下流部ニテハ大正十年四月ニ又上流部ニテハ翌十一年一月何レモ改修事務所ヲ設ケ築堤掘鑿及護岸制水工事ニ著手シ前年度迄ニ築堤百三十二萬五千七百十八立米、浚渫八十四萬五千四百六十一立米ヲ施工セリ

今年度施工ノ概況ヲ述ベンニ上流部ニテハ前年度ヨリ繼續ノ市川、歟澤、增穂、南湖、豐和、上野ノ六築堤、市川、增穂、南湖、豐和ノ四人力掘鑿及新地護岸ノ十一工事竝本年度著手ノ大柵、戸川、左岸、富箇ノ三築堤、風早、向新田、毛戸尻ノ三人力掘鑿及北畑護岸第二玉石採集運搬、戸川床固ノ三工事ヲ合セテ九工事、合計二十工事ヲ施工シ以上ノ内戸川左岸築堤及新地護岸ハ竣功セリ

工事施行區域ハ釜無川筋淺原橋ヨリ下流笛吹川筋桃林橋ヨリ下流ノ部分ニシテ人力掘鑿ニテハ富士川高水敷及寄洲竝新笛吹川低水路ヲ掘鑿シ本年度五十萬八千八百八十六立米ヲ成工シ築堤ニテハ富士川、笛吹川兩岸ノ新堤築設及ビ舊堤擴築ノ爲メ土砂五十一萬二千五百七十二立米ヲ築堤敷ニ搬入シ五十四萬三千三百二十五立米ヲ築立テ法面芝付十一萬八千六百六十七方米ヲ施工セリ

富士川筋歟澤町地先ニ於ケル在來戸川ハ富士川本流ニ突出シ洪水ノ疏通ヲ妨グルヲ以テ約六十米右岸寄ニ附替フルコトトシ前年度ニ戸川右岸築堤ヲ本年度ニ戸川左岸築堤ヲ竣功シ新地護岸ニテ戸川右岸築堤法面保護ノ爲メ前年度來石張ヲ施工シ本年度二千三百三十二方米ノ工程ヲ以テ長五百三十五米ヲ竣功シ又北畑護岸ニテハ新地護岸ト同ジク戸川左岸築堤法面保護ノ爲メ石張七千四百十方米、長千百米ヲ了ヘ八分通り竣功ス而シテ戸川床固ハ新戸川筋ノ河床勾配ヲ整正センガ爲メ川床ヲ橫斷シ長約七十米ノ床固三箇所ヲ施工スルモノニシテ二箇所ハ殆ンド竣功セシヲ以テ近ク新水路ニ導流シ得ベク又在

來戸川左岸堤モ除却中ニシテ釜無、笛吹、蘆ノ三川落合ヨリ下流部ノ掘鑿工事モ大半竣功セシニ依リ今後富士川及笛吹川ノ高水排疏上好影響ヲ與フルニ至ラン

第二玉石採集運搬工事ハ護岸用玉石ヲ大柳川合流點附近ヨリ所要箇所へ採集運搬スルモノニシテ本年度内二千四百二十立米ヲ採集運搬セリ

下流部ニ於テ本年度施工シタルハ前年度ヨリ繼續ノ松岡、岩本、加島ノ三築堤、石材斫出同運搬及松岡護岸ノ六工事竝本年度著手ノ蒲原築堤第二石材運搬、鐵筋混凝土柱製作、第二鐵筋混凝土柱製作、宮下護岸及宮下制水ノ六工事、合計十二工事ニシテ以上ノ内石材運搬、松岡護岸、鐵筋混凝土柱製作、宮下護岸及宮下制水ノ五工事ハ竣功ヲ告ゲタリ

本年度施工ハ四築堤工事ニシテ土砂五萬七千二百一立米ヲ築堤敷ニ搬入シ之ヲ築立テ法面芝付ケ四萬七千六百三十五方米ヲ施工セリ斯クシテ左岸堤延長五千五百五十米ノ舊堤擴築及新堤築設ハ殆ンド竣功ニ近ヅキ又右岸堤延長二千六百五十米ノ擴築モ七分通りノ竣功ヲ見タルニ依リ築堤工事ハ本年度ニテ殆ンド完成シ今後ハ護岸、制水工事ヲ餘スノミトナレリ

石材斫出ハ静岡縣庵原郡松野村地先富士川ニ面セル當所採石場ヨリ改修工事用石材ヲ斫出スルモノニシテ前年度著手セルガ本年度ニ於テハ四千四百二十八立米ヲ斫出シタリ又石材運搬ハ斫出石材ヲ工業船ニ積込ミ富士川ヲ下リ所要箇所へ運搬スルモノニシテ第二石材運搬ヲ合セ本年度内四千四百十六立米ヲ運搬シタリ

鐵筋混凝土柱製作工事ハ護岸、制水、根固トシテ敷設スル混凝土方格枠ノ方格材及敷成材ヲ豫メ製作スルモノニシテ第二鐵筋混凝土柱製作工事ヲ合セ本年度内方格材一萬三千九百四十九本及敷成材九千二百

十一本ヲ作成セリ

松岡護岸ハ前年度ヨリ引續キ施工年度内改良木床三百八十方米、割石張二千四百七十三方米ヲ施工シ年度内長百八十米ヲ竣功ス

宮下護岸ハ富士川左岸加島築堤ノ一部富士川本流ノ激衝スル區間延長九十米ニ根固トシテ五層建幅六米、混凝土方格柵ヲ敷設シ在來玉石張ノ不完全ナル箇所ヲ割石張ニ代フルモノニシテ本年度内混凝土方格柵四百八十方米及ビ割石張七百五十四方米ヲ施工シ竣功シタリ

宮下制水ハ宮下護岸施工箇所ニ當リ制水ヲ設ケ堤防ノ安全ヲ圖ルモノニシテ其長六十米、天端幅八米、法勾配二割乃至三割、天端高ヲ計畫高水位トシ周圍ニ根固トシテ五層建幅約二十米ノ混凝土方格柵ヲ敷設シ法面及ビ天端ニ割石張ヲ爲スモノトス年度内混凝土方格柵四千二十方米及割石張三千三百五十三方米ノ工程ヲ以テ竣功シタリ即チ以上三工事ヲ合セ改良木床三百八十四方米、混凝土方格柵四千四百九十二方米及割石張六千五百八十方米ヲ施工ス

改修工事著手前富士川本流ハ新堤敷ヲ遮斷シ數度ノ出水ニ際シ田子浦村ノ耕地ヲ礫洲ト化セシメ同村五貫島ノ如キハ一小堤ニ依テ辛フジテ冠水ヲ免レタルガ如キ極メテ悲惨ナル危險状態ニ在リシガ大正十年度田子浦築堤工事ニ著手シ爾來其進捗ニ努メ水除等其施設宜シキヲ得タルニ依リ本年度ハ休工セシモ富士川本流ハ遠ク西偏シテ殆ンド左右兩岸堤間ノ中央部ヲ流ルルニ至リ加之本年施工ノ宮下制水工事ノ爲メ新堤ハ極メテ安全ナルヲ得新堤内ノ砂礫荒廢地七十餘町部ハ漸次開墾セラレツツアリ尙新堤ノ外荒廢地二十餘町歩モ亦將來利用セラルルニ至ラン

本年度ノ工事功程ハ上下流部ヲ通ジ人力掘鑿五十萬八千八百八十六立米全部築堤工事ニテ掘鑿築堤土

運搬五十六萬九千七百七十三立米此工費參拾五萬七千八百貳拾九圓、護岸制水工費拾七萬七千九百八十八圓、工費合計五拾參萬五千八百拾七圓ナリ

富士川改修工事本年度ノ竣功額ハ六拾四萬參千四百參拾八圓ニシテ起工以來ノ累計參百拾壹萬八千五百五拾五圓ナリトス之ヲ總豫算壹千貳百萬圓ニ對比スレバ二割六分ノ竣功トナレリ左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「*」ハ利用土ヲ示セルモノ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	一、三二五、七一八 <small>粒</small>	九五三、七六二 <small>円</small>	五六九、七七三 <small>粒</small>	三五七、八二九 <small>円</small>	一、八九五、四九一 <small>粒</small>	一、三二一、五九一 <small>円</small>	〇・四〇
浚渫費	* 七七四、七〇七 七七〇、七五四	五三、〇五五	* 五〇八、八八六	—	* 一、二七九、六四〇	五三、〇五五	〇・二六
護岸制水費	—	四三、七五一	—	一七七、九八八	—	二二一、七三九	〇・〇五
附帶工事費 <small>(管理者施行)</small>	—	二、八九八	—	六、七五九	—	九、六五七	〇・〇二
用地費	—	八六三、一八三	—	六、五一八	—	八六九、七〇一	〇・九八
船舶及機械費	一、八六〇、三二六 <small>段</small>	三一、四四四	一、二二五、八八八 <small>段</small>	二九、三三三	一、八七三、九〇四 <small>段</small>	三四〇、七五七	—
測量費	—	一一、五九九	—	一、三三二	—	一二、八三〇	—
營繕費	—	一七、一一五	—	四、一九〇	—	二一、三〇五	—
施行中諸費	—	二二七、〇七九	—	五七、五二七	—	二七四、六〇六	—
共済組合給與金	—	一、三三二	—	二、〇八三	—	三、三三四	—
總計	—	二、四七五、一一七	—	六四三、四三八	—	三、一八、五五五	〇・二六

第二二 圓山川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本川ハ從來第二期川ニ屬シタルモ關係地方ニ於テ急施ヲ請願シ第一期川ニ準ジ國庫ヨリ工費半額ヲ補助シ且明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施工スルコトトナレルモノニシテ當初大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百萬圓（工事費四百六拾五萬圓、事務費參拾五萬圓）ナリシガ歐洲戰亂ニ基因スル物價騰貴ニ依リ二割四分ヲ増額シタルガ爲メ總工費豫算六百貳拾萬圓（工事費五百九拾壹萬壹千圓、事務費貳拾九萬九千圓）トナリ既定年度割ヲ變更シ竣功年度ヲ同二十三年度迄延長セラレタリ

其工事施行區域ハ幹川左岸兵庫縣城崎郡國府村、右岸同郡中筋村以下海ニ至ル二十三籽三、支川出石川左岸兵庫縣出石郡室埴村、右岸同郡出石町以下圓山川合流點ニ至ル九籽四ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ兵庫縣朝來郡生野町圓山字内尾谷ニ發スルヲ以テ圓山川ノ稱アリ兵庫縣下ニ於テハ加古川ニ亞グ大河ニシテ其流域但馬ノ大部ヲ占メ沿川ニハ豐岡町ヲ初メトシ城崎、出石、八鹿、和田山ノ諸名邑アリ河口ニハ津居山ノ要津ヲ有ス但馬唯一ノ平野ヲ南北ニ貫流シ水運ノ便、灌漑ノ利アルモ比年洪水頻リニ臻リ特ニ明治四十年八月及大正元年、同七年、同十年、同十二年ノ出水ノ如キ其被害甚大ニシテ沃野家屋

殆ンド水底ニ葬ラレ一望大湖ノ觀アリ其減水遅々トシテ數日ニ互リ慘狀言語ニ絶ス然カモ豊岡盆地ハ地盤低ク中位ノ出水ニ際シテモ其汎濫面積廣ク被害又大ナリシ

流域總面積一千三百十方籽餘ニシテ幹川流路ノ延長六十七籽餘支流ヲ合スレバ六百三十籽ニ達ス其平地面積凡ソ百九十方籽ニシテ全流域ノ一割四分ヲ占ム支川ノ主ナルヲ大屋、八木及出石ノ各川トス

本流域地方ハ降水日數極メテ多ク明治三十一年以降大正十二年ニ至ル二十六箇年間ノ平均ニ依レバ一箇年百九十日ハ雨雪アリ其降水量一千九百五十九籽ニ及ビ一日ノ最大量ハ二百五十籽(明治四十年八月西氣城崎)ニ達セリ

本流域ニ於ケル水害ハ殆ンド毎年之ヲ見ザルハナク時ニ一箇年二、三回ニ及ブコトアリ明治四十年、大正元年、同七年、同十年、同十二年ハ近年ニ於ケル顯著ナルモノニシテ大正七年ノ洪水ノ如キハ湛水段別三十九方籽六、浸水家屋三千餘戸ニ及ビ其損失價額貳百拾參萬圓ニ達シ同十年ニハ百八拾六萬圓ノ損失ヲ招ケリ

本改修計畫ノ要旨ハ洪水防禦ニ在ルヲ以テ高水量ニ對スル相當ノ河積ヲ與ヘテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ屈曲甚シキ箇所ニハ新川ヲ開鑿シテ疏通ヲ速カナラシメ堤防ハ新設又ハ増築シテ汎濫ヲ防ギ併セテ各支川ニハ逆水門ヲ設ケテ逆水ノ被害ヲ輕減セントスルニ在リ

計畫高水流量ハ出石川合流點以上幹川ニ於テハ二千三百六十五立米、同下流ニ於テハ二千七百八十三立米、支川出石川ニ於テハ五百立米トシ計畫高水位ハ大體ニ於テ大正元年ノ高水位ニ準據ス幹川筋目高村ヨリ國府村八代川合流點附近ニ至ル間ハ大體現狀ニ依リ河狀ヲ整理シ又ハ堤防ヲ補強スルニ止メ以下豊岡町ニ至ル間ハ河幅ノ擴大ヲ爲スト同時ニ新川ヲ開鑿シ之ニ依リ洪水ヲ快疏セシム豊岡町以北玄武

洞ニ至ル間ハ河幅ヲ擴張スルノ要アリ之レヨリ下流ハ所謂山間部ニシテ河積狹隘ノ箇所アルモ比較的
不急ノ工事ナルヲ以テ其特ニ著シキ障害トナル箇所ニ除却工事ヲ施ス見込ナリ

河幅ハ出石川合流點附近ニテ三百米トシ漸次擴大シテ田鶴野村赤石ニ於テ約三百六十米ニ達セシム幹
川堤防ハ馬踏幅五米五法勾配ハ全部二割トシ裏法ハ二割ヲ以テ堤防頂點ヨリ二米ヲ下リ之ニ幅三米ノ
小段ヲ設テ以下二割五分ニ變ヘ現地盤ニ達ス馬踏高ハ計畫高水位ヨリ一・二米ノ餘裕アラシム出石川ハ
兩岸ノ堤塘ノ位置甚ダ不規則ナルモ河幅概シテ廣濶ナルガ故ニ現狀ニ則ルコトトシ敢テ變更ヲ企テズ
只其中流及下流部ニ於テ特ニ狹隘ナル箇所介在セルヲ以テ最小幅ヲ百米トシテ擴大ヲ行フモノトス堤
防ハ馬踏ヲ幅五米五勾配ハ表法及裏法共二割トシ馬踏高ハ計畫高水位ヨリ〇米九乃至一米二ノ餘裕ア
ラシム堤防延長四十餘軒ニシテ所要土量約三百萬立米ナリ掘鑿竝浚渫土砂ハ約三百八十五萬立米トス
護岸工ハ河道ノ彎曲セル部分又ハ流勢ノ激衝スル部分ニ施行シ現在定著セル河岸ハ成ルベク之ヲ利用
セントス樋門ノ主ナルモノヲ擧グレバ六方川、八代川及奈佐川ノ逆水樋門ニシテ其他城崎町ニ於テハ大
溪川吐口ニ亦豐岡町ニ於テハ北端舊川締切箇所ニ之ヲ設置シ共ニ町内ノ惡水排除及水運ヲ司ラシム
附帶工事ハ用惡水路ノ新堤防ヲ貫流スル箇所ニ施行スベキ樋管ノ類ヲ始メトシ橋梁、水路等三十餘箇所
ニ及ベリ

施工狀況

本改修工事ハ大正九年七月ノ臨時議會ニテ可決セラレ同年度ハ實施測量準備ニ止マレルガ大正十年
ニ於テハ幹支川大部分ノ縱橫斷測量及高水流量測定ヲ爲シ同十一年度ニ於テハ之ガ殘餘ノ縱橫斷測量

ヲ終了シ且幹川一里三十一町ヨリ同四里四町(出石川合流地點)迄ノ法線ヲ決定シ該幅杭ヲ設置スルト共ニ收用事務ヲ開始シ幹川一里三十一町ヨリ同三里十町ニ至ル間ノ土地ヲ第一次トシテ買收價格ヲ大正十二年二月ニ發表シ同十二年度ニ於テ第二次トシテ三里十町ヨリ三里二十八町ニ至ル間ノ土地買收及地上物件移轉料價格竝第一次土地買收區域内ニ於ケル地上物件移轉料價格ヲ發表セリ同年度四月以降主トシテ幹川一里二十一町ヨリ三里三町半ニ至ル間ニ掘鑿工及築堤工ヲ施シ城崎郡田鶴野村一日市地先ノ石張護岸工事ニ著手シ同時ニ護岸及築堤用石材採取ヲ目的トスル採石工ヲ初メタリ

本年度ハ前年度ニ引續キ一里三十一町ヨリ三里三町半ニ至ル掘鑿工及築堤工ヲ進捗セシムルト共ニ其剩餘土砂ヲ豊岡町小田井裏ニ放棄シ改修工事ニ依ル同部落ノ家屋移轉ヲ容易ナラシメタルモ時恰モ冬期ニ際シ雨雪ノ多カリシト其掘鑿土砂ハ右岸ニ多ク左岸ニ少キ爲メ土砂移動ニ支障多ク工事進捗意ノ如クナラズ右岸田鶴野村ニ於ケル築堤工事ノ約七割ヲ完成セシメタルニ過ギズ其三里三町半ヨリ上流ノ掘鑿及築堤工ニ著手シタル外前年度ニ引續キテ採石工ヲ起シ尙右岸六方川吐口ニ於テ護岸工ニ著手セルモ留枕及沈床工事ヲ竣功セルニ止マレリ而シテ一日市地先ノ護岸ハ約八割ヲ竣功セリ

本川改修工事ノ本年度竣功高ハ五拾七萬壹千四百圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ貳百拾貳萬七千四百拾八圓ナリ之ヲ總工費(事務費ヲ含ム)豫算額六百貳拾萬圓ニ比スレバ三割四分ノ竣功トナル而シテ其工事竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
築堤費	一八五、三三八 <small>米</small>	三、二二七 <small>圓</small>	五六七、五六九 <small>米</small>	一四、七四九 <small>圓</small>	七五二、八〇七 <small>米</small>	一七、九七六 <small>圓</small>
竣功					〇・二〇 <small>割合</small>	

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	二五七、六五六 <small>米</small>	九四、八九二 <small>円</small>	六六五、五〇九 <small>米</small>	二〇六、八一六 <small>円</small>	九二三、一六五 <small>米</small>	三〇一、七〇八 <small>円</small>	〇・三二
護岸制水費		一四、四一二		五三、一六〇		六七、五七二	〇・二九
特種工事費	九七九 <small>段</small>	一、二二二、九一〇	二六〇 <small>段</small>	一四三、二一八	一、二三九 <small>段</small>	一、三六六、一二八	〇・七六
用地費							
附帶工事費補助							
船舶機械費		一四四、四七九		一一、五三七		二五六、〇一六	
施行中諸費		七六、〇九八		四一、九二〇		一一八、〇一八	
總計		一、五五六、〇一八		五七一、四〇〇		二、一二七、四一八	〇・三二

第二三 木曾川上流改修工事

(名古屋土木出張所)

緒言

木曾川上流改修ト稱スルハ單ニ木曾川本流ノミヲ改修スルノ謂ニ非ズ所謂木曾川系統ニ屬スル河川ノ主要ナル長良、揖斐、簸ノ諸川ヲモ併セテ改修セントスルモノナリ

本川ノ流域ハ長野、岐阜、滋賀、三重、愛知ノ五縣下ニ跨リ其流末ノ貫流スル處ハ即チ尾濃、勢ノ平野ニシテ利害ノ最モ重大ナル部分タリ此區域ハ人口稠密田野遠ク開ケ農桑ノ業盛ニシテ交通ノ便開ケ産業大ニ發達セリ灌漑ノ利、舟楫ノ便等古來河川ノ惠澤ニ浴スルコト多大ナルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ムルコトモ亦莫大ニシテ一朝堤防ノ決潰ヲ見ンカ廣袤幾萬町歩ノ平野ハ忽チ水底ニ沒シ人畜ノ死傷、財産ノ損耗舉テ數フ可ラズ就中明治二十九年ノ洪水ノ如キハ其慘害言語ニ絶シ尙世人ノ記憶ニ新ナル所ナリ而シテ尾ノ一部、濃勢大部ノ平地ハ地勢低濕ナルヲ以テ假令破堤ノ難ヲ免ルト雖モ少シク霖雨ニ際會セバ惡水停滯シテ容易ニ排疏セズ稻田爲ニ水腐ニ歸シ三年一穫ノ如キハ寧ロ竊ニ僥倖トスル所ナリキ事情此ノ如キヲ以テ古來屢々改修ノ舉アリシト雖モ其施工多クハ局部ニ止マリシガ爲メ未ダ充分ノ效果ヲ奏スルニ至ラザリキ然ルニ明治ノ昭代ニ至リ上段述ブルガ如キ慘狀一日モ看過ス可ラザルヲ以テ内務省ハ夙ニ木曾、長良、揖斐三川ノ改修ヲ企テ明治二十年度ヨリ改修工事ニ著手セリ其目的ハ洪水ノ被害ヲ避ケ惡水ノ疏通ヲ圖リ兼テ舟楫ノ便ヲ改良セントスルニ在リ而シテ其方法ノ主眼トスル所ハ三川ヲ分流シテ伊勢灣ニ注ガシムルモノニシテ所謂三川分流之ナリ爲ニ彼此連絡ノ諸派流ヲ閉塞シ各河路ヲ矯正

シ水量ニ應ジテ河幅ヲ規定シ堤防ノ改築ヲ行ヘリ如此ニシテ右分流ノ工事ヲ終結シタルハ同三十三年ニ在リテ全部ノ完成ヲ告ゲシハ大正元年ナリキ其結果ハ豫期ノ効益ヲ舉グルコトヲ得テ關係區域ハ全ク在來ノ面目ヲ一新セルノ觀アリ然ルニ右改修區域ノ上流ニ屬スル部分ハ河幅狹隘屈曲當ヲ得ザルノ箇所アリ且河底埋堆シ堤防亦薄弱ナルノミナラズ無堤ノ箇所スラアリテ洪水ノ脅威ヲ感ズルコト痛切ニシテ出水毎ニ地方民ハ必死ノ努力ヲ費シテ水防ニ努メ以テ僅ニ破堤ヲ免ルルノ現狀ナリ若シ夫レ一朝破堤ノ厄ニ會センカ當ニ上流廣漠タル平野ヲ水底ニ沒スルノミナラズ濁流更ニ下流ヲ襲ヒ下流改修ノ效果ヲ沒却スルノ虞アリ是上流改修ノ必要ナル所以ナリ

本工事ハ當初大正十年度ヨリ同十九年度ニ至ル十箇年度繼續事業ノ豫定ナリシガ同十一年度ニ至リ十二箇年度繼續事業トナリ更ニ同十二年九月一日ノ關東大震災ノ影響ニ依リ施行年度ヲ五箇年度延長シ結局十七箇年度繼續事業トシ總工費貳千萬圓(内愛知縣負擔六十八萬四千圓、岐阜縣負擔四百七拾四萬五千圓)ヲ以テ木曾川ニ在テハ愛知縣丹羽郡犬山町以下既成部分ニ至ル間約三十一籽、長良川ニ在テハ岐阜市以下約二十七籽、揖斐川ハ岐阜縣揖斐郡北方村以下約十八籽、藪川ハ岐阜縣本巢郡山添村根尾川分派口以下揖斐川合流點ニ至ル間約十二籽、牧田川ハ流末約四籽ヲ改修セントスルモノナリ

河狀並計畫大要

木曾川ハ源ヲ長野縣西筑摩郡木祖村ナル鉢伏山ニ發シ高山峻岳重疊タル木曾溪谷ヲ奔流シ大小數多ノ溪流ヲ併セ藪原、福島、上松等ノ山村ヲ過ギ岐阜縣下ニ入り丘陵ノ間ヲ經過シ迂餘曲折數次八百屋津町ヲ過ギ大支飛驒川ヲ右方ヨリ合セ太田ニ至リ少許ニシテ尾濃ノ國界ヲ流レ愛知縣丹羽郡犬山町ニ至ル此

ヨリ地勢俄然展開シ所謂尾濃勢ノ平野ニ出デ以下始メテ堤防ノ設アリ犬山町以下少許ニシテ亂流數條ニ分レ岐阜縣羽鳥郡川島村ヲ擁シ更ニ西流スルコト約三十一籽同縣同郡入神村ニ至ル夫ヨリ下流ハ即チ既改修部分ニシテ流下スルコト約三十一籽三重縣桑名郡伊曾島木曾岬兩村ノ間ニ於テ伊勢灣ニ朝宗ス流路長約二百二十籽ニシテ灌溉段別約二萬四千五百九十ヘクタール流域面積約五千二百七十五方籽ニシテ内山地面積四千百十八方籽平地面積一千百五十七方籽ナリ

長良川ハ岐阜縣郡上郡高鷲村與本谷ニ發源シ南流シテ八幡町美濃町等ヲ過ギテ吉田板取武儀津保ノ諸川ヲ容レ方向ヲ西ニ轉ジ金華山ノ北麓ヲ經テ岐阜市ニ至リ平地ニ出ヅ次デ右方ニ長良古川ヲ分派シ本流ハ市ノ北境ヲ流レテ本巢郡河渡村一日市場ニ至リ再ビ古川ヲ容レ西南ニ折レ東海道鐵道橋ノ上ニ至リ右支系貫川ヲ合ス夫ヨリ墨俣町ヲ經テ海津郡吉里村大字成戸ニ達ス之ヨリ以下ハ即チ既改修部分ニシテ南流スルコト約二十四籽三重縣桑名郡伊曾島村地先ニ至リ揖斐川ト合シ伊勢灣ニ注グ下流改修前ニ在リテハ前記成戸ニ於テ木曾川ニ合流セシモ改修ノ結果分流スルニ至リシモノナリ流路ノ長ハ約百四十九籽ニシテ灌溉段別約一萬二千七百三十ヘクタールニ及ビ流域面積約二千三百十三立籽ニシテ内山地面積約千八百九十七方籽平地面積ハ四百十六方籽ナリ

揖斐川ハ源ヲ岐阜縣揖斐郡德山村ナル與山ニ發シ始メハ東南ニ流レ後南折シテ同郡地方村ニ至リ平坦部ニ出デ始メテ堤塘ノ設ケアリ夫ヨリ揖斐町ヲ經テ養基村大字脛永ニ至リ右支粕川ヲ容レ更ニ本巢郡川崎村大字宮田ニ於テ根尾川ノ分派數川ヲ容ル夫ヨリ南流呂久ヲ過ギ東海道鐵道橋ニ達ス以下ハ既改修部分ニシテ養老郡池邊村ニ至リ右支牧田川ヲ合シテ今尾ヲ經更ニ津屋川ヲ合シ濃勢ノ國界千本松ニ至リ以下長良川ト瀨割堤ヲ距テテ相竝ビ遂ニ同川ト合シ三重縣桑名町ヲ經テ同郡城南村地先ニ至リ海

ニ注グ流路ノ長約九十八軒ニシテ灌漑段別約一萬四千七百二十ヘクタール、流域面積約一千五百十一方軒ニシテ内山地面積一千二方軒、平地面積五百九方軒ナリ

支川根尾川ハ源ヲ岐阜縣本巢郡根尾村ノ山中ニ發シ南流シテ山添村大字山口ニ至リ始メテ平坦部ニ出テ二派ニ分ル右派ハ藪川ト稱シ西南ニ流ルルコト約十軒本巢郡川崎村ニ於テ揖斐川ニ入ル左派ハ系貫川ト稱シ東南ニ流ルコト約十六軒ニシテ同郡生津村ニ至リテ長良川ニ注グ流域面積ハ約四百十六方軒ニシテ流路ノ長ハ約五十九軒ナリ

木曾川ノ水害ハ古來激甚ニシテ其度數モ亦頻繁ナリ特ニ西濃地方ハ我邦ニ於ケル稀有ノ水害地ニシテ是レ地勢低窪ナルノ致ス所ナリト雖モ一ハ河川ノ狀況不良ナルニ起因セズンバアラズ而シテ各川有堤部ニシテ一朝破堤センカ水害ヲ被ルベキ虞アル段別ハ岐阜縣管内四萬七千四百三十四ヘクタール、愛知縣管内四萬四千七十二ヘクタール、三重縣管内四千七百ヘクタール、合計九萬六千二百六ヘクタールナリ上流改修計畫ハ主トシテ下流改修工事既成部分ノ上流ヲ改修セントスルモノニシテ其方法ヲ舉グレバ左ノ如シ

木曾川ハ局部ヲ除キ河狀概シテ良好ニシテ相當ノ河幅ヲ保チ不良ノ屈曲無ク河底甚シク埋堆セルモノ無キヲ以テ大體現狀ニ依リテ著シキ變更ヲ加ヘズ唯近年出水ノ趨勢ニ鑑ミ兩岸舊堤ヲ擴築シテ馬踏幅七米、兩法二割トシ小段ヲ附シ天端ノ高ヲシテ高水面上二米五ノ餘裕ヲ保タシメントス唯川島村地先ニ於テハ河身數派ニ分レ出水ノ都度其趨勢ヲ異ニシ爲ニ堤防ニ惡影響ヲ及ボシ其危險ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ數多ノ支派流ヲ遮斷シテ河身ヲ固定シ以テ洪水ノ際其快流ヲ圖リ併セテ堤防ニ向ヒ奔流スルノ危險ヲ防止セントス本水路ハ相當ノ河積ヲ保タシムル爲メ多少ノ掘鑿ヲ施シ兩岸ハ前後ノ護岸高ニ

準ジ適宜之ヲ施工シ以テ該附近ノ耕地ヲ保護セントス

長良川ハ岐阜市附近ニ於テ古川古々川ノ兩川ヲ分派シ洪水ノ際ハ其幾分ヲ兩派ニ依リテ疏通スルノ現狀ナルモ此ノ如キハ河狀荒廢ノ原因トナリ得策ニ非ザルヲ以テ今回兩派川ヲ締切リ本流ハ河幅狹隘ノ部分ヲ擴大シ三百米乃至四百米ト爲サントス而シテ現在河幅ノ之ヨリ廣キ部分ハ其儘トシ舊堤ニハ増築ヲ施シ堤防ノ大サハ馬踏幅七米兩法二割トシ尙小段ヲ附シ天端ノ高ハ大體ニ於テ高水位以上約二米五ノ餘地ヲ保タシメントス而シテ必要ナル河積ヲ與フル爲メ堤防間ニ於テ適當ノ幅ヲ定メ掘鑿ヲ施シ且河渡以下ハ低水敷ヲ規定シ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ニ連絡セシメントス

揖斐川ハ藪川合流點以上ハ局部ヲ除キ現在河幅可ナリ廣キヲ以テ増大スルヲ要セズ大體ニ於テ舊堤ニ擴築ヲ施シ同川合流點以下ハ從來無堤ニシテ洪水ノ際兩岸廣濶ナル區域ニ汎溢セルヲ以テ今回之ヲ防止スル爲メ適當ノ河幅ヲ定メ兩岸ニ築堤ヲ爲サントス堤防ノ大サハ藪川合流點以上ハ馬踏幅五米五兩法二割同合流點以下ハ馬踏幅七米兩法二割トシ高サ大ナル箇所ニハ小段ヲ附シ天端ノ高ハ高水位上二米五トス尙必要ナル河積ヲ與フルガ爲メ相當ノ掘鑿ヲ爲シ又藪川合流點以下ノ低水路ヲ定メ少許ノ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ノ低水路ニ接續セシメントス

根尾川ノ一派タル系貫川ハ其分派口附近ニ於テ締切リヲ施シ尙樋門ヲ設ケ灌漑等ニ必要ナル水量ヲ流過セシム從テ根尾川ノ洪水ハ總テ藪川ヲ流下セシムルモノトス

藪川ハ大體ニ於テ現在河幅廣大ナルヲ以テ局部ノ外ハ別ニ擴大セズ舊堤ノ増築ヲ施スニ止ム堤防ノ大サハ馬踏幅五米五兩法二割ニシテ成ル可ク小段ヲ附シ天端ハ高水位上二米ノ高ヲ保タシメ尙河中ニ於テ必要ナル掘鑿ヲ施スモノトス

牧田川ハ高淵ノ狭窄部以下ニ改修ヲ加フルモノトス

木曾、長良、揖斐、敷、牧田ノ五河川共必要ナル箇所ニ相當ノ護岸竝ニ制水ヲ施工シ尙締切箇所等必要ナル處ニハ樋門ノ設備ヲ爲サントス而シテ既成改修工事ニ屬スル區域ト雖モ近時出水ノ趨勢ニ鑑ミ前回改修ノ際工事費等ノ都合ニ依リ十分改良ヲ加フルコト能ハズシテ現時尙堤防薄弱惡水排除ニ障害アル箇所等差シ措ク可ラザルモノニ對シテハ精査ノ上相當ノ施設ヲ加フルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十年度創業以來直ニ地幅杭設置測量ニ從事セリ而シテ土地ノ買收ニ在リテハ大正十一年一月一日土地收用事務所ヲ岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻町ニ開設シ同十三年四月一日ニハ該事務所ヲ同縣稻葉郡加納町ニ移轉シ專ラ收用事務所ヲ執行セシガ所要土地ノ殆ンド全部ノ買收ヲ了リテ一段落ヲ告グルニ及ビ事業ノ狀況ニ依リ土地ノ買收ヲ一時中止スルノ得策ナルヲ認メ同十三年十一月五日收用事務所ヲ廢止シ其殘務ハ改修事務所ニテ整理スルコトトセリ其買收區域ハ木曾川筋神明津地先及川島村新川敷地長良川筋小藪村以北墨俣間、揖斐川筋霞堤ノ局部ヲ除キ殆ンド全部ニシテ其總段別二百五十町一段一畝二十四步七合九勺此價額百四拾五萬壹千七百貳拾參圓九錢、地上物件移轉料竝河川敷占用禁止補償金四拾五萬五千六百六拾貳圓參拾八錢ナリトス而シテ工事施行ニ關シテハ大正十二年一月一日岐阜市忠節町ニ木曾川上流改修事務所ヲ設置シ諸機械類ノ購入其他施行ニ關スル調査準備等ヲ急ギ同十二年七月一日先ヅ揖斐川筋ニ工ヲ起シ次デ同年十一月一日長良川筋ニ翌十三年十二月一日更ニ木曾川筋ニ著工セリ而シテ當初以來銳意操業ノ圓滑ヲ圖ルト共ニ工程ノ進捗施工區域ノ擴張等ニ努力セシ結果大ニ

成績ヲ舉グルヲ得シモ偶々十二年九月一日ノ關東大震災ノ影響ニ依リ施行年度ノ繰延トナリ年度割豫算額ニ變更ヲ來タセシ爲メ功程ヲシテ尙一層良好ナラシムルヲ得ザリシハ遺憾トスル所ナリ而シテ本年度迄ノ竣功高ハ掘鑿百五十六萬八千九百九十九立米、築堤百八十八萬八千八百十六立米、護岸二千三百五十五米、制水九百七十五米六及假工事一箇所ニシテ總工費七拾參萬參千參百拾九圓ナリトス

本年度工事施行區域ハ揖斐川ニ在リテハ岐阜縣本巢郡鷺田村、安八郡下宮村、揖斐郡川合村、長良川ニ在リテハ同縣羽島郡小藪村、入神村、堀津村、海津郡海西村、木曾川ニ在リテハ同縣羽島郡川島村ニシテ各川筋ニ呂久、堀津、川島ノ三工場ヲ置キ其下ニ若干ノ派出所ヲ設ケ機械掘鑿二箇所、人力掘鑿五箇所、築堤九箇所、護岸五箇所、制水四箇所ヲ施工シ總工費五拾壹萬四千九百七拾貳圓ヲ支出セリ今其施工ノ概況ヲ述ブレバ

揖斐川筋ナル呂久附近ニ於テハ新水路附替工事ニシテ呂久人力掘鑿、呂久機械掘鑿ノ二工事ヲ昨年度ニ呂久第二人力掘鑿ヲ本年度ニ起工シ夫々施工中ノ處本年度ニ至リ全體ニ互リ約其五割ヲ竣成セリ築堤トシテハ前年度ニ著工セシ呂久左岸築堤ノミナリシガ約四割ノ工程ヲ竣レリ斯クシテ來年度ノ出水時ニハ新水路ヲ通水シ得ルノ豫定成リタルヲ以テ新水路ノ取入口前後ニ護岸及床固トシテ本年度末ニ呂久左岸護岸工及呂久左岸制水工ヲ起シタリシガ前者ハ其八割、後者ハ其六割ヲ竣成セリ

下宮及川合附近ニ於ケル下宮制水、下宮護岸、川合制水、川合護岸ノ四工事ハ本年度内孰レモ完成セリ又下宮築堤工及神戸築堤工ハ本年度内共ニ竣工シ昨年度著工セシ川合築堤工モ亦約八割ノ工程ヲ進捗シ斯クテ奔流ノ激衝ヲ緩和シ改修堤ニ依リ洪水防禦ノ安全ヲ保證シ此方面ニ於ケル河狀ノ面目ヲ一新セリ

長良川筋ナル小藪方面ニ於テハ下流改修當時廢川ヲ締切ラザリシ結果新水路ノ洪水敷ニ土砂堆積シ河積不足セルヲ以テ小藪人力掘鑿、小藪第二人力掘鑿ノ二工事ヲ昨年度ニ著手セシガ本年度ニ至リ前者ハ

其七割、後者ハ其五割ヲ竣成セリ廢川締切堤ヲ包含スル小藪第二築堤工モ亦前年度ヨリ續工シ約二割ノ工程ヲ告ゲ上流締切堤ハ殆ド完成シ下流締切堤ハ本年度末ニ著工セシガ來年度出水期迄ニハ計畫高水位ノ高サニ築立シ得ル豫定ナリ下流改修堤ノ補修工事タル小藪築堤工ハ竣功ヲ告ゲ其上流入神築堤工ハ其一割ヲ入神護岸工ハ其四割ヲ了ヘタリ

堀津及海西附近ニ於テハ堀津人力掘鑿工竣成シ堀津築堤工ハ約其二割ノ工程ヲ成シ其對岸ニシテ稍々廣濶ナル洪水敷ノ掘鑿工トシテ前年度ヨリ著工セル海西機械掘鑿工ハ其四割ノ竣功ヲ見タリ

木曾川筋ナル川島方面ニ於ケル河田島護岸工及河田島制水工ハ偶々政府ノ財政緊縮方針ノ影響ヲ受ケ其著工ヲ遲延シ本年度末漸ク著工セシモノナリシガ其功程ハ前者ハ六割、後者ハ一割ヲ進メ未竣工ニ係レリ

木曾川上流改修工事ノ本年度ノ竣功額ハ八拾五萬七千九拾九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ總支出額ハ參百五拾四萬參千貳百八拾七圓ナリ之ヲ既定總豫算額貳千萬圓ニ比較スルトキハ一割八歩ノ竣功トナル工事竣功表左ノ如シ但表中「*」ハ利用土ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數	量	數	量	數	量		
築堤費	*	立本 一四四、八五六 二七四、八五三	*	立本 一、三四一、二〇〇 一、二七、八九七	*	立本 一、四八六、〇六六 一、四〇〇、七五〇	二〇七、七七二	〇・二二
掘鑿費		四二二、四三一		一、一四五、六六八		一、五六八、〇九九	三七〇、二四二	〇・〇八
護岸費		一、四五二		一、八七八・六		三、三三〇・六	一五二、九四一	〇・一〇
假設費							二、三八四	
總計		五〇、一三六		一、五七、六四六		一、四八六、〇六六	二、三八四	
		一〇九、九〇八		二、六〇、三三四		三、七〇六、六六六		
		五五、九四九		九六、九九二		一、五二、九四一		
		二、三八四					二、三八四	

總計	共濟組合給與金	施行中諸費	營繕費	測量費	船舶及機械費	附帶工事費	用地費
二、六八六、一八八	二、三三六	一三三、三一八	五七、二八六	一八、四三五	四四八、二五二		一、八一〇、一九四
八五七、〇九九	四、二一五	一〇二、六九四	三、二八八	二、二四一	一一一、二七五	一一、三三三	九七、一九一
三、五四三、二八七	六、五五一	二三四、〇一一	六〇、五七四	二〇、六七六	五六九、五二七	一一、三三三	一、九〇七、三八五
〇一八					〇三三	〇〇一	〇三八

第二四 斐伊川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本工事ハ大正十一年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ總工費六百貳拾萬圓ヲ以テ起工セシガ同十二年度末ニ至リ施行年限ヲ延長シ同二十五年年度ニ至ル十五箇年度繼續事業ト改メラレ島根縣簸川郡出西村岩樋以下宍道湖（定川吐口）ニ至ル十五籽五及下流大橋川即チ松江市白潟魚町ヨリ中海ニ至ル七籽ノ改修工事ヲ施行スルモノナリ

河狀並計畫大要

斐伊川ハ山陰屈指ノ大河ニシテ源ヲ鳥取島根ノ兩縣界ニ聳ユル船通山ノ鳥上瀧ニ發シ島根縣下ヲ貫流ス上流ヲ横田川ト稱シ西流シテ仁多郡横田村ニ至リ左支下横田川ヲ入レ尙西流シテ同郡三成村ニ於テ左方ニ大馬木川ヲ合セ同郡溫泉村ニ至リ左支阿井川ヲ入レ飯石郡田井村ニ於テ左支深野川ヲ納レ方向ヲ轉ジ北流シ大原郡木次町ニ於テ左方ヨリ久野川ヲ入レ三刀屋村ニ至リ更ニ左方ヨリ大支三刀屋川ヲ併セ稍々西ニ轉ジ簸川郡出西村ニ至リ左支赤川ヲ入レ西流スルコト約七籽八ニシテ急ニ方向ヲ變ジ北ニ向ヒ始メテ簸川平野ニ出デ直チニ新川ヲ右方ニ分派シ同郡伊波野村ヲ經テ東北ニ轉ジ同郡出東村ニ至リ定川ヲ左方ニ派シ東ニ向ヒ更ニ二十間川北二十間川等ヲ分派シ次デ宍道湖ニ注グ支派川ノ數七十五、流路延長五百七十六籽ナリ

宍道湖ハ面積八十三方糶ヲ有スル淡水湖ニシテ略長方形ヲ爲シ東西ニ長ク其長約十六糶幅約六糶周圍約四十七糶ニシテ湖岸ハ出入極メテ少ナシ斐伊川ハ其西端ヨリ注ギ其他數多ノ小流ヲ併ス湖脚ハ東端ニ在リテ三川ニ依リ海ニ排疏ス一ハ佐陀川ニシテ濱佐陀ヨリ分派シ宍道山脉ノ低部ヲ横斷シ西北ニ流レ惠曇村ニ至リ直ニ日本海ニ注グ流路約八糶往昔人工ヲ加ヘ開鑿セシモノナリト云フ二ハ大橋川ニシテ松江市ヨリ分派シ市中ヲ貫キ東流スルコト約七糶馬潟ニ至リ中海ニ注グ三ハ天神川ニシテ人工河川タリ同ジク松江市ヨリ分レ東流約四糶津田村ニ至リ大橋川ニ合流ス湖ノ東端ニハ松江市アリ其他沼湖沿岸ニハ小都邑乏シカラズ又多少ノ田園ヲ存ス

斐伊川ノ流域ハ島根縣下仁多、飯石、大原、簸川ノ四郡ニ跨リ面積一千方糶餘ニ達ス流域内ハ流末簸川平野ヲ除ケバ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ巒嶽起伏セリ簸川平野ハ其東方ノ宍道湖、松江平野竝ニ中海ト共ニ日本海ノ一部タリシニ主トシテ斐伊川ノ流送セシ土砂堆積シテ水面上ニ顯ハレタルモノニシテ面積約百五十平方糶現今ニ於テモ尙増大シツツアリ土地肥沃ニシテ山陰最大ノ農產地タリ

宍道湖及大橋川等ノ流域ハ松江市竝ニ簸川、八東兩郡ニ跨リ南ハ斐伊川流域ヲ劃スル山地、北ハ宍道山脉ニ境シ西ハ簸川平野ニ東ハ中海ニ依リテ限ラル面積ハ斐伊川流域ヲ除キ約四百五十平方糶湖ノ面積ヲ含ムアリ松江市附近ハ小平野ヲ爲シ土地豐沃産業發達セリ

流域内山地ノ狀況ハ概シテ良好ニシテ山林濫伐ノ爲メ著シク荒廢ニ歸セル處無キガ如シト雖モ唯到ル處砂鐵ヲ産スルヲ以テ古來其採取ノ事業ヲ經營スルモノ多數ニシテ山地ヲ崩壞シ主トシテ土砂流出ノ源因ヲ爲セリ

灌溉段別ハ幹川斐伊川ニ在テハ八十七方糶、宍道湖及大橋川等ニ在テハ二十五方糶、合計百十二方糶ニ達

斐伊川ハ古來屢次水害アリ往古流末ハ現今ノ川跡村附近ヨリ西流シテ日本海ニ注ギシガ寛永年間ノ洪水ニテ東流宍道湖ニ注流スルニ至レリト云フ爾來出水毎ニ屢其位置ヲ變ジ或ハ人爲ニ依リ派川ヲ改鑿スル等幾多ノ變遷ヲ經テ以テ現今ノ河道ヲ形成スルニ至レリ即チ右派新川ハ水害ヲ免レンガ爲メニ天保年間ニ於テ新鑿セシモノニ係リ左派定川モ其後更ニ開鑿セシモノニシテ佐陀天神二川ノ如キモ亦湖ノ水害ヲ輕減センガ爲メ人工ニ依リ開鑿セシモノニ係ル維新以後ニ至テハ被害特ニ著大ニシテ人畜ノ死傷家屋ノ流失破壞耕地ノ荒廢生産ノ損耗等舉テ算フベカラズ之ガ復舊ニ要スル經費モ亦莫大ナリトス明治二十六年ノ洪水ノ如キハ特ニ其最モ甚シキモノナリ今水害ヲ受クベキ區域ヲ舉グレハ斐伊川本川ニ在テハ其面積百十五方籽宍道湖以下ニ於テハ七方籽合計百二十二方籽ニ達セリ内出西村以下改修區域ニ屬スルモノハ凡テ百三方籽ナリ斐伊川ハ上流ニ於テ多少ノ水害無キニ非ズト雖モ其被害甚大ナルハ下流地方ナルヲ以テ改修ハ出西村以下即チ簸川平野ニ屬スル部分ニ止メ其計畫流量ハ三千六百立米トシ定川分派口ニ至ル迄ハ單ニ舊堤ニ嵩置ヲ施スニ止ム然レドモ兩堤間ノ狀況甚ダ不規則ニシテ且ツ河積不足ナルヲ以テ若干ノ掘鑿ヲ施シ之ヲ整理シ以テ前記流量ヲ安全ニ疏通スルニ足ラシム定川分派口以下ハ本川ヲ捨テ定川ヲ擴築シ必要ナル河積ヲ與フルモノトス

堤防ハ舊堤擴築竝新堤共凡テ天端ヲ計畫高水位以上一米五ノ高ニ在ラシメ馬踏幅七米五兩法二割ノ勾配ヲ與ヘ凡テ芝附ケヲ爲シ必要ナル箇所ニハ石張其他護岸ヲ設クルモノトス

新川ヲ締切リ廢川ト爲シ締切點ニハ新ニ樋門ヲ設ケ用水ヲ分派セシメ更ニ宍道湖ニ一時貯溜スル水ヲ迅速ニ排疏セシメンガ爲メ大橋川ヲ擴張シ兼テ舟運ノ便ヲ計ラントス即チ現在河幅ノ狹隘ナル處ハ之

ヲ擴張シテ七十三米トシ夫ヨリ廣キ處ハ河中ニ於テ幅七十三米ノ部分ヲ浚渫シ兩法ニハ適當ノ勾配ヲ附シ尙崩壞ノ虞アル箇所ニハ護岸ヲ施スモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正十一年度ノ創業ニシテ同年度實施測量ニ著手シ大體外業ヲ完了セルヲ以テ本年度ハ專ラ計算、製圖等整理ヲ爲シタルト共ニ船舶諸器械等ノ整備ヲ爲シ二百坪掘浚渫船一隻、十二立米積(甲板張)土運船八隻等ヲ整備シタルニ依リ三月ヨリ大橋川筋八束郡津田村、竹矢村地先ノ浚渫工事ヲ開始シ年度内ニ六千六百二十立米ヲ竣功セリ此工費八千參百參拾壹圓四錢壹厘ナリトス

松江市外川津村大字西川津ニ建築中ノ工區事務所ハ前年度末竣功セルヲ以テ四月十六日移轉セリ

本改修工事ノ本年度内ニ於ケル竣功高ハ拾八萬八拾壹圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ貳拾四萬壹千七百八拾八圓ナリ之ヲ總工費豫算額六百貳拾萬圓ニ比スレバ〇割四分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	立米	四〇、五五〇	立米	八、三三一	立米	八、三三一	〇・一一
船舶及機械費		二一、一五七		一三六、七〇三		一七七、二五三	
施行中諸費				三五、〇四七		五六、二〇四	
總計		六一、七〇七		一八〇、〇八一		二四一、七八八	〇・〇四

第二五 信濃川上流改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本川ハ昔時航路改善洪水防禦ノ目的ヲ以テ新潟縣長岡市以下ノ河身ノ改修ヲ實施セラレ明治三十八年度ニ其工ヲ終了シタルモ尙治水ノ必要ヲ認メ同市下流約四里ノ地點タル大河津村ヨリ新水路ヲ二里餘開鑿シ又上流長野縣下ニ於テハ千曲川及犀川ノ水患ヲ除却セシムル目的ヲ以テ是亦其方策ヲ定メタリ即チ前者ハ明治四十年年度ヨリ起シ今後二、三年ニシテ將ニ工ヲ竣ハントシ後者ハ大正七年度ヨリ著手シ目下施工中ナリ此ノ如ク本川上下兩流ノ治水策完キヲ得首尾既ニ決セリ然ルニ中流タル中越平野ノミ等閑ニ附センカ年々被ル水災ハ從來ヨリ一層甚ダシク沿岸住民モ亦其堵ニ安ズルコト能ハザルノミナラズ前記兩者ノ籌策亦空シキヲ覺ユ茲ニ於テ本改修工事ノ急施ヲ促進シ大正十二年度ヨリ同二十一年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算額六百六拾萬圓(内新潟縣負擔額貳百參拾四萬九千圓ヲ含ム)ヲ以テ起工セシガ十二年九月一日關東震災突發ノ爲メ十一月ニ至リ四箇年度ノ繰延トナリ大正二十五年年度ニ竣功セシムル豫定トナレリ即チ左岸三島郡片貝村、右岸古志郡六日市村ヨリ下流南蒲原郡中之島村地内信濃川締切堤防ニ至ル約八里ノ間ニ對シ河身ノ改善ヲ施シ洪水ノ被害ヲ一掃シ舟楫ノ利ヲ圖ラントスルモノナリ

河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ甲武信ヶ嶽ニ發シ流域ハ長野、群馬、新潟ノ三縣、五市、二十四郡ニ跨リ總面積七百九十五方里、流

路延長九十四里、航路延長百七十八里、灌漑段別七萬六千二百二十一町歩ヲ有シ、越後平野ヲ貫流ス、其灌漑ノ利大ナリト雖モ、水害モ亦劇甚ナリ

今本改修區域内ニ於ケル河狀竝被害ヲ述ブレバ、本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ候颱風ヲ伴フ暴雨トニ起因スルモノニシテ、上流長野縣下ニ於テ一日ノ降雨量七十耗以上ニ達セバ警戒スベキ洪水ヲ醸生スルコト多シ、其水災ノ最甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル古志郡六日市村妙見以下約八里ノ間ニシテ、地勢平坦東ハ遠ク下越平野ニ連リ、産業ノ發展地タリ、然ルニ兩岸ハ構造薄弱ナル堤防ニ抱擁セララルノミナラズ、斷續屈曲シ、河狀亦著シク惡化シ、其幅員一定セズ、廣キハ九百間、狹キハ三百間ヲ示シ、恰モ瓢ノ連結セルガ如ク所々ニ砂礫又ハ芝生ノ附洲介在シ、甚シキニ至テハ長二十町、幅五町ノ一大島地ヲ現出シ、中ニ數多ノ人家及田畑ヲ有スル等、流水ハ常ニ阻害セラレ、亂流ス、故ニ一旦出水ノ際ハ兩岸ヲ破壊シ、中越平野ヲ泥海ト變ジ、交通ヲ杜絶シ、人畜ヲ害スルコト甚シク、其水害區域一萬八千五百九町歩ニ及ベリ、今其水害損失價額ヲ見ルニ、明治四十一年ヨリ大正六年ニ至ル十箇年間ノ平均ハ、四拾參萬六千貳百六圓ニシテ、内最大ハ大正三年ノ百五拾四萬七千圓ナリトス

本計畫ハ妙見以下大河津締切堤防ニ至ル間ノ水災ヲ絶ツヲ目的トシ、最大流量ヲ毎秒二十萬立方尺ト定メ之ヲ疏通セシムルニ足ル流積ヲ有セシム、而シテ現在ノ河幅ハ前陳ノ通り廣狹不規則、亂雜ナルヲ以テ全川ヲ通ジ、四百五十間トシ、地形ニ應ジ、最小三百四十間、最大六百七十間ニ整理シ、無堤部ニハ堤防ヲ新設シ、有堤部ハ成ルベク舊堤ヲ利用シ、其構造薄弱ナル箇所ハ増築シ、堤内ノ安全ヲ計ルト共ニ、流積不足ノ部分ニハ掘鑿、浚渫ヲ施シ、以テ洪水ノ疏通ヲ謀リ、逆流ノ甚シキ支川及惡水路ニハ水門ヲ設ケ、逆水ヲ防止スル等、水害ノ因ヲ一掃セシムルニ在リ

築堤工事ハ全川ニ互リ馬踏四間、表裏共二割法トシ其高ハ計畫高水位以上五尺ノ餘裕ヲ與ヘ出來得ル限リ舊堤ヲ利用シ河幅或ハ屈曲ノ關係上舊堤ニ據ルヲ得ザル箇所ハ河狀ニ應ジ適當ノ位置ニ新設ス又長岡村附近ニ合流スル大田、澁海兩川ノ落口ニ在リテハ新堤ハ瀨割堤ト爲シ新港口ヨリ上流舊落口ニ至ル間各六百間ノ舊堤ハ嵩置工事ヲ施行スルコトトセリ而シテ築堤ニ要スル總土量ハ五十七萬坪ニシテ内十四萬坪ハ掘鑿土ヲ利用シ其他ハ附近ヨリ採土スルモノトス

掘鑿工事ハ左岸脇川新田ヨリ金ヶ崎間右岸長呂ヨリ中條間ニ於テ平均低水位上三尺ノ面迄施行ス此外全川ヲ通ジ新堤外部ノ舊堤取拂ヲ爲スモノニシテ總土量三十七萬坪ニ達ス

浚渫工事ハ下流大津分水路ニ接續セル區域ニシテ底幅百間乃至四十五間、深平均低水面下六尺ニ施工ス其土量二十四萬坪ナリ

護岸制水工事中護岸ハ主トシテ長岡ヨリ上流兩岸堤防及下流沿岸ニシテ流衝ニ面セル箇所竝堤脚ノ平水ニ落ツル部分ニ對シ表法高水面以下ヲ石張トシ低水ニ接スル箇所ハ沈床工ヲ又制水工ニ在リテハ流心ノ匡正ヲ要スル部分ニ石張沈床工ヲ何レモ施行スルモノトス

水門工事ハ新川、黒川、猿橋川竝二三ノ惡水路ニ設置シ何レモ逆水止門扉トセリ
附帶工事ハ長生橋、與板橋ノ改築竝延長、用惡水路ノ樋管伏替又ハ水路附替等ニシテ樋管伏替八十五箇所ノ多キニ及ブヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

施工狀況

本年度モ亦前年度ニ引續キ堤防中心杭、幅杭ノ設定及縱橫斷測量ヲ實施ス然ルニ當地方ハ夏期恙虫發生

シ作業上危険ニシテ立入ル能ハズ不尠障碍ヲ被リシカバ止ムナク八月ニ至リ長岡市ニ一家ヲ借受ケ測量員ノ詰所ニ充テ銳意進捗ニ努メ年度内ニ全部ノ測量ヲ了セリ又十一月ヨリ土地收用事務所ヲ同市ニ設ケ收用上諸般ノ準備ニ著手ス
 本年度ニ於ケル竣功額ハ貳萬九百九拾九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ貳萬七千參百參拾參圓ナリ而シテ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高			本年度迄竣功高			合計			竣功歩合
	數	量	金額	數	量	金額	數	量	金額	
地上物件移轉料			四、三六九			一一、二四五			一六、六一四	
測量費						二〇			二〇	
船舶及機械費			一、九二八			一八五			一八五	
施行中諸費			三七			二二〇			二四七	
共濟組合給與金										
總計			六、三三四			二〇、九九九			二七、三三三	四〇〇

第二六 筑後川改修工事

（下關土木出張所）

緒言

本工事ハ大正十二年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ工費壹千百參拾貳萬圓（内福岡縣及佐賀縣負擔參百九拾六萬七千圓）ヲ以テ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川福岡縣浮羽郡千年村以下河口ニ至ル六一一籽九、其他支川小石原川、佐田川、派川、早津江川、諸富川等ヲ加ヘ合計七十六籽餘トス（大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期限ヲ同二十六年度トスルコトニ決定）

河狀並計畫大要

筑後川ハ九州第一ノ大河ニシテ源ヲ熊本縣ノ東北部ニ發シ大分、福岡、佐賀ノ三縣内ヲ貫流シ有明海ニ注グ流路延長百三十八籽其流域ハ前記四縣ニ跨リ全面積二千八百六十方籽ヲ有セリ本川下流福岡縣及佐賀縣ニ屬スル部分ハ沿岸肥沃ナル田園相連リ所謂筑紫平野ノ米產地ニシテ其灌溉ハ一ニ本川ニ依リ其總面積實ニ四萬五千ヘクタールト稱ス加フルニ舟楫ノ便亦宜シク古來其惠澤ニ浴スルコト多大ナルモノアルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ムルコトモ亦甚シク全流域水害面積ハ三萬二千ヘクタール餘ニシテ年々出水毎ニ受クル損害莫大ナルモノアリ本川ハ曩ニ明治十六年度政府ニ於テ河口ヨリ大分縣隈町ニ至ル間ノ修築工事ヲ企圖シ工費約百貳拾萬圓ヲ投ジ三十一年度竣功セリ然レドモ該工事ノ目的ハ主トシテ低水路改良ニ在リ高水防禦工事ノ如キハ全然地方ノ經濟ニ委ネ其負擔ニ堪フル範圍内ニテ施行セラルニ過ギザルヲ以テ金島、小森野、天建寺、坂口ノ四放水路開鑿セラレタリト雖モ未ダ充分ナル效果ヲ舉グ

ルニ足ラズ而モ工事中途ニシテ明治二十二年ノ大洪水ニ際會シ激甚ナル損害ヲ被ムルニ及ビ第一次高水工事ノ機運ヲ齎シ遂ニ明治二十九年年度之ヲ起工シ八箇年度ノ歲月ト百四拾餘萬圓ノ財ヲ費シ同三十六年度其工成ルニ及ンデ稍々被害ノ程度ヲ輕減スルヲ得タリ然ルニ本工事も財政上其他ノ理由ニ依リ局部的ノ工事ニ止マリシヲ以テ再ビ大正十年ノ非常洪水ヲ來シ其慘害ノ度ハ明治二十二年ニ讓ラズ茲ニ第二次改修トシテ本工事ノ計畫ヲ見ルニ至レリ

本計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ第一次改修ヲ補足シ全川ヲ通ジ一貫シタル工事ヲ爲スニ在リ改修ノ方法トシテハ河狀ヲ正シ或ハ掘鑿ヲ施シ現在ノ不規則ナル堤防ヲ改築若クハ増築シ必要ノ箇所ニハ新ニ之ヲ設ケテ汎濫ヲ防ギ河積ヲ擴張シテ洪水ノ疏通ヲ計リ細支流ニシテ逆流ノ害アルモノニハ水門ヲ設ケテ其浸入ヲ防止ス又金島以下四放水路ハ之ヲ本流ニ開鑿シ沿岸ニ於ケル多大ノ被害ヲ除却セントス下流感潮區域ニシテ出水ノ影響少キ部分ニ於テモ必要ニ應ジ堤防ヲ一層強固ニシ其安全ヲ期シ兼テ高潮ノ脅威ニ備ヘシム尙諸富及若津港ヨリ下流河底ニ沈積セル土砂ハ適宜之ヲ浚渫シ河積ノ増大並航路ノ改良ニ資セントス

計畫洪水量ハ幹川筋五千秒立米トシ派川早津江川ハ其内一千三百秒立米、諸富川ハ同二千五百秒立米ヲ分派スルモノトス、又計畫河幅ハ幹川筋二百五十米乃至九百五十米、早津江川二百米乃至七百五十米、諸富川二百米乃至二百三十米トス堤防ノ標準斷面ハ馬踏七米、兩法二割高計畫洪水位上一米五トシ支派川等ハ之ニ準ジ又實地ノ狀況ニ應ジ其大サヲ定ム

施工狀況

本工事ハ大正十二年度創業以來引續キ實施準備測量ニ從事シ本年度初尙殘餘ノ縱橫斷面測量等ヲ爲シタルガ大體終了ヲ見ルニ至レリ七月中久留米市京町ニ改修事務所新築成ルニ及ビ之ニ移リ更ニ實施計畫調査ヲ進メ先ヅ以テ土地買收ヲ要セザル部分ヨリ工事ニ著手スルコトトシ久留米市附近ノ長門石及江口ノ掘鑿並築堤工事各二箇所ヲ撰ミ八月八日ヲ以テ一齊ニ起工ス掘鑿ハ凡テ人力ニ依リ運搬ハ主トシテ馬力ニ依レルガ後四噸ガソリン機關車ヲ加ヘ遠距離ノモノニ適用セリ

土地收用事務所ハ漸ク本年度十一月一日ヲ以テ開始シタルガ諸般ノ準備調査ニ努力シ銳意其進捗ヲ計リタル結果本年度末ニ於テ第一次トシテ久留米市下流左右岸土地二十六町餘ノ買收協議ヲ開始シ年度内大部分ノ承諾ヲ得タリ

本年度工事ノ功程ハ掘鑿土砂三十一萬四千四百六十一立米此工費六萬六千九百五拾圓外ニ壹萬五千六百七拾四圓ノ提供人夫賃及評價品價格アリ築堤土量八萬一千四百五十二立米此工費參千八百九拾六圓ニシテ築堤土ハ總テ掘鑿土ヲ利用セリ

本年度竣功高ハ貳拾六萬四千四百圓ニシテ昨年度起工以來ノ累計ハ參拾壹萬六千參百七拾參圓トナリ工費總豫算壹千百參拾貳萬圓ニ對シ〇分三厘弱ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「*」ハ提供人夫賃及評價品價格ナリトス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
掘鑿費	立米	三二、二五三	立米	三二、四、四六一	立米	三二、七、七一四	六八、七〇〇	〇〇、三三
	圓	一、七五〇	*	六六、九五五 一五、六七四	*	一五、六七四	三、八九六	〇〇、〇一
築堤費	立米	八一、四五二	立米	八一、四五二	立米	八一、四五二	三、八九六	〇〇、〇一
	圓	三、八九六	三、八九六	三、八九六	三、八九六	三、八九六	〇〇、〇一	〇〇、〇一

總計	共濟組合給與金	施行中諸費	營繕費	測量費	船舶及機械費	用地費	一計
							三、二五三
五一、九七三	一三三	六、五五六		一〇、四五九	三三、〇七六		一、七五〇
							三九五、九一三
*		*	*				*
二六四、四〇〇 一五、七〇四	四一七	一八、〇四三 二二	三、二四二 七	五、三三一	九三、九七八	七二、五五三	七〇、八四六 一五、六七四
							三九九、一六六
*		*	*				*
三一六、三七三 一五、七〇四	五四九	二四、五九九 二二	三、二四二 七	一五、七八〇	一二七、〇五四	七二、五五三	七二、五九六 一五、六七四
〇・〇三							

第二七 天龍川改修工事

(名古屋土木出張所)

緒言

本川ハ曩ニ主トシテ水害除去ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ明治十五年測量調査ヲ創メ次テ改修ノ計畫ヲ立テ静岡縣磐田郡二俣町以下河幅ヲ整理シテ新堤ヲ築キ舊堤ヲ増築シ其他護岸制水床固等ノ施設ヲ爲ス爲メ同十八年度ヨリ地方ト協力シテ工費六拾六萬圓ヲ以テ工事ニ著手シ兼テ二俣町上流時又ニ至ル迄山間狹窄部ニ於ケル危岩暗礁ヲ破碎シテ幾分舟航ニ便シタリシガ明治三十三年度ニ至リテ一先ヅ竣功シ河狀ハ矯正セラレテ流路稍安定シ地方廳ハ爾來其維持ヲ爲スト共ニ漸次新工事ヲ施シツツ現今ニ至レリ然ルニ東海道鐵道橋下流ハ依然トシテ荒廢憂懼ノ狀態ニ在リ其上流ト雖モ堤防ノ鞏固ヲ誇ルニ足ラズ尙治水ノ要アルヲ以テ大正十二年度ヨリ同二十一年度迄十箇年度繼續事業トシテ工費豫算六百六拾萬圓(内静岡縣負擔額貳百貳拾九萬九千圓)ヲ以テ更ニ改修セントスルモノニシテ關東大震災ノ影響ニ因リ事業年度ヲ四箇年度即チ同二十五年迄繰延ベタリ而シテ上流長野縣管内ニ於テモ相當ノ水害無キニ非ラザレバ早晚改修ノ必要アラバ之ヲ認ムル處ナルモ先ヅ以テ急務トスル下流静岡縣ニ屬スル部分二俣町以下海ニ至ル約二十八軒間ヲ施工スルモノトス

河狀並計畫大要

天龍川ハ源ヲ諏訪湖ニ發シ長野縣ヲ經テ愛知、静岡兩縣ノ界ヲ流レ途ニ静岡縣ニ入り遠州灘ニ注グ幹川

流路ノ長約二十二軒ニシテ其流域面積ハ四千八百八十方軒灌溉段別ハ全流域ニ在テハ一萬七千八百二十ヘクタールニシテ改修區域ニ屬スルモノ三千二百十六ヘクタールナリトス

上流部ニ在リテハ沿川ニ廣大ナル平地アレドモ中流ハ全ク山間部ニシテ耕地田園ノ開クルモノナク静岡縣二俣町ニ至リテ更ニ廣濶ナル平野ニ出ヅ此平野ハ田園開ケ農桑ノ業盛ナリ加之濱松市ヲ始メ數多ノ名邑アリ東海道鐵道竝ニ國道此附近ヲ通過シ交通ノ便備ハリ商工業モ亦發達セリ

本川ニハ古來屢々水害アリ最近ニ於テハ明治四十四年ノ洪水ヲ以テ最モ甚シトス當時河水暴漲堤防ノ缺壞セルモノ數箇所ニ達シ家屋ノ流失若クハ損壞セルモノ又田園ノ荒廢ニ歸セルモノ多ク浸水區域亦數千ヘクタールニ及ビタリ而シテ水害ヲ受クベキ區域ハ静岡縣下ノミニテ總計一萬一千八百四十二ヘクタールニシテ其殆ド全部ハ改修區域ニ屬シ區域外ニ屬スル部分ハ僅ニ其四十分ノ一ニ過ギズ以テ利害關係地域ノ廣大ナルヲ見ルベキナリ

計畫流量ハ萬延元年以來ノ洪水ト稱セラルル明治四十四年ノモノヲ目標トシ其後流量實測ノ結果ニ依リ雨量等ヲ參酌シテ當時ノ最大流量ヲ推定スル一萬一千三百三十秒立米ヲ得タリ依リテ改修計畫ニ於テハ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ目途トシ計畫洪水位モ亦局部ヲ除キテハ大體ニ於テ當時ノ最大高水位ヲ超過セシメザルヲ程度トセリ

東海道鐵橋ヨリ上流ハ前年改修工事ノ際河幅ヲ整理セルヲ以テ大體ニ於テ相當ノ幅員ヲ有スルガ故ニ河幅ノ擴張ヲ要セズ單ニ多少ノ掘鑿ニ依リ河積ヲ充足シ舊堤ヲ増築スルニ止メ從來ノ霞堤トナレル箇所ハ大體其儘ニ存置シ鐵橋ヨリ下流ノ部分ハ現在三派ニ分レ河狀不整河積亦不足ナルヲ以テ改修ニ方テハ中流ヲ擴張シテ適當ナル河幅ヲ與ヘ舊堤ノ利用シ得ルモノハ之ヲ増築シ然ラザル箇所ニハ新堤ヲ

第二八 紀ノ川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ同二十五年年度ニ至ル十四箇年度繼續事業ニシテ總工費豫算五百萬圓（内和歌山縣負擔額百六拾貳萬五千圓）ヲ以テ施行スルモノトシ其區域ハ左岸和歌山縣那賀郡小倉村、右岸同縣同郡岩出町即チ貴志川合流點以下海ニ至ル幹川筋一九粁六ノ間ナリ

河狀並計畫大要

本川ハ源ヲ大和、伊勢ノ國境ナル大臺原山附近ニ發シ西北流シテ山間ヲ迂餘曲流スルコト數回奈良縣吉野郡國樸村ニ至リテ高見山ヨリ發スル右支小川ヲ容レ同郡上市町ニ至リテ方向ヲ西微南ニ轉ジ吉野山ノ北麓ヲ流レテ吉野川ト稱シ五條町ニ於テ左支黒龍川ヲ併セテ和歌山縣下ニ入り茲ニ始メテ紀ノ川ト稱セララル夫ヨリ橋本町ヲ過ギ九度山町ニ至リテ左支丹生川ヲ入レ尙モ同方向ニ流レ妙寺、名手、粉河等ノ小都邑ヲ經其間左右ヨリ數多ノ小支ヲ併セ更ニ岩出町ノ東端ニ至リテ最大支貴志川ヲ左方ヨリ納レ同町狹窄部ヲ經テ始メテ和歌山平野ニ出テ更ニ流ルルコト約一六粁和歌山市ノ北端ヲ擁流シ左方ニ和歌川、水軒川ヲ分派シ右方ヨリ土入川ヲ入レ尙二三ノ中洲ヲ擁シテ數派ニ離合シ末端ハ一川トナリテ海ニ注グ

幹川流路ノ延長約一三〇粁ノ内奈良縣下ヲ流ルルコト約七五粁、和歌山縣下ヲ流ルルコト五五粁ニシテ

水面勾配ハ高水時岩出町ニ於テ凡ソ四百分ノ一、最下流部ニ於テ凡ソ千五百分ノ一トス流域面積ハ奈良縣下ニ屬スルモノ約九百五十六方籽、和歌山縣下ニ屬スルモノ九百六十方籽、合計一千九百十六方籽トシ此中八十二パーセントハ山地ニシテ平地ハ僅カニ十八パーセントニ過ギズ然カモ該平地中ノ約八十パーセントハ和歌山縣ニ屬セリ

夫レ斯ノ如ク全流域ノ約八割ハ山地ニ屬シ然カモ水源地方ハ主トシテ古生層ヨリ成レル峯巒重疊セルヲ以テ水清ク豊ニシテ平時舟楫灌溉上ノ利益相當ニ大ナルモノアリト雖モ一朝洪水ノ場合ニハ和歌山市街ノ一部ヲ始メ沿岸ノ低地部ニ汎濫シテ耕地ノ荒廢、家屋ノ倒破、堤塘、橋梁等ノ損壞甚シク之レニ加フルニ一般産業、交通、衛生上等ノ諸方面ニ被ムレル損害ヲ具ニ計上スル時ハ其額尠カラズ就中近年ニ在テハ明治三十二年及大正六年ノ洪水ヲ其最タルモノトス

本改修計畫ハ洪水防禦ヲ主眼トシ其流量竝ニ水位ハ從來ノ最大洪水タル大正六年十月ノ夫レヲ基準トセリ即チ同年ノ最高水位ヲ超過セザル水位ヲ以テ最大洪水量毎秒五千六百立米ヲ安全ニ疏通セシメ得ベキ工事ヲ施設スルニ在リ然ルニ紀ノ川ハ現在河幅ハ概シテ廣濶ナルヲ以テ二、三ノ箇所ヲ除ケバ河幅ノ擴張ヲ要セズト雖モ河中ハ現在ノ儘ニシテハ河積不充分ナルヲ以テ必要ノ掘鑿及浚渫ヲ行ヒテ前記ノ計畫流量ヲ疏通スルニ充分ナラシメ尙岩出ノ狹窄部ハ現在約百六十米ニ過ギザレバ之ヲ相當ニ切擴ゲテ疏通ヲ充分ナラシメ上流ノ洪水位ヲ低下シテ冠水ノ區域ト時間トヲ縮少セシメントス

堤防ハ舊堤擴築部竝ニ新堤共總テ其天端ヲ計畫高水位以上一米五ニ在ラシメ其標準斷面ハ馬踏幅六米表法ハ二割五分トシ尙高サノ大ナル堤防ニ在テハ幅八米乃至十米ノ表小段ニ附シ小段以下ハ三割法トシ必要ナル箇所ニハ石張其他適當ナル護岸ヲ施設スルモノトス次ニ裏法ハ通ジテ二割トシ天端ヨリ約

二米ヲ下リテ幅四米ノ裏小段ヲ附スル豫定ナリ其他必要ニ應ジテ支派川入口ニ樋門ヲ設置シ尙河口ニハ突堤ヲ設ケントス

施工状況

前年度ニ於テ未了ノ實施測量ヲ繼續シ區域全體ニ互リテ丁杭ノ補足ヲ爲シ縱斷測量、横斷測量ヲ終了セリ

大正十二年七月一日改修事務所ヲ和歌山市嘉家作町測量詰所内ニ設置シ後同所ニ改修事務所ノ建築ヲ爲シ同十四年三月二十五日移轉セリ

本年度ニ於テハ以上ノ如クニシテ測量其他工事施行準備ヲ以テ終始シ工事實施ノ運ビニ至ラズ而シテ本年度ニ於テ竣功セシ工費ハ貳萬六千七百七圓ニシテ左表ノ如シ

種別	前年度迄竣功高			本年度竣功高			合 計			
	數	量	金額	數	量	金額	數	量	金額	
船舶及機械費			一、七〇七 一、七〇七 円			五、二三四 五、二三四 円			一六、三〇五 一六、三〇五 円	割合
施行中諸費			八、三二八			二〇、八七三			二九、二〇一	
總計			一九、三九九			二六、一〇七			四五、五〇六	一〇〇

第二九 千代川改修工事

(大阪土木出張所)

緒言

本改修ハ大正十二年度ヨリ同二十五年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算五百六拾六萬圓ヲ以テ施工スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川筋鳥取縣八頭郡河原村以下海ニ至ル約十七籽、支川袋川筋岩美郡宇倍野村下流本川合流點ニ至ル約七籽二及野坂川筋約一籽五、砂見川筋約〇九籽、合計二十六籽六ノ間ニ施工スルモノトス

河狀並計畫大要

千代川ハ源ヲ鳥取縣八頭郡山鄉村大字駒歸宿字沖ノ山ニ發シ大體北流シ左支新見、佐治、曳田、砂見、野坂、湖山ノ六川及右支智頭、八東、袋ノ三川ヲ合シ氣高郡賀露村ニ於テ日本海ニ注グ其流域ハ鳥取、岩美、氣高、八頭ノ一市三郡ニ跨リ集水面積一千百八十方籽餘、幹川ノ流路延長五十五籽、灌溉面積七十方籽、水害區域八十方籽餘ヲ算シ沿川ニハ縣ノ首都ナル鳥取市ヲ有シ其河口ニ當レル賀露港ハ漁港トシテ避難港トシテ將又支川袋川ヲ經テ鳥取市ニ物資ヲ供給スル關門トシテ重要視セラル流域内ニ於ケル都邑ハ古來本川ニ依リ水運ノ便、灌溉ノ利等ノ惠澤ニ浴スルコト尠カラズト雖一面比年生ズル洪水ノ慘害ニ苦メラルルコト亦莫大ナリ乏シキ舊記ヲ搜リ僅カニ知り得タル所ノミヲ以テスルモ天文年間以降約三百八十年間ニ大洪水ト認ムベキモノ實ニ四十六回ヲ數フ就中大正七年九月ノ洪水ノ如キハ沿川ノ平野ハ悉ク水底ニ

没シ鳥取全市ヲ舉テ一米五乃至四米餘ノ冠水數日ニ互リ一望大海ノ觀ヲ呈シ汎濫面積約八十方籽ノ多キニ及ベリ

今現況ヲ見ルニ其堤防ハ薄弱不規則ニシテ河幅廣狹常ナク河積ノ足ラザル部分隨所ニ介在シ一朝洪水ニ際會セバ破堤ノ厄ヲ被ルト同時ニ汎濫度ナク田畑ノ荒廢、財物ノ流失、人畜ノ死傷等其慘害目ヲ掩ハシムルモノアルノミナラズ其支流ナル袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ其河積ハ既往大洪水ヲ流下スルニ必要ナル河積ノ半ニモ足ラザル部分多キヲ以テ未ダ洪水ト稱シ得ザル程度ノ出水ニテモ市内ニ溢流シ産業、交通ニ累スルコト鮮少ナリトセズ

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメ高水時間ノ短縮ヲ圖リ併セテ沿岸一帶惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ尙河口ニ於ケル舟楫ノ便ヲ圖ラントスルモノニシテ本川筋河原村終點以下八千代橋ニ至ル間ハ大體現狀ニ準據シ在來堤ヲ利用擴築補強シ其甚シク突出シテ河幅狹ク洪水ノ排除ニ支障アル箇所ハ之ヲ避ケ無堤部ニハ相當河幅ヲ定メ新堤ヲ築造シ河積ノ足ラザルハ掘鑿ニ依リ之ヲ補フモノナリ

八千代橋以下現在河道ハ稍々北東ニ向ヒ濱坂地先ニ於テ更ニ西北ニ大屈折ヲ爲シ且沿岸ニハ秋里、江津ノ二部落アリ現狀ニ依リ改修セントスル時ハ江津ノ部落ヲ移轉セシメザルベカラザルノミナラズ現在袋川合流點ニ於ケル高水位ハ之ヲ低下セシムルコト能ハズシテ鳥取市ノ排水ニ不利ヲ來スベキヲ以テ八千代橋附近ヨリ北、北西ニ向ヒ大體直流スル新河ヲ開鑿シ江津ノ下流ニ於テ現在ノ河道ニ合シ河口ニ至ラシム

支川袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ河積足ラザルノミナラズ曲折甚シク現在ニ依リ改修セントセバ工費巨額

ニ上ルベキヲ以テ若櫻街道ノ東方ヨリ新川ヲ開鑿シ八千代橋下流ニ於テ現在ノ本流ニ注ギ現在本流ノ河道ハ單ニ袋川ノ平水流路ニ供セラルルコトナルヲ以テ全ク市内ノ汎濫ヲ防止スルヲ得ベシ野坂川ハ本川ト殆ンド直角ニ交加シ爲メニ排水ヲ阻害セラルルコト甚シキヲ以テ其合流點ヲ八千代橋附近迄引下ゲ以テ水位ノ低下、洪水ノ排疏ニ便ナラシム砂見川モ亦同一ノ理由ニ依リ其合流點ヲ稍々下流ニ導キ湖山川ニハ本川合流點ニ樋門ヲ設ケ本川ノ逆流ヲ防止セントス

本川ノ計畫洪水水位ハ大體既往ノ最大洪水タル大正元年九月及同七年九月ノ洪水水位ニ準據シタルモノニシテ河狀不正ノ爲メ特ニ水位ノ昇騰ヲ來シタルト認メタル區間ニ對シテハ之ヲ整正シ水位ノ低下ヲ計レリ而シテ計畫流量ハ大正九年以降普通洪水ニ對スル實測ヲ重ネ之ニ因リテ得タル結果ト流域内ノ降水量及附近類似河川ノ洪水流量ヲ資料トシ既往ノ最高水位ニ對スル洪水流量ヲ推算スルニ袋川合流點以上ニ於テ每秒三千立米其以下ニ於ケルモノ每秒三千三百立米餘ト定メ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ期セリ支川袋川ノ流量ハ每秒五百五十立米ト定ムルノ妥當ナルヲ認メタリ

河幅ハ幹川筋上流河原村附近ニ於テ約二百十米トシ以下順次擴大シ八千代橋附近ハ約三百十八米、賀露村附近ニ於テ約三百七十米ヲ保タシム袋川筋ニ在テハ上流ハ大體現狀ノ儘トシ其新川ニ屬スル部分ハ上流部六十四米、下流部若櫻街道附近以下ハ八十五米トス

堤防ハ幹川ヲ馬踏ハ下流部七米五、上流部六米、法ハ表裏共二割五分トシ堤高ノ大ナル箇所ハ小段ヲ設ケ其天端ハ計畫高水位以上一米二ヲ保タシム之ニ要スル土砂ハ直接掘鑿セルモノヲ利用セントス法ハ土羽附ヲ爲シ必要ニ應ジ石張トシ其他適當ニ護岸ヲ設クルモノナリ支川袋川ノ堤防ハ馬踏五米五、表裏共二割法トシ天端ハ計畫高水位以上〇米九トス之ニ要スル土砂及土羽附ハ前同斷トス

施工状況

本年度ハ前年度ニ引續キ實施測量及諸般ノ調査ヲ行ヒ準備トシテハ事務所敷地ノ地上ダ工事、事務所建設、洪水觀測所設備工事等ヲ施行セリ

大正十三年五月一日鳥取市行徳町三四六行徳青年會館内ニ改修事務所ヲ設置サレシガ同年七月三十一日氣高郡千代水村大字安長ニ改修事務所ノ建築落成ト同時ニ同所ニ移轉シ事務ヲ取扱フコトナレリ
千代川測量ハ幹川筋八頭郡河原村以下海ニ至ル延長一萬六千五百米、支川袋川岩美郡宇倍野村宇宮ノ下以下千代川合流點ニ延長七千五百米ノ實施測量ニテ法線杭及中杭ノ設定縱橫斷測量ヲ爲セリ

千代川本川筋ニ於テ八頭郡河原村大字稻常、袋川筋ニ於テ岩美郡宇倍野村大字玉鉾地先ヲ選定シ兩川ノ洪水流量觀測ノ設備ヲ施セリ

本改修工事本年度竣功高ハ壹萬八千百五拾七圓ニシテ本年度迄ノ累計ハ五萬壹千參百四拾壹圓ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費	—	一七、九一七	—	二、三〇八	—	二〇、二二五	—
施行中諸費	—	一五、二六七	—	一五、八四九	—	三一、一六六	—
總計	—	三三、一八四	—	一八、一五七	—	五一、三四一	一〇〇

第三〇 蘆田川改修工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ同二十一年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算五百六拾六萬圓(内廣島縣負擔百九拾八萬九千圓)ヲ以テ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋廣島縣蘆品郡府中町以下海ニ至ル貳萬七千五百米、左支高屋川筋深安郡湯田村以下幹川合流口ニ至ル六千五百米及右支瀬戸川筋ノ幹川合流口附近ナリトス而シテ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期限ヲ同二十五年トスルコトニ決定ス

河狀並計畫大要

本川ハ廣島、岡山ノ兩縣下一市八郡ニ互リ(主トシテ廣島縣)源ヲ廣島縣世羅郡神田村甲山ニ發シ漸次溪流ヲ收メ蘆品郡川邊村ニ至リ右支御調川ノ合流スルヤ流量頓ニ倍加ス流路ハ之ヨリ漸ク峽谷ヲ脱シ府中町ヲ過グルヤ地勢全ク展開シテ廣濶ナル備後平野ニ出テ神谷川、有地川、其他ノ小支流ヲ合セ東流シテ深安郡中津原村ニ至リ急ニ百三十餘度廻轉シテ西南ニ方向ヲ轉ジ左支高屋川ヲ併セ福山市ノ西ヲ繞リテ更ニ右小支瀬戸川ヲ入レ沼隈郡水呑村竹ノ端ニ至リテ燧灘ニ注グ而シテ府中町ヨリ上流ハ山間ノ急流ニシテ奔湍岩ヲ衝テ流レ府中町ヨリ蘆品郡新市町落合ニ至ル間モ亦勾配急ニシテ河底ハ礫又ハ小砂利ノミナレドモ神谷川合流點以下ハ河狀一變シテ細砂緩勾配トナリ高屋川合流點以下ニ至レバ所々ニ寄

洲ヲ生ジ河口ニ至リテハ殆ンド河底ヲ游塞セルノ觀アリ

本川ハ流域面積八百七十方籽、流路延長七百三十四籽(内幹川七十八籽)灌漑地區七千七百七ヘクタール(七千六百六十六町步)ヲ有スル中國有數ノ大河川ニシテ沿川都邑ノ受クル産業上ノ利益頗ル大ナルモノアリ然レドモ比年洪水汎濫シテ慘害ヲ逞ウシ彼ノ大正八年七月及九月兩度ノ出水ノ如キハ上流府中町ヨリ下流川口村ニ互ル五千八百六十三ヘクタール(五千九百十二町步)ノ沃野ヲ變ジテ一大沼湖ト化シ福山市ヲ初メ沿川ノ都邑浸水ヲ見ザルハナク人畜ノ死傷、家屋ノ倒壞、堤防及道路橋梁ノ破壞、流失等直接ノ損害額實ニ四百參拾餘萬圓ノ多キニ上レリ若シ夫レ之ニ加フルニ産業、交通、衛生等諸方面ニ互ル被害ヲ具ニ考慮スル時ハ其慘害ノ巨大ナルヲ知ルベク明治四十三年以降十箇年間ノ平均水害損失額四拾七萬八千餘圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ主眼トスル所ハ高水量排疏ニ充分ナル河積ヲ與ヘテ汎濫ヲ防却シ併セテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ支川ニ對シテハ逆水ノ被害ヲ輕減シ以テ沿川一帶平野ノ水害ヲ除却シ且惡水ノ排除ヲ容易ナラシメントスルモノナリ

高水流量ハ改修起點府中町附近ニ於テハ每秒一千百立米トシ以下順次増加シ高屋川合流點以下一千九百五十立米、瀬戸川合流點以下二千百立米トシ支川高屋川ハ起點川北村附近ニ於テ二百立米、千田村字横尾以下四百二十立米ト定ム河幅ハ府中町附近ニ於テハ百二十米ニ始マリ最下流部ニ於テ四百米トシ高屋川ニ對スルモノハ起點ニ於テ四十七米、本川合流口附近ニ於テ九十米ヲ保タシム

堤防ハ幹川筋ニ在テハ馬踏五米五乃至七米、兩法二割五分トシ高サ大ナルモノニ在リテハ小段ヲ設ケ天端ハ高水位以上一米二乃至一米五ノ餘裕ヲ存セシム支川高屋川ハ馬踏幅三米七、兩法二割、天端ハ高水位

以上一米ヲ保タシム支川高屋川及瀬戸川ノ下流部ハ幹川ノ汎濫ヲ被リ湛水時間長期ニ渉ル低濕地ナルヲ以テ瀬割堤ヲ築キテ合流點ヲ引下ゲ惡水ノ排除ト逆水ノ低下トヲ圖ルコト、セリ計畫高水勾配ハ府中町附近ニ於テ三百二十分ノ一最下流部ニ於テ二千四百分ノ一トス

施工狀況

本工事ハ大正十二年八月二十二日ヲ以テ實施測量ニ著手シ深安郡本庄村神島橋東詰ニ蘆田川改修測量員詰所ヲ設ケタリシモ翌十三年七月一日同所ニ蘆田川改修事務所ヲ開設シ更ニ同十四年三月一日福山市宇西堀端ナル新築廳舎ニ之ヲ移轉セリ

本年度ニ於テハ幹川筋昨年度測量未濟部分及支川高屋川瀬戸川改修區間全部ノ縱横測量ノ大體ヲ終了セシモ未ダ工事施行ノ運ビニ至ラズ

本年度竣功高ハ壹萬四千五百五拾六圓(外ニ事務費及現在物品代價アリ)ニシテ昨年度起工以來ノ累計參萬貳千貳百貳拾參圓トナル其工事竣功表ノ内譯左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合		計	竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
船舶及機械費		一、二五六		九〇二		一、二一五八		
測量費		二、七三四		四、三三三		七、〇五六		
營繕費		五七一		三、八三三		四、四〇三		

種別	前年度迄		本年度		合	計	竣功
	數量	金額	數量	金額			
施行中諸費							劃分
共濟組合給與金		九三	一四五	五,三五五 円	三三八	八,三六八 円	
總計		一七,六六七	一四,五五六		三三,二三三	三三,二三三	〇〇〇六

第二章 河川附屬物及水路維持

第一 木曾川附屬物及水路維持

(名古屋土木出張所)

緒言

本工事ハ明治三十五年度以降毎年工費參萬圓ヲ以テ維持修繕ヲ爲ス事トシ國庫ニテ壹萬圓、岐阜縣壹萬四千圓、愛知縣四千圓、三重縣貳千圓ノ分擔割合ヲ以テ施工シ來リシガ明治四十年年度ヨリ大正十八年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシテ工費豫算毎年度參萬圓、總工費六拾九萬圓ヲ以テ更ニ實施スルコトトナリシモ爾來諸物價ノ暴騰ニ遭遇シ當初ノ豫算ニテハ維持困難トナリシヲ以テ大正九年度以降年額五萬四千圓、總工費九拾參萬圓ト爲シ更ニ同十一年度ハ年額九萬六千圓、總工費九拾七萬貳千圓ニ増加セラレ同十二年度以降ハ年額九萬六千圓、總工費百七拾四萬六千圓トナリシガ同十三年度以降ノ年割額更正ノ爲メ四萬八千圓ノ減額トナリ年額八萬四千圓、總工費百六拾九萬八千圓トシ繼續年度ヲ大正二十四年度迄延長セラレタリ而シテ維持ノ目的物ハ左ノ如シ

- 一 成戶、船頭平間木曾、長良兩川瀨割堤
- 一 油島締切堤防ヨリ桑名町地先、長良、揖斐兩川瀨割堤
- 一 以上瀨割堤ニ直接關聯セル護岸及制水
- 一 船頭平間門及前後附屬物
- 一 木曾川河口導水土堤及石堤
- 一 揖斐川河口導水土堤及石堤
- 一 揖斐川流末低水敷

施工狀況

本年度施行ノ工事ハ前年度ヨリ繰越シタル日原地先堤防修繕工事及立田、八開村間護岸、制水修繕工事、立田村地内制水修繕並新設工事ノ三箇所ハ之ヲ竣成セシメ本年度新ニ著手シタル工事中木曾川導水石堤通船路新設工事、駒ヶ江地先制水修繕工事、立田村大字大成地内護岸修繕工事、葛木地内護岸、制水修繕工事ノ内護岸工事、船頭平閘門修繕工事及船頭平閘門第二修繕工事、閘門木曾川水路浚渫工事ノ七箇所ハ竣成シ葛木堤防修繕工事、葛木地内護岸、制水修繕工事(護岸工事ハ竣功)及前年度ヨリ繰越シタル立田堤防第二修繕工事ノ三箇所ハ未竣功ノ儘翌年度ニ繰越セリ而シテ以上ノ工事ニ對シ直接支出シタル工費ハ六萬貳千八百圓ナリ

船頭平閘門ノ狀況ハ從來ト異ナルトコロ無ク本年度ニ於ケル通航數ヲ示セバ大船(六十石積以上)四千八百二十一隻、中船(二十石積以上)二千六百六十六隻、小船(二十石積以下)六千二百五十一隻、合計一萬三千二百三十八隻ナリ外ニ木竹筏(一組長五間乃至七間、幅約六尺乃至十四尺)七千八百八十五組通過セリ本年度維持工事竣功額ハ八萬貳千壹圓ニシテ起工以來ノ累計七拾五萬九千八百七拾九圓ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ量水標ヲ保管轉換シタル材料代ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
制水費		一三八、一七九 円		二九、六三一 円		一六七、八一〇 円
護岸費		六〇、五九四 円		一、三三〇 円		六一、八〇四 円
合計						
竣功歩合						

總計	堤防費	導水堤費	浚渫費	閘門費	假設工費	施行中諸費	船舶及機械費	測量費	營繕費	火災損亡品價格	不用額	共濟組合給與金
*								*				
六七七、八七八	一一一、〇六五	六〇、三三三	五四、九三三	四六、九八四	六、一〇六	一〇八、三九二	五九、五五三	一九、〇〇六	一一、二八四	一四四	一一八	二八八
八二、〇〇二	二八、一八三	一、六二八	九一六	五四一		一六、〇六〇	八七四	一、九二三	五七七			四六九
*								*				
七五九、八七九	一三九、二四七	六一、八六〇	五五、八四九	四七、五二五	六、一〇六	一二四、四五二	六〇、四二七	二〇、九一九	一一、八六一	一四四	一一八	七五七
〇・四四七												

第一一 淀川附屬物及水路維持

（大阪土木出張所）

緒言

淀川改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ竣功ヲ告ゲ堤防其他ノ工事ハ夫々所屬府縣ニ引繼ヲ了セルモ同川筋一部ノ築造物即チ瀬田川洗堰、毛馬洗堰、毛馬第一閘門、六軒屋閘門、傳法閘門、西島閘門、正蓮寺川縮切堰堤ニ對シテハ本省ニ於テ直接管理ノ任ニ當リ明治四十四年度以降大正十七年度ニ至ル十八箇年度ニ互リ年額壹萬壹千圓、總豫算拾九萬八千圓ヲ以テ之ガ維持修繕ヲ行フコトトナリシガ大正五年四月工費壹萬壹千圓ヲ増額ト共ニ一箇年度ヲ延長セラレ尙同七年度ニ至リ淀川下流改修工事ニテ竣功シタル毛馬第二閘門、長柄起伏堰ト毛馬第一、第二兩閘門前後ノ水路維持ヲモ行フコトトナリタルニ依リ年額ヲ貳萬五千圓ニ改定シ豫算總額ヲ參拾七萬七千圓トシ翌八年度ニ於テ長柄運河頭部開閉扉ヲ淀川附屬物維持ニ加ヘラレ又同十年度ニ於テ物價騰貴ノ爲メ年額ヲ四萬圓ニ改メ豫算總額五拾壹萬貳千圓ヲ以テ維持ヲ行フコトトナリシガ同十一年度ヨリハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル傳法第二閘門及六軒屋洗堰並同「サイフオン」ヲ更ニ管理セラルルコトトナリタルト堰桁ノ取替其他ノ修繕ト六閘門前後航路ノ浚渫ヲ爲ス爲メ貳萬圓ヲ要スルト大正九年度ニ高粱川ヨリ流用セシ壹萬參千五百圓ヲ返還スル爲メ同十一年度ニ參萬參千五百圓ヲ増額セラレタリ又同十二年度ハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル六軒屋第二閘門ヲ追加セラレタルト閘門及洗堰ノ大修理ヲ要スル爲メ年度割額四萬圓ノ外四萬貳千六百圓ヲ増額セラレ尙同十三年度ハ六萬圓、同十四年度以降ハ各八萬圓ニ改メ豫算總額百貳拾八萬八千百圓（十三年度以降

九拾四萬圓トナリ其年限モ亦同二十四年度迄延長セラレタリ而シテ本費ハ元全部國費ヲ以テ支辨シ來リシガ同十二年度以降ハ關係地方ニ其費用ヲ負擔セシメラルルコトトナル即チ國費六拾貳萬貳千貳百圓、地方費六拾六萬五千九百圓ノ割合トナレリ

是等附屬物維持ノ目的ヲ達スル爲メ滋賀縣栗太郡下田上村大字黒津ニ瀨田川看守場、大阪府西成郡豊崎町大字北長柄ニ淀川看守場ヲ設置シ各擔當技術者ヲ配置シ專用電話ヲ備ヘテ通信ヲ敏活ナラシメ又各所ニ量水標ヲ設ケテ水位ノ觀測ヲ行ヒ尙降雨ノ際ニハ水源地方ニ於ケル雨量觀測所及森林測候所ヨリ電報ヲ以テ雨量ノ報告ヲ受ケ洪水ニ際シテ起ルベキ水位ヲ豫知シ以テ被害ノ輕減ニ努メ又渇水時ニ際シテモ常ニ灌溉ト航運トニ支障無キ流量ヲ持續スル様調節ヲ行ヒツツアリ

正蓮寺川堰堤ハ大阪府ニテ施行セシ中津川改修ノ結果大正十二年九月公用ヲ廢止セラレタリ

施工狀況

施工ノ主ナルモノハ前述ノ如ク閘門及洗堰、起伏堰、其他ノ開閉修繕及航路維持、浚渫等ニシテ内本年度ニ在テハ六軒屋第一閘門ノ門扉四枚ノ改造取替ヲ其主ナルモノトス

本年度支出額ハ六萬百九拾六圓ニシテ明治四十四年度創業以來ノ支出高累計四拾萬參千參百拾四圓ナリ而シテ其工事竣功表ハ左ノ次シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		備考
	開閉費	修繕費	開閉費	修繕費	開閉費	修繕費	
瀨田川洗堰	二、五五一 円	七、七八〇 円	一、一六 円	一、七八四 円	二、六六七 円	九、五六四 円	

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		備考
	開閉費	修繕費	開閉費	修繕費	開閉費	修繕費	
毛馬洗堰	一〇、一二五	一五、四六八	三三五	三、三二九	一〇、四六〇	一八、七九七	
毛馬第一閘門	一一、五〇一	七、〇八五	三二四	一、二二二	一二、八一五	八、二九七	
毛馬第二閘門	一七、八二〇	六二〇	三、五二〇	七九一	二一、三四〇	一、四一一	大正七年度以降
六軒屋第一閘門	二六、七四一	一九、〇〇一	三、四八四	七、〇一三	三〇、二二五	二六、〇一四	
六軒屋第二閘門	三、四七七	七六	三、四六一	七五	六、九三八	一五一	
傳法第一閘門	二五、一五二	七、九二三	三、四一六	二一〇	二八、五六八	八、一三三	同 十二年度以降
傳法第二閘門	七、〇四六	八〇八	三、四一四	九	一〇、四六〇	八一七	同 十一年度以降
西島閘門	二四、四二〇	四、九四〇	三、四二四	二六	二七、八四四	四、九六六	
長柄起伏堰	四、七九三	七、三〇三	六五四	七二八	五、四四七	八、〇三一	同 七年度以降
六軒屋洗堰及サイフォン	五九	三、三三〇	四五	六七	一〇四	三、三九七	同 十一年度以降
正蓮寺川堰堤	九一	三、二八七	一〇三	二四八	一、〇一四	一、〇三八	同 十二年九月公用廢止
長柄運河頭部扉	一四、四二一	一六、六七三	二二、二八六	二、三〇〇	一四、四二一	一八、九七三	同 八年度以降
雜工事其他	一五、〇一七	九五、〇八四	二二、二八六	一七、七九二	一七、三〇三	一一、八七六	
小計	一五、〇一七	九五、〇八四	二二、二八六	一七、七九二	一七、三〇三	一一、八七六	
浚渫費	一五、七四六				一五、七四六		同 七年度以降
施行中諸費	八二、二九一		三〇、一一八		一〇二、四〇九		
總計	二四八、〇五四	九五、〇八四	四二、四〇四	一七、七九二	二九〇、四五八	一一二、八七六	支出歩合三割一分三厘
	三三三、一三八		六〇、一九六		四〇三、三三四		

第三 利根、渡良瀬兩川維持

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ同二十三年度ニ至ル十二箇年度繼續事業ニシテ毎年度參拾參萬四千貳百圓總工費四百壹萬四百圓(三分ノ二ハ地方費)ヲ以テ施行スルモノトス其區域ハ利根川筋群馬縣佐波郡芝根村以下右岸千葉縣香取郡推柴村、左岸茨城縣鹿島郡矢田部村ニ至ル百八十一村、渡良瀬川筋栃木縣下都賀郡三鴨村都賀以下利根川合流點ニ至ル十五村ナリトス

上記施行區域内ニ於ケル兩川改修工事ハ利根川筋ニ於テ一ニ重要箇所ヲ除クノ外大正十一年度末迄ニ殆ンド八九分通り竣功シ堤塘ノ連續ト相俟テ河狀整齊シ再ビ往年ノ慘害ヲ見ザルニ至レリト雖モ既成部ノ水路及附屬物ハ其竣功古ク濬路ノ異動、堤塘及護岸ノ沈下或ハ破損等相等多ク是等ハ常時修補ヲ爲スニ非ザレバ遂ニハ昔日ノ舊態ニ戻リ所謂九仞ノ功ヲ一篋ニ缺クノ虞ナシトセズ旁々其利害ノ及ブトコロ數縣ニ跨リ重大ナル關係アルヲ以テ之ガ維持上常時修繕ノ緊切ナルヲ認メ第四十七議會ノ協賛ヲ經テ前記ノ如ク前年度ヨリ國ニ於テ施行スル事トナレリ

施工狀況

本工事ハ利根川第二期、同第三期並渡良瀬川各改修事務所ニ於テ分擔施行スルコトトナリ派出所及機械器具ノ一部ヲ其儘使用シ得ルノ便宜ヲ有シタルヲ以テ大正十二年八月十五日ヨリ工事ニ著手シ夫々施

工中ノ處翌九月一日ノ大震災ニ依リ既成堤塘、護岸及制水其他工作物ハ非常ノ被害ヲ被リシモ直チニ應急工事ニ著手シ斯クテ十二月ニ至リテ是等ハ震災復舊工事トシテ別途施行スルコトトナリシヲ以テ茲ニ再ビ維持工事ニ移レリ而シテ同年度中ニ堤防修補三十九箇所、土量運搬八萬九千八百五粒此工費七萬八千五百九拾六圓、浚渫二箇所土量三萬二千九百九十六粒此工費九千五百貳拾四圓、護岸、制水十六箇所此工費拾參萬九千九百九拾八圓、合計貳拾貳萬七千五百七拾八圓ヲ竣功セリ本年度ハ前年度ニ引續キ堤防修補一萬百四十四粒此工費五千四百八拾八圓、浚渫二萬七千四百十六粒此工費壹萬壹千百圓、護岸制水二十三箇所此工費貳拾萬七千參百五拾壹圓、合計貳拾貳萬參千九百參拾九圓ヲ竣功セリ

今各工區別ニ本年度施行ノ狀況ヲ述ブレバ

第二期改修ニ屬スル施行區域ハ取手鐵橋以下右岸千葉縣香取郡推柴村、在岸茨城縣鹿島郡矢田部村ニ至ル七十八粒ニシテ堤防竝制水ノ修補ヲ主トシ横利根川閘門ノ管理ヲ併セ施行セリ

本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ布川及中谷地先制水修補工事ヲ施工シ床均シ一千七百八十粒、下埋三百六十粒、沈床四千一十一粒、上層百五粒ヲ竣功シ工費壹萬五千貳百八拾圓ヲ支出セリ又横利根川閘門管理者ノ爲メ支出セルハ參千四百八拾八圓ナリトス

第三期改修ニ屬スル施行區域ハ上流芝根村以下取手鐵橋迄百三粒ニシテ護岸制水竝堤防ノ修補及浚渫ヲ併セ年度内二十箇所ヲ施工シ内竣功セルモノ六箇所、未竣功十四箇所ナリトス以下少シク施工ノ狀況ヲ述ベンニ

堤防ハ沼ノ上、赤岩間ニ於テハ砂利ヲ以テ築造シ眞土ニテ包覆セル所尠カラズ是等ハ年ト共ニ中詰砂利ノ現ハルル所アルニ依リ土盛ヲ爲シ被覆ヲ完全ニシ堤防ノ法ニ茂生セル灌木ヲ伐採シテ芝ノ生育ヲ良

好ナラシム此區域ニ於テハ護岸制水ニ最モ力ヲ注ギ制水ノ沈下沈床ノ流失等ヲ防止スル爲メ上流沼ノ上以下八斗島久々宇仁手長沼平塚前小屋小島妻沼ノ各地先ニ於テ杭打上置及合掌杵ヲ設置シ是等ト石張トノ間ニハ鐵線蛇籠ヲ敷詰メタル所尠ナカラズ又水衝リ強キ所ニハ越中三又及鐵筋材中聖牛等ヲ設置シテ河岸ノ崩壞ヲ防ギ柳枝護岸ハ柳枝ノ挿替雜草ノ苜取等相當手入ヲ爲シタリ

赤岩境間ニ於テハ新郷梅島江口井泉上村君下村君飯野大越利島東ノ地先ニ施工シ水流ノ偏倚セル所ニハ合掌杵又ハ杭打上置ヲ設置シ制水根固ヲ缺ク處ハ石張及片合掌杵ヲ設置セリ

又五霞村香取村靜村及境町各地先ハ大震災ニ因リ制水ノ沈下及破損セルモノ多ク爲ニ航路亂レ舟航極メテ困難ナリシガ前年度ニ引續キ施行ニ努メタル結果一部ヲ除キ殆ンド復舊セシムルヲ得タリ

境町取手間ニ於テハ關宿町二川村ニ至ル間ニ於テ低水路浚渫ヲ施工シタル外境關宿木間ヶ瀬福田木野崎三ッ堀及大木ノ地先ニ於テ合掌杵ノ設置及柳枝護岸其他制水ノ修補ニ努メ斯クテ年度内築堤一箇所土量四千粒浚渫一箇所一萬八千百十二粒護岸制水十八箇所延長一萬六百七十三米八ヲ施工シ工費拾七萬九千九百九圓ヲ支出セリ

渡良瀬川改修ニ屬スル施行區域ハ栃木縣下都賀郡三鴨村都賀以下利根川合流口ニ至ル一五米九ニシテ本年度ニ於テハ赤間遊水地周圍堤ノ内釜場堤流失部ノ修補並其前面護岸及藤岡新川低水路ノ川床深掘ノ爲メ破損セル兩護岸其他下流利根川合流口左岸低水路ノ在來護岸等ノ破損セルモノヲ修補セリ又支川思川低水路ノ内野木村新川岸地先ニ於テ河床變動土砂沈澱シ航行困難ノ箇所アリシヲ以テ前年度ニ引續キ浚渫ヲ施工シ斯クテ年度内築堤土運搬六千四百四十四粒此工費貳千六百七拾五圓浚渫土量九千三百四粒此工費參千貳百四拾四圓護岸制水三箇所此工費貳萬貳千八百參拾壹圓工費合計貳萬八千七百五

拾圓ヲ竣功セリ

本年度ニ於ケル本工事竣功額ハ參拾萬參百貳拾壹圓ニシテ起工以來ノ累計ハ五拾七萬四千五百貳拾貳圓トナリ之ヲ總工費豫算四百壹萬四百圓ニ對比スレバ一割四分餘ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本築堤費	八九、八〇五	七八、〇五六	一〇、一四四	五、四八八	九九、九四九	八三、五四四
工事濶費	三〇、二九六	九、五二四	二七、四一六	一、一〇〇	五七、七二二	二〇、六二四
事護岸制水費	一六	一三九、九九八	二二	二〇七、三五二	三九	三四七、三四九
船舶及機械費	一八、八七〇	一、八七〇	七、〇二二	七、〇二二	二五、八九二	二五、八九二
測量費	六四一	六四一	三、九五二	三、九五二	四、五九二	四、五九二
營繕費	一、〇三三	一、〇三三	五、一三六	五、一三六	六、一六九	六、一六九
施行中諸費	二五、〇七五	二五、〇七五	五八、三三二	五八、三三二	八三、四〇六	八三、四〇六
共濟組合給與金	一、〇〇四	一、〇〇四	一、九四二	一、九四二	二、九四六	二、九四六
總計		二七四、二〇一		三〇〇、三三二		五七四、五三二

更ニ前表ヲ各改修別ニスレバ次ノ如シ

第二期改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
計						
竣功						
歩合						

第三期改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	六六、一二九	五八、五七六	四〇〇〇	二、八一三	七〇、一二九	六一、三八九	劃分
工事濶水費	二二、八〇〇	六、三〇八	一八、一一二	七、八五六	四〇、九一二	一四、一六四	
事護岸制水費	一二	一〇六、三〇〇	一八	一六九、二四〇	三〇	二七五、五四〇	劃分
船舶及機械費		一七、八四五		八九二		一八、七三七	
測量費		五九二		一九三		一、七八五	劃分
營繕費		一〇、三三三		二、三三六		三、三六九	
施行中諸費		一四、〇一〇		三五、〇五二		四九、〇六二	劃分
共濟組合給與金		五五一		一、一九一		一、七四二	
總計		二〇五、二二五		三三〇、五七三		四二五、七八八	

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	一七、二九四	一四、一七〇	二	一五、二八〇	一七、二九四	一四、一七〇	劃分
工事濶水費	三	九、一六七		六、一〇八	三	二四、四四七	
事護岸制水費		一、〇二五		一八、七八四		一八、七八四	劃分
船舶及機械費		四九		一、八〇〇		一、八四九	
測量費		八、七五六		二、五〇九		二、五〇九	劃分
營繕費		三四八		五三六		二七、五四〇	
施行中諸費		三三、五一五		四五、〇一七		七八、五三二	劃分
共濟組合給與金						八八四	
總計							

第二章 河川附屬物及水路維持 (利根、渡良瀬兩川維持)

渡良瀨川改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本築堤費	六、三八二 <small>粒</small>	五、三二〇 <small>円</small>	六、一四四 <small>粒</small>	二、六七五 <small>円</small>	一二、五二六 <small>粒</small>	七、九八五 <small>円</small>
工事浚渫費	七、四九六 <small>箇所</small>	三、二一六	九、三〇四 <small>箇所</small>	三、二四四	一六、八〇〇 <small>箇所</small>	六、四六〇
護岸制水費	—	—	三	二二、八三一	四	四七、三六二
船舶及機械費	—	—	—	二二	—	二二
測量費	—	—	—	九五八	—	九五八
營繕費	—	—	—	二九一	—	二九一
施行中諸費	—	二、三〇九	—	四、四九五	—	六、八〇四
共濟組合給與金	—	一〇五	—	二一五	—	三二〇
總計	—	三五、四七一	—	三四、七三一	—	七〇、一〇二
竣功	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

第三章 砂防工事

第二 淀川流域砂防工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年年度ヨリ十箇年度繼續事業トシテ毎年度工費參萬圓ヲ以テ施行スルコトトナリ其後兩度ニ之ヲ追加延長シテ大正十八年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシテ總工費六拾九萬圓ヲ以テ施行スルコトニ改メラレタリ其區域ハ京都、滋賀、三重及奈良ノ一府三縣ノ管内ナリトス

施工狀況

本年度工費ハ既定年割額參萬圓ヲ以テ前年度ト同様豊原(奈良縣)下田上及雲井(滋賀縣)伊賀(三重縣)ノ四工場ニテ作業ニ從事シ年度内成功セリ兀崩面積新設十四ヘクタール二五工費貳萬六千貳百貳拾圓(一アル平均拾八圓四拾錢)修繕費貳百貳拾貳圓、合計貳萬六千四百四拾貳圓ニシテ其縣別表左表ノ如シ但シ京都府ニハ本年度ニ施工セシモノ無シ

種別	滋賀縣	三重縣	京都府	奈良縣	合計	
						數
新設工事	一五、七三〇 <small>円</small>		五、五七八 <small>円</small>		四、九一二 <small>円</small>	二六、二三〇 <small>円</small>
修繕工事	一五六				六六	二二二
總計	一五、八八六		五、五七八		四、九七八	二六、四四二

今明治四十年度以降直接工事ニ支出シタル金額ヲ掲グレバ四拾八萬五千六百貳圓ニシテ之ヲ關係府縣ニ區別スレバ次ノ如シ

種別	滋賀縣	三重縣	京都府	奈良縣	合計	
						數
新設工事	二六二、四四七 <small>円</small>		七六、六一八 <small>円</small>		七〇、五七八 <small>円</small>	三六、二八九 <small>円</small>
修繕工事	三六、四八〇		一、九四八		九五三	二八九
總計	二九八、九二七		七八、五六六		七一、五三一	三六、五七八
						四八五、六〇二

起工以來本年度迄ニ支出シタル總工費ハ五拾四萬四千五百七拾五圓ニシテ其内譯ヲ示セバ左表ノ如シ而シテ筋工、藁工ニハ手入ヲ含ミ苗木植付ニハ補植ヲ含ム但シ「●」ハ寄附ニ係ル

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數	金額	數	金額	數	金額
種別						
積種	一、九三八、六二八 <small>米</small>	二四〇、五五五 <small>円</small>	三九、三三二 <small>米</small>	一〇、一九三 <small>円</small>	一、九七七、九六〇 <small>米</small>	二五〇、七四八 <small>円</small>
石苗	一四六、四八一	二〇、三七五	五、八二九	二、七四四	一五二、三一〇	二三、一一九
歩合						

總計	崖堰法	護岸堤	床固修繕	石切修繕	積苗修繕	積苗修繕	堰堤修繕	柴石水叩	藁伏工	苗木植	藁工	筋工	石垣	床固	護岸	堰堤	崖切	
			一、〇六一 平米	一、九九九 米	二四、九五五 立米	二、八一七 立米	六二、一二三 米	一、二八九 米	六九	五、一五六 平米	一四、四九三、五三九 本	二六〇〇二一 本	四五、〇五〇	八、三三一 米	二、二七七 平米	二、一八七 平米	一四、〇六五 平米	二四四、八四九 立米
五二、三、五〇二 一四六	五九、二七六	四七四	五二	九〇六	一、二五三	八、九二六	二、四七五	六五	三三〇	一一〇、〇五四 一四六	七、〇〇六	四、〇四三	七、四六八	八、二五四	四、八四二	一、九四四	二五、〇〇四	
										二三五、〇一〇 本		一六、七六四	九一八 米			一六一 平米	一一、三〇三 立米	
三三、〇七三	九、〇〇三									三、四五〇		二、二六〇	一、〇三三			三〇四	二、〇九七	
			一、〇六一 平米	一、九九九 米	二四、九五五 立米	二、八一七 立米	六二、一二三 米	一、二八九 米	六九	五、一五六 平米	一四、七二八、五四九 本	二六〇〇二一 本	六一、八一四	九、二四九 米	二、二七七 平米	二、一八七 平米	一四、二二六 平米	二五六、一五二 立米
五四四、五七五 一四六	六八、二七九	四七四	五二	九〇六	一、二五三	八、九二六	二、四七五	六五	三三〇	一一三、五〇四 一四六	七、〇〇六	六、三〇三	八、四九〇	八、二五四	四、八四二	一二、二四八	二七、三〇一	
〇・七九																		

總計	施行中諸費	護岸	苗付	床固	石垣	筋工	堰堤	崖切	積石
			●						
			二七 三八 三七 九五 〇〇 本 三九 平米		二〇 四	二一 八	一七、 四二〇 米	九二、 〇九六 米	三二、 八八五 立米
●	五三、 五六五	八、 一九九	九、 三三八 六六 五	二二 〇	四二 一	二、 一〇九	二九 三	五、 八八四	五、 八六二
			●						
			一四 三、 〇五 〇〇 本			二、 八九二 米		二一 六	一、 五九四 立米
●	六、 三三〇 三九	一、 八三一	五九 八 三九			三六 〇		四三	五八 二
			●						
			三七 八一、 三〇〇 〇〇 本 三九 平米	二〇 四	二一 八	二〇、 三二二 米	七二 米	九三、 三一二 米	三四、 四七九 立米
●	五九、 八三三 七〇四	一〇、 〇三〇	九、 九三六 七〇 四	二二 〇	四二 一	二、 四六九	二九 三	五、 九二七	六、 四四四
	一〇〇								

第三 桂川流域砂防工事 (淀川支川)

(大阪土木出張所)

緒言

本流域内京都府南桑田郡ハ明治十一年度ヨリ同船井郡ハ同十二年度ヨリ同二十六年迄國費ヲ以テ砂防工事ヲ施行シ來リシガ事業上ノ都合ニ依リ一時中止シ其後京都府ハ國庫ノ補助ヲ得テ南桑田郡ニ屬スル區域ノ繼續施行ヲ開始シ今尙施工中ニシテ船井郡ニ屬スル工事ハ本省ニ於テ大正五年度ヨリ直轄施行スルコトトナリ總工費豫算六萬圓(内國庫四萬圓、京都府負擔貳萬圓)年割額六千圓ヲ以テ工事ニ著手セリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ箇所ハ京都府船井郡新庄村大字船枝、同郡川邊村大字大戸ニシテ年度内成功セル瓦崩面積ハ百六十アル工費參千六百八拾五圓(一アル平均額貳拾參圓)ナリ
大正五年度起工以來本年度迄ニ支拂ヒタル總費額ハ五萬參千四百八拾四圓ニシテ其内譯ヲ示セバ左表ノ如シ但シ表中苗木植付ニハ寄附ニ係ル補植費ヲ含ム

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
積苗	六四、一九九	一五、九九一	五、四八〇	一、九四〇	六九、五九九	一七、九三一	四分	

第三章 砂防工事 (桂川流域砂防工事)

總計	施行中諸費	積苗修繕	苗木植付	粗朶伏	根固	筋工	堰堤	崖切法
		四三四 米	六八八、三八四 本	八三三	五二 平米	六、七九二 米	三〇九 平米	二六、〇〇一 立米
四七、四九六	一五、七九二	一〇二	一〇、八五八	一三八	七四	一、〇七九	八三七	二、六二五
			三〇、〇〇〇 本			二、一七九 米	七〇 平米	
五、九八八	二、九七一		六三〇			二六七	一八〇	
			七一八、三八四 本	八三三	五二 平米	八、九七一 米	三七九 平米	二六、〇〇一 立米
五三、四八四	一八、七六三	一〇二	一一、四八八	一三八	七四	一、三四六	一、〇一七	二、六二五
〇・八九								

第四 大谷川流域砂防工事 (利根川支流)

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正六年度ヨリ同十八年度ニ至ル十三箇年度間ニ毎年度參萬圓、總額參拾九萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ六年度ニ於テハ施工ノ運ビニ至ラズ翌七年度始メテ起工セリ其後同八年度ニ於テ貳萬四千圓、同十年度ニ於テ壹萬五百圓ノ臨時増額ヲ受ケ尙同十一年度以降ニ於テ年額ヲ五萬圓ニ増額セラレタルヲ以テ結局六拾六萬四千五百圓(栃木縣負擔三分ノ一)ヲ以テ施行スルコトナレリ然ルニ本年度ハ財政緊縮ノ關係上工事費ノ一部ヲ後年度ニ繰越シ四萬八千六百圓ヲ以テ施工スルコトナレリ其施工區域ハ栃木縣上都賀郡日光町大谷川及其支流稻荷川ニシテ先ヅ後者ヨリ施工ニ著手セリ

河狀並計畫大要

稻荷川ハ鬼怒川支流大谷川ノ小支ニシテ其源ヲ日光町ノ北部女峰山及赤薙山ニ發シ流下スルニ從ヒ大小幾多ノ溪流ヲ合セ神橋下流約三百米ノ箇所ニ於テ大谷川ト合流スル急勾配ノ河川ナリ其流域面積九方軒半アリ流域中ノ最高部ハ女峰山頂ノ標高二千四百六十三米ニシテ最低部ハ大谷川トノ合流點ナル標高五百七十八米トス流路延長八千五百五十六米、平均水面勾配十分ノ一強ニシテ川口ニ於テモ尙十三分ノ一ノ急勾配ヲ示セリ流域内ノ山地ハ地質軟弱且地形急峻ナルニ加ヘ屢々豪雨ノ襲フ所トナレルヲ以テ崩壞ハ年々擴大シ出水時ニ於テハ土石ヲ流出シ時ニ土石流ヲ形成シテ一個ノ立積數十立米ニ及ベ

ル大轉石ヲ押流ス事アリ是等ノ土石ハ下流川幅廣キ箇所ニ堆積シテ流身ノ變動ヲ起シ亂流ハ兩岸ヲ崩壞シテ盛ニ土石ヲ大谷川以下ニ流送シ治水上種々ノ障害ヲ惹起シツツアリ實ニ本邦稀ナル荒廢河川ナリトス故ニ本川ニ對シ徹底的ニ工事ヲ施行セントセバ極メテ多額ノ工費ヲ要シ現豫算ノ範圍内ニ於テハ目的ノ一部ヲ達シ得ルニ過ギズ依テ先ヅ緊急缺ク可ラザル工事ヲ施行セル事トシ本川中流部ニ於テ十數箇所ニ堰堤ヲ設ケ川床ノ低下ヲ防グト同時ニ流下土石ヲ扞止シ又川口附近ニ於テハ大谷稻荷ノ兩川ニ數箇所ノ床固ヲ施設シ流身ノ一定ヲ計ラントス

施工狀況

本工事ハ起工以來前年度ニ至ル六箇年度間ニ堰堤工事十二箇所、副堰堤工事一箇所、堰堤増補工事五箇所及床固工事二箇所ヲ施工シ内第一乃至第十一堰堤工事、第四堰堤工事及増補工事全部ヲ竣功セシメタリ而シテ本年度ニ於テハ前年度未竣功ニ終レル第十二堰堤工事、第一床固工事及第二床固工事ヲ施工セル外新ニ第十三堰堤工事及第三床固工事ヲ起工セルモ未竣功ニ終レリ

第十二堰堤工事ハ前年度ニ於テ過半竣功シ本年度ハ主トシテ築立ヲ施行シ九分九厘竣功セリ

第十三堰堤工事ハ川口ヨリ四千七百五十九米ノ狹窄部ニ築設セラレ本副兩堰堤ヨリ成リ本堰堤ハ高二十一米、長五十二米、築立々積二千八百七十八立米、副堰堤ハ高三米、長十一米、築立立積六十三立米ニシテ六月起工シ本年度内參分通り竣功セリ

第一床固工事ハ前年度ノ起工ニ係リ本年度ニ於テハ掘鑿ノ殘工事全部及築立工ヲ施工シ八分通り竣功セリ

第二床固工事ハ前年度ノ起工ニ係リ本年度ニ入り築立ヲ再始シ九分九厘竣功セリ
 第三床固工事ハ川口ヨリ三百二十七米ノ位置ニ築設セラレ高二米、長八十米、築立立積六百九十六立米ニ
 シテ二月起工シ主トシテ掘鑿及材料採集ヲ行ヘリ
 本年度ノ竣功額ハ四萬四千七百七圓ニシテ起工以來ノ累計ハ參拾四萬五拾壹圓ナリトス左ニ工事竣功

表ヲ掲グ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功
	數	金額	數	金額	數	金額		
本工本								
堰堤		二〇九、八一五		二六、四四五		二三六、二六〇		
工事		二〇、八七八		一一、三八九		三二、二六七		
測量		二、一五一		一一三		二、二六三		
船舶及機械費		二一、七七四		一、〇〇六		二二、七八〇		
營繕費		八、七九九		八		八、八〇七		
施行中諸費		三一、六九一		五、四三七		三七、一二八		
共濟組合給與金		二二六		三二〇		五四六		
總計		二九五、三四四		四四、七〇七		三四〇、〇五一		〇・五一

第五 千曲川流域砂防工事（信濃川上流）

（新潟土木出張所）

緒言

本工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ五箇年度繼續事業トシ工費豫算參拾壹萬四千百圓ニテ長野縣下千曲川及同左支犀川兩流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施スモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ工程ヲ擧ゲ得タリシニ因リ追加工事ヲ企テ工費參萬四千五百圓ノ増額ヲ受ケ工費豫算參拾四萬八千六百圓（内長野縣負擔額拾壹萬六千貳百圓）ヲ以テ同十一年度ニ結了セシモ尙引續キ急施ノ箇所多キガ爲メ工費四拾萬八千圓ヲ以テ同十二年度ヨリ同十八年度迄七箇年度繼續事業トシテ續行スルコトトナレリ總工費豫算七拾五萬六千六百圓（内長野縣負擔額貳拾五萬貳千貳百圓）ナリ

施工狀況

本年度ニ於テハ前年度ト同様横湯川、木澤、八代澤ノ三箇所ヲ施行ス當地ハ何レモ山間ノ僻地ニシテ人口稀薄住民ハ主トシテ農蠶、代木、製炭等ヲ業トシ其餘暇ヲ求メテ勞働ニ從事スルモノ多キガ爲メ常ニ勞力ハ拂底ヲ招クト共ニ材料ノ供給モ亦不如意ナルト降雨、積雪等ニ依リ施工期間ヲ短縮セラレ不尠障害ヲ被レリ然レドモ本年ハ住民ノ外ニ多數鮮人ヲ使役セシニ依リ豫期ノ成績ヲ擧グルコトヲ得タリ今其施

工ノ概要ヲ左ニ述ベシ

横湯川ハ前年度ヨリ引續ケル石堰堤二箇所ト新ニ著手ノ堰堤三、排水工三、山腹石積二、積苗工一、計九箇所
 ヲ施工ス本年モ亦地方民ニ鮮人ヲ加ヘ極力工事ノ進展ヲ圖リシ爲メ終ニ石堰堤二、排水工三、計五箇所ト
 山腹石積及積苗工ノ一部ヲ竣功セシメタリ

木澤ハ前年度ヨリ引續ケル土堰堤一、修補工事一、計二箇所ト新ニ著手ノ混凝土堰堤四、修補工事二、計六箇
 所トヲ施行セリ

木澤筋ハ玉石及礫等ノ拂底ナル爲メ止ムナク本年度ヨリ混凝土ヲ使用シ年内ニ於テ修補工事一箇所ヲ
 殘シ他ハ全部竣功ス

八代澤ハ前年度ヨリ引續キ混凝土堰堤一箇所ト新ニ著手ノ同堰堤二箇所トヲ實施シ年内ニ於テ全部竣
 功セリ

岡田川、女鳥羽川及薄川ハ本年度モ亦專ラ山地ノ動靜ヲ監視セリ
 本年度ニ於ケル竣功額ハ五萬參千五百九拾九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ四拾四萬參千貳百參
 圓ナリ之ヲ總工費豫算額七拾五萬六千六百圓ニ比スレバ五割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表ヲ示セバ左
 ノ如シ但シ退職手當四拾六圓五拾錢ハ本表竣功高ニ之ヲ含マス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功
	數	金額	數	金額	數	金額		
横湯川		108,111 圓		28,206 圓		136,317 圓		
木澤		30,611 圓		9,337 圓		39,948 圓		
							176,265 圓	歩合

總計	施行中諸費	船舶及機械費	工事費					
			計	材料運搬費	薄川	女鳥羽川	岡田川	八代澤
三八九、六〇四	四八、〇二七	五、六四六	三三五、九三一	二一六	八九、七三八	九〇、三九八	九、〇一八	一一、六二六
五三、五九九	七、九六九	一、二八三	四四、三四七	一、八八九				四、九一五
四四三、二〇三	五五、九九六	六、九二九	三八〇、二七八	二、一〇五	八九、七三八	九〇、三九八	九、〇一八	一六、五四一
〇・五八					一・〇〇	〇・九〇	〇・九五	

第六 富士川流域砂防工事

（東京土木出張所）

緒言

本工事事ハ明治四十四年度ノ創業ニ係リ毎年度七萬五千圓大正十八年迄ノ總工費豫算百四拾貳萬五千圓ヲ以テ富士川支流笛吹川小支日川及同上流釜無川支流御勅使川ニ施行スルモノトス

河狀並計畫大要

日川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ト北都留郡トノ境界ナル大菩薩嶺（標高二千五十八米）ニ發シ流域面積百八方
料、流路延長二十八料、勝沼町下流約四料ノ箇所ニテ笛吹川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ勝沼町
地先祝橋迄二十二料ノ區間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於
テモ尙約三十分ノ一ナリトス
祝橋以下河口ニ至ル六料ノ區間ハ平地部ニ屬シ河幅廣ク水面勾配四十分ノ一以下ナルヲ以テ上流ヨリ
流下セル土砂石礫ハ此部内ニ堆積シ水流ハ亂流シテ輕鬆ナル兩岸ヲ衝キ漸次河幅ヲ擴大セントスル傾
向アリ

明治四十年八月山梨縣下ニ大水害起リ本川流域山地ハ數百箇所崩壞シ多量ノ土砂ヲ流下シ強大ナル土
石流ヲ成立セシメタルヲ以テ勝沼町地先ニ於テハ重量十噸以上ノ大轉石盛ニ移動シ亂流ハ兩岸ヲ崩潰
シ沿川各地ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ

本流ノ工事計畫大要ハ先ヅ祝橋上流一籽一、下流一籽九、合計三籽ノ區間ノ左右兩岸ニ多數ノ制水ヲ施設スル外法線内ノ浚渫ヲ行ヒ水路ヲ一定シ河岸ノ崩潰ヲ防止シ尙上流十數箇所ニ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ扞止スルモノトス

又御勅使川ハ駒ヶ嶽ヨリ南東ニ連互セル山脈中辻山(二千五百八十五米)大崖頭山(二千八百八十六米)高谷山(二千八百四十三米)ノ連峯ヲ分水界トシ尙トノコヤ峠(一千五百十八米)附近ヨリ其主流ヲ發シ流路延長十九籽ニシテ釜無川ニ合流スル急勾配ノ河ニシテ流域面積ハ八十五方籽ナリ

水源ヨリ源村駒場地先迄約十二籽ノ區間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約十分ノ一ニ過ギス之ヨリ以下河口ニ至ル七籽ノ區間ハ平地ニ屬シ河幅急激ニ擴ガリ其甚シキニ至テハ七百米ニモ及ビ上流ヨリ流下スル多量ノ土石ヲ此部分ニ堆積シ河床ハ沿岸ノ田畑ヨリモ遙カニ高ク水流ハ亂流シテ堤防ヲ破壞シ沿川各地ニ多大ノ損害ヲ與ヘツツアリ然レバ古來ヨリ汎濫暴漲變轉其限ヲ盡シ難治第一ノ川ニ擧ゲラレ從ツテ附近又富士川流域中第一位ノ荒廢地域ナリトス

本川工事ノ計畫大要ハ山間部幹支川適當ノ位置ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ直接ニ流下土石ヲ扞止スルト同時ニ河床ノ低下岩腹ノ決潰ヲ防止セントスルモノナリ

施工狀況

明治四十四年度乃至大正五年度ノ六箇年度間ハ主トシテ小支日川筋右岸東山梨郡勝沼町、同等々力村、左岸八代郡祝村、同相與村地先ニ於テ工事ヲ施行シ此期間ニ制水七十四箇所、護岸一箇所、堰堤一箇所及低水

路掘鑿二十四萬立米餘ヲ完成シタリ

其結果水流ハ一定ノ法線内ニ集リ河床ハ漸次低下シ約三十二ヘクタールノ河原地ハ豐饒ナル田畑ト化スルニ至リ極メテ良好ナル結果ヲ收ムルコトヲ得タリ依ツテ同川ノ工事ハ一時之ヲ打テ切り其後ハ修繕工事ニ止メタリシガ大正九年度ニ至リ曩ニ施工セル區域ノ上流ニ於テ堰堤工事ヲ起シ前年度迄ニ鶴瀬堰堤及駒飼横吹ノ本堰堤ヲ竣功シ尙長垣堰堤ヲ七分通り竣功シタリ

又支川御勅使川筋ニ於テハ大正五年度ヨリ中巨摩郡蘆安村及源村地先ニ於テ工事ヲ施行シ前年度迄ニ蘆安源、御庵澤、桃木、桃木上流、藤尾、沓澤堰堤及源床固、源堰堤増設工事ヲ竣功シタリ

次ニ本年度施工ノ概況ヲ述ブレバ次ノ如シ

目川筋ニ於テハ前年度起工セル長垣堰堤ヲ引續キ施行セル外前年度竣工セル横吹本堰堤ノ前庭ニ捨石ヲ施シ尙新ニ矢方平堰堤ヲ起工セリ長垣堰堤ハ前年度迄ニ七分通りノ竣功ヲ見タリシガ本年度ニ至リ本堰堤ヲ竣功シ副堰堤ハ未ダ著手ノ時期ニ達セザルヲ以テ之ヲ打テ切りタリ

横吹堰堤ハ前年度ニ本堰堤ヲ竣功シ副堰堤ハ長垣堰堤ト同ジク未著手ナリシガ前庭保護ノ爲メニ水叩部ニ一個ノ立積一立米以上ノ大石ノ捨石ヲ施工セリ

矢方平堰堤ハ本年度ニ於テ五分通り竣功セリ

御勅使川筋ニ於テハ前年度起工セル小支金山澤ニ於ケル沓澤上流堰堤工事ヲ施行セル外新ニ蘆安堰堤(大正五年竣功)ノ増設工事ヲモ起工シタリ

沓澤上流堰堤ハ前年度僅ニ床掘ノ一部ヲ終リタルニ過ギザリシガ本年度ニ入り築立ヲ開始シ本堰堤築立ノ竣功ヲ告ゲタリ

蘆安堰堤増設工事ハ既設堰堤上ニ高九米五ノ曲線堰堤ヲ增高スルモノニシテ本年度中ニハ舊堰堤ノ水道ノ一部ヲ築立テシニ止マリ一分通りノ竣功ニ過ギズ
 本年度ニ於ケル竣功高ハ六萬九千四百貳拾參圓ニシテ起工以來ノ累計百萬五千四拾貳圓ナリトス其工事竣功表ヲ掲グレバ次ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	歩竣功合
	數	量	數	量	數	量		
本浚		二五八、六五九				二五八、六五九	六七、二五八	
工制		二二一、三七七				二二一、三七七	二二一、三七七	
事堰		四九二、六〇二				四九二、六〇二	五四八、〇四二	
用地		二、一八三				二、一八三	二、一八三	
測量		七、七九八				七、七九八	七、八三八	
器械		三五、六四九				三五、六四九	三六、六九四	
營繕		八、六八六				八、六八六	一一、二五六	
施行中諸費		八九、八二七				八九、八二七	九九、八〇四	
共濟組合給與金		二三九				二三九	五九〇	
總計		九三五、六一九				九三五、六一九	一、〇〇五、〇四二	〇・七一

第七 神通川流域砂防工事

（新潟土木出張所）

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニ係リ十一箇年度繼續事業トシ工費貳拾七萬五千九百參拾九圓ニシテ神通川上流岐阜縣下宮川及高原川流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施行スルモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ擧ゲ得タリシニ依リ追加工事ヲ企テ工費壹萬八千九百圓ノ増額ヲ仰ギ總工費豫算貳拾九萬四千八百參拾九圓（内岐阜、富山兩縣負擔額九萬八千貳百七拾四圓）ヲ以テ同十八年度迄ニ竣功セシムル豫定ナリ

施工狀況

本年度モ亦高原川筋六郎谷ノ一箇所ヲ施工セシノミナリ當地ハ山間ノ僻地ナレドモ他ノ砂防地ニ比シ氣候稍溫和且人口稠密材料ノ供給ニ便ナリ本年ハ天候良好ナリシモ冬季積雪多ク稍々工事ニ支障ヲ來セシガ意外ニ工程進ミタリ

六郎谷ハ前年度ヨリ引續ケル石堰堤二、護岸一、計三箇所ト新ニ著手セシ石堰堤二、護岸二、計四箇所ヲ實施シ年度内ニ其全部ヲ竣功セリ此外修補工事トシテ山腹石積、芝萱筋植工、苗木植付等ノ諸工事ヲ施シ是亦全ク完成ヲ見タリ

桑谷及小豆澤ハ本年度モ亦專ラ山地ノ動靜ヲ監視セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ貳萬參千八百拾參圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ拾六萬壹千四百五拾九圓ナリ之ヲ總工費豫算貳拾九萬四千八百參拾九圓ニ比スレバ五割五分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
本桑谷小豆澤		四九、七七八		二〇、二七八		四九、七七八	一〇〇〇
工六郎谷		六五、一〇九		二〇、二七八		八五、三八七	〇・五五
事計		一一四、八八七		二〇、二七八		一三五、一六五	
器械費		三、九〇三		一一六		四、〇一九	
施行中諸費		一八、八五六		三、四一九		二二、二七五	
總計		一三七、六四六		二二、八一三		一六一、四五九	〇・五五

第四章 港灣改良工事

第一 關門海峽改良工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ關門海峽整理ノ第一期工事トシテ當初壹千貳百萬圓ノ工費ヲ以テ明治四十三年度ニ起工シ十箇年度ニ竣功セシムル豫定ナリシモ財政上ノ都合ニ依リ繼續費トセズ同年度以降大正四年度ニ至ル迄ハ年々所要豫見額ヲ要求シ工事ヲ施工シ來リ其累計參百七拾四萬圓ニ達セシガ同五年度ニ至リ四百參拾六萬圓ノ豫算ヲ以テ同年度以降同十二年度ニ至ル八箇年度ノ繼續事業ト定メ以上豫算額合計八百拾萬圓ノ外同八年度ニ於テ海底電線移設費參拾六萬圓及同年度以降同十一年度迄ニ物價騰貴ニ因ル増加額百九拾萬圓ヲ追加シ壹千參拾六萬圓トナリ同十二年度ニ至リ更ニ豫算總額ヲ壹千參百七拾六萬圓ニ増額シ工期ヲ同十五年度迄延長セリ(大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ猶二箇年度ノ延長ヲ爲シ竣功期限ヲ同十七年度トスルコトニ決定)

港狀並計畫大要

關門海峽ハ本邦ニ於テ最モ須要ナル航路ノ一ナレドモ幅員狹隘不規則且潮流強ク然モ岩礁諸所ニ散在スルヲ以テ航海者ノ常ニ最モ困難ヲ感ズル所ナリ加之輓近航通船舶ノ増加及船型ノ増大ハ益々其困難

ノ度ヲ高メ且一面關門兩港ニ於ケル泊地モ亦狹隘ヲ感ズルコト切ナルノミナラズ尙内外貿易ノ發展ニ伴ヒ益々之ガ改良ノ急ヲ促スニ至レリ本海峽ハ將來ヲ慮リ充分ナル計畫ヲ立テ之ガ改善ヲ圖ラムニハ海峽内ノ航路ヲ水深六尋以上ニ浚渫シ其幅員ヲ少クトモ三鏈乃至五鏈トシ關門兩港内トモ夫々五尋及六尋ノ水深ヲ保タシメ又岸壁其他港灣トシテノ設備ヲ完フスル要アルベキモ其工費頗ル多額ニ上ルベク且一舉是等ノ工事ヲ遂行スルノ必要ナルベキニ依リ先ヅ以テ第一期工事トシテ本工事ヲ起シ他ハ漸ヲ追テ施行スルコトトセリ

本工事ハ周防難ヨリ六連島ニ通ズル航路ノ改良及海峽内泊地ノ擴張ヲ施行セントスルモノニシテ航路ノ改良ニ在テハ海峽東口部埼沖ヨリ西口塵寄洲ニ至ル十一湮間ヲ幅員二鏈半乃至五鏈半平均四鏈ニ規定シ水深五尋半ヲ保タシムル爲メ浚渫及除礁工事ヲ施行シ又周防難ヨリ部埼沖ニ至ル通路約二湮間ノ幅員ヲ三鏈水深ヲ五尋半ニ浚渫セントス又泊地ニ關シテハ門司前面ニ於テ水深五尋半以上ノ水面積四十萬坪ヲ得下關側ニ在テハ停車場前面ニ於テ若干ノ浚渫ヲ施シ十萬坪ノ水面ヲ得ンガ爲メ浚渫工事ヲ施行スルモノトス

施工狀況

本年度ノ事業中門司港、彦島沿岸、大里沿岸塵寄洲及金伏洲ニ於ケル土砂浚渫ハ七萬二千餘坪、金伏群礁、狙瀨、高瀨、六連出シ及與次兵衛ニ於ケル碎岩ハ貳萬六千餘坪、狙瀨、與次兵衛、六連出シ、金伏群礁、鳴瀨、高瀨、門司港及三ツ瀨ニ於ケル碎岩浚渫ハ四萬七千餘坪ナリ今各箇所ニ於ケル狀況ヲ摘記スレバ

門司港ハ大正八年度迄ニ干潮面以下二十八尺乃至三十尺ニ竣了シ同九年度ヨリ更ニ全部ヲ三十三尺ニ

浚渫中ニシテ本年度ニ於テハ第一區ノ中央部ヲ殆ンド竣了セリ尙門司洲ハ潮流ノ關係上漂流性ノ貝殻不絶竣功跡ニ沈澱シ淺所ヲ生ゼシヲ以テ面積約一萬八千坪ノ再浚渫ヲ施行セリ本年度迄ニ既定深度ニ竣了セシ面積ハ三十萬坪ニ達シ浚渫計畫區域ノ約百分ノ七十五ニ相當ス

彦島沿岸ハ山底ノ鼻ヨリ大山ノ鼻ニ至ル迄ノ彦島側法線ニ接スル區域ニシテ鳴瀬、俎瀬、其他ノ岩盤或ハ硬土盤所々ニ點在スルヲ以テ其土砂及軟粘土ニ屬スル部分ハ浚渫船ヲ以テ直接浚渫スルモ其他ニ在テハ碎岩船ヲ使用シテ岩盤ハ之ヲ破碎シ硬土盤ハ海水ノ浸入ニ依リ地盤ノ緊縮ヲ弛緩セシメタル後浚渫ヲ施スモノニシテ本年度ニ至リ其竣功面積計畫總額ノ約百分ノ八十二ニ達セリ先ヅ東半部ニ於テハ金ノ弦岬沖合ニ二千坪未滿、山底ノ鼻沖法線ニ接シテ一千餘坪、鳴瀬、桂燈立標跡東方ニ一千餘坪ノ三箇所未著工ノ儘殘存スルモ今後一回ノ浚渫ニ依リ竣功セシメ得ル見込ナリ金ノ弦岬ヨリ大山ノ鼻ニ至ル區域ハ本年度中最モ作業ニ努メ施行狀況モ頗ル錯雜セシ處ニシテ其中俎岩、桂燈立標跡附近ヲ除キ沖側大半ヲ三十三尺ニ浚渫シ地側法線ニ接スル部分モ相當深度ヲ加ヘタリ

高瀬ハ前年度竝本年度始ニ於テ碎岩ヲ了セシ廣大ナル面積約一萬八千坪ヲ全部浚渫シ其作業跡ノ中碎岩ヲ必要トスル部分ノ殆ンド全般ニ互リ再ビ碎岸作業ヲ行ヒシガ年度内ニ再浚渫ノ運ビニ至ラザリキ塵寄洲ハ土質細砂ニシテ作業容易ナルモ工事ノ都合上毎年唯短期間作業ヲ行フヲ例トシ來リシガ本年度ニ於テ約七千坪ヲ浚渫セシコトニ依リ全洲悉ク竣功セリ

六連出シハ本年度ニ於ケル作業區域ハ硬粘土及岩盤ニ屬スル部分ノミナリシニ付碎岩船ヲ使用シテ破碎ノ上浚渫シ内三千餘坪ヲ竣功セシメタリ本年度迄ノ竣功面積ハ約百分ノ八十二ニ該當ス
巖流島附近ハ前年度迄ニ碎岩濟ナル桂燈立標ノ前面約八千坪ノ區域ヲ竣功セシ結果本島附近ニ於ケル

未竣功區域トシテハ單ニ法線ニ沿ヒ幅員三十間未滿ノ狹長ナル部分殘存スルノミトナレリ
 金伏群礁ノ殘礁トシテハ唯金伏桂燈立標跡金伏瀨アルノミニシテ其未竣功面積五百坪ニ滿タズ日ナラ
 ズシテ竣功スベカリシモ水深十八尺内外迄浚深セシ際十月一日内田汽船株式會社所有汽船大正九同瀨
 ニ擱座シ年度末ニ至ルモ離礁セズ爾來施工中止ノ餘儀無キニ會セリ
 金伏洲ハ水深モ三十三尺ニ近ク且洲上ニ海底電線敷設セラレアル關係上著工遷延シテ本年度ニ及ビシ
 ガ遞信省當局者ト協議ノ上唧筒式浚深船ヲ以テ電線ヲ回避シツツ浚深スルノ計畫ヲ立テ之ガ實施ヲ試
 ミシモ其成績不良ナリキ
 尼ヶ瀨(與次兵衛殘礁)ハ岩質頗ル硬キニ依リ銳意碎岩ニ努メ特ニ長期ニ互リ鑽孔爆破ヲ行ヒタル上浚深
 セシ結果法線附近ニ於ケル一千四百餘坪ノ小區域ヲ除キ大部分ノ竣功ヲ見タリ
 大里沿岸ハ年度末ニ於テ面積五百餘坪ヲ了シタルニ過ギズ
 本年度ニ於ケル竣功高ハ七拾貳萬參千百六拾五圓(事務費及現在物品代ヲ除ク)ニシテ起工以來ノ累計ハ
 壹千七拾九萬四千九百貳拾五圓(同上)ニ達シ既定工事豫算高壹千參百拾五萬參千五百貳拾八圓ニ對シ約
 八割貳分ノ竣功ニ當レリ左ニ其竣功表ヲ掲グ但シ表中「*」ハ浚深工事ニ依リ直接埋立地ニ投棄シタル坪
 數「△」ハ評價品價格ナリ而シテ碎岩及碎岩浚深ノ竣功歩合特ニ大ナルハ土砂浚深區域中ノ硬土盤ニ碎岩
 船ヲ使用シ之ヲ施行シタルニ因ル

種 別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合 計		竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
浚 深 費	立坪 △	三、五五八、三四五 二三四、五三五	立坪 △	三、三〇、六一九 二八〇、二六二	立坪 △	三、八八八、九六四 二六二、七九七	割分

總計	臨時手當	海底電線移設費	共濟組合給與金	營繕費	施行中諸費	測量及檢潮費	船舶及檢潮費	防波堤及護岸其他	內		理立及護岸費	內		土砂浚渫
									其他埋立	彥島埋立		碎岩浚渫	碎岩	
									*	*				一、四八二、三〇三
														二、二九九、一六五
														二四三、四八九
														二、三三九、六三八
														一、六四四、四一〇
														四六九、八三九
														二四、五八二
														八四八、八六八
														四四、五四三
														三八九、三五三
														三六、八九七
														一六七、三九六
														三〇、〇〇〇
														四〇、二八〇
														五、六二七
														一八一、六七六
														二七〇
														五、七四一、〇六四
														一一三、九五二
														一四一、三〇〇
														八、〇五九
														一四、九〇八
														四一、五九五
														六、六〇五
														八、七六一
														一二六、五一〇
														二八、六二四
														四九、九二六
														七、二四四、六
														二六、六七七
														四七、二五五
														一五一、七八六
														一一一、二七七
														五二、九六一
														四、一六一
														一二五、八七二
														一、六九八
														五、一六四
														一、五五四、七四九
														二七五、八四二
														二九〇、七四四
														九七四、七四三
														五二二、八〇〇
														二八、七四三
														九七四、七四三
														五八、三六七
														三九五、〇六一
														三八、〇六一
														一六七、三九六
														三一、〇〇〇
														四九、五八七
														六、七四一
														一八二、〇六七
														三二〇
														六、一〇三、三〇五
														一一三、九七六
														一五三、八五八
														八、七二四
														一四、九〇八
														四三、四〇八
														七、九〇五
														一八、九九六
														一二六、五一〇
														二八、六二四
														四九、九二六
														一〇〇、七九四、九二五
														四七三、〇八七
														〇・八二

第一 鹽釜港修築工事

（仙臺土木出張所）

緒言

本工事ハ大正元年十一月宮城縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得テ起業シタルモノニシテ總工費參百四拾五萬圓ヲ以テ大正三年度ヨリ工事ヲ實施中ナリシガ同六年度ヨリ本省ニ於テ直接施行スルコトナリ即チ同年度ヨリ豫算額貳百九拾六萬參千圓ヲ以テ同十一年度迄ノ繼續事業トシテ施行中歐洲大戰亂以來物價騰貴ノ影響ヲ受ケ工費ニ不足ヲ來シタルニ依リ更ニ貳百五拾萬圓ノ増額ヲ行ヒ竣功年度ヲ同十八年度ニ延長セシガ同十二年九月帝都及其附近ニ空前未曾有ノ大震災起リタルガ爲メ國庫財政ノ都合上更ニ一箇年度ヲ繰延ベ竣功期限ヲ同十九年度ト爲スコトニ決定セリ

港狀並計畫大要

本港ハ仙臺市ノ東方四里松島灣ノ西南隅ニ在リ西北南ノ三面ハ殆ンド山ヲ以テ圍繞セラレ僅ニ東方松島灣ニ面ス港内水面狹ク市街地亦小ナリト雖モ本港ハ古來水陸交通ノ衝ニ當リ鐵道及運河ノ便ヲ有シ水陸ノ聯絡稍々良好ナリトス港内四時平穩ナルモ水深頗ル淺ク又松島灣ハ背後ニ山脈ヲ負ヒ島嶼前面ニ連リ常ニ風波ノ虞ナキモ灣内亦淺クシテ孰レモ大船ヲ入ルルニ至ラズ松島灣ト外海トヲ連絡スル水道ニ四アリ代ケ崎水道ヲ以テ其主要ナルモノトス代ケ崎ヲ出デ東北約二哩ニシテ石濱錨地アリ水深クシテ大船ノ碇泊ニ適ス

今修築工事ノ大體ヲ説明スレバ石濱錨地ノ入口ヲ港口ト爲シ其左右ニ南北兩防波堤ヲ築キ以テ大洋ヨリ來ル風浪ニ對シ代ケ崎以東ノ水面ヲ掩護シ同錨地ノ碇泊及船舶ノ航行ヲ安全ナラシメ併テ航路ノ埋没ヲ防禦ス而シテ南防波堤ハ延長一千二百二十五間、北防波堤ハ同四百三十五間、港口幅ハ三百間ナリ航路ハ底幅四十間、延長二千三百四十間、兩法五割、深最大干潮面以下十五尺ニシテ港口ヨリ殆ンド一直線ニ代ケ崎ニ至リ少シク折レテ内港泊地ニ達セシム

内港泊地ハ埋立地ニ面シテ水面積約十萬坪ヲ有ス之ヲ最大干潮面以下十五尺ト六尺トニ浚渫ス埋立地ハ現在ノ鐵道用地ノ東方ニ築造スルモノニシテ其面積約十六萬坪、其高ハ朔望平均滿潮面以上五尺五寸(最大干潮面以上十二尺二寸)トス其東方ニ濕船渠、舂溜及貯水場ヲ設ク

埋立地ノ沿岸西方ハ魚類處理場、上屋、倉庫敷地ニ充テ其東方ニハ薪炭、木材等ノ荷揚場ヲ設ケ鐵道ノ連絡ヲ期スルト共ニ埋立地區内ニハ一條ノ水路ヲ導キ各工場敷地へ水運ノ便ヲ圖ラントス其幅十間乃至二十間ナリ埋立地ノ道路ハ幅五間乃至十二間トシ縱横ニ築設シテ交通ノ便ヲ圖ル

要スルニ本計畫ハ新ニ十六萬餘坪ノ市街地及倉庫地ヲ埋築シ延長約一千間ノ荷揚場ヲ建設シテ一箇年三十萬餘噸ノ貨物ヲ處理シ得ベカラシメ而シテ内港ニ出入シ得ル船舶ハ差當リ一千噸内外ノ小型汽船ニ止メ大型汽船ハ其碇繫場トシテ石濱錨地ヲ使用セントスルニ在リ

既定計畫ノ變更

前述ノ如ク大型汽船ノ碇繫場ハ石濱錨地ヲ使用セントスルニ在リシガ外港工事即チ防波堤ノ築造ハ施行容易ノ業ニ非ザルト築港ノ將來トニ鑑ミ寧ロ今ニ於テ外港工事ヲ中止シ更フルニ内港ノ充實ヲ計ル

ノ優レルヲ認め從來ノ計畫ヲ變更セリ其大要ヲ摘載スレバ左ノ如シ
 當初ノ計畫ニ在テハ内港ノ水深ヲ干潮面以下十五尺ニ止メ一千噸以上ノ大船ハ石濱錨地ニ錨泊シ解船
 荷役ニ依ルノ不便アルヲ以テ之ヲ變更シ内港ノ一部ヲ水深二十五尺トシ三千噸級マデノ船舶ヲ直接入
 港セシム又航路ノ幅員四十間ナリシヲ五十間トシ且水深ヲ二十五尺ニ變更スルモノトス
 埋立地沿岸ハ地盤軟弱ニシテ岸壁ノ築造ニ適セザルヲ以テ東方貞山堀寄ノ比較的地盤良好ナル所ヲ選
 ビ長百二十間水深二十五尺ノ繫船岸壁ヲ築造スルモノトス
 貯水場ハ雀島附近ニ設クルモノトス
 埋立地ト貞山堀トヲ連絡利用センガ爲メ幅員二十間及十間ノ運河ヲ開鑿スルモノトス
 以上ノ變更ニ依リ石濱錨地ニ三千噸以下ノ船舶ヲ錨泊セシムル要無ク直接之ヲ内港ニ導キ得ルヲ以テ
 其防波堤ノ築造ヲ中止スルモノトス但シ三千噸以上ノ大船ハ船入島蔭ニ繫留スルノ餘地アリ

施工狀況

本港工事ハ大正六年内務省所管ニ移リテヨリ既ニ八箇年度ヲ經過シタルニ依リ工事ノ進行シタルモノ
 多シ今其大要ヲ列記センニ浚渫工事トシテ内港船溜ハ勿論代ヶ崎水道狹窄部ノ擴張及内港航路モ大部
 分當初豫定ノ深度ヲ得ルニ至レリ而シテ本年度ノ施行部分ハ内港航路及船溜箇所トス埋立ハ既ニ八分
 通竣功ヲ告ゲタルガ故ニ本年度ハ其殘存工事ト局部ノ整理ニ從事セリ
 護岸工事ハ先ヅ以テ比較的地盤ノ良好ナル箇所ヲ選ビ鐵筋混凝土枰材組立沈下ニ著手セシモ諸般ノ準
 備並ニ床掘作業ニ時日ヲ費シ基礎床均シノ終リシ箇所ヨリ漸次混凝土枰材沈下ヲ行ヒタルモ冬期ニ際

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
航路標識費	三箇	八、二一四			三箇	八、二一四	
道路費		五一、八五二		四、四三八		五六、二九〇	
護岸費		二〇、七三二		一七、〇〇一		三七、七三三	
雜工事費		一七九、五二四		一二、二五五		一九一、七七九	
材料製造及採取費		二四六、八六四		二五、二〇五		二七二、〇六九	
土地買收費		四九、〇六三		二二〇		四九、二八三	
船舶及機械費		六八六、一六〇		七一、六九〇		七五七、八五〇	
營繕費		四二、五六九		一、〇七七		四三、六四六	
施行中諸費		二九三、一九四		六八、〇五三		三六一、二四七	
共濟組合給與金		四、三三六		四、八二五		九、〇六一	
總計		二、七一四、五三五		三一七、九六二		三、〇三二、四九七	〇・五八

第三 新潟港修築工事

(新潟土木出張所)

緒言

本事業ハ新潟市ノ起業ニシテ信濃川改修河口工事ニ接續セル港内ノ設備ヲ完全ニシ三千噸級ノ船舶ノ繫留ニ便セシムルノ計畫ヲ樹テ市ニ於テ大正四年度ヨリ施行中ノ處同六年七月ヨリ明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ五箇年度繼續事業トシ工費百九萬貳千八百四拾八圓事務費ヲ除クヲ以テ本省ニ於テ直接施行スルコトトナリ銳意工事ノ進捗ヲ圖リシモ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ同十年四月百六萬六千七百七圓(事務費ヲ除ク)ノ増額ヲ受クルト共ニ施工期限ヲ同十三年度迄繰延ベラレシガ十二年九月一日關東大震災ノ爲メ其十一月ニ至リ更ニ一箇年度ヲ延長シ總工費豫算貳百拾五萬八千九百五拾五圓ニテ同十四年度ニ竣功セシムル豫定トナレリ是ヨリ先同十年四月市ハ時局ノ影響ニ依リ財界ノ打撃ヲ被ムルヤ本事業ニ對スル一切ノ權利ヲ新潟縣ニ移管セシヲ以テ今ハ縣ノ起業トナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ信濃川河口ニ位スル河港ニシテ越後平野ノ咽喉ニ衝リ信越、盤越、越後、羽越ノ各線及近ク完成セントスル上越ノ諸鐵道ニ依リテ各地ト聯絡シ對岸ニ西比利亞、滿洲、朝鮮ヲ控ヘ我國中部及北陸ノ貨物集散ニ任ズベキ日本海沿岸ノ一要港ナリ然ルニ本港ハ夙ニ帝國五港ノ一ニ列スト雖モ河流ノ變遷ト土砂ノ流下トニ依リ河口ハ淺ク小型船舶ノ外ハ港内ニ出入スルヲ得ズ又外海ハ船舶ノ碇繫並荷役ニ頗ル不便

ニシテ經濟上ノ損失亦鮮カラス從テ本港ノ發展ヲ阻害スルコト甚シ政府ハ明治四十年信濃川改修(大河津分水工事及河口改修工事)ノ工ヲ起シ近ク其竣功ヲ見ントス爾來河口ノ水深ハ概ネ二十五尺ヲ保ツベク船舶ノ出入安全ナルニ至ルベキヲ以テ此秋ニ際シ内港ノ設備ヲ完全ニシ水陸ノ聯絡ヲ遺憾ナカラシメ以テ港灣ノ運用ヲ充分ナラシメントスルモノナリ本工事ハ信濃川河口改修工事ニ接續シテ港内ヲ水深二十五尺、十八尺、十尺ニ浚渫(面積二十三萬一千坪)シ三千噸級以下ノ船舶ノ出入ニ便シ右岸栗ノ木川ト新川トノ間ニ幅平均九十六間三分、延長四百五十六間七分、面積四萬四千坪ノ埋立ヲ爲シ其護岸ハ水深十尺ノ物揚場トシ其中央及北部ノ二箇所ヨリ埠頭ヲ突出セシム北埠頭ハ新川ニ沿ヒ之ト竝行シテ築設シ長二百五十間、幅七十間、面積一萬七千五百坪ニシテ其護岸ハ南岸延長二百五十間ノ内先端百五十間ヲ水深二十五尺ノ岸壁トシ殘百間及頭部ヲ水深十尺ノ物揚場トス中央埠頭ハ埋立地ノ中央部ヨリ北埠頭ニ竝行シテ築設シ長百七十五間、幅六十間、面積一萬五百坪ニシテ北埠頭ト相對シテ幅員百十六間七分ノ船渠ヲ擁シ頭部及北岸ハ水深二十五尺、南岸ハ水深十八尺ノ岸壁トシ北岸ニハ上屋二棟、南岸ニハ上屋一棟ヲ建設シ其前後ニハ軌道ヲ敷設シ以テ水陸ノ聯絡ニ便ナラシム埋立地總面積ハ七萬二千坪ナリ

施工狀況

本年度ハ前年度ノ殘工事タル浚渫、埋立、物揚場護岸、繫船岸等ノ諸工事ヲ實施スルト共ニ省線沼垂驛ヨリ當港北埠頭ニ延長スベキ臨港線ノ敷設ヲ仙臺鐵道局ニ依託シ專ラ工事ノ進展ヲ圖レルモ線路敷設ハ年内ニ交渉纏マラズ止ムナク次年度へ繰延ベタリ今其施工ノ概要ヲ左ニ述ベン

浚渫工事ハ唧筒式浚渫船大阪丸「バケット」式浚渫船第五號ノ二隻ヲ使用シ港内ノ土砂ヲ浚渫ス大阪丸ニ

依ルモノハ排泥管ヲ以テ直ニ埋立區域ニ排出セシメ第五號船ニ依ルモノハ河口外ノ深所ニ投棄ス其土量三萬五千八百八十二坪餘ナリ此外第五號船ハ俗稱萬代島ニ續ケル沈床ノ除去ニ從事セリ

埋立工事ハ主トシテ浚渫土砂ヲ利用埋立搔キ均シ砂ノ飛散セザル様眞土ヲ以テ其上ヲ蓋ヒ年内ニ一萬五千四百六面坪餘ヲ完成シ中央埠頭ニ於ケル地均ノ一部ヲ殘シ他ハ全部竣功セリ

物揚場護岸工事中甲護岸第一ハ大正十一年度以來中央埠頭繫船岸工事ノ關係上一時中止シタリシモ繫船岸工事ノ進捗ニ從ヒ本年度ニ至リ方塊積笠石鋪混泥土繫船柱ヲ施シ年内ニ全部ヲ竣成セリ又甲護岸第二ハ上流栗ノ木川口ヨリ九十八間ハ前年度ニ方塊積ヲ了シ本年度ハ笠石繫船柱ノ全部ヲ實施シ鋪混泥土ハ地盤ノ關係上施行セズ尙西岸百七十間ハ方塊積笠石ノ全部繫船柱ノ一部鋪混泥土三十五間ヲ完了シタリシモ前者ト同様地盤ノ關係上一時中止セリ

繫船岸工事中中央埠頭南岸十八尺繫船岸ハ前年度迄ニ於テ殆ンド完成ニ達シ本年度ハ方塊四百四十四個ヲ終リ裏込石場所詰混泥土笠石防舷材等ノ大部分ヲ竣功シ僅ニ全體ノ一分弱ヲ餘スノミナリ又同埠頭北岸ハ多年流水ノ中心ニ當リ作業困難ヲ感ジ一時中止ノ状態タリシニ本年度ハ前者ノ工事大ニ進ミシ爲メ流水ヲ阻止シ工事意外ニ捗リ延長百七十五間ノ中床均シ及基礎ノ全部ト方塊積ノ大半ヲ了シ延長百二十間ヲ竣功セシム此外裏込石場所詰混泥土ニ於テモ多少ノ完成ヲ見タリ

西岸水深二十五尺繫船岸工事ハ作業ノ都合上中止セリ

採石工事にシテハ前記諸工事ニ使用スル石材ハ一個二貫匁以上ノモノニシテ佐渡郡水津村、河崎村ノ海岸ヨリ七百五十坪餘、阿賀野川上流沿岸ヨリ三十三坪餘ヲ何レモ直營ニテ採取運搬セリ其工費壹萬七千九百五拾圓餘ニ達セリ

機械工場ハ前年度ト同様信濃川河口機械工場ニ依託シ専ラ船舶諸機械ノ修理ヲ爲セリ
 本年度ニ於ケル竣功額ハ參拾參萬七千貳百參拾貳圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ百七拾九萬貳千
 百拾五圓ナリ之ヲ總工費豫算額貳百拾五萬八千九百五拾五圓ニ比スレバ八割三分ノ竣功ナリ今其工事
 竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但シ退職手當參百七拾四圓八拾錢ハ本表竣功高ニ含マズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
繫船岸費	一五〇 <small>間</small>	四五八、五六四 <small>円</small>		二〇七、三八七 <small>円</small>	一五〇 <small>間</small>	六六五、九五 <small>円</small>		割合
物揚場護岸費	二八二 五坪	一五一、五〇一	六四 五坪	一六、五二三	三四六 五坪	一六八、〇二四		
浚渫費	三〇二、三二六、一	一八六、八四九	三五、一八二	二八、六九四	三三七、五〇八、一	二一五、五四三		
雜工事費		三八、六七五		六、七九〇		四五、四六五		
用地費		二、七五六				二、七五六		
船舶及機械費		四五九、七一五		五一、二九九		五一、〇一四		
施行中諸費		一五六、八二三		二六、五三九		一八三、三六二		
總計		一、四五四、八八三		三三七、三三二		一、七九二、二一五	〇・八三	

第四 神戸港修築工事

(神戸土木出張所)

緒言

本港ハ本邦重要貿易港ノ一ニシテ其發展驟々トシテ止マザルモノアリ曩ニ政府ハ本港修築ノ計畫ヲ定メ對外貿易ノ一部ハ明治三十九年以來神戸稅關海陸運輸聯絡設備トシテ大藏省ニ於テ起工シ翌四十年之ヲ擴張シテ小野濱前面ニ繫船用突堤四條ヲ築設シ次テ上屋其他ノ陸上設備ニ及ボシ爾來年ヲ經テ其竣功部分ハ大正二年以來稅關ニ於テ其利用ヲ開始シ舊來ノ面目一新シタリト雖モ歐洲大戰ニ於ケル本港對外貿易ノ發展ハ更ニ現計畫ノ擴張ヲ促シ且港内ノ靜穩ヲ期スベキ防波堤ノ築造及對内貿易設備等ニ至リテハ一日モ之ヲ忽諸ニ附スベカラザルモノアリ茲ニ於テ乎神戸市ハ切ニ之ガ急施ヲ要望シ政府ニ向テ經費ノ一部ヲ負擔センコトヲ稟請スルニ至レリ則チ政府ハ之ヲ採納シ總工費貳千七百拾萬圓ヲ豫算シ大正八年度以降同二十二年年度ニ至ル(元十箇年度ノ工期ノ處第一次繰延二箇年度、第二次繰延三箇年度、前後五箇年度ヲ延長サレ大正二十二年年度迄十五箇年度ノ工期ニ變更)十五箇年度ノ繼續事業トシテ小野濱及海岸通地先ニ於ケル外國貿易設備ヲ初トシ兵庫地先及國產波止場附近ニ於ケル内國貿易ノ設備並沖合防波堤築造等將來本港ノ發展ニ資スベキ施設ノ完備ヲ期セントス今其工費豫算ヲ計上スレバ左記ノ如シ

- 一 外國貿易設備費壹千參百拾六萬參千參百參圓(内半額ハ神戸市ノ負擔トス)
- 二 内國貿易設備費壹千七拾壹萬參千四百七拾八圓(内三分ノ二ハ神戸市ノ負擔トス)

三 防波堤築造費壹千萬壹千五百壹圓（全部國費トス）

四 東及南防波堤築造費四百六拾七萬圓（全部國費トス）

但シ明治三十九年度以來大正七年度迄大藏省ニ於テ施行シタルモノニシテ内百九拾貳萬圓ハ全ク大藏省ノ施行額ニシテ貳百七拾五萬圓ハ本港ノ移管ト同時ニ内務省ニ於テ引繼ヲ受ケタル豫算ナリ
以上ヲ合計シタル總工費ハ實ニ參千七百五拾四萬八千貳百八拾貳圓ノ巨額ニ達ス而シテ總豫算中ノ事業費ハ參千五百拾六萬八千六百壹圓ニシテ俸給及事務費ハ貳百參拾七萬九千六百八拾壹圓ナリトス

港狀並計畫大要

神戸港ハ北緯三十四度四十一分、東經百三十五度十一分ニシテ攝津國ノ西南ニ位シ兵庫神戸ノ兩港ヲ以テ形成セラレ其經界ハ從來ノ北東脇濱海岸ニ建設シタル立標ト南西和田岬ニ建設シタル立標トヲ以テ表示シ港内ノ面積約三百萬坪ナリシガ大正十三年三月一日勅令第四十七號ヲ以テ北東新在家町ノ南角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト南西和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界ト爲シタル面積内ニ擴張セラレタルヲ以テ此面積ハ約六百萬坪ヲ算スルニ至レリ海岸線ノ延長ハ約四千七百八十間ナリトス而シテ港内ヲ二區ニ別チ第一區ハ舊湊川尻南端ニ建設シタル頭部三角形ニ基ノ紅色塗ノ立標ヲ見通シタル一直線ノ北方一圓トシ第二區ハ前記ノ南方一圓トス而シテ其第一區ノ極東部ト第二區ノ極南部トヲ軍艦ノ碇泊所ニ其他ヲ商船ノ碇泊所ニ充ツ又雜船及小型船等ハ第一區及第二區ノ沿岸一帯ニ繫留セシム

本工事ノ計畫中外國貿易設備ニ對シテハ濱邊通地先ニ於テ面積七萬九千八百五十坪、海岸通地先ニ於テ

面積一萬三千九百四十坪ヲ低水面上十一尺ニ埋立テ而シテ濱邊通地先ニハ水深三十三尺乃至四十尺ノ繫船岸壁延長一千四百三十間ヲ築造シテ二萬噸級以下ノ船舶繫留ニ適セシメ又濱邊通及海岸通ニ於テハ水深九尺及十二尺ノ物揚場延長一千四百九十二間ヲ築造スルモノトス

内國貿易設備ニ對シテハ海岸通地先ニ於テ面積一萬八千二百五十三坪、兵庫地先ニ於テ面積八萬一千六百坪ヲ低水面上十一尺ニ埋立テ之ニ水深十八尺乃至三十尺ノ繫船岸壁延長一千七百四十二間ヲ築造シ以テ八千噸級以下ノ汽船繫留ノ便ニ供スルノ外水深九尺乃至十二尺ノ物揚場延長一千三百五十間ヲ築造スルモノトス

上記新計畫中改良ヲ施シタルモノハ濱邊通ニ於ケル第五突堤ノ幅員ヲ八十間ニ擴大シ兩側上屋ノ中間ニ幅員二十間ノ倉庫敷地ヲ設ケ貨物荷捌上倉庫ト上屋トノ聯絡ヲ近接迅速ナラシメ常時上屋内ノ貨物掃盡ニ利便ナルヲ考慮シタルト第六突堤ノ幅員ヲ九十間トシ其中央ニ幅員三十間、長二百二十五間ノ水路ヲ設ケ其兩岸ヲ物揚場ニ充テ一面本船荷役ノ傍ラ上屋ノ背後ニ舢舨荷役ヲ併行シ得ベキ嶄新ナル設備ヲ施シ以テ水路運送貨物荷捌上多大ノ利便ヲ企圖セリ

沖合ニ於ケル防波堤ハ南及東ノ兩堤ヨリ成リ此總延長約三千五百間以上ニ達ス而シテ其南堤ハ延長約八百間(當初計畫五百間ノ處新設半島堤ノ増加及實測ノ結果延長)東堤ハ其一及其二竝既成部分(六百三十二間大藏省施工)ヲ合シテ延長二千二百間ナリトス今其法線ヲ記スレバ大要左記ノ如シ

南堤ハ港界ヲ表示スル和田岬立標ヨリ東微北ニ走ル一線上ニ於テ陸岸ヨリ百五十間隔リタル位置ヲ以テ起點トシ東方ニ延長六百七十間餘ヲ築造シ其終端七尋以上ノ箇所ニ於テ東堤ノ頭部トノ間ニ百五十間ノ港門ヲ設置ス又陸地ト起點トノ間ニ五十間ノ副門ヲ存シ仍西方ニ直線延長百二十六間餘(當初計畫

ニハ百五十間ノ副門存置ノ場所ノ堤ヲ築キテ陸岸ニ達セシム

東堤ハ一直線ニ北微西ニ約八百三十間餘ヲ走り既成防波堤トノ間幅員五十間ノ東副門ヲ存置シ之ヲ東堤ノ二トス而シテ東堤ノ一ハ既成防波堤ノ東端ヨリ東方ニ曲線ヲ描テ走ルコト二百八十九間五九之ヨリ一直線ヲ以テ磁針方位南八十度東ニ約四百四十二間延長スルモノニシテ此東南兩堤ヲ以テ抱擁スル水面積ハ約三百萬坪ヲ算ス就中舢舨及小蒸汽船ノ繫碇場ニ適スル船溜水面積ハ濱邊通地先ニ於テ約一萬四千三百坪、米利堅波止場附近ニ於テ約五萬八千六百坪、國產波止場附近ニ於テ約一萬五千六百坪、兵庫新川沖ニ於テ約五萬七千四百坪、合計約十四萬六千坪ニ達スルナリ

前記諸計畫中大正十三年八月中變更増加セラレタル要領ヲ説明スレバ左記ノ如シ

一防波堤變更竝増築 既定計畫ニ依レバ東防波堤ノ一ト第五及第六兩突堤トノ間隔ハ二百五十間(一千五百呎)ニシテ第一突堤ノ東側及第五突堤ノ西側ニハ將來九百呎ノ大型船ヲ繫留セシムルノ豫定ナルガ故ニ右間隔ハ僅ニ此種船舶ノ約一倍半ニ過ギザルヲ以テ繫離ニ際シ操縦上頗ル困難ヲ見ルベシ加之港内ニハ常ニ多數ノ船舶繫泊セラレ其間ヲ通ジテ大小船舶ノ交通頻繁ナルベキヲ以テ之ガ繫離及航過ノ困難ト不安トヲ輕減センガ爲メ石防波堤ト突堤トノ間隔ヲ大ナラシムルト同時ニ第二ノ港門ヲ設クルノ必要アリ仍テ防波堤ノ頭部ヲ東方ニ彎曲セシムルコトトシ一面假防波堤及第七第八突堤トノ關係ヲ考慮シ百三十間餘ヲ延長スルノ要アリ又南防波堤ノ効力ヲ増進スル爲メ百七十間餘ヲ延長シ之ニ伴ヒ和田岬ニ百二十六間餘ノ防波堤ヲ築造シ東防波堤ノ二ノ延長百十八間餘ヲ減縮セントス是レ本港ハ夏季南方ノ強風ニ伴ヒ波浪ニ依リテ港内ニ於ケル船舶ノ破損沈没貨物ノ浸水流失甚多キガ故ニ該方面ヨリスル波浪ヲ遮リ船舶ノ繫離ト荷役其他ノ作業ヲ容易ニ且ツ安全ナラシメントスルニ外ナラズ

二假防波堤築造 前記東防波堤ノ一ハ計畫變更ニ伴ヒ突堤ト防波堤トノ間隔ハ東方ニ至ルニ從ヒ漸次増大スベキヲ以テ東方ヨリノ風波ヲ避クル爲メ延長六百間ノ假防波堤ヲ築造シ同堤ノ南端ト東防波堤トノ間ニ百五十間ノ港門(第二港門)ヲ設ケ以テ第五乃至第八突堤ニ繫留スベキ船舶ノ出入ト貨物ノ荷役ニ便セントス之レ蓋シ南方ノ出入口ヨリ上記突堤ニ到ラントセバ多數船舶ノ繫泊並交通頻繁ナル港内ノ大部分ヲ航過セザルベカラザルヲ以テ勢ヒ右港門ヲ利用シテ如上ノ困難ヲ除去セントスルニ在リ堤體ハ鐵筋混凝土函上幅十八尺、下幅二十八尺、高三十六尺、約二十間ヲ以テ構成シ函底ハ硬質砂層ニ達スルマデ浚渫シテ之ニ土砂ヲ埋戻シ床均ノ上前記函ヲ据付ケ内部ニ砂ヲ填充シ上部ニ混凝土蓋ヲ施シテ干潮面上六尺ニ達セシム堤ノ頭部ニハ函二個ヲ併列シ堤體基礎前後兩面ニハ床板ヲ沈置シテ函底ニ於ケル土砂ノ移動ヲ防禦スルモノトス

三第五、第六及第一突堤變更 第五、第六兩突堤ニ繫離セントスル船舶ハ第二港門ニ依リ出入シ以テ港内ノ混雜ヲ緩和スルコトヲ得ベキモ突堤ノ方向ニシテ原計畫ノ如クナルトキハ繫離船舶ノ操縦上不便尠カラズ故ニ大體其方向ヲ現在ノ小野濱東神倉庫ノ岸壁ニ直角ト爲シ第一突堤ノ東南端ノ一角ヲ削リ該突堤ト第五突堤トノ間ニ半徑百八十間ノ圓ヲ容ルルコトヲ得セシメ以テ船舶操縦ノ困難ヲ除去シ第六突堤ノ中央ニ設ク^四ベキ長二百二十五間、幅三十間ノ水路ト相俟テ荷役ノ便ニ供セントスルニ在リ

四海岸通地先突堤變更並増築 本突堤西側ニ於ケル沿岸貿易船ノ用ニ供スル繫船壁ハ神戸港トシテハ最モ樞要ナル貨客吞吐ノ玄關口ニシテ其出入船舶ノ繫離頻繁ナル殆ド晝夜ノ別ナク而モ航路ノ關係上僅々一時間ヲ出デズシテ出港スルヲ常トスル狀況ナリ凡ソ此種船舶ノ繫留場ガ陸上交通ノ要路ニ接近スルト共ニ船舶運用上最モ至便ニシテ且安全ナル場所タルヲ要スルコトハ之ヲ海運通商ノ點ヨリ見ル

モ將又交通安寧ノ見地ヨリスルモ最モ緊要ナルコト論ヲ俟タズ然ルニ既定計畫ニ於テハ一直線ニ三百間ニ互リ外方ニ突出シテ狭少ナル彎入ヲ形成シ其外端ハ高濱繫船岸壁ト相對峙セルヲ以テ其頭部西側ニ六千噸級汽船ノ繫留セラレ舷側ニ舢舨ヲ横付ト爲ストキハ愈々其灣口ヲ狭メ中小型船舶ノ出入ヲ困難ナラシムルノミナラズ入船ニ當リ根部繫船岸ノ狀況ヲ知り難ク且附近ノ水面ハ舢舨ノ交通繫留最モ頻繁ナルベキヲ以テ夜間ノ出入ノ如キハ一層危險ヲ感ゼザルヲ得ズ仍テ突堤ノ根部ヲ稍々西方ニ移シ方向ヲ高濱埋立地前面ト併行セシムルコトトシ西側ヲ九十間、東側ヲ五十六間餘延長シ船溜防波堤ヲ約六十間沖合ニ移轉シ突堤ノ頭部東側百十九間餘、西側百五十間ノ箇所ヨリ東南方ニ向ケ十五度屈曲セシメ以テ船舶運用上ノ便益ヲ圖ルト同時ニ舷門荷役ノ便ニ供スル爲メ突堤ノ西側屈折點ヨリ根元ニ向ヒ長約二百間ヲ浮棧橋式ノ構造ニ變更セントスルニ在リ

五米利堅波止場増築 曩ニ完成シタル第一乃至第四ノ突堤ハ海運及貿易上ニ至大ノ利便ヲ與ヘツツアルハ勿論ニシテ尙此外第五、第六ノ兩突堤ハ目下施工中ニ屬スト雖モ此等ノ岸壁ノミヲ以テシテハ到底全部ノ入港船舶ヲ收容スルニ足ラズ大部分ハ依然沖掛ヲ爲スノ現狀ニシテ加之益之ガ増加ヲ見ルノ傾向ヲ呈シツツアリ此等沖掛船舶ニ屬スル旅客ノ送迎並商取引上ノ交通ヲ要スル小型船舶ノ數モ亦從テ甚多ク現在此等ノ爲ニ開放セラルルモノハ唯一ノ米利堅波止場アルノミナルモ其延長僅ニ九十間ニ過ギズ今ヤ本港ノ既成ト共ニ本波止場ハ無數汽艇ノ蟬集スル所トナリ殊ニ根部附近ニ集合セル船舶ノ如キハ出入ヲ閉塞セラレ混雜喧噪實ニ名狀スベカラザルモノアリ仍テ該波止場ノ東端ヲ沖合ニ向ケ六十二間延長シ其突端西側ニ猪牙型船ノ溜場ヲ設ケ以テ如上ノ混雜ヲ緩和セントスルニ在リ

六國產波止場改築 原計畫ニ屬スル海岸通地先突堤根部ヨリ高濱埋立地ニ至ル地ハ神戸港ノ中央部ニ

位シ舢船ノ最モ幅輳スル處ナルモ背面ノ地域陝隘ニシテ荷役ノ不便尠カラザルノミナラズ近キ將來ニ於テ海岸通ノ擴張及海岸鐵道ノ敷設ヲ要スルヲ以テ現在ノ波止場護岸ヲ取除キ埋築工事ヲ施行シ中央ニ一條ノ突堤ヲ設ケ沿岸一帶ニ水深九尺ノ物揚場ヲ設ケントス

七鐵道棧橋改築 現在ノ鐵道棧橋(幅四十尺、長四百五十尺ノ鐵柱構造)ハ近キ將來鐵道省ニ於テ不用處分ヲ爲スベキヲ以テ修補ノ爲メ之ヲ鐵筋混凝土圓柱構造ニ改築スルト共ニ其幅員ヲ擴メ港內給水船ノ繫留ニ使用スルノ傍ラ石炭置場ニ供セントスルニ在リ

八南防波堤半島堤位置變更 既定計畫ハ副門ノ西端ヨリ西方ニ直線延長百二十六間餘ノ堤ヲ築キテ陸岸ニ達セシムル豫定ノ處將來檢疫所船溜擴張ヲ要スル關係上其位置ノ一部ヲ變更シテ該副門ノ西端ヨリ西方ニ直線延長七十四間六九走リタル後既設護岸ノ方向ニ沿ヒテ屈折西南ニ走ルコト六十四間之ヨリ更ニ五十二間ヲ延長シ以テ既設護岸ノ終點ト結合セシメントス此總延長百八十九間六九ニシテ既定豫算ノ範圍内ニテ施行スルモノトス

以上ノ諸計畫ヲ更ニ表記スレバ左記ノ如シ

種 別	位 置	干潮以下ノ水深	面積又ハ延長	摘 要
外國貿易設備	海岸通地先 濱邊通地先 計	尺	一三、九四〇 七九、六〇〇 九三、五四〇	西遊園地及第二波止場前面 此土量四萬九千二百二十立坪 濱邊通前面 此土量六十七萬一千立坪
內國貿易設備	兵庫地先 海岸通地先		八一、六〇〇 一八、二五三	兵庫地先前面 此土量五十六萬五千四百五十五立坪 第二波止場前面及國產波止場 此土量八萬三千九百五立坪

本年度ノ施工狀況ヲ便宜大別シテ外國貿易設備、內國貿易設備、防波堤築造及材料採取、材料製造等ノ各項ニ分類シ仍ホ必要ニ應ジテハ更ニ之ヲ細分シ以下順次其概要ヲ記述セントス

(イ) 外國貿易設備

一岸壁工事

基礎掘鑿 濱邊通突堤築造法線ニ於ケル鐵筋混凝土函据付位置ニ相當スル基礎ヲ構成スル爲メ現在ノ地盤上層ニ於ケル軟泥ヲ硬質地層ニ達スルマデ掘鑿排除スルモノニシテプリストマン式浚渫船大輪田丸、同第二、第三浚渫船及吸揚式唧筒船敏馬號ヲ運用シ之ニ土運船及曳船ヲ配屬セシメ第一突堤水深四十四尺部百三十二間、第五突堤三十三尺部九十間、同四十尺部八十間ヲ掘鑿シ土量合計五千百六十六立坪ヲ得之ヲ悉ク兵庫地先ニ於ケル下埋土砂ニ利用シ此直接工費壹萬九千五百七拾圓ヲ支出シタリシガ故ニ平均一立坪當ハ參圓七拾八錢八厘ナリ但シ該工費ニハ軟泥排除ニ要シタル工費六百四拾五圓ヲ包含セリ

函据付 前年度ヨリ濱邊通ニ於ケル第一突堤函据付工事ヲ起シ本年度之ニ續行シテ水深三十三尺部ニ於テ基礎床拵八十間、函沈置九十九間三分(函五個)函内及函間ノ填充九十五間ト水深四十尺部ニ於テ同床拵六十四間、函沈置五十七間四分七厘(函三個)其填充二十八間ヲ施工シタリ其直接工費貳萬四千參百七拾圓ナリ本年度ニ至テ更ニ濱邊通第五突堤函据付工事ニ著手シ基礎床拵三十六間餘、函沈置三十五間五分餘(函二個)同填充三十五間五分餘ヲ完成セシメ此直接工費六千七百拾六圓ヲ支出シタル外同地先第一突堤接續部岸壁工事延長七間ヲ竣功セシメ直接工費五千七百八拾圓ヲ支出シタルヲ以テ本年度岸壁工事ニ要シタル直接工費ハ合計五萬六千四百參拾六圓ナリ

二物揚場築造

本年度ハ海岸通突堤東側水深十二尺物揚場ニ於テ捨石百四間、荷重据置二十五間ヲ施シタル外濱邊通地先ニ於テ水深九尺物揚場ニ於ケル上部工事トシテ石垣十二間ヲ施工シタルニ過ギズ此工費ハ別ニ設計施工シタル曳船費參百九拾壹圓ヲ合シ壹萬七千百拾八圓ナリ

三米利堅波止場増築

本工事ハ大正十一年六月ノ起工ニ係リ前年度迄ニ約五割七分以上ノ功程ヲ進メタル殘工事ニシテ本年度モ引續キ施工シ殆ンド完成ニ近キタリ其工程ハ基礎ニ於ケル砂礫ノ取除九十坪五合ヲ掘鑿シテ之ヲ兵庫地先ノ下埋ニ利用シタルヲ初メトシ捨石二十四間六分、荷重据置四十間六分、方塊沈積八十七間六分、石垣百二十間六分、階段十一箇所、中詰九百八十七坪、路面五百八十四坪、防舷材五十五間ヲ施行シタル外水管敷設箇所ノ基礎二十五間、荷重据置三十七間、水管製造三個、同据付四十六個ニ及ビ本工事ノ主要部ハ之ヲ以テ完成シ單ニ路面ノ上塗工ト防舷材取付ノ一小部分ヲ翌年度へ繰越スニ至レリ而シテ此直接工費ハ別設計整理ニ係ル曳船費壹千六百七拾七圓ヲ合シ五萬四千八百四拾九圓ニシテ竣功累計ハ拾壹萬壹千八百七拾六圓ナリ

四埋築工事

唧筒式浚渫船洞海丸及和泉丸ヲ運航シテ濱邊通地先ノ上埋立工ヲ施工セリ而シテ洞海丸ハ紀ノ川口ヨリ二千五百七十四坪、武庫川尻ヨリ一千七十五坪、合計三千六百四十九坪ヲ處理シ工費壹萬七千六百六拾九圓ヲ支出シタルヲ以テ此平均坪當四圓八拾四錢ニ相當ス又和泉丸ハ專ラ武庫川尻ヨリ土量六千四百八十九坪ヲ採砂埋築シテ直接工費壹萬七千貳百七拾七圓ヲ支出シタルガ故ニ坪當ハ貳圓六拾六錢貳厘ナリ右ノ外神戸稅關廳舍新築基礎工事ヨリ生ジタル土砂ヲ無償ニテ埋築シタル土量六百十立坪ヲ算ス

ルヲ以テ本年濱邊通ノ埋築總土量ハ一萬七百四十八立坪ニ及ベリ
尙該埋立地表ノ地均二千二百六十三面坪ヲ施工シタル工費貳千四百參拾八圓ヲ支出（一面坪當壹圓七錢）
シタル外締切堤延長二十間ヲ築造ス此工費參千五百參拾圓ヲ支出セルガ故ニ間當ハ百七拾六圓五拾錢
ナリ

以上本年度外國貿易設備費ニ直接支出シタル工費金ハ別表竣功表ニ掲グル所ノ船溜防波堤ノ施工費貳
百貳拾八圓ヲ合シ合計拾六萬九千五百四拾四圓ナリ

(ロ) 內國貿易設備

一岸壁工事

基礎掘鑿 兵庫突堤計畫法線ニ基キ岸壁函据付位置ニ相當スル基礎ヲ構成スル爲メ現在ノ地盤上層ニ
於ケル軟泥ヲ硬質砂層ニ達スルマデ掘鑿排除スルモノニシテ前年來ノ施工ヲ繼續シテ本年度ハプリス
トマン式浚漂船ヲ運用シテ第一突堤水深四十尺部延長三十四間ヲ掘鑿シテ土量一千八百九坪ヲ得之ヲ
兵庫地先ノ下埋ニ利用埋築シ第二突堤水深二十八尺部ニ於テ延長七十六間ヲ掘鑿シ土量五千九十七坪
ヲ處理シテ前同上ノ埋築ニ供シ及同三十尺部ニ於テ延長百五十八間ヲ掘鑿シテ土量一萬三百八十三坪
ヲ得之ヲ同上同所ノ埋築ニ供シタル外水深二十八尺部ニ於ケル軟泥排除ニ要シタル費用五百參拾六圓
ヲ合シタル直接工費ハ貳萬九千八百八拾參圓ニシテ此平均坪當ハ壹圓六拾八錢八厘ナリ又此間口當ハ百
八圓八拾九錢ニシテ其二十四尺部ノ坪當ハ壹圓八拾四錢二十八尺部ハ壹圓九拾五錢又三十尺部ハ壹圓
四拾六錢ナリ

函据付 前年度ニ引續キ本年度ハ兵庫地先ノ水深二十四尺、甲岸壁ノ据付及兵庫第二突堤函据付工事ヲ

施工シタリ而シテ前者ニ對シテハ基礎床拵十一間、函沈置十三間、填充六十間ヲ完成セシメテ工費五千七拾壹圓ヲ直接支出シ後者ニ對シテハ水深二十四尺部ノ床拵九十間、函沈置百十二間（函五個六）同填充百十二間又二十八尺部ニ於テハ床拵百一間、函沈置八十八間（函五個四）之ニ對スル填充四十三間ヲ施工シ此直接工費合計貳萬八千參百七拾六圓ヲ支出シテ殘餘ハ翌年度へ繰越スニ至レリ本年度岸壁工事施工ノ爲メ直接支出シタル工費ハ合計六萬貳千六百參拾圓ナリ

二物揚場築造 本年度續行シタル本工事ハ兵庫地先水深九尺丁戊物揚場、同水深十二尺甲物揚場、同十二尺乙丙物揚場及十八尺甲物揚場築造ノ四工事ニ互リ其功程ハ通ジテ基礎床掘ニ於テ土量八百八十五坪ヲ得之ヲ兵庫地先ノ下埋ニ利用シタル外基礎捨石百十七間、荷重据置百三十七間、方塊沈積百六十六間、函内填充七間及石垣四十九間ヲ施行シテ直接工費金別設計整理ニ係ル曳船ノ運轉費六千百拾六圓ヲ合シ八萬壹千參百壹圓ナリ

三埋築工事

唧筒式浚渫船洞海丸及和泉丸ヲ運航シテ兵庫地先ノ上埋工事ヲ施工ス而シテ洞海丸ハ紀ノ川口ヨリ九百三十七坪、武庫川尻ヨリ一千五百七坪、加古川尻ヨリ八千八百十八坪、合計一萬一千二百六十二坪ヲ採砂埋築ニ供シ和泉丸ハ武庫川尻ヨリ一萬一千三百六十四坪、加古川尻ヨリ百五十二坪、合計一萬一千五百十六坪ヲ埋築シタル外直營採取ニ係ル砂礫百八十三坪六合竝岸壁基礎掘鑿ヨリ生ジタル利用土砂合計二萬三千四百三十坪五合ヲ算スルガ故ニ本年度ノ功程土量ハ合計四萬六千三百九十二坪一合ニシテ内洞海丸ノ坪當ハ平均四圓貳拾參錢、和泉丸ハ同貳圓八拾五錢ナリ本年度本工事施工ノ爲メ直接支出シタル工費ハ別設計整理ニ係ル曳船ノ運轉費貳千八百拾四圓ヲ合シ八萬參千參百參拾參圓ナリ

又同埋立地表ノ地均一千三百五十三面坪ヲ施工シ此工費壹千六拾六圓ヲ支出シタルガ故ニ一面坪當
七拾八錢七厘ナリ

上記ノ外締切堤六十四間ヲ築造シタル工費五千貳百七拾壹圓ノ外武庫川尻ニ於ケル採砂場ノ堤外法面
ノ補強工事ニ於テ堤防百五十間ヲ補修シテ壹千八百六拾九圓ヲ支出シタルヲ以テ本項ニ屬スル本年度
ノ直接工費ハ九萬壹千五百參拾九圓ナリ

假護岸 本年度ハ延長四十一間ヲ築造シテ工費壹萬六千四百拾七圓ヲ支出セルヲ以テ間口當ハ四百圓
四拾錢ナリ

本年度内國貿易設備工事施工ノ爲メ支出シタル直接工費ハ合計貳拾五萬壹千八百八拾七圓ナリ

(ハ) 防波堤築造

南防波堤基礎工事ニ於テハ捨石三十二間、荷重据置二十八間、上部床均九十間ヲ施工シテ工費八萬七百參
圓ヲ支出シ同鐵筋混凝土函据付工事ニ於テハ函沈置五十四間（函二十個）同函内ノ填充百三十五間、根固方
塊百三十五間（方塊八百五十五個）ヲ施工シテ工費壹萬五千百九拾圓ヲ支出シ尙頭部基礎工事ニ於テハ基
礎掘鑿十五間ヲ施工シテ一千四百十九坪ノ土量ヲ得タルモ埋築ニ適セザル土砂ナルヲ以テ之ヲ港外へ
投棄シタリ而シテ捨石及荷重各二十一間及上部床均十一間ヲ完成シタル工費ハ四萬七千六百八拾圓ヲ
支出シタル外本堤築造ニ要シタル曳船ノ運轉費壹萬八百五拾參圓ヲ併算スルトキハ本年度直接支出シ
タル工費ハ拾五萬四千四百貳拾五圓ナリ

東防波堤ノ二ノ基礎工事ニ於テハ基礎掘鑿三十間ヲ施シテ土量一千百三十四坪ヲ得タルモ上記同様之
ヲ港外ニ投棄セリ而シテ基礎捨石百十五間、荷重六十四間、上部床均三十四間ヲ完成セシメテ工費拾貳萬

六千八百五圓ヲ支出シ同頭部基礎工事ニ於テ捨石十五間、荷重十五間ヲ施工シテ五萬壹千四百拾四圓ヲ支出シタル外本工事施工ニ要シタル曳船ノ運轉費八千七百拾七圓ヲ合算スルトキハ本堤所要工費ハ合計拾八萬六千九百參拾七圓ヲ算シ東南兩堤施工ノ直接工費ハ參拾四萬壹千參百六拾貳圓ニ達セリ

(ニ) 材料採取

直營採取ニ係ル材料ハ割石、砂礫、砂利、礫及砂ノ五種ニシテ前年ト同様ニ割石及砂礫ハ兵庫縣下淡路國岩屋町字鶴崎海岸ヨリ人力及爆藥ヲ使用シテ採取シ之ヲ運搬船ニ積込ミ曳船ニテ神戸港内所要場所ニ輸送シタルモノニシテ割石ハ其量六千四百五十四坪、砂礫ハ其量一萬七千二百五十九坪ニ及ベリ砂利及礫ハ兵庫縣下加古川筋ヨリ人力及ドコービルニテ採取ノ上運搬船ニ積込ミ曳船ヲ介シテ神戸港内所定ノ置場ニ陸揚ヲ爲シタルモノニシテ本年度ノ採取量ハ砂利五千十二坪、礫五百九十五坪ナリ又砂ハ兵庫縣下武庫川尻ニ於テ唧筒式浚漂船和泉丸ヲ運用シテ採取神戸港ニ自航運輸ヲ遂ゲ所定ノ置場ニ貯藏シタルモノニシテ其數二千百九十坪ナリ本年度是等採取ニ要シタル直接工費ハ合計貳拾四萬參千四百六拾七圓ニシテ其各單價ハ左記ノ如シ

割石拾壹圓八拾貳錢參厘、砂礫四圓參錢參厘、砂利拾六圓、礫拾六圓、砂參圓六拾壹錢八厘ナリ上記ノ外石材採取設備及既設々備ノ修補ニ要シタル工費貳萬七百參圓ヲ算スルトキハ本費ニ屬スル支出ハ合計貳拾六萬四千百六拾九圓ナリ

(ホ) 材料製造

製造材料ハ鐵筋混凝土函ヲ主トシ各種ノ方塊並函内填充用混凝土ノ三種ニシテ以下項ヲ別チテ其概要ヲ記述セントス

一 鐵筋混凝土製造

本年度ノ製造高ハ防波堤用函二十個及岸壁用函各種ヲ通ジテ二十一個六分ニ及ビ此直接工費四拾五萬九千七百貳圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一個當ハ貳萬壹千貳百八拾貳圓五拾錢ナリ但シ其內最高ハ一個壹萬壹千五百參拾圓最低ハ一個參千七百九拾四圓ナリ

二 方塊製造

本年度ハ各種ヲ通ジテ一千二百九十一個ヲ製造シ直接工費七萬九千七百貳拾參圓ヲ支出シタルガ故ニ平均一個當ハ六拾壹圓七拾錢ニシテ內最高ハ一個八拾九圓五拾錢最低ハ一個四拾五圓ナリ

三 混凝土製造

鐵筋混凝土函內函間填充用トシテ本年度ハ三十八萬五千才ヲ製造シ直接工費七萬貳千貳百七拾圓ヲ支出シタルガ故ニ百才ニ付拾八圓七拾錢ナリ

以上ノ製造ニハ何レモ多量ノ直營採取ニ係ル砂利及砂ヲ使用シタルモノナルヲ以テ之ヲ概算スルニ函製造ニハ施工費ニ對スル約一割、方塊製造ニハ約三割、混凝土ノ製造ニハ約四割五分ニ相當スル價格ヲ伴フ計算ナリ

(一) 雜件

一 船舶機械修理製造

本年度機械工場ニ於ケル直營施工費ハ拾壹萬貳千五百五拾五圓其他ノ各工場ニ於テ輕易ナルモノニ對シ便宜施工シタル費用ハ合計貳萬五千五百五拾八圓ヲ算スルノ外請負施工ニ係ルモノ參拾壹萬壹千七百九拾壹圓ナルガ故ニ本年度ノ支出高ハ四拾四萬九千五百四圓ニ達シタリ

二營繕工事

直營施工ノ主ナルモノハ發火性油類ノ危險防止ノ目的ヲ以テ濱邊通地先ノ埋立地ニ該貯藏所一棟ヲ新築シタル外該地ニ砂利貯藏場溝渠ヲ築造シ他ハ既設物件ノ模様替或ハ修理等ニ過ギズシテ本年度ニ於ケル直營施工費ハ五千貳百參拾圓外請負施工費ヲ通ジテ壹萬壹千貳百七拾六圓ノ支出高ナリ

三用地買收

兵庫縣下岩屋町字鶴崎海岸ニ於ケル石材採取用地ニ接續シタル土地ニ對シ採取區域擴張ノ必要上段別三段四畝二十八歩ヲ買收シテ貳千九百五拾壹圓ヲ支出シタリ

四雜工事

測量其他既設護岸ノ修補、假防砂堤築造、函製造場附近浚渫及同所水深維持、材料試驗工場雜費等十件ニ及ビ之ニ諸給與、惠與、死傷手當等ノ費用ヲ積算スルトキハ本年度雜費ニ屬スル支出高ハ拾六萬九千參百六拾貳圓ヲ算スルニ至レリ(假護岸築造費ハ別ニ計上シタルヲ以テ之ヲ控除ス)

五共濟組合給與金

本年度同組合ニ對シ國庫ヨリノ給與額ハ八千七百五拾八圓ニシテ其組合員ノ掛金額ハ合計壹萬九百四拾參圓四拾四錢ナリ

本年度神戸港修築工事ノ竣功高ハ貳百貳拾八萬五百九圓ニシテ起工以來ノ竣功累計ハ壹千七百八萬六千八百貳拾七圓(現在物品代參拾四萬六千百拾四圓ヲ含マズ)ニ達シ之ヲ總工費參千五百拾六萬八千六百壹圓ニ對比スルトキハ約四割八分五厘ノ竣功歩合ナリ但シ前年度ニ於ケル竣功歩合約五割強ヨリ低減セルハ大正十三年度ニ於テ事業費中ノ追加額五百五拾萬六千貳百八拾貳圓ヲ總豫算ニ合算シタルニ因

ルモノトス即チ工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「×」ハ材料採取ノ項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル材料代ヲ轉記シタルモノ「△」ハ材料製造ノ項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル製造物代金ヲ轉記シタルモノ本年度ニ於テ五百五拾萬六千貳百八拾貳圓ヲ總豫算ノ事業費中ニ追加セラレタルヲ以テ前年度迄ノ竣功歩合ヨリ本年ノ方低減セリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
突堤基礎掘鑿	五五七	六二,二〇九	三〇二	一九,五七〇	八五九	八一,七七九	〇・八八
第一突堤函据付		七,九六〇		二四,三七〇		三二,九三〇	
第五突堤函据付		三三,三〇四		二〇,七六八		五四,〇七二	
第一突堤根元接續部		二六六,四三八		一七,二二八		二八三,五五六	〇・二五九
物揚場築造		一一五,八〇六	七	一,二四六	七	一一七,〇五二	
米利堅波止場増築		五九,〇二八		五,七七九		六四,八〇七	〇・九八五
船溜防波堤築造		一一一,一六五		一,三一九		一一二,五〇四	
埋築	立坪 二二七,一六二	五三七,三八一	立坪 一〇,七四八	三七,三八四	立坪 二三七,九一〇	五七四,七六五	〇・八二五
締切堤築造	開 二〇一	八〇,一九七	開 二〇	一,四三三	開 二二一	八三,七二七	〇・三三〇
假護岸築造	一四〇	六一,四七九	×	一,四三三	×	六一,四七九	〇・八七五
小計		一,一八五,五三〇		一六九,五四四		一,三五五,〇七四	〇・二〇〇
兵庫岸壁基礎掘鑿	一六八	二〇,七四五		二六三,八五九	一六八	二八四,六一四	
同突堤基礎掘鑿	一四九	二〇,四三一	二六八	二九,一八三	四一七	四九,六一四	

國內	貿易	設	備	費	防波堤築造費			船及機械費	用地費	營業費	施行中諸費	共濟組合給與金	臨時手當	材料採取費			
					既設	東防波堤	南防波堤										
二十四尺甲岸壁函据付	兵庫第二突堤函据付	物揚場築造	埋切堤築	縮切堤	假護岸	小計	南防波堤築造	東防波堤ノ二築造	既設東防波堤	小計	船及機械費	用地費	營業費	施行中諸費	共濟組合給與金	臨時手當	材料採取費
△×	△×	△×	×	×	×	△×	△×	×	△×	△×	×	×	×	×	×	×	×
一、四、九四三	一、〇、七五三	三、六、四、四八八	二、〇、四九一	九、〇、〇五	七、五、三一六	一、七、八、六七二	一、七、八、六七二	二、三、三、六八三	一、四、八、三、八八九	三、四、九、四、〇七四	五、三、一、五、二〇二	九、八、八、〇	九、四、〇、九〇七	二、三、五、一、九	八、〇、五、九、三三一	二、五、五、二、八	八、四、六、三、八六六
二、三、五、二、〇	二、〇、三、七	四、二、二、八三	二、〇、一、四九一	八、二、八、三	一、四、五、七、五八	九、〇、五、八、六九	九、〇、五、八、六九	三、三、三、六、八三	一、四、八、三、八八九	三、四、九、四、〇七四	五、三、一、五、二〇二	九、八、八、〇	九、四、〇、九〇七	二、三、五、一、九	八、〇、五、九、三三一	二、五、五、二、八	八、四、六、三、八六六
△×	△×	△×	×	×	×	△×	△×	×	△×	△×	×	×	×	×	×	×	×
二、五、〇、七	二、五、六、二、〇	二、八、三、七、六	八、六、二、六八	七、五、二、七	一、六、四、一、七	一、五、四、四、二、五	一、五、四、四、二、五	一、八、六、九、三、七	一、四、八、三、八八九	三、四、一、三、六二	四、四、九、五、〇四	二、九、五、一	一、一、二、七、六	一、一、六、二、四	一、六、九、三、六二	八、七、五、八	二、六、四、一、七〇
△×	△×	△×	×	×	×	△×	△×	×	△×	△×	×	×	×	×	×	×	×
二、〇、〇、一、四	二、二、九、一、二	二、四、七、五、九	一、六、三、七、六九	四、六、三、九二	一、一、四、六、八	二、九、二、四、七、五	二、九、二、四、七、五	二、五、九、二、七	一、四、八、三、八八九	三、四、一、三、六二	四、四、九、五、〇四	二、九、五、一	一、一、二、七、六	一、一、六、二、四	一、六、九、三、六二	八、七、五、八	二、六、四、一、七〇
△×	△×	△×	×	×	×	△×	△×	×	△×	△×	×	×	×	×	×	×	×
二、〇、〇、一、四	二、二、九、一、二	二、四、七、五、九	一、六、三、七、六九	四、六、三、九二	一、一、四、六、八	二、九、二、四、七、五	二、九、二、四、七、五	二、五、九、二、七	一、四、八、三、八八九	三、四、一、三、六二	四、四、九、五、〇四	二、九、五、一	一、一、二、七、六	一、一、六、二、四	一、六、九、三、六二	八、七、五、八	二、六、四、一、七〇
〇・一、五、六	〇・一、五、六	〇・一、五、六	〇・二、九、三	〇・二、九、三	〇・九、七、〇	〇・二、二、二	〇・二、二、二	〇・〇、七、四	〇・〇、〇、〇	〇・四、三、〇	一、五、七、四	〇・〇、二、二	一、〇、五、八	一、〇、五、八	〇・一、三、一	〇・一、三、一	〇・一、三、一

第四章 港灣改良工事 (神戸港修築工事)

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
材料製造費	—	× 一、四三三、四一八円 二二二、九〇一	—	× 六一、六九五円 九八、六四七	—	× 二、〇四五、一三三円 三二一、五四八	—
總計	—	一四、八〇六、二二八	—	二、二八〇、五〇九	—	一七、〇八六、八二七	〇・四八五

第五 橫濱港修築工事

(橫濱土木出張所)

緒言

橫濱港ハ元橫濱村ト稱スル一漁村ニ過ギザリシモ安政六年六月開港以來其内外貿易ハ累年増進長足ノ進歩ヲ爲シ神戸港ト相對峙シテ帝國ノ二大門戸タリ然レバ政府ハ本港發展ノ趨勢ニ順應シテ明治二十年以來漸次防波堤、馴導堤及鐵棧橋ノ築造、港内ノ浚渫、海面ノ埋立岸壁物揚場ノ築造、上屋、倉庫、鐵道、道路、橋梁、起重機、其他ノ陸上設備、防波堤ノ修繕、棧橋ノ改築等ヲ施行シ大正九年度迄ニ工費總計大約壹千八百萬圓(内橫濱市負擔額貳百七拾萬圓)ヲ支出シテ大ニ本港貿易ノ増進ニ資スル所アリ港灣トシテノ設備稍々見ルベキモノアリト雖モ駭々トシテ止マザル本港ノ發展ハ早クモ是レガ不備陝隘ヲ告グルニ至レリ茲ニ於テカ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ茲ニ所謂第三期擴張工事ヲ施行スルニ至レリ

然ルニ偶々大正十二年九月一日ノ大震災ニ際會シ明治二十二年度以來巨額ノ工費ヲ投ジ之ガ完成ニ三十餘年ヲ費シタル港灣諸設備ハ一朝ニシテ殆ンド全部破壊セラレ港灣ノ能力一時ニ減絶シ其慘憺タル情況驚嘆スベキモノアリ茲ニ政府ハ震災直後應急假設工事ヲ施設シテ水陸聯絡ノ便ヲ圖リ同時ニ防波堤、岸壁、護岸、橋梁等ニ於ケル被害ノ狀況ヲ調査シ之ガ復舊ノ計畫ヲ樹テ大正十二年十月二十一日ヲ以テ復舊工事ノ施行ヲ開始シ當所ヲシテ其任ニ當ラシムルニ至レリ

橫濱港第三期擴張工事計畫ハ大正十年度ヨリ同十九年度ニ互ル十箇年度ノ繼續事業トシテ工事ノ施行中ナリシガ大震災ニ因リ本港ノ設備ハ劇甚ナル慘禍ヲ被リ殆ンド其能力ヲ失ヒ之ガ復舊ノ爲メ多大ノ

更ニ工事費及事務費ヲ分割スルトキハ次ノ如シ

累計	同十三年度(八月分以後)	同十四年度	同十五年度	同十六年度	同十七年度	同十八年度	同十九年度	小計
一、二〇〇,〇〇〇	一、一五五,七五〇	一、一二五,〇〇〇	一、一二五,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	二、二四四,二五〇	一〇,三五〇,〇〇〇
二、八七八,七七五								
七〇,〇〇〇								
四、七七六,七七五								
一〇,五〇一,二二五	二、三〇〇,〇〇〇	七七一,二二五	二,五〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	一〇,五〇一,二二五	
四、四七八,七七五	二,七五〇,〇〇〇	一,七二八,七七五					四,四七八,七七五	
一四,九八〇,〇〇〇	二,九八〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	一四,九八〇,〇〇〇	

年 度	當 初 年 度		改 定 年 度	
	工 事 費	事 務 費	工 事 費	事 務 費
大正十年度	九四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇		
同十一年度	九四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇		
同十二年度	一〇四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇		
同十三年度	一〇四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	二,八四七,一五五	一三二,八四五
同十四年度	一,一四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	二,三四五,〇〇〇	一五五,〇〇〇
同十五年度	一,四三〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	二,三六五,〇〇〇	一三五,〇〇〇
同十六年度	一,四三〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	一,七一〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇
同十七年度	一,七三〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	一,七一〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇
合 計	一〇,〇〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
合 計	一〇,〇〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇

年 度	當 年 度		合 計	改 定 年 度		合 計
	工 事 費	事 務 費		工 事 費	事 務 費	
大 正 十 八 年 度	一、七三〇、〇〇〇 ^円	七〇、〇〇〇 ^円	一、八〇〇、〇〇〇 ^円	一、七一〇、〇〇〇 ^円	九〇、〇〇〇 ^円	一、八〇〇、〇〇〇 ^円
同 十 九 年 度	一、三八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、四五〇、〇〇〇	一、五一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
累 計	一、二、八〇〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	一、三、四五〇、〇〇〇	一、四、一九七、一五五	七八二、八四五	一、四、九八〇、〇〇〇

如斯ニシテ舊第三期修築工事豫算ハ大正十三年七月ヲ以テ之ヲ打切り同年八月以降ノ分ハ震災復舊工
 事ト併セ新ニ年度割豫算ヲ編製シタルモ工事ハ當初ノ計畫ニ基キ毫モ變更スルコトナク引續キ之ヲ遂
 行シ以テ同十九年度ニ至リ竣成セシムルモノトシ又(一)岸壁及護岸(二)棧橋(三)防波堤(四)新港橋及萬國橋等
 ノ震災復舊工事ハ之ヲ舉ゲテ同十四年度迄ニ急速完成ヲ圖ラントスルニ在リ

修築工事計畫概要

一 外國貿易設備

埋立 北防波堤内外ニ互リ面積三十三萬四千五百三十三方米ヲ期望平均干潮面上三米八ニ埋築スルモ
 ノニシテ延長約一千五百二十米、其幅員三百十二米一一、二百五十一米及百五十米ノ三段ヨリ成リ且神奈
 川寄海岸ニ平行シテ港内側ニ小突堤ヲ築設ス
 岸壁及物揚場 前記埋設地ノ港内ニ面スル部分ニハ總テ外航路船ヲ繫留シ得ベキ大岸壁ヲ築造シ船溜
 ニ面スル部分ハ水深三米六及二米七ノ岸壁及斜面物揚場トシ舢舨船ノ荷役ニ供ス其他ノ沿岸ハ之ヲ護岸

トス其内譯ハ左ノ如シ

名	稱	湖望平均干潮面下水深	有効延長	繫留船隻數
岸	壁	112.0 米	290 米	5 隻
同		110.0	283	3 隻
同		100.0	527	2 隻
同		90.0	309	1 隻
岸	繫船岸		1,409	7 隻
同	壁	336	705	
同		227	506	
斜	面揚場	336	304	
同	物揚場	227	338	
護	物揚場		1,853	
總	計		668	
總	計		3,930	

荷役能力ハ繫船岸ニ於テハ一米當一箇年五百五十噸トシテ七十七萬五千噸、物揚場ニ於テハ同四百四十噸トシテ八十一萬五千噸、合計一箇年百五十九萬噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

舢船溜及舢船水路 小突堤ノ内側ト千若町及橋本町沿岸トヲ以テ包圍スル海面並橋本町ノ一部ヲ水深三米六ニ浚渫シ舢船溜トス其面積ハ航路ヲ除キ約八萬方米ナリトス又埋立地背面ト在來防波堤トノ間ニハ平均幅員約七十米、長約八百二十米ノ水面ヲ存置シテ水深二米七ノ舢船水路ト爲シ其兩端ニハ在來

荷役能力ハ繫船岸及物揚場一箇年一米當夫々五百五十噸及四百四十噸トシテ合計一箇年九十萬七千噸ヲ扱フコトヲ得ベシ

舢船溜 表高島町地先埋立地ノ背面ト在來海岸トノ間ハ其沿岸ヲ舢船ノ荷役ニ供スルト共ニ舢船ノ船溜ニ充テ山内町地先埋立地ト淺野造船所埋立地トノ間ハ幅員七八米五一ノ水面ヲ存置シ以テ埋立地舢船荷役ノ便ヲ計ラントス但シ該水面タル地盤ノ關係上潜函製造工場用地トシテ他ニ求ムルヲ得ザル好適ノ箇所ナルヲ以テ本修築工事施行中ハ假ニ其一部ヲ埋築シ存置水面ノ幅員ヲ三十五米ニ止メントス

浚渫 浚渫計畫ハ岸壁ノ水深其他各設備ト相俟テ港内ヲ數區ニ分割シ其水深ヲ七米三乃至十二米トシ且港外ニ於テ幅員二百二十米、長一千八百米ノ航路ヲ水深十二米ニ浚渫ス其他舢船溜等ノ浚渫ハ聯絡橋梁ノ南北ニ於ケル部分ヲ水深三米六、其他ハ之ヲ水深二米七トス而シテ大正十年度以降同十二年八月末日迄ニ於テ面積二百三萬六千三百方米此浚渫土量九十三萬五千九百三十立米ノ竣功ヲ見タリシガ同年十二月港内實測ノ結果既成部分ニ變更ヲ來シ面積百萬二千八百方米此土量六十五萬九千二百立米トナル即チ十三年度以降浚渫スベキ面積三百二十萬二百方米此土量五百八十三萬八百立米ニシテ本年度ハ主トシテ新港岸壁附近ノ浚渫ニ從事シ面積七萬五千八百四方米此土量十八萬三千六百八十三立米ヲ竣功ス

繫船浮標 近時船舶ノ出入激増シ浮標増設ノ必要ヲ痛切ニ感ズルヲ以テ當初設計ノ設置數量ヲ左記ノ通りニ變更シ本年度ニ於テ一萬噸級七個ヲ新設ス

種別	當初設計	變更	更種	別	當初設計	變更	更
一萬噸級			三千噸級				
五千噸級			合計				
	二億四	七億四			二億二	一億八	七億一

而シテ本港復舊工事ニ係ル計畫概要及其工事狀況竝本年度竣功額ハ別項横濱港震災復舊工事ノ項ニ之ヲ讓リ本港修築工事ノ本年度竣功額ノミヲ表示スレバ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費	立米	二、〇八五	立米	四	立米	二、〇八五	〇・〇七
埋立費	九三、七七七	四三、〇一四			九三、七七七	四三、〇一四	〇・〇七
浚渫費	九三五、九三〇	二九五、四二八			九三五、九三〇	二九五、四二八	〇・三三
繫船浮標費	七個	一八三、六二八			七個	一八三、六二八	〇・四五
船舶及機械費		一、七二八、六二一		六、八四九		一、七三五、四七〇	〇・六七
營繕費		一三四、五三七				一三四、五三七	〇・二八
施行中諸費		一九九、七六七		三四六		二〇〇、一三三	〇・三五
共濟組合給與金		二、一八二				二、一八二	
總計		二、五八九、二六一		七、一九五		一、五九六、四五七	〇・二〇

第六 門司港修築工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ總豫算五百貳拾五萬圓ヲ以テ大正八年度ヨリ同十五年度ニ至ル八箇年度繼續事業トシテ計畫セラレシモ同十二年度ニ至リ豫算ノ關係上竣功期ヲ同十七年度迄繰延施行スルコトトナレリ(大正十四年度ニ於テ更ニ工期一箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ同十八年度トスルコトニ決定)

港狀並計畫大要

門司港ハ夙ニ世界交通ノ要衝ニ當リ船舶出入ノ頻繁ナルコト實ニ本邦諸港ノ首位ヲ占ム是ヲ以テ同港ノ貿易年々堅實ニ發達シ加フルニ關門海峽整理工事ノ進捗ト北九州工事ノ勃興トハ益々本港ノ眞價ヲ發揮セシムルニ至リタリト雖モ繫船及荷役ノ設備ニ至テハ何等見ルベキモノナク貨物ノ殆ド全部ハ沖荷役ニ依リ處分セララルノ狀況ナルヲ以テ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルハ寔ニ焦眉ノ急ニ屬ス是本工事ノ因テ起リシ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記スレバ左ノ如シ

白木崎ヨリ北東ニ向ヒ幅五十間、延長七百二十間ヲ平均最大干潮面上十三尺五寸ニ埋築シ其前面ニハ水深三十三尺ノ繫船壁ヲ築造シ以テ外國貿易用ニ充ツ

現在第一船溜ノ陸舌ヲ撤去シ之ニ換フルニ沖合五十間ノ所ニ岸壁兼用ノ防波堤ヲ築キ其外側ニ水深二十四尺ノ岸壁ヲ設ケ中國通定期船二隻若クハ三千噸級船一隻ノ繫留ニ便シ内側ハ水深十二尺ト爲シ大

型舢船ノ使用ニ供シ船溜内ハ其一部ヲ埋立テ物揚場トシ既成税關埋立ト共ニ鐵道ノ聯絡ヲ計ラントス
其他護岸ノ水深ハ八尺トス

前記防波堤ト外國貿易用埋立地トノ間ニ介在スル延長七十五間ヲ以テ鐵道關門聯絡渡船及公私汽船用
ノ繫留棧橋設置箇所ニ充テ尙其沿岸幅十間ヲ埋築シ之ヲ道路敷ニ充ツ而シテ護岸ハ總テ水深八尺ヲ保
タシム

自木崎以南外國貿易用埋立地ニ接シテ現在海岸ニ竝行シ沖合幅五十間、長四百六十間ヲ埋立テ在來ノ貯
炭場ヲ此處ニ移轉シ其前面ニ水深十二尺ノ岸壁ヲ築キ石炭ノ荷役ニ供セントス

前記新貯炭場西南端鐵道省埋立豫定地ノ前面ニ當リ十二尺岸壁見通シ延長線内ニ長三百七十間ノ防波
堤ヲ築造シ以テ舢船ノ碇泊ニ便ナラシメントス

施工狀況

本年度ニ於テハ岸壁及埋立工事ヲ前年度ニ引續キ施行セリ其概況左ノ如シ

第一號岸壁工事ハ石炭取扱區域ニシテ延長四百六十間、最大干潮面下十二尺ノ岸壁ニシテ大正八年度ヨ
リ引續キ施工中ナリ前年度中ニ大部分竣功セシガ本年度ニ於テハ其東北端部即チ第二號岸壁トノ接合
部ニ於ケル殘部ヲ竣功セリ即チ函据付二個函内混凝土十間、頂部混凝土二十一間ヲ完了セリ此部分ハ三
十三尺岸壁トノ接合部ニシテ水深ニ甚シキ隔アル故下部ヲ方塊積トシ其上ニ函ヲ据付ケタリ

第二號岸壁工事ハ外國貿易區域ニシテ延長七百二十間、最大干潮面下三十三尺ノ岸壁ナリ大正九年度末
ヨリ引續キ施工中ノモノニシテ本年度ニ於テハ床掘、捨石、地形均、函据付、函内混凝土填充、頂部混凝土裏込

等ノ諸工事ヲ施行シ函据付十一個、函内混凝土九十九間、頂部混凝土百二十九間ヲ施工シ當初ヨリ累計夫々三十九個、三百七十七間、三百五十五間トナリ本岸壁工事ノ六分通りヲ完成セリ

函製作工事ハ岸壁用函ヲ製作スルモノニシテ十二尺岸壁用函ハ大正九年度ヨリ三十三尺岸壁用函ハ大正十年度ヨリ引續キ施工中ニシテ本年度ニ於テハ十二尺岸壁用函二個前年度ニ於テ製作終了セルモノヲ進水シ三十三尺岸壁用函ハ十一個製作進水セリ

塊製作工事ハ十二尺岸壁用方塊十五個ヲ製作セリ

埋立工事ハ各岸壁及護岸ノ内部ノ埋立ヲ施工セントスルモノニシテ大正八年九月先ヅ石炭取扱所ノ埋立ニ著手シ以テ外國貿易部ノ埋立ヲ開始シ本年度ニ於テ四萬五千七百立坪餘ヲ埋立テ累計十四萬五千二百立坪餘ノ埋立ヲ了セリ埋立土砂ハ主トシテ關門海峽改良工事ニ於テ浚渫シタル土砂ヲ充用スルモノニシテ其一部ハ運搬船ヨリ直接埋立地内ニ投棄シ大部分ハ一旦埋立地前ニ投棄シタル後唧筒式浚渫船ヲ使用シテ埋立地ニ吸揚送入セリ

工費用割石、砂利、砂ハ凡テ直營採取セリ

本年度ノ竣功高ハ四拾壹萬九千五百五拾七圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來ノ累計ハ參百貳拾五萬八千貳百壹圓(同上)トナリ之ヲ工費總豫算四百九拾六萬圓ニ比スレバ六割六分ノ竣功ニ當レリ左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「△」ハ評價品見積價格等ニシテ岸壁及防波堤費中ニハ函工場設備費、型枠製作費及雜石、砂利、砂ノ採取費、工費用諸機械運轉費等ヲ含ム又竣功數量ト完成高ト部分竣功高ニ竣功歩合ヲ乘ジタル高トノ和ヲ計上セリ

及 壁 岸													種 別								
尺 二 十						壁 岸 尺 三 十 三															
方 塊 据 付	函 据 付	地 形 均 石 掘 作	捨 形 均 石 掘 作	床 掘 作	方 塊 製 作	函 製 作	梯 子	繫 船 柱	防 舷 材	笠 石 段	階 段	裏 込	函 頂 部 混 凝 土	函 內 部 填 充 混 凝 土	函 內 部 填 充 混 凝 土	函 据 付	地 形 均 石 掘 作	捨 形 均 石 掘 作	床 掘 作	函 製 作	
二七・〇	八四・〇	四三三・〇	四三七・六	四六〇・〇	八六・四	八五・八	〇・八	八・〇	九・〇	一〇七・三	一	二二〇・一	二二六・五	一七六・七	二七八・〇	(二八四・〇)	二八九・五	三五三・一	四九六・八	三〇・一	
一、八三四、六八九																		圓			
二、三八一五																		圓			
七五・〇	二・〇	八・〇	二・四	一五・六	〇・三	〇・八						一一・四	一二八・八	八五・八	九九・〇	(一一五・五)	一一・〇	九九・三	一六一・七	一一・五	
二、九四、四九五																		圓			
一、一三二																		圓			
一〇二・〇	八六・〇	四四〇・〇	四四〇・〇	四六〇・〇	一〇二・〇	八六・〇	一・六	八・〇	九・〇	一〇七・三	一	三三一・五	三五五・三	二六二・五	三七七・〇	(四〇九・五)	四〇〇・五	四五二・四	六五八・五	四一・六	
二、二二九、一八四																		圓			
四、九四七																		圓			
〇・八四	〇・八四	〇・八四	〇・八四	〇・八八	〇・八四					〇・二五		〇・四五	〇・四九	〇・三六	〇・五二	〇・五六	〇・五五	〇・六二	〇・九〇	〇・六〇	
計																					圓
功 合																					圓

共施營船浚費立理			費堤波防																		
濟行 組中 合給 與金	船及 縵機 械	下埋	岸																		
			堤防 波	捨	笠	裏	方塊 据	L型 塊据	地 形	捨	床	方塊 製	L型 塊製	梯	笠	階	裏	函頂 部混 凝土	函內 部充 土砂	函內 填充 混凝 土	
費	費	費	水立	石	石	込	付	付	均	石	掘	作	作	子	石	段	込	土	砂	土	
			三九五〇	立坪 一五〇〇	九九、四八三、五	立坪 五四・三	四二・一	五二・〇	七二・〇	六六・〇	五二・〇	五二・〇	六一・三	七二・〇	六六・〇	二二五〇	一	三九〇〇	四〇五〇	三九〇〇	四二〇〇
			一、五四九	七二、〇六四	六七三																
			六六六、六五六	一四、九二五	一一三、二〇三	四二五	一三六、〇八二	三、〇五八													
			四、五、七三二、〇	立坪												一七二・五	三八〇	二〇・六	三五〇	一〇〇	
			七五、二六三	三八九	二、〇〇三	七、〇七三	二五、九八六	二、二二六													
			一四九、一五、五	立坪																	
			三九五〇	立坪 一五〇〇	一四九、一五、五	立坪 五四・三	四二・一	五二・〇	七二・〇	六六・〇	五二・〇	五二・〇	六一・三	七二・〇	六六・〇	三、八七、五	一	四二八〇	四二五・六	四二五〇	四三〇〇
			一、五四九	七〇、六五〇	七、八六三																
			七四一、九一九	一五三、一四	一一五、二〇六	五〇〇	一六二、二一六	五、二八四													
			〇・〇三	〇・四〇	〇・一五	〇・〇八	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・一〇	〇・七四	〇・八二	〇・八一	〇・八三	〇・八三	

總計	臨時手当	種別	
		前年度迄	本年度
		數量	金額
		竣功高	額
△ 二、八三八、六四四 二五八、九一九	一、一九三 円		
		數量	金額
		竣功高	額
△ 四一九、五五七	円		
		數量	金額
		合計	額
△ 三、二五八、二〇一 三四七、一三三	一、一九三 円		
〇六六		竣功	合計

第七 長崎港修築工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ長崎市ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ當初ハ總工費百五拾萬圓内七拾五萬圓ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正九年度ヨリ同十一年度ニ至ル三箇年度ノ繼續事業ナリシガ同十一年度ニ於テ元船町地先岸壁及埋立費九拾萬圓ヲ追加シ工期ヲ二箇年度延長シテ同十三年度迄トシ更ニ同十二年度ニ於テ港口大曾根ノ除礁費九萬圓ヲ追加シ内六萬圓ハ國庫ヨリ補助スルコトナリ即工費合計貳百四拾九萬圓トナレリ(大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ工期二箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ同十五箇年度トスルコトニ決定)

港狀並計畫大要

本港ハ九州西岸ニ位シ地形深ク東北方ニ彎入シ四時風浪穩ニシテ我國ニ於ケル天然無比ノ良港ナリト雖モ内外通商貿易ノ發達ハ次第ニ出入船舶ノ増加ト共ニ船型ノ増大ヲ來シ到底天然ノ形勝ノミニ委ヌベカラザルニ至リ明治三十年度ヨリ同三十七年度ニ互リ國費ノ補助ヲ得テ港内ヲ浚渫スルト同時ニ沿岸ヲ埋築整理シ港灣トシテ稍々其面目ヲ一新セリト雖モ水陸聯絡ノ設備ニ至リテハ殆ンド之ヲ缺キ泊地亦狹隘ニシテ輓近商工業ノ急激ナル發展ノ爲メ出入貨物増加シ殊ニ歐洲大戰ノ結果支那南洋方面トノ航通漸次頻繁ヲ加フルニ至リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ起リ

シ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

出島沿岸長二百三十間、幅平均二十五間ヲ干潮面上十四尺ニ埋立テ其前面ニ水深三十尺ノ岸壁ヲ築造シ八千噸級汽船二隻又ハ五千噸級汽船三隻ノ接岸ニ便セシメ兩側面ニハ二十九間二分宛ノ斜面荷揚場ヲ設クルモノトス

元船町沿岸長三百間、幅平均二十七間ヲ干潮面上十四尺ニ埋立テ其前面ニ水深九尺及六尺ノ岸壁ヲ築造シ小型汽艇ノ接岸荷役ニ便セシム

港内第一區内ニ於テ面積約十萬坪ヲ水深三十尺ニ浚渫シ同水深以上ノ水面積三十萬坪ヲ約四十萬坪ニ擴大セントス

港内第三區内ニ存在スル大曾根岩礁ヲ水深三十六尺ニ碎岩浚渫シ航行船舶ノ出入ヲ安全ナラシム埋立地上ニ施行スベキ鐵道其他ノ諸設備ハ凡テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス

施工狀況

本年度内ニ於テ施行シタル工事ハ函製作ノ殘部出島岸壁及埋立ノ殘部、元船町岸壁及埋立、浚渫工事等ニシテ其施行狀況左ノ如シ

函製作工事ハ前年度ニ引續キ元船町九尺岸壁用函ノ製作ニ從事シ十一月迄ニ八個ヲ製作シ前年度製作済ノ六個ヲ併セ年度内ニ於テ十四個ヲ進水セシメテ函製作ノ完成ヲ告ゲタリ

出島岸壁工事ハ前年度内未完成ニ係ル正面岸壁、笠石、繫船柱ノ一部及北側折リ曲リ部、護岸ノ一部分ヲ施行シ十三年八月ヲ以テ竣成同時ニ内部埋立モ又完成ヲ告ゲシヲ以テ從來日支聯絡船一隻ヲ繫留シ來リ

シテ二隻同時ニ接岸セシムルノ外近海航路其他當港海陸連絡ニ遺憾ナク利用セララルニ至レリ
元船町岸壁工事ハ九尺六尺岸壁及護岸ノ三區ニ分テ施行スルモノニシテ九尺岸壁ハ前年度ニ引續キ
床掘基礎捨砂捨石地形均函据付基礎沈定函内填充混凝土函内填充礫裏込石張石石垣等施行シ年度末ニ
於テハ床掘基礎捨砂各二百十四間ヲ完成セシメ尙函据付モ百九十間(函塊三十一個)ノ完成ヲ了ヘ九尺岸
壁ノ年度末ニ於ケル竣功高約八割四分トナレリ六尺岸壁ハ床掘基礎捨砂共ニ年度末約七割三分ノ竣功
ニシテ其他捨石地形均方塊積基礎沈定裏込石石垣等ノ竣功ヲ併セ本年度末ニ於ケル六尺岸壁竣功高ハ
約一割四分通リトナレリ

浚渫工事ハ鋤鏈式浚渫船玉浪丸ヲ使用施行セシモ同船ハ年度始メヨリ八月末ニ至ル五箇月間ヲ埋立工
事ニ十月下旬ヨリ十二月末迄二箇月餘ヲ元船町岸壁工事ニ使用シ尙十四年一月中旬ヨリ同二月中旬迄
約一箇月間ヲ修繕ニ費シ本工事從業期間ハ約四箇月ナリシテ以テ僅カニ壹萬九百七拾九立坪ヲ浚渫セ
シノミニシテ累計四萬五百三十二立坪即チ全量ニ對スル約四割三分ノ竣功トナレリ

除礁工事ハ港内第三區大曾根ノ岩礁ヲ碎岩浚渫スルモノニシテ昨午五月起工シ同年度内ニ竣功ヲ告ゲ
タルヲ以テ本年度ニ於テハ鑽孔船ノ回航其他跡片付ケヲ爲シタルニ過ギズ

埋立工事ハ前年度ニ引續キ自走唧筒船木曾川丸ヲ使用スルノ外浚渫船玉浪丸及附屬曳船並土運船ヲ以
テ港外小瀬戸ニ於テ砂ヲ採取運搬ノ上送入セシメ八月末迄五千六百四十四立坪累計三萬六千九百四十七
立坪八ヲ以テ三十尺岸壁内部ノ埋立ヲ完成セリ元船町九尺岸壁内部埋立ハ七月ヨリ假締切ヲ初メ年度
内ニ於テ六千三百三十五立坪二ノ埋立ヲ施行シ全量ニ對スル一割二分ノ竣功トナレリ
其他工事用方塊製作砂利砂等ノ直營採取及小管工場復舊等ノ雜工事ヲモ施行セリ

本年度竣功高ハ貳拾八萬貳千貳百貳拾六圓（事務費及現在物品代價ヲ除ク）ニシテ起工以來ノ累計百七拾七萬參百拾八圓（同上）ニ達シ總工費豫算貳百參拾五萬六千圓（事務費ヲ除ク）ニ對シ七割五分ノ竣功ニシテ其工事竣功表ハ次ノ如シ但シ表中岸壁費ニハ函工場設備費、型框費、出島工場設備費、基礎試驗工事費及砂利、砂等ノ採取費ヲ含ミ「△」ハ評價品價格ナリ又竣功數量ハ完成高ト部分竣功高ニ竣功歩分ヲ乘ジタル高トノ和ヲ計上ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩分
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
出島三尺岸壁	三五間				三五間		四分
函製掘床	二〇〇〇				二〇〇〇		一〇〇
捨石	二〇〇〇				二〇〇〇		一〇〇
地均形	二〇〇〇				二〇〇〇		一〇〇
函据付	二〇〇〇				二〇〇〇		一〇〇
函内填充混凝土	二〇〇〇				二〇〇〇		一〇〇
函内填充砂礫	二〇〇〇				二〇〇〇		一〇〇
場所詰混凝土	二〇〇〇				二〇〇〇		一〇〇
笠石	八七・三		一四二・七間		二二九・〇		一〇〇
裏込石	二二〇・〇				二二〇・〇		一〇〇
防舷材	二二九・〇				二二九・〇		一〇〇
繫船柱	八個		一〇個		一八個		一〇〇
繫船柱	二				二		一〇〇
函製作	一				一		一〇〇

壁 岸 護 及 壁																						
元船町九尺岸壁				同上護岸				同上護岸														
函地据	捨形均	基礎捨	床掘	函製作	張石	場所詰混泥土	填充礫塊	方均	地石	裏込	捨石	防舷材	笠石	場所詰混泥土	方塊	函內填充砂礫	函內填充混泥土	函据付	地均	裏込石	捨石	
一〇	一〇	一六六・七	一六八・四	二七・五	二九・二	二九・二	四六・二	四六・二	五二・二	四三・〇	五二・二	八〇	一一・五	一七・〇	四・〇	六・五	六・五	六・五	九・〇	七・八	九・〇	間
△																						
八一、一七、四三三																						
一九〇・〇	一八二・五	一八二・五	四七・三	四五・六	七・五	一五・三	六・〇	六・〇	九・二	一・〇	九・四	一・七								一・三	間	
△																						
一〇七、二八、九三三																						
一九〇・〇	一八三・五	一八三・五	二一四・〇	二一四・〇	三五・〇	四四・五	二九・二	五二・二	五二・二	五二・二	五二・二	九・〇	二一・九	一八・七	四・〇	六・五	六・五	六・五	九・〇	九・〇	九・〇	間
△																						
九一八、二六、六四六																						
〇・八九	〇・八六	〇・八六	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇

總計	施行中諸費 共濟組合給與金
△ 一、四八八、〇九二 一、八七〇	八六、四五二 一、五五四
△ 二八二、二二六 三、六九五	四四、二六四 一、八七三
△ 一、七七〇、三一八 五、五六五	一三〇、七一六 三、四二七

第八 清水港修築工事

（横濱土木出張所）

緒言

本港ハ近時港勢ノ發展顯著ナルニモ拘ラズ其設備頗ル不完全ニシテ貨物取扱上不利不便尠カラズ之ガ改修ハ急務ニ屬ス是ヲ以テ静岡縣ハ本港修築ノ計畫ヲ樹テ大正十年度ヨリ同十五年度ニ至ル六箇年度繼續事業トシテ總工費金五百五拾萬圓ヲ計上シ其二分ノ一ヲ國庫補助トシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ依ル國ニ於テ事業直接施行ノ義ヲ申請シ來リタルヲ以テ是ガ豫算ヲ第四十四帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ得タリ

次デ大正十一年静岡縣ハ追加工事トシテ清水港内三保村地先ノ海面十五萬四千六百餘坪ニ係ル埋立費六拾七萬七千圓ノ縣費支辨ヲ以テ施行ノ義ヲ申請シ來リ是亦第四十五帝國議會ノ協賛ヲ得テ施行スルコトトナレリ尙同十三年度鐵道省ノ省用炭陸揚設備ノ不備ナル所以ヲ以テ縣ト協議ノ上巴川河口以南ノ埋立地一萬七百九十坪ヲ讓リ受ケ其前面ニ繫船岸ヲ築造シ尙其前面二萬面坪ヲ浚深スルノ計畫ヲ樹テ此施行方ヲ内務省ニ委託セリ此工費四拾八萬貳千貳百圓ナリ

是等清水港修築工事ハ大正十五年度ヲ以テ竣工ノ豫定ナリシガ偶々政府ノ財政緊縮ニ方リ同十七年度迄即チ二箇年度ノ延期トナリタルモノナリ

港灣狀況

清水港ノ沿革ヲ記述スレバ本港ハ本邦東海岸駿河灣内ニ在リテ大平洋航路ノ樞要地ニ當リ横濱、神戸兩港ノ間ニ介在シ東海道鐵道ニ沿ヒ能ク海陸ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ベク其地形トシテハ三保半島ニ圍繞セラレ港内廣濶波浪常ニ平穩ニシテ水深ク海底ノ地質ハ泥砂ニシテ船舶ノ錨定極メテ安全ナル天然ノ良港ナリ

本港ハ元和元年徳川家康豐臣氏ト兵ヲ交ユルニ及ビ艦船ヲ本港ヨリ大阪ニ廻航シ兵器食糧ヲ送レリ當時町民最モ輸送ニ勗ム其功績ニ因リ徳川氏保護政策ノ恩惠ヲ享ケ夙ニ海運ノ隆盛ヲ來シ爾來沿岸貿易港トシテハ有數ノ港灣ナリシガ明治二十九年ニ至リ開港外外國貿易港ニ關スル規定發布セララルヤ港ノ有志者此機失フベカラズト爲シ蹶起相協力シテ縣會ト共ニ政府ニ建議スル所アリ遂ニ其望ヲ達シ明治三十年六月開港外外國貿易港ニ指定セララルニ至リ踰エテ同三十二年八月更ニ開港場ニ指定セラレタリ

既往ニ於ケル本港修築工事ヲ視ルニ本港ニ於ケル從來ノ設備トシテハ觀ルベキモノ無シト雖モ明治十一年中ノ築造ニ係ル清水波止場アリ舊問屋即チ當時回漕業者ノ發意ニ基キ完成セルモノナリ其後明治四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四箇年度間ニ互リ工費總額參拾萬七千八百六拾貳圓ヲ以テ縣ニ於テ修築工事ヲ實施セリ其大要ヲ擧グレバ清水波止場ノ西北ニ當リ海岸ニ沿ヒ水面積約一萬八千五百坪ノ船入場ヲ設ケ水深干潮面下七尺ニ浚漑シ延長三百四十八間ノ物揚場ヲ築造シ又從來ノ江尻船入場ニモ延長百三十間ノ物揚場ヲ増設シ水深七尺トシ而シテ清水船入場ヨリ江尻船入場ニ至ル海岸ニ沿ヒ總面積五萬一千六十一坪ノ埋立ヲ施工セリ

今港勢ヲ概說スレバ明治四十二年ヨリ大正十三年ニ至ル間ノ輸出入貨物統計表ノ噸量ヲ調査スルニ左

表ノ如シ

年次	外國貿易	内國貿易	合計
明治四十二年	四八、八四〇 <small>噸</small>	二六四、二五四 <small>噸</small>	三一三、〇九四 <small>噸</small>
同四十四年	五六、六五九	二六八、三〇九	三二四、九六八
同四十四年	六五、五二六	二九七、二一二	三六二、七三八
大正元年	六一、〇三五	二六一、〇二九	三二二、〇六四
同二年	五七、五一二	三一〇、六〇六	三六八、一一八
同三年	七七、五九九	二八四、一五一	三六一、七五〇
同四年	六二、三二四	二九三、八四九	三五六、一六三
同五年	九五、一五一	三一、一五六	四〇六、三〇七
同六年	一一四、九三六	三五二、〇八八	四六七、〇二四
同七年	一一一、二七六	三七四、六六三	四八五、九三九
同八年	九二、二二三	五四九、〇五三	六四一、二七六
同九年	七九、三〇	八五一、二六二	九三〇、三九二
同十年	一一一、二一四	四五七、二五五	五八八、四六九
同十一年	一五二、四六九	四六八、一六三	六二〇、六三二
同十二年	二〇〇、七七五	六六〇、〇二五	八六〇、七九〇
同十三年	二二九、六八七	八七二、二六三	一、一〇一、九五〇

是ニ依テ之ヲ觀レバ本港ノ内外貿易ハ年ヲ逐フテ發展シ集散貨物ノ増加ニ伴ヒ船舶ノ出入亦漸次増加セリ今船舶ノ出入ヲ調査スルニ

年 度	入 港		出 港		合 計	
	隻 數	噸	隻 數	噸	隻 數	噸
大 正 六 年	八三	二三五、二九八	七三	二二三、九八四	一五六	四五九、二八二
同 七 年	八四	二二四、九七三	六七	二一八、二九九	一五一	四四三、二七二
同 八 年	一一九	三六四、四一一	一一九	三四九、五一五	二四八	七一三、九二七
同 九 年	一一三	四二〇、一六六	一一〇	四〇四、〇七八	二二三	八二四、二四四
同 十 一 年	一五〇	五七八、二一九	一三七	五六三、七五三	二八七	一、一四一、九七二
同 十 二 年	一八五	八四一、六八八	一七〇	七六四、二九九	三五五	一、六〇五、九八七
同 十 三 年	一七七	八九四、九八〇	一六四	八五八、六五九	三四一	一、七五三、六三九
同 十 四 年	一九一	九二三、四六五	一九〇	八九〇、七七九	三八一	一、八一四、二四四

又縣下ノ産業狀況ヲ觀ルニ富士、駿東地方ノ製紙、紡績、靜岡市ノ製茶、濱松市ノ木綿織物ヲ主トシ縣下各地方ノ工業ノ製産額大正十一年ニハ壹億八千四百萬圓ニ達シ尙漁業港トシテ共ニ本邦屈指ト稱ス(大正十三年度木材輸入百七十萬一千餘石)且近時豐富ナル縣發電力ノ計畫ハ五十餘萬馬力ニ達シ本港附近各種工業ノ勃興ヲ促スノ傾向ヲ有シ加フルニ近ク富士、身延ノ中央線連絡ハ甲信二州ノ物資ヲ本港ニ吸収スルニ至ルベク本港ノ將來益々發展スル機運ヲ示シ來レリ飜ツテ本港ニ於ケル設備ヲ見ルニ清水船渠及舊船渠ノ物揚場延長四百九十三間ニ達スト雖モ其設備不完全ニシテ充分ノ利用ヲ爲スコト能ハズ而シテ本港ニ入港スル外國汽船ハ主ニ米國航路ノ大型船ニシテ滯船期間ノ短縮ハ切實ニ其必要ヲ感ズルニモ拘ラズ常ニ遠キ沖合ニ碇泊シ到底荷役ノ敏活ヲ期スル能ハズ貨物取扱上不利不便ナルコト甚大ナリト云フベシ其他入港船舶ニ於テモ同様ノ狀態ニ在ルヲ以テ今日ノ儘ニテハ近時内外貿易發展ノ趨勢ニ順應スル能ハズ茲ニ本修築ノ成立ヲ見ルニ至レルナリ

計畫ノ大要

清水波止場ト巴川トノ間其延長三百四十間ノ沿岸ヲ幅六十間ニ埋立テ港灣設備地ニ供ス其前面ニハ岸壁朔望平均干潮面下水深三十五尺ノモノ百十間、同二十八尺ノモノ百間、同二十四尺ノモノ百三十間ヲ築造シ其前面ヲ水深三十尺、二十八尺、二十四尺ニ浚渫シ二萬噸級ノ汽船一隻、八千噸級ノ汽船一隻及三千噸級汽船二隻ノ同時接岸荷役ニ便セントス

巴川以南ノ沿岸其延長五百七十間、幅平均百四十間ヲ埋立テ港灣設備地及工業用地ニ供セントス

三保村地先ノ海面十五萬四千六百坪ヲ埋立テ商工業用地トシテ港灣ノ利用發展ニ資スルモノナリ

浚渫ノ箇所及水深ハ差當リ三十五尺岸壁前面及航路幅百八十間乃至二百五十間ヲ水深三十尺ニ、二十八尺岸壁前面幅百八十間ヲ二十八尺ニ、二十四尺岸壁前面幅百八十間ヲ水深二十四尺ニ浚渫ス而シテ漁船ノ船溜ニ便センガ爲メ巴川下流清水町港橋以下河口ニ至ル延長五百間ヲ幅二十間、水深六尺ニ浚渫ス今本工事費ノ豫算内譯ヲ示セバ左ノ如シ

<table border="1"> <tr> <td>岩壁及護岸費</td> <td>一、四四六、一四〇</td> </tr> <tr> <td>浚渫費</td> <td>一、五七〇、〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>埋立費</td> <td>六三三、一九五</td> </tr> <tr> <td>船舶及機械費</td> <td>一、六二〇、五〇〇</td> </tr> <tr> <td>營繕費</td> <td>一〇〇、〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>工事費</td> <td>五、一六〇、一三五</td> </tr> </table>		岩壁及護岸費	一、四四六、一四〇	浚渫費	一、五七〇、〇〇〇	埋立費	六三三、一九五	船舶及機械費	一、六二〇、五〇〇	營繕費	一〇〇、〇〇〇	工事費	五、一六〇、一三五	<table border="1"> <tr> <td>土地收用費</td> <td>三〇四、九〇〇</td> </tr> <tr> <td>雜費</td> <td>一一二、二六五</td> </tr> <tr> <td>工事費</td> <td>五、七八七、〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>業務費</td> <td>三九〇、〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>總計</td> <td>六、一七七、〇〇〇</td> </tr> </table>	土地收用費	三〇四、九〇〇	雜費	一一二、二六五	工事費	五、七八七、〇〇〇	業務費	三九〇、〇〇〇	總計	六、一七七、〇〇〇
岩壁及護岸費	一、四四六、一四〇																							
浚渫費	一、五七〇、〇〇〇																							
埋立費	六三三、一九五																							
船舶及機械費	一、六二〇、五〇〇																							
營繕費	一〇〇、〇〇〇																							
工事費	五、一六〇、一三五																							
土地收用費	三〇四、九〇〇																							
雜費	一一二、二六五																							
工事費	五、七八七、〇〇〇																							
業務費	三九〇、〇〇〇																							
總計	六、一七七、〇〇〇																							

又鐵道省委託工事ハ巴川河口以南ノ埋立地一萬七百九十坪ノ前面ニ水深二十四尺ノ繫船岸ヲ築造シ尙

其前面約二萬面坪(約百三十間平方)ヲ浚渫スルモノトス其工事費豫算内譯ハ次ノ如シ

岸壁費
浚渫費
船隻及機械費

二五三、六二〇^円
九八、二八〇
七二、三〇〇

營繕費
施行中諸費
總計

一〇、〇〇〇^円
四八、〇〇〇
四八二、二二〇

施工狀況

岸壁及護岸工事ヲ記スレバ岸壁工事トシテハ大函十三個ヲ製作シ内十二個ヲ進水シ丙岸壁用トシテ巴川河口ノ北方所定位置ニ沈設シ護岸工事トシテハ小函三十四個ヲ製作進水シテ二十一個ヲ不二見地先甲物揚場用ニ十三個ヲ巴川左岸ノ乙物揚場用トシテ所定位置ニ沈設シ其上部工事ハ約三分ノ一ヲ完成ス此工事費拾七萬六千七百參拾圓ナリ

埋立工事ハ三保地先ニ二萬九千六百一十一立米ノ埋立工事ヲ施行ス此工費壹萬五千五百五拾圓ナリ其外浚渫工事ニ依リテ清開地先六萬百九十一立米及受新田地方十五萬六千七百九十六立米ノ埋立ヲ爲セリ

浚渫工事ハ四隻ノ浚渫船(椿號、草薙號、菖蒲號、富士號)及ブリスマン式浚渫船ヲ使用シ航路及巴川河口岸壁豫定位置附近ノ浚渫ヲ行ヒ土砂運搬ハ曳船小蒸汽船四隻、發動機船二隻、百二十立米積土運船七隻、四十二立米積土運船二隻、二十四立米積側開キ土運船四隻、同甲板積土運船三隻ヲ使用ス此土量九十二萬七十七立米ニシテ工費貳拾貳萬參千四百五拾參圓(内土量六萬百九十一立米ノ工費壹萬壹千九百五拾六圓ハ鐵道省負擔額)ヲ要セリ

浚渫土砂ハ其一部ヲ當所ノ諸工事竝横濱港復舊工事等ニ利用シ又ハ民間ニ讓渡シ他ハ受新田地先清開地先不二見地先三保地先竝港界外沖合ニ投棄セリ

營繕工事ハ昨年來繼續中ノ大斜路設備工事砂利砂篩分設備工事船架工事及本年度著手ニ係ル大函底型及滑臺製作工事小函用底型及滑臺工事小斜路突堤工事木工場鐵筋小屋製材小屋ウキンチ小屋棧橋等夫々竣功セリ其他建物増築模様替及修繕排水工事等ヲ合シテ此等ノ工費四萬貳千九百拾六圓ナリトス

船舶機械製作修理事業トシテハ事務所及機械工場所要諸機械ノ製作及浚渫船五隻汽船五隻發動機船四隻土運船十六隻雜船五十六隻其他諸機械ノ修理ヲ爲セリ此工費參拾六萬五百九拾八圓(内貳千九百九拾貳圓ハ鐵道省負擔額)ナリ

前述ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ總工費八拾六萬六千百貳拾六圓ヲ要セリ

本年度購入又ハ製造ヲ注文シタル主ナル船舶及機械類ハ左ノ如シ

名	稱	員	數	金	額	製	造	所	名	摘	要
通	船		六隻		二、八八〇	金	指	造	船		
	四坪積土運船		三		二、四四〇	淺	野	造	船		
	二十坪積土運船		二		五〇、〇〇〇	横	濱	船	渠	株	式
	起重機臺船		一		一、五二六	株	式	會	社	小	柳
	混凝土潜函型枠				六八、七〇〇	株	式	會	社	大	阪
	マニラ綱				四、〇八三	三	寶	商	事	株	式
	錨				二、五八二	日	立	製	作	所	
	電動捲揚機				二、五七三	日	立	製	作	所	
清水港修築事務所扱											

又本年度ニ於ケル工事竣功表ハ次ノ如シ但シ「」ハ鐵道省委託工事ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
電機			一、六二八				〇・二二
縱蓋			一、三三五				〇・三三
其他			八、七一一				〇・二四
旋盤			二、九五〇				〇・二四
ニューマチックドリル			一、九〇〇				〇・二四
其他			四、三七五				〇・二四
總計			一七五、六八三				〇・五四

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功割合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費	立米	三六、二六六	一七六、七三〇	二二二、九九六			〇・二二
埋立費		一、一三九	一五、一五〇	一六、二八九			〇・三三
浚深費		六八二、二一六	八五九、八八六	一、五四二、一〇三			〇・二四
營繕費		一、一三三、九九四	二二一、四九七	一、三五五、四九一			〇・二四
船舶及機械費		一、四三六、八四七	四二、九一六	一、四七九、七六三			〇・二四
土地收用費	坪	二四、九九〇・七五	二、九九二	二、九九二			〇・二四
施行中諸費		三、四四、六八八	三五七、六〇六	三、八〇四、二九四			〇・二四
共濟組合給與金		七、一七六	四二、〇五六	四九、二四二			〇・二四
總計		二、一八九、七八〇	八五一、一七八	三、〇一〇、九五八			〇・五四

第九 下關港修築工事

（下關土木出張所）

緒言

本工事ハ總豫算參百六拾壹萬圓（內下關市負擔額百八拾萬五千圓）ヲ以テ大正十年年度ヨリ同十六年度ニ至ル七箇年度繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ同十二年年度ニ至リ豫算ノ關係上竣功期ヲ同十七年度迄繰延ベ施行スルコトトナレリ（大正十四年度ニ於テ更ニ工期ヲ一箇年度延長シ竣工期限ヲ同年度トスルコトニ決定）

港狀並計畫大要

下關港ハ本邦西部ノ要港ニシテ古來殷盛ヲ極ムト雖モ水深淺ク泊地狹隘ニシテ大船巨舶ヲ容ルルニ足ラズ殊ニ水陸聯絡設備ニ至テハ一部鐵道構內沿岸ヲ除キ殆ンド之ヲ闕キ輓近内外貿易ノ急激ナル發達ニ伴フ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ハ最早天然ノ形勝ノミニ依ルヲ許サザルニ至レリ然レドモ時運ノ趨勢ト財政ノ狀態トハ未ダ遠カニ大計畫ノ施設ヲ容ルル能ハザルベキヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ譲リ先ヅ以テ焦眉ノ急ニ應ズル程度ニ於テ修築工事ヲ施サントス其計畫ノ大要左ノ如シ

停車場以東ニ屬スル部分ハ内外貿易用ニ充ルモノニシテ其東端ハ內務省ノ埋立地ニ接續シ現在海岸ニ

沿ヒ幅三十間内外ヲ干潮面以上十二尺五寸ニ埋立テ其前面ニハ東端ヨリ干潮面以下九尺岸壁長百四十七間、十八尺岸壁長百二十五間、二十四尺岸壁長三百二十八間ヲ設ケ二十四尺岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ長六十五間ノ防波堤ヲ設ケ其内部ヲ船溜ニ充テ現在海岸ニ沿ヒ十二尺岸壁長百八間、六尺岸壁長二百二十五間ヲ築造スルモノトス

停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ下關驛西端貨車航送船發著場ノ北方護岸ニ接續シ中間ニ於テ幅六十間内外ヲ干潮面以上十二尺五寸ニ埋立テ其前面ニ十八尺岸壁長百八十九間、東側ニ護岸長九十七間五分、西側ニ九尺岸壁長七十六間及護岸長十六間五分ヲ築造スルモノトス
埋築面積總計四萬一千六百坪ニシテ内東部二萬五千餘坪、西部一萬六千五百餘坪ナリ而シテ埋築上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路、其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス
岸壁ノ前面ハ總テ岸壁深ト同深ニ浚深シ尙西部埋立地前面ニ横レル淺洲ハ干潮面以下十尺ニ同所ト停車場トノ間ニ介在スル淺洲ハ同十八尺ニ浚深スルモノトス

施工狀況

本年度ハ浚深、岸壁及埋立工事ヲ前年度ニ引續キ施行セリ其主ナルモノ左ノ如シ
岸壁工事ノ西部十八尺岸壁ハ前年度ニ引續キ捨石、地形均、函据付、函内混凝土填充、頂部混凝土ノ諸工事ヲ施工シ函据付及函内混凝土ハ完成シ、頂部混凝土ノ一部及東端竹崎護岸ト接スル部分ノ方塊積ヲ殘スノミトナレリ西部九尺岸壁ハ前年度ニ床掘ヲ終リ本年度ニ於テ基礎地形均ヨリL形塊全部ノ据付ニ至ルマデ全部完成シ裏込ノ一部ヲ殘スノミトナレリ東部十八尺岸壁ハ本年度ニ入りテ床掘ヲ初メ全部完了

シ八月ヨリ捨石及地形均ニ著手シ十一月第一函ヲ据付ケ爾來据付六函、函内部混凝土五十六間五分半、頂部混凝土二十六間ヲ施工セリ二十四尺岸壁ハ東部十八尺岸壁ト同ジク本年度ニ入りテ床掘ヲ初メ一百二十七間ヲ施工シ更ニ八月ヨリ捨石地形均ニ著手シ十月ニ至リテ第一函ヲ据付ケ爾後据付三個、函内混凝土十間ヲ施工シ頂部混凝土ハ未タ施工ノ運ビニ至ラズ其他東部九尺岸壁ハ床掘二十間ヲ施工セシニ止マリ又西部竹崎護岸ハ石垣長六十四間ヲ築造シ今浦護岸ハ一部捨石及地形均ノ一部ヲ施工セシニ過ギズ

函製作工事ハ各岸壁用函ヲ製作スルモノニシテ前年度末一意函ノ製作ニ從事シ本年度ニ製作セルモノ十八尺岸壁用函八個之ニ前年度ニ製作セルモノ一個ヲ加ヘ合計九個ヲ進水セリ二十四尺岸壁用函ハ三個ヲ製作進水セリ

塊製作工事ハ岸壁用L形塊及方塊ヲ製作スルモノニシテ本年度中ニ製作セルモノ前者ハ八十個、後者ハ百六十四個ナリ

浚渫工事ハ第一木津丸、野田丸、與次丸等ノ鋤鏈式浚渫船及擱揚式浚渫船ノ第二號「プリストマン」ヲ使用シ東部十八尺岸壁及二十四尺岸壁ノ前面竝彦島埋立地沖ノ浚渫ヲ施工シ其坪數一萬八千八百餘立坪ニシテ累計五萬四千七百五十立坪ニ達セリ

埋立工事ハ各岸壁及護岸内部ノ埋立ヲ施行スルモノニシテ本年度ニ於テハ其功程一萬三千三百餘立坪ニ達シ累計二萬三千五百餘立坪ノ埋立ヲ了セリ埋立土砂ハ主トシテ關門海峽改良工事ニ於テ浚渫シタル土砂ヲ以テ之ニ充テ其一部ハ運搬船ヨリ直接埋立地内ニ投棄シ大部分ハ一旦埋立地前ニ投棄シタル後唧筒式浚渫船ヲ使用シテ埋立地へ吸揚スルモノナルモ後者ハ本年度ニ於テ實施スルニ至ラザリキ

此外工事施行用諸機械ノ運轉竝雜工事等ヲ施行シ割石、砂利、砂等ハ凡テ前年度通り之ヲ直營採取セリ
 本年度ノ竣功高ハ四拾七萬五千八百拾貳圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ニ要
 シタル工費ノ累計ハ百貳拾六萬八千六百九圓(同上)トナリ之ヲ工費總豫算參百參拾七萬圓ニ比スレバ三
 割八分ノ竣功ニ當レリ左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「△」ハ評價品價格ニシテ岸壁及防波堤費中ニハ國
 工場設備費、型枠費及雜石、砂利、砂採取費、工所用諸機械運轉費其他ヲ含ム又竣功數量ハ完成高ト部分竣功
 高ニ竣功歩合ヲ乘ジタル高トノ和ヲ計上ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
西	一四〇個	一八九・〇	四二個	一八九・〇	一七〇個	一八九・〇	一〇〇	〇・九八
捨	一七四・一	一八五・九	一〇二個	一八五・九	一七四・一	一八五・九	一〇〇	〇・九八
床	一四八・五	一七二・七	三三個	一七二・七	一八一・二	一七二・七	一〇〇	〇・九一
地	一四個	一四八・五	三三個	一四八・五	四七個	一四八・五	一〇〇	〇・九一
函	一四個	一四八・五	三三個	一四八・五	四七個	一四八・五	一〇〇	〇・九一
方	一四個	一四八・五	三三個	一四八・五	四七個	一四八・五	一〇〇	〇・九一
塊	一四個	一四八・五	三三個	一四八・五	四七個	一四八・五	一〇〇	〇・九一
据	一四個	一四八・五	三三個	一四八・五	四七個	一四八・五	一〇〇	〇・九一
付	一四個	一四八・五	三三個	一四八・五	四七個	一四八・五	一〇〇	〇・九一
尺	七・八・九	九・九・六	八・二	九・九・六	一五・〇	九・九・六	一〇〇	〇・九一
岸	五・三・九	八・二	八・二	八・二	一三・五	八・二	一〇〇	〇・九一
壁	一・五・八	一・五・八	一・五・八	一・五・八	三・一・六	一・五・八	一〇〇	〇・九一
頂	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
裏	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
繫	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
船	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
防	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
舷	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
材	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
柱	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
達	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
土	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
凝	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
土	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
充	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
填	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
砂	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
填	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一
充	八・二・四	七・一・八	七・一・八	七・一・八	一五・四・二	七・一・八	一〇〇	〇・八一

第一〇 敦賀港修築工事

（名古屋土木出張所）

緒言

本工事ハ總工費參百四拾萬圓（內事務費貳拾壹萬圓ヲ含ム）ヲ以テ大正十一年度ヨリ同十八年度ニ至ル八箇年度繼續事業ナリシモ同十二年十一月二十六日一箇年度ノ繰延ヲ爲シタルヲ以テ同十九年度迄ニ竣功セシムルコトナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ古來北海ノ要衝ニ當リ其地勢東南西ノ三方ハ連山ヲ以テ圍繞サレ獨リ北方ノ一面ノミ廣ク日本海ニ通ジ港内廣濶ニシテ水深ク能ク大船巨舶ノ碇繫ニ便ナラシムルモ尙此地方ニ最モ多キ偏北風ニ對シ安全ナル能ハザルヲ以テ曩ニ金ヶ崎突堤ヲ延長シ港内ノ浚渫埋立、棧橋等當面ノ急ニ應ズル施設ヲ爲セシモ歐洲大戰ノ勃發シタル結果軍事上將タ經濟上愈々重要ナル地位ヲ占ムルニ至リタルノミナラズ貨客ノ激增ニ依リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ以テ起レル所以ナリ其計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

既設防波堤ト同一方向ニ三百九十一米ヲ延長シ笹ノ川見透線以東ノ水面ヲ掩護セシム
 既設棧橋ノ西北方ニ接續シテ幅平均約五十五米、長百六十四米ヲ埋立テ其前面ニ水深八米五ノ岸壁ヲ築設シ六千噸級汽船一艘ノ接岸荷役ニ供ス

筈ノ川右岸ヨリ長約三百四十五米、幅九十一米ノ繫船突堤ヲ築造シ其内側ニ水深八米五岸壁百六十四米、竝七米三岸壁五十五米ヲ築キ六千噸級汽船一隻又ハ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供ス而シテ該突堤ト兒屋ノ川口トノ間長約四百九十米、幅七十三米ヲ埋立テ其前面ニ水深七米三、岸壁三百十米ヲ築造シテ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供シ其他ハ總テ物揚場護岸トシ舢舨又ハ小型船ハ接岸荷役ノ用ニ充ツ岸壁ニ伴ヒ港内ノ水深モ之ニ相應ゼシムル様浚渫ヲ施シ以テ水深七米以上ノ水面約三十三萬方米ヲ得ルモノトス是等ノ浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニシテ埋立總土量約六十萬立米ニシテ埋立面積約七萬五千方米ナリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ工事ハ採石工事、函工場設備、函製造、護岸、埋立等ニシテ左ニ其概要ヲ述ベン採石工事ハ石材ヲ採取運搬スル工事ニシテ本年度ニ於テハ二千七百二十三立米ヲ採取セリ

函工場設備工事ハ岸壁、護岸及防波堤用函製造ニ充テンガ爲メ進水臺一臺及製作用電動諸機械ノ基礎工事等ヲ施行セントスルモノニシテ大正十三年六月起工シ大正十四年二月竣功セリ函製造工事ハ岸壁、護岸及防波堤用函ヲ製造スル工事ニシテ大正十三年六月起工シ護岸用函製作臺三臺ヲ製作シ同時ニ型枠三臺ヲ使用シテ六米函五箇ヲ製造セリ

護岸工事ハ全長七百九米ニ互ル舢舨及小型船接岸荷役ニ供スル物揚場護岸ニシテ大正十三年十一月兒屋ノ川左岸ヨリ著手シ六米函三箇ノ据付ヲ了セリ而シテ之等据付ケタル函ノ内部ニハ前半ハ混凝土、後半ハ土砂ヲ以テ填充シ背部へ裏込ヲモ施行セリ

埋立工事ハ各種岸壁、護岸内部ノ埋立全部ヲ施行セントスルモノニシテ大正十三年八月工ヲ起シ先ヅ既設棧橋西方及工事中ノ護岸背部ノ埋立ニ著手シ其土量二萬九千六百七十二立米ナリ而シテ埋立土砂ハ主トシテ浚渫船ニ依リ港内豫定ノ浚渫區域ヲ浚渫セシモノニシテ一部ハ採石場不用土砂ヲモ使用セリ此外石材積出用埠頭ノ築造並假棧橋架設、工事用砂、砂利ヲ直營採取セリ本年度工事竣功高ハ貳拾壹萬四百四拾貳圓(事務費ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計參拾八萬四千七百貳拾壹圓トナリ之ヲ總豫算參百拾九萬圓ニ比スレバ約一割二分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ岸壁及護岸費中ニハ函製作設備費、型枠、砂、砂利採取費、採石費及工事用諸機械運轉費ヲ含ミ「△」ハ製作品及評價品金額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸							
函製							〇〇六
床掘							〇〇六
捨石							〇〇六
地均							〇〇七
函形							〇〇四
裏据							〇〇二
函充							〇〇一
國內填充							〇〇四
土砂							〇〇五
埋立							
合計							

總計	共濟組合給與金	施行中諸費	營繕費	測量及檢潮費	船舶及機械費	雜工事
一七四、二八〇	七一八	四一、一五七	一九、八五八	二、九五九	一〇七、六四一	
△ 二一〇、四四一 三、六七九	一、六七〇	三五、四〇〇	三、四九四	一四六	九一、六六一	△ 九四六 四六六
△ 三八四、七二一 三、六七九	二、三八八	七六、五五七	二、三、三五三	三、一〇五	一九九、三〇二	△ 九四六 四六六
〇・二						

第一一 高松港修築工事

（神戸土木出張所）

緒言

本港ハ香川縣ノ中央北部高松市ノ海岸東經百三十四度二分、北緯三十四度二十一分ニ位シ地勢南ニ肥沃ナル讃岐平野ヲ控ヘ屋島山海中ニ突出シ西方ニ王越半島ヲ望ミ前面ハ女木、男木ノ兩島相連リテ港北ヲ扼ス而シテ北東及北西ハ海路ノ深度大船巨舶ノ航行ニ適シ岡山縣宇野港ヲ距ルコト僅ニ十一哩、四國四縣中最モ形勝ノ地位ヲ占ムル内港ノ要港タリ

高松市ハ今ヲ去ル三百年前即チ寛永年間ヨリ松平氏ガ生駒氏ニ代リテ居城ト爲シタル地ニシテ當時之ヲ玉藻城ト稱シ附近一帶ノ海岸ヲ玉藻浦ト呼ビ船舶出入ノ地ハ地勢上自ラ東濱、堀川及西濱ノ三港ニ分タレ東濱港ハ商船ノ出入ニ充テ西濱港ハ漁業者ノ專用ニ供シ堀川港ハ藩船ノ繫留場タリシガ維新後は等ヲ稱シテ高松港ト謂フニ至レリ明治三十年七月縣費ノ補助ヲ得高松市ニ於テ修築工事ヲ起シ工費貳萬八千餘圓ヲ投ジテ西濱港ノ東堀川港口ニ於テ水面積約八萬坪ヲ包擁スル東西二條ノ防波堤ヲ築造シ兼テ港内主要部ノ浚渫、堀川港及沿岸ノ埋築、棧橋ノ築設等ノ工ヲ企テ同三十七年九月之ヲ竣功シ以テ現在ノ本港ヲ形成セリ

爾來時勢ノ推移ニ伴ヒ年ト共ニ貨客、船舶ノ出入著シク増加シ殊ニ宇野港トノ間ニ船車連絡ノ設備成リ貨車航送ノ實施セラレシ以來本港利用上ニ一新紀元ヲ劃シ更ニ擴張ノ必要ヲ生ジタルガ故ニ大正八年香川縣ニ於テハ港灣調査會ヲ設置シ之ガ調査ニ努メ越テ同十年六月ニハ内務省ニ於テ本港ヲ第二種重

要港灣ニ編入シ尋テ第四十五議會ノ協賛ヲ經テ本港ノ改修計畫全ク樹立シ同十一年度ヨリ同十六年度(當初年限ハ十五年度迄五箇年度)ニ至ル六箇年度ノ香川縣營繼續事業トシテ工費總額貳百貳拾萬圓(俸給及事務費ヲ含ム)ヲ豫算シ其半額ヲ國庫ヨリ補助シ且ツ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ內務大臣ニ於テ本事業ヲ直接施工スルニ至レリ

港狀並計畫大要

現在ニ於ケル高松港ノ狀態ハ東西ノ兩防波堤ヲ以テ限ラレタル區域内ナリト雖モ從來所謂高松港ナルモノハ東濱港、西濱港其他ヲ包含スルモノニシテ其東端ニ位スル杣場川ハ水深最モ淺ク大潮時干潮ニ於テハ全部川底ヲ露出シ一部ハ貯木場ニ充ツルモ一般船舶ノ出入多カラズ東濱港ハ帆船ノ出入頻繁ニシテ主トシテ農産物及肥料類ノ集散ニ利用セラシ中川港ハ水面積極メテ狹ク小船ノ修理及繫留場ニ充ツルニ過ギズ東西兩防波堤ヲ以テ圍マレタル現在高松港ノ其東半部ハ水深淺クシテ荷役ノ設備ヲ缺キ剩サヘ陸上ハ舊城趾ニテ遮ラレ運輸交通上ノ不便尠カラズ西半部ニハ縣營ノ棧橋並鐵道、棧橋、貨車航送ノ設備共同荷役場坂出地方專賣局高松出張所在リ港内ハ大小ノ船舶常ニ幅輳ヲ極ムルニ反シ西濱港ハ單ニ漁船溜ニ過ギザルナリ

本港港外東西二方ハ所謂遠淺ニシテ港口ヨリ沖合ハ急ニ水深ヲ加フ而シテ海底ハ概シテ僅少ノ粘土ヲ含ム細砂ニシテ岩盤無キヲ以テ浚渫鋪定或ハ構造物ノ基礎トシテハ強チ憂フベキ土質ニ非ラザルノミナラズ土砂ノ移動モ亦大ナラズ波浪平靜ニシテ潮流速度ハ毎時二哩ヲ越ヘズ潮位ハ大潮平均干満ノ差約八尺、四季降雨少ナク氣候溫暖ニシテ夏季稀ニ暴風ノ襲來スルコトアリト雖モ永年ノ記錄ニ徵スルニ

北々東風三十五米ハ其最風速ニシテ冬季ニ在テハ西南西強風多シトス

新設北防波堤ハ延長四百四十間ニシテ舊東防波堤頭部ヲ起點トシ東濱地先計畫埋立地前面ニ併行シテ築造シ又新設東防波堤ハ延長三百九十間ニシテ柚場川口右岸ヨリ北方ニ向ヒテ築造シ前者ノ東端トノ間ニ幅員四十間ノ副港口ヲ存置シ現在ノ東防波堤ハ全部之ヲ撤去シ又中川港ノ港口北東隅ヨリ突出スル突堤ハ其先端ヨリ二十間ヲ除却シ尙東濱港内ノ突堤二箇所ハ之ヲ除却スルモノトス

埋立ハ玉藻町地先ニ於テ幅員二十間、面積約四千七百五坪ヲ平均滿潮面上五尺ニ埋立、棧橋附近ハ適當ノ幅員ニ埋立テ又下横町地先ニ於テ面積約五千坪、八重垣新地地先ニ於テ面積約八千坪ヲ埋立テ荷揚場倉庫道路及鐵道ノ敷地ニ供シ埋立ノ前面ハ水深六尺ノ物揚場護岸トシ其他ハ總テ水深三尺ノ護岸トス

浚渫ハ港内ノ主要部分水面積四萬餘坪ヲ最干潮面以下十八尺ニ浚渫シ一千五百噸級汽船ノ碇繫場ニ供シ尙港内ヲ各適當ノ水深ニ浚渫ス此浚渫總面約十四萬坪土量約二十三萬坪トス

施工狀況

本工事ハ創業後本年度ハ第三年度ニ屬シ諸般ノ設備ハ概ネ前年度ニ於テ終結シタルヲ以テ本年度ハ專ラ工事ノ進捗ニ努力シ前年度ニ繼續シテ港内ノ浚渫沿岸ノ埋築及護岸竝防波堤築造等本港主要工事ニ向テ銳意進捗ヲ企圖シ頗ル成績ノ見ルベキモノアリタリ以下順次施工狀況ヲ記述セントス

護岸ハ前年度ニ引續キ下横町九尺護岸ニ於テ基礎荷重方塊沈積各三十一間、石垣百三十一間、階段二箇所

物揚二十間ヲ同六尺護岸ニ於テ基礎十九間、荷重方塊沈積及石垣各二十四間、階段一箇所又八重垣町地先九尺護岸ニ於テ基礎八十七間、荷重九十五間、方塊沈積八十間ヲ及玉藻町九尺護岸ニ於テハ基礎二百五十八間、荷重百間、方塊沈積二百四十間ヲ施工シタル外所要方塊八百六箇ヲ製造シタル直接工費ハ八萬壹千貳百九拾七圓ニシテ護岸築造計畫ニ對シ約五割以上ノ竣功ヲ見ルニ至レリ

埋立ノ本年度ハ唧筒式浚渫船ヲ運用シ港内ノ浚渫土砂ヲ利用シ下横町地先ノ埋築ニ土量二千七百九坪ヲ尙該埋立面ノ地均五千坪ヲ處理シテ工費四千五百參拾六圓ヲ要シタリ

東防波堤ニ於テ基礎捨石三十二間ヲ施行シ北防波堤ニ於テ基礎七十九間、荷重九十四間、石垣百二十間ヲ完成シ直接工費貳萬貳百參拾九圓ヲ支出シタリ

浚渫ハ、プリストマン式浚渫船及鋤鏈式浚渫船ヲ運用シテ港内ヲ浚渫シ土量三萬九千二百九十三坪ヲ處理シテ直接工費四萬參千百八拾貳圓ヲ要シタルヲ以テ一坪當ハ壹圓拾錢ナリ而シテ浚渫土砂ノ内二千七百九坪ハ下横町地先ノ埋築ニ利用シ一萬七千五百十二坪ハ縣營埋立地ニ排砂スル爲メ附近適宜ノ場所ニ一旦假置ヲ爲シ別設計ニ基キ唧筒式浚渫船ヲ運用シテ再ビ之ヲ吸揚シ更ニ之ヲ縣營埋立地ニ排砂シタリ此直接工費ハ壹萬四千五百四拾壹圓ヲ支出シタルヲ以テ一坪當ハ八拾參錢ナリ殘土量一萬九千七十二坪ハ天候及潮位ノ關係上之ヲ港外ニ運搬投棄セリ

防波堤取除工事ハ港内ニ於ケル在來ノ東防波堤延長二百八十九間ヲ除去スルモノニシテ上部ハ人力、水中部ハ「プリストマン」式浚渫船ヲ運用シテ取除キ本年度ハ八十九間七分ヲ施行シテ直接工費七千參百四拾壹圓ヲ支出シタルヲ以テ間口當ハ八拾參圓ナリ而シテ之ヲ生ジタル石材ハ割石百五十六坪、礫五百六十六坪及間知石八千七百四十三箇ヲ算シ何レモ之ヲ他ノ工事ニ利用ノ便ヲ得タリ

雜工事トシテハ下横町地先及玉藻町地先ニ於テ前年度ヨリ暗渠新設工事ニ著手シ此延長六十四間餘ニシテ前年度ニ約三十八間ヲ完成シ本年度延長二十六間ヲ完了シ他ハ翌年度へ繰越スニ至レリ此直接工費四千八百八拾四圓餘ナリ

船舶及機械修理製作ハ本港ニハ專屬ノ機械工場無キヲ以テ常時生ズル小修繕ハ專ラ乘組員ヲ使役シテ直營ニテ施行シ以テ運用上ノ圓滑ヲ期シタリ其直接工費八千九百八拾五圓ナリ其外請負施工費七萬七千九百六拾貳圓ヲ以テ算スルガ故ニ本年度ノ支出高ハ八萬六千九百四拾七圓ナリトス
其他雜費ニ屬スル事務所諸費五件ノ支出高七千六百四拾四圓四拾六錢ヲ算シタル外諸給惠與等ニ八千七百貳拾貳圓外共濟組合給與金壹千貳百貳圓參拾五錢及建物ノ小修繕費拾九圓此合計壹萬七千五百八拾八圓ナリ

材料採取ハ前年度ニ準ジ香東川尻ヨリ混凝土用砂利及砂ヲ採取ス本年度砂利四十八坪砂二十四坪ヲ人カニテ採取濱ノ丁砂利置場ニ輸送ノ上陸揚セリ此工費壹千八拾五圓ニシテ砂利一坪當リハ拾五圓貳拾參錢同砂ハ拾四圓七拾五錢五厘ナリ

本年度工事竣功高ハ貳拾八萬壹千六百四拾四圓ニシテ竣功累計高ハ百萬六千七百四拾圓ニ達シ此總工費貳百六萬圓ニ對比スルトキハ約四割八分八厘ノ竣功ナリ其竣功内譯ハ左表ノ如シ但シ表中「x」ハ材料採取ノ項ニ掲記セル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取ニ係ル材料代ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
護岸費	立坪 x	四四、八九五、四〇〇	立坪 x	八一、一九七、一六六	立坪 x	一二六、〇九二、五六六	五分 五・二四

第四章 港灣改良工事（高松港修築工事）

總計	材料採探費		共濟組合給與金	施行中諸費	營業繕費	雜工事費	船舶及機械費	防波堤取除費	浚漑費	防波堤費	理立費
	砂	砂									
	一六六	五一	一五	立坪				三〇	四四、七九五		一〇、〇七九
七二五、〇九六	二、〇五八	六三二	一、四二六	七四二	一七、一四六	一〇、二四一	五二五、六一一	二、四八四	七六、五六九	三四、九〇四	七、三九九
	七二	二四	四八	立坪				九〇	三九、二九三		二、七〇九
二八一、六四四	一、〇八五	三五四	七三一	一、二〇二	一六、三六七	二〇	八六、九四八	七、三四二	五七、七二三	二〇、二四〇	四、五三六
	二三八	七五	一六三	立坪				一一〇	八四、〇八八		一一、一五〇
一、〇〇六、七四〇	三、一四三	九八六	二、一五七	一、九四四	三三、五一三	一〇、二六一	六二二、五五九	一〇、八二六	一三四、二九二	五五、一四四	一一、九三五
四・八八				二・五八	五・八八	一・二七	一・一三	三・六二	三・五七	一・九六	四・三五

第一二 境港修築工事

（大阪土木出張所）

緒言

本工事ハ總豫算百八拾萬圓（内工費百六拾八萬六千圓、事務費拾壹萬四千圓）ニシテ其半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十一年度ヨリ同十六年度ニ至ル六箇年間ノ繼續事業ナリシガ同十二年九月關東大震災ノ影響ヲ受ケ工期ヲ二箇年度延長シ同十八年度迄ニ竣功セシムルコトナレリ工事ハ鳥取縣ノ企業ニ係ルモノナルガ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀並計畫大要

境港ハ日本海ニ於ケル樞要港灣ニシテ山陰唯一ノ天然良港タリ殊ニ朝鮮及西比利亞方面トノ通商貿易上至便ノ位置ニ在リト雖モ港口常ニ砂洲ノ爲メ閉塞セラレ水陸聯絡亦不完全ナルヲ以テ從來之レガ利用ヲ完フスル事能ハズ先ニ明治三十七年度物揚場トシテ市街沿岸一千四百十八米ニ平均幅三米六四ヲ埋築セシモ唯小船船ノ繫留ニ適スルニ過ギズ爾後明治四十一年度航路維持ノ爲メ長一千四百五十四米五ノ捨石堤ヲ施シ同時ニ航路ヲ浚深セシモ其效果完カラズ然ルニ輓近出入船舶ノ増加ト船形ノ増大ハ最早現狀ニ委スルヲ許サザルニ至リ殊ニ近來山陰線全通ノ爲メ本港ハ益々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リ之レガ修築ハ一日モ緩フスベカラザルニ至レリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ

埋立ハ停車場地先ニ於テ長四百十八米、幅三十六米内外ノ水面ヲ干潮面上一米五ニ埋立ツルモノトス

岸壁ハ埋立地ノ前面ニ干潮面以下六米四ノモノ二百七十三米、同五米五ノモノ九十一米ヲ設ケ一千噸級乃至二千噸級ノ船舶四隻ヲ同時ニ繫留ノ用ニ供シ其他ノ沿岸五十四米ニハ物揚場及護岸ヲ設ケ防波堤ハ御臺場鼻ヨリ南方二百十八米ノ海岸ニ起リ東方ニ向ヒ延長八百三十六米ニ至リ直角ニ北折シテ延長三百八十二米ニシテ舊捨石堤ニ連續セシメ且該堤ヲ利用増築シ更ニ其尖端ヲ延長シテ一千七百米ニ至リ七米三ノ水深ニ達セシム其延長二千九百十八米ナリトス
浚渫ハ埋立地前面ノ水面約十九萬八千三百四十七平方米ヲ浚渫シ船舶繫留ノ用ニ供シ之ニ通ズル航路トシテ延長四千三百六十四米ノ間幅九十二米乃至百八十二米ヲ干潮面以下六米四乃至七米三ニ浚渫スルモノトス此浚渫總面積約三十八萬三千四百七十一平方米土量百二萬九千立米ナリ

施工狀況

本年度ニ於ケル施行工事ハ年度割豫算著シク減額セラレシガ爲メ豫算ノ範圍内ニ於テ緩急ヲ斟酌シ防波堤ノ基礎捨石工事ト浚渫工事トヲ主トシテ施行シ方塊製造工事ノ如キハ從來購入セシ材料ニテ製造シ得ル迄ニ止メタリ其施行狀況ハ左ノ如シ
防波堤工事ハ前年度ニ引續キC幹部起點ヨリ約七百米ノ箇所竝ニB、A幹部全體ニ互リ基礎捨石ヲ施行セリ本年度ニ於ケル捨石數量ハ一萬二千二十立方米一ナリ
浚渫工事ハ大正十二年十一月ヨリ唧筒式浚渫船櫻島丸ヲ使用シ中江瀬戸内境町、花町地先ノ浚渫ニ著手シ十三年八月其大部分ノ浚渫ヲ了シタルニ依リ比較的急ヲ要スル八束郡森山村大字福浦地先ノ航路ヲ浚渫スルコトトシ目下浚渫中ナリ而シテ本年度浚渫土量ハ八萬一千三百四十立米ナリ

採石工事ハ岸壁、護岸及防波堤用捨石竝ニ裏込ニ使用スル爲メ島根縣入束郡森山村大字福浦宇玉井地内ヨリ雜石ヲ直營ニテ採取スルモノニシテ大正十三年二月工事ニ著手シ工事ニ使用ノ火藥類貯藏ノ爲メ採石場附近ニ火藥類假置場ヲ同年六月設置セリ本年度ニ於テハ主トシテ防波堤基礎捨石ニ使用スル石材ノ採取ニ努メ年度内ニ於ケル採石數量ハ一萬二千九百六立米ナリ

方塊製造工事ハ本年度ニ於テハ豫算ノ關係上從來購入ニ係ル原料ニ依リ製造シ得ル程度ニ止メシヲ以テ十三年十二月以降ハ製造ヲ中止セリ從テ本年度ニ於テ製造セシ方塊ハ全部防波堤用ニシテ其數量ハ一千四百六十五立米ナリ

其他方塊工場設備工事、砂利採取工事、直營採砂等些少ノ工事ヲ施行セリ

本年度ニ於ケル本港修築工事竣功高ハ拾七萬壹千六百七拾九圓ニシテ起工以來ノ累計ハ四拾貳萬四千九百八拾參圓ナリ即チ總工費豫算額百六拾八萬六千圓ノ約二割五分ニ當レリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
岸壁及防波堤費	立米 三五、〇〇〇	五九、〇一九	立米 八一、三四〇	五六、五六八	立米 一一八、三四〇	一一五、五八七	〇・一九	
浚 漂 費		八、二二六		一八、〇二〇		二六、二四六	〇・〇六	
船舶及機械費		一四二、四六九		七四、四八九		二一六、九五八		
施行申諸費		四三、五九〇		二二、六〇二		六六、一九二		
總計		二五三、三〇四		一七一、六七九		四二四、九八三	〇・二五	

第一三 今治港修築工事

(神戸土木出張所)

緒言

本工事ハ元今治町ノ企業ニ屬シ大正三年ニ其起源ヲ發シ爾來幾多ノ曲折ヲ經テ同九年二月今治町ノ隣郷日吉村ヲ併合シテ市制施行地ニ指定セラレタル時ヲ以テ本事業ヲ今治市ノ經營ニ移サル當時其工期ヲ大正九年度ヨリ同十二年度ニ至ル四箇年度ノ繼續事業トシテ工費八拾壹萬圓ヲ計上シ港内ノ浚渫及埋立ヲ主トシ兼テ棧橋及防波堤ヲ築造スル計畫ナリシガ今治市ニ於テハ該計畫中最モ速成ヲ要スル防波堤ノ築造ヲ起工シ著々工事ヲ進(本堤ハ全部今治市ニ於テ施行濟)メタリ

然ルニ本港ニ於ケル最近發展ノ趨勢ハ現計畫ノ擴張ヲ促スト共ニ一部計畫ノ變更ヲ要スルモノアリタルヲ以テ之ヲ更正追補シテ更ニ工期ヲ大正十二年度以降同二十一年度迄(當初ノ計畫ハ大正十二年度ヨリ同十九年度迄)入箇年度ノ處第五十回帝國議會ニ於テ同二十一年度迄二箇年度ノ繰延ニ可決確定ニ至ル十箇年度ノ今治市營繼續事業トシテ工費豫算額參百萬圓(内俸給及事務費拾八萬參千圓ヲ含ム)ニ改訂シ其半額ハ國庫ヨリ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本工事ヲ施行スルニ至レリ

港狀並計畫大要

今治港ハ北緯三十四度三分四十五秒、東經百三十三度五秒、伊豫國ノ北海岸ニ瀕シ高繩半島ノ東南ニ當リ

テ自然ノ灣形ヲ爲シ前面ニハ來島海峽ヲ擁シテ瀬戸内海ノ咽喉ヲ扼ス其位置恰モ阪神關門ノ中間ニ在ルヲ以テ古來ヨリ東西航路ノ要衝ヲ占ム東ハ燧洋ニ直面シテ遙ニ四坂島ヲ望ミ北ハ大島及三大島等比々點綴シ南ハ總社川ヲ境トシテ立花村ニ接ス而シテ港界ハ天保山ノ突堤基點ヲ中心トシテ一海渕ノ半徑ヲ有スル圓圈ヲ以テ劃シ此面積百萬坪（內防波堤六萬五千坪）ヲ算ス氣候温和ニシテ常ニ波浪少ナク港内ノ水深ハ概ネ最大干潮面以下約四十尺トス此附近ハ干滿潮位ノ差瀬戸内海中最モ著シキ地方ニシテ最高最低潮位ノ差十三尺五寸、大潮時平均潮位ノ差十一尺五寸、小潮時平均潮位ノ差四尺五寸ナルモノノ如シ而シテ沿岸ハ比較的急勾配ナルヲ以テ水深裕ニシテ時々潮流ノ急ナルモノアリト雖モ大船巨船ノ碇繫ニ難カラス仍其風位ニ關シテハ本港ノ地勢既ニ叙上ノ如クナルヲ以テ西風、西北風、南北風及西風ニ對シテ些ノ影響ナシト雖モ一潮東風ノ襲來スルニ於テハ港内忽チ激浪奔騰シテ船舶ノ出入碇繫共ニ危險ナリ然レ共最近東防波堤ノ完成ニ依リテ著シク港内ハ靜穩ニ歸シ此杞憂ヲ一掃スルコトヲ得ルニ至レリ

本港ヨリ交通ハ僅ニ二時間餘ニシテ中國尾ノ道港ニ達スルコトヲ得ルヲ以テ船舶ノ出入貨客集散ノ比較的繁ク將來國鐵伊豫線ノ全通スルニ於テハ四國及南九州ノ旅客ハ必ラズヤ今治尾ノ道線ニ據リテ山陽線ニ連絡スベク然ルトキハ彼ノ高松、宇野線ニ據ルニ比シ阪神地方ニ到達スル時間ヲ節スルコト必然ナルベシ

當地方ノ發達ハ主トシテ製織業ニ起原シ今ヨリ約三百年前中御門天皇ノ御宇柳瀬義達ガ地方産業振興ヲ圖リ細民婦女子ニ勸奨シテ白木綿ヲ製織セシメタルニ起因ス爾來斯業ハ一進一退明治年間ニ至リテハ全ク不況ニ陥入りタリシモ同十七八年ノ頃故矢野七三郎奮然意ヲ決シ當時流行セル「紀州ネル」ノ製織

ニ著眼シ自ラ產地ニ到リテ其製織法ヲ習得シテ歸來之ヲ細民婦女子ニ授ケ其悲境ヲ救濟シタル以來斯業ハ益々堅實ナル發達ヲ遂ゲ現時「伊豫ネル」ノ名稱ハ織物界ニ於テ頗ル重キヲ加ヘ販路モ亦海外ニ發展スルノ盛況ヲ爲スニ至レリ故ニ此地ハ古來商業地ヲ以テ其名ヲ知ラレ夙ニ松山市ヲ凌駕シ最近ニ於ケル發達ハ一轉シテ商工業ト目サレ人口約三萬五千ヲ有シ市街頗ル殷賑ヲ極ム今ヤ今治市ハ機業地トシテ本邦屈指ノ地位ニ數ヘラレ從テ船舶ノ出入、貨物ノ吞吐、旅客ノ交通頓ニ激增シ此趨勢ヲ以テ進ム時ハ四國四縣中其首位ヲ占ムルノ期強チ遠キニ非ラザル可ク而シテ本港ハ大正十一年二月開港場トナリ次デ第二港灣ニ指定セラレタルヲ以テ見ルモ港灣設備ノ必要蓋シ目睫ノ間ニ迫レルモノト謂フベシ

本工事ハ今治市ニ於テ大正九年度ヨリ同十二年度ニ至ル繼續事業トシテ棧橋、防波堤ノ築造及浚渫、埋立等ノ工事施行中ノ處該計畫ヲ左表ノ通り變更及擴張スルモノトス

船入場ハ天保山ニ於ケル防波堤根元ヨリ南東ニ向テ百間之ヨリ略南西ニ向テ一線ヲ劃シ尙之ニ連續シテ内港ノ周圍ニ物揚場又ハ護岸ヲ築キ住吉町附近ヲ掘鑿シ在來ノ内港入口幅員五十間ヲ八十間ニ取擴メ一面中洲ヲ掘鑿除却ノ上現在ノ船幅二十五間ヲ平均四十六間トシ内港水面積現在約五千坪ヲ一萬六千七百坪ニ擴張シテ干潮面以下九尺ノ水深ヲ保タシメ以テ帆船、小蒸汽船ノ繫留荷役ノ用ニ供ス

浚渫工事ハ元今治地先前面ニ於テ防波堤トノ間ニ介在セル港内水面積三萬七千二百七十坪ノ内水深大ナル沖合部一萬六千餘坪ヲ干潮面以下二十一尺ニ浚渫シ三千噸級汽船ノ出入ニ便ナラシメ尙殘餘ノ水面ハ同十八尺以上ニ其他ハ同五尺ニ浚渫シ更ニ内港部ハ同九尺ニ浚渫若クハ掘鑿スルモノニシテ此總土量十四萬二千三百二十四立坪トス但シ陸地ニシテ掘鑿ノ上海面トナル部分ノ面積ハ八千七百餘坪ナトス

リ埋立ハ港内ノ浚渫、掘鑿ヨリ生ジタル土砂ノ一部ヲ以テ大宇藏敷地先東側沿岸ニ面積二萬二千八百三十坪ノ埋立ヲ爲シ以テ倉庫、上屋及臨港鐵道ノ敷地ニ充テ又元今治地先ニハ海岸ニ併行シテ護岸ヲ築造シ其内方ノ面積五千六百六十坪ヲ埋立テ更ニ内港部ニ於テ大手通惠比須町及新町地先ニ面積四千三十餘坪ヲ埋築スルモノトス此總土量ハ六萬四千八百八十二立坪ナリ

岸壁、物揚場及護岸トシテハ天保山地先ニ三千噸級汽船一隻、千噸級汽船二隻ヲ同時ニ繫留シ得ベキ長百二十間、水深干潮面以下二十一尺及十八尺ノ岸壁ヲ築造シテ將來敷設サルベキ臨港鐵道トノ聯絡ニ便セシ爲メ内港周圍ニ水深九尺ノ斜面物揚場延長五百五十間餘ヲ設ケ其他元今治地先海岸長三百三十間及藏敷埋立地先海岸長五百間竝内港ノ一部ニ互リ總延長一千五百間餘ノ護岸工事ヲ施行スルモノトス浮棧橋ハ元今治地先縱形浮棧橋ヲ三箇所ニ配置シ其長各四十間、幅各五間（但シ浮函長三十間、幅五間此面積百五十坪）トシ之ヲ約四十間ヲ隔テ櫛形ニ併行突出セシメ小型汽船及千噸級船ノ碇繫荷役竝旅客ノ乗降ニ供スルモノトス

施工狀況

本年度ハ前年度ニ續行シテ浚渫、埋立、護岸及浮棧橋築造工事等ヲ施工シ次テ大宇新町地内ニ於ケル用地ノ買收地上物件等ニ交渉ヲ開始シタル外雜工事及石材採取工事ヲ施工スルニ至レリ以下項ヲ逐フテ其施工狀況ヲ記述セントス

浚渫ハ港内元今治地先ニ於テ干潮面以下十八尺ニ浚渫スベキ區域ニ對シ「ブリストマン式」浚渫船二隻ヲ運用シ之ニ土運船ヲ配シ曳船ヲ介シテ浚渫土量二萬七十三坪七合五勺ヲ處理シ内一千四十九坪七合五

勺ハ元今治地先ノ埋築ニ一萬六坪二合ハ藏敷地内ノ埋築ニ利用シタル外殘九千十七坪八合ハ天候及潮流等ノ關係ニ依リ港外無害ノ箇所ニ運搬投棄シ其工費參萬參千百六拾六圓ヲ要シタルヲ以テ一立坪當リハ壹圓六拾五錢ナリ

埋立ハ藏敷地先ニ本年度ニ於テ浚渫土砂利用ノ埋築一萬六坪二合ニ達シ(工費不要)元今治地先ハ下埋七百六十四坪四合五勺上埋七百七十坪四合五勺ヲ處理シ其工費壹千貳百五拾九圓ヲ要シタルヲ以テ一坪當リハ壹圓拾九錢九厘ナリ

第一縱棧橋築造ハ前年度ニ於テ約九割完成シタルヲ以テ本年度ハ其殘工事ヲ繼續シテ橋臺ノ上部壁體渡橋吊懸柱ノ上部浮函碇繫裝置ヲ完成セシメタル外新ニ橋臺上高欄ヲ裝置シ尙浮函上ニ電燈裝置ヲ施シ一面浮函塗裝補足工事ヲ施工シテ七月三十一日ヲ以テ完成ヲ告グ茲ニ於テ同港ハ始メテ海陸ノ運輸連絡ヲ實現スルニ至レリ此直接支出シタル總工費八萬五千九百九拾參圓ナリ次テ十二月五日ヨリ第二第三縱棧橋築造工事ニ著手シ從來ノ實驗ニ基キ施工方法等ニ最善ノ意ヲ致シ年度内橋臺一箇所ノ大部分及所要方塊六十六個ヲ製造シテ殘餘ハ翌年度へ繰越スニ至レリ此直接工費六千七百八拾四圓ナリ護岸工事ハ天保山ヨリ突出セル既設東防波堤ト相對シ元今治地先ノ海岸一帯ヲ干潮面上十五尺ニ埋立テ其沿岸擁護ヲ兼ネ一面舢船繫留ニ利用シ得ベキ施設ニ屬シ其延長三百三十間餘ノ内前年度中第一縱棧橋ヲ中心線及護岸法線ノ交點ヨリ東五十一間餘西四十一間餘ニ對シ縱棧橋橋臺ノ幅員ヲ除キ延長八十間(内階段及下水吐口三箇所ヲ含ム)ニ互リ大正十二年十二月一日ヲ以テ工事ニ著手シ一面縱棧橋ノ築造ト併行シテ專ラ其進捗ニ努力シ前年度ニ於テ捨石六十二間荷重及方塊沈積各八十間上部壁體四十間及所要方塊五百一箇ヲ製造シ本年度ニ至リテ更ニ第二次追加トシテ同起點ヨリ東五十一間七二ノ箇所

ヨリ八十七間ヲ延長（内七十二間ハ普通護岸ニシテ十五間ハ横棧橋々臺幅員各五間ノモノ三箇所ヲ含ム）シ尙第三次追加トシテ起點ヨリ西ニ幅員十間ノ階段一箇所及同點ヨリ西ニ同水深ノ護岸三十間ヲ延長追加シテ爾來施工中ノ處從來ノ既定計畫ニ屬スル一連ノ横棧橋ヲ今般二條ノ縦棧橋ニ計畫變更セラレタルヲ以テ本實施設計ニモ其影響ヲ及セリ故ニ本設計ノ内横棧橋々臺三箇所延長十五間ヲ廢シ縦棧橋二箇所延長二十六間六分（別設計ニテ施行ノ見込）ヲ除キ水深九尺護岸側面式小階段一箇所下水吐口二箇所ヲ含ム）延長百七十間ト正面式階段一箇所十間トヲ築造スルコトニ設計變更ヲ爲シ爾來施工ヲ繼續シ年度内ノ基礎捨石八十一間三分、荷重捨置六十三間三分、方塊沈積五十間、上部壁體八十八間、階段十間及所要方塊百九個ヲ製造シタル外既設方塊及裏詰除却延長五間ヲ施工シテ殘餘ハ翌年度へ繰越スニ至レリ而シテ本年度本工事ノ爲メ支出シタル直接工費ハ貳萬壹千七拾七圓ナリ

用地買收及物件移轉事業トシテハ今治市大字新町地内ニ於ケル計畫線内ノ用地ヲ實測シタルニ此坪數六百八十三坪三合六勺ヲ算シ此土地所有者十一人地上物件ハ概ネ住宅ニシテ内自用貸家並營業用物件等ニ充テラレタルモノ九人ニシテ件數住宅十一棟、物置等十八棟、其他十八件ニシテ年度内物件移轉ハ全部承諾シ用地買收モ大半承諾ノ意思ヲ表セリ而シテ年度内支出シタル用地費貳百五拾參圓貳拾參錢物件移轉料參千八百五拾圓、計四千百參圓ニシテ殘餘ハ翌年度へ繰越スニ至レリ

(イ) 割石ハ今治港ヲ距ツル海上約二哩半ノ地點立山採石場ヨリ採取シ之ヲ運搬船ニ積込ミ曳船ヲ介シテ今治港ニ曳行シ各所要工事ニ配供シタルモノニシテ本年度ハ八百二十二坪二合五勺ヲ採取輸送シ且全部使用シタリ此工事八千五拾圓ヲ要シタルヲ以テ一立坪當ハ九圓七拾錢五厘ナリ

(ロ) 砂利ハ總社川ヨリ人力ニテ採取陸上シ之ヲ牛馬車ニテ藏敷地内ノ置場へ運搬ス本年度ハ二百三十坪

五合ヲ採取シ工費貳千九百四拾參圓ヲ要シタルヲ以テ一立坪當リハ拾貳圓七拾四錢七厘ナリ

(ハ) 砂ハ「プリストマン式」浚渫船ニテ港内適宜ノ箇所ヨリ浚渫陸揚ス本年度ハ九十九坪五合ヲ採取シテ工費百九拾四圓ヲ要シタルヲ以テ一立坪當リハ壹圓九拾四錢ナリ

船舶及機械修繕其他雜件トシテハ

一、今治港ニ專屬ノ機械工場無キヲ以テ常時生ズル小修繕ヲ直營ニテ施行シ以テ運用上遺憾ナキヲ期シ
タリ此直接工費參千五百拾四圓外請負ニ係ル購入及修理ニ支出シタル金額ハ七千四百九拾參圓ナリ

二、營繕ハ本年度ニ於テ僅カニ既設建物ノ維持修繕ニシテ支出高ハ參百八拾四圓七拾參錢ナリ

三、事務所雜費ニ屬スルモノハ工事外ノ諸費ニシテ本年度ノ支出高ハ壹千九百八拾六圓貳拾五錢九厘五

毛ナリ

四、砂留石垣除却ハ元今治地先ノ海岸ニ於ケル縣施設ニ係ル石垣ニシテ本修築工事施行上支障アル部分
ヲ縣ノ承認ヲ得テ之ヲ除却シタルモノニシテ之ヨリ生ジタル石材ハ張石及裏詰砂利ナルヲ以テ之ヲ
施行中ノ工事ニ利用スルノ便ヲ得ベク本年度ハ張石百二十面坪裏詰砂利十八立坪ヲ除却シテ工費四
百八拾九圓ヲ要シタル

五、材料試験ハ所要セメント二百噸及火炭十噸ニ對シ品質性状ノ試験ヲ施行シ此費用貳百五拾參圓貳拾

七錢ヲ支出シタル

六、上記ノ外發動機械運轉費、方塊製造場除却費及諸給與惠與並共濟組合給與等ノ支出高ハ合計壹萬參千

貳圓ヲ算スルニ至レリ

本年度工事竣功高ハ拾萬八千八拾圓ニシテ竣功累計ハ貳拾七萬參千七百五拾圓トナリ之ヲ總豫算額貳百拾八萬七千圓ニ對比スルトキハ約零割九分七厘ノ竣功ニ相當ス其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「×」ハ材料採取ノ項ニ於テ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取ニ係ル材料代ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
浚深費	立坪 一五、八〇五	二〇、八三七	立坪 二〇、〇七三	三三、一六六	立坪 三五、八七八	五四、〇〇三	〇・三五〇	
埋立費	一三、六一一	二、一三五	一一、〇六二	一、二五九	二四、六七三	三、三九四	〇・四三〇	
棧橋費	×	八四、五九一	×	一〇、三六九	×	九四、九六〇	〇・四四〇	
護岸費	×	三三、三八四	×	二、四八二	×	五、八六六	〇・二六〇	
船舶及機械費	×	二二、九三四	×	二、〇七七	×	一、七三七	〇・二六〇	
營繕費	×	九、四四九	×	八、二八八	×	一、九〇一〇	〇・〇七〇	
用地費	×	八、二〇五	×	一〇、八〇五	×	一九、〇一〇	〇・二九〇	
施行中諸費	×	五、一二九	×	三八五	×	五、五一四	〇・一一〇	
共濟組合給與金	立坪 七、六五三	七、六五三	立坪 四、一〇三	一五、〇五五	立坪 二二、七〇八	四、一〇三	〇・二九〇	
材料割	立坪 七、五六四	三〇五	立坪 八、〇五〇	六七六	立坪 一、六〇三	九八一	〇・一三〇	
採取砂	立坪 七、八一	七、五六四	立坪 八、〇五〇	六七六	立坪 一、六〇三	九八一	〇・一三〇	
取砂利	立坪 四〇一	五、〇五二	立坪 二、三三〇	二、九四一	立坪 六三一	七、九九三	〇・一三〇	
費計	立坪 一七〇	二六五	立坪 九九	一九四	立坪 二六九	四五九	〇・一三〇	
總計	—	一六五、六七〇	—	一〇八、〇八〇	—	二七三、七五〇	〇・〇九七	

第一四 鹿兒島港修築工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ鹿兒島縣ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總工費參百萬圓内半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十二年度ヨリ同十八年度ニ至ル七箇年度繼續事業ナリ(大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期限ヲ同二十一年度トスルコトニ決定)

港狀並計畫大要

本港ハ九州南部ノ重要港灣ニシテ其背面地域ニ鹿兒島、宮崎ノ二縣ヲ控ヘ沖繩、大島、其他南海諸島ニ至ル唯一ノ港灣ナリ

本港ハ舊藩政時代ヨリ夙ニ港灣ヲ修築シ三五郎波止、新波止、一丁臺場等ノ防波堤ヲ築設シテ北東及南東ノ激浪ヲ防ギ船舶ノ碇繫ニ利便セシモ爾來歲月ノ經過ニ從ヒ港内漸ク埋沒シ船舶ノ出入ニ困難ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ更ニ明治三十三年度ヨリ同三十八年度ニ互リ縣費八拾五萬圓ヲ投ジ大ニ港内ノ浚渫ヲ行ヒ船舶ノ碇繫、貨物ノ集散ニ多大ノ便宜ヲ得稍々面目ヲ新ニセリト雖モ輓近内外通商貿易ノ發達ハ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ヲ來シ殊ニ沖繩、大島諸島ノ開發ハ本港背面地域ノ鐵路ノ延長ト相俟チ本港將來ノ貿易額ノ激増ヲ來スベキヲ以テ本港ノ現狀ニテハ到底其使命ヲ完フスル能ハズ之レ本計畫ノ起リシ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

第四章 港灣改良工事（鹿兒島港修築工事）

總計	船 舶 及 機 械 費	營 繕 費	施 行 中 諸 費	共 濟 組 合 給 與 金
二〇、九八五	五、七六〇 円	一、一三〇	三、〇七六	一九
二、三〇九	五 円	一、六一五	六八九	
三三、二九四	五、七六五 円	一、三七四 五	三、七六五	一九
〇〇〇八				
				割分庫

第一五 小松島港修築工事

（神戸土木出張所）

緒言

本港ハ明治四十四年度ヨリ徳島縣ニ於テ港灣修築ニ關スル調査ヲ開始シ大正二年度ニ至リテ工費拾四萬四千六百餘圓ヲ投ジ工期四箇年度ヲ以テ内港部ノ整理修築ヲ遂行シ次デ大正六年度ヨリ同十年ニ互リテ更ニ工費拾九萬九千四百餘圓ヲ以テ港口ヲ扼スル南北兩突堤ヲ増築シタル外海底ノ浚渫ヲ施シタル一千噸級汽船ノ出入ヲ容易ナラシメタリト雖モ最近同港發展ノ趨勢ハ尙進テ現設備ノ擴張ヲ促スヤ急ナリ茲ニ於テ徳島縣ハ本港將來ノ發展ニ資スベキ計畫ヲ樹テ更ニ總工費參百貳拾萬貳千圓（内俸給及事務費拾九萬壹千圓ヲ含ム）ヲ豫算シ其半額ハ國庫ヨリ補助ヲ得大正十二年度ヨリ同二十一年度ニ至ル十箇年度ノ縣營繼續事業（當初ハ大正十二年度ヨリ同十九年度迄八箇年度ノ工期ナリシガ政府財政ノ都合ニ依リ大正十四年第五十回帝國議會ニ於テ二箇年度繰延ノ件確定）トシ且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀並計畫大要

本港ハ四國ノ東部北緯三十四度、東經百三十四度三十六分ニ位シ坂神兩港トノ聯絡ヲ初メ夙ニ本邦沿岸各地トノ交通開ケ四國東海岸唯一ノ重要港灣ナリ而シテ本港ノ外港部タル小松島灣ハ北東ニ向テ展開シ北西東山岬ト東方和田鼻トハ相對峙シテ港口ヲ扼シ其幅員約一千五百間ヲ有ス灣内ノ水深ク大船巨

船ノ出入碇泊ニ適シ天然ノ良灣ヲ形成スレドモ其内港部ハ僅ニ神代瀬川河口ヲ利用セルニ過ギザルヲ以テ水自ラ淺ク從テ海陸聯絡設備ヲ缺キ小型船舶ニシテ尙且出入自由ナラザル憾アリ然レトモ近時商工業ノ著キ發展ハ出入船舶及貨客ノ増加ヲ來シ現在ノ内港設備ニテハ既ニ狹隘ヲ告グ到底時代ノ趨勢ニ順應スル能ハズ加フルニ近キ將來阿土鐵道完備ノ曉愈々本港ハ四國ノ東門ヲ司リ本州トノ聯絡上益重要ノ地位ヲ占ムルニ至ルベキヲ以テ之ガ修築ノ擴張ハ本港ノ最急務トスル處ナリ左ニ計畫ノ大要ヲ記述スベシ

防波堤ハ現在港外北東突堤部ヨリ長九十一米ヲ施設シ又東方ハ長五百八十米ヲ築造シ港門幅員二百七十三米ヲ保タシム此港門ハ將來必要アルトキハ之ヲ百八十米ニ短縮シ北防波堤ヲ更ニ約九十一米増築スルモノトス而シテ此兩防波堤ニ依リ包擁セララル水面積ハ約六十四萬一千三百方米トス岸壁ハ現在繫船岸ノ北側ナル池沼及田地ヲ浚渫シテ凹字形ノ船溜ヲ設ケ其周圍ニ岸壁ヲ築造ス船溜ハ東部入口ニ於テ幅員百二十七米、西部ニ於テ九十一米トシ岸壁ハ入口ニ近キ北側百二十七米、南側百二十九米ハ干潮面以下六米四ニ其奥北側九十一米、南側九十二米ハ五米五ニ築造シ其兩側ニ二千五百噸級汽船二隻一千五百噸級汽船二隻ヲ繫留シ得ベカラシム尙凹字形ノ前面南方ノ岸壁ハ帆船又ハ小型汽船ノ繫留ノ便ニ供スル爲メ水深三米ニ築造ス

浚渫及掘鑿ハ港内約三十九萬六千七千方米ヲ干潮面以下六米四ニ浚渫シ又現在港内南隅ノ田面約一萬四千九百平方米ヲ水深干潮面以下二米五ニ掘鑿シ漁船ノ繫留場ニ充ツルモノトス埋立ハ岸壁左右ノ田地ヲ埋立テ工場敷地トシテ工事完成後ハ鐵道敷地、上屋及倉庫等ノ敷地ニ充テントス

施工狀況

本工事ハ大正十三年十一月ヨリ大阪土木出張所ニ於テ測量調査ニ著手シ爾來同十三年十二月十五日迄同出張所ノ所管タリシガ同年十二月十三日内務省告示第七百八十二號ヲ以テ土木出張所名稱及分掌區域ヲ改正セラレタル結果當所ニ移管セラレタルヲ以テ之ガ施行ヲ承繼シタリ即チ本年ニ於テハ港内ノ浚渫及埋立工事ヲ繼續施工シタル外測量調査等準備工ニ過ギザル程度ノモノナリ以下其概要ヲ記述スベシ

浚渫ハ大正十三年九月二十四日ヨリ大阪土木出張所ニ於テ港内ノ浚渫ニ著手シ移管後當所ニ於テ引續キ施工シ年度内土量三萬六千九百十八立米ヲ處理シ内四千六百五十六立米ヲ埋築土砂ニ利用シ他ハ悉ク港外ニ運搬投棄セリ所要船舶ハ「バケツト」式浚渫船第一安治川丸ヲ運用シ之ニ曳船土運船ヲ配シ本年度ノ工費ハ壹萬四千五百六拾圓ナルヲ以テ一立米當ハ參拾九錢四厘ナリ

埋立ハ浚渫土砂ヲ利用シ計畫埋立地域ノ一部ヲ平均干潮面上三米ニ埋築シ事務所及倉庫ノ敷地ト爲ス目的ヲ以テ大正十三年十月一日ヨリ大阪土木出張所ニ於テ起工セラレタリ移管後當所ニ於テ引續キ施工シ年度内五千五百五十五立米ヲ埋築ス内八百九十九立米ハ附近波打越堤ヨリ採取シタルモ他ハ悉ク浚渫土砂ノ利用ニ屬ス施工方法ハ「ドコービル」ニ依リ人力ニテ運搬ス其工費參千參百六拾九圓ニシテ一立米當ハ六拾錢六厘ナリ

準備工ハ主トシテ港内ノ測量及地質調査ヲ施工シ兼テ石材採取用地トシテ買收セル大神子地内ノ實測ヲ遂ゲ直接工費貳千七拾參圓ヲ支出シタリ

本港修築工事ハ起工日尙淺ク從テ船舶諸機械ノ準備無キ爲メ借入借用ヲ要シタルヲ以テ是等ノ廻航費トシテ貳千六拾六圓餘ヲ支出シタリ

尙同港ニハ專屬ノ機械工場無キ爲メ常時生ズル小修繕ハ總テ乘組員ヲ使役シテ直接施工シ以テ運用上ノ圓滑ヲ期シタリ其支出七千四百九拾參圓(大阪所管ノ分ヲモ含ム)ノ外購入並請負ニ係ル修理運搬費等壹萬五千五百九拾四圓餘ヲ通算スルトキハ本年度船舶機械費ノ支出高貳萬參千八拾七圓餘ナリトス將來所要石材ヲ直營採取ノ計畫ヲ樹テ、德島縣勝浦郡勝占村大字大原地内ニ於テ山林四千七百七十七坪ヲ五千七百參拾五圓ニテ買收シタリ此坪當ハ壹圓貳拾錢ニ相當ス

以上ノ外營繕費共濟組合及諸給與等ニ支出セル金額ハ合計壹萬壹千貳百六拾七圓ヲ算スルニ至レリ本年度ノ竣功高ハ六萬貳千五百拾七圓餘ニシテ此累計ハ七萬七百七拾九圓ニ達シ之ヲ總工費參百壹萬壹千圓ニ對比スルトキハ二分三厘六毛ノ竣功ナリ其竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
竣漂費		立米 四		立米 三六、九一八		立米 三六、九一八	四・五一〇
埋立費				五、五五五		五、五五五	〇・一七〇
用地費				四、七七七		四、七七七	〇・三六〇
船舶及機械費		一、五八一		二二、〇八七		二四、六六八	〇・五九〇
施行中諸費		四、四三〇		一一、八七一		一六、三〇一	一・六九〇
營繕費		一、〇八六		九四七		二、〇三三	〇・九六〇
測量及檢潮費		一、五〇二		二、〇七三		三、五七五	一・三五〇

第一六 伏木港修築工事

(新潟土木出張所)

緒言

本港ハ富山縣ノ南西隅庄川ノ河口ニ位シ古ヨリ裏日本ニ於ケル良港ノ一トシテ其名高ク維新後益々發展ノ域ニ至リ舊來ノ設備ニテハ荷役ノ困難ヲ感ジ遂ニ明治三十三年政府ハ同港ニ注入スル庄川ノ改修工事ヲ施行スルト共ニ現今ノ如ク庄川ト分離セシメ一面棧橋繫船岸突堤浚渫等ノ諸工事ヲ施シ以テ港内設備ヲ完備シ三千噸級ノ船舶ハ優ニ出入シ得ラレ昔日ノ俛ヲ一新セリ然ルニ近時港勢大ニ進ミ近港ナル新潟七尾敦賀等ノ諸港ヲ凌駕シ既往ノ設備ニテハ將來港灣ノ使命ヲ全フスルヲ得ザルベキニ依リ富山縣ハ更ニ擴張計畫ヲ企テ政府ニ稟請セシ處明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ本年度ヨリ大正二十四年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ工費豫算四百六拾六萬九千圓(事務費ヲ除ク)ヲ以テ本年十一月一日ヨリ直接施行スルコトトナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ富山灣ノ中樞ヲ占メ小矢部川ノ水運ヲ利用シ舊庄川ノ河口ニ發達セル港市ニシテ海岸ヨリ二百間ヲ隔テテ水深二十尺夫ヨリ海底緩ニシテ約千間ヲ離レ水深五六十尺新湊方面ハ二百間ノ沖ニテ七十尺以上百五十尺ノ水深ヲ保ツ又庄川河口約一千三百間ノ所ハ俗稱藍甕ト稱シ水深一千尺以上ニ達スル深所ヲ有ス小矢部川ハ源ヲ加賀國境大門山ノ東麓ニ發シ北流十數里ノ間東西兩礪波郡ノ平野ヲ貫流シ

幾多ノ細流支川ヲ合セ本港ニ注グ其水量豊富且浚流ナルヲ以テ舟楫ノ便良ク本川左右沿岸庄川以西高岡以北ノ貨物ヲ蒐集スル等自然ノ良港ヲ爲スヲ以テ寛文年間幕府ハ内國ニ十三港ヲ指定セル時本港モ其一ニ列セラル夫ヨリ後天保弘化年間ニ佐渡ニ次デ大阪ト共ニ開航シ益々港灣ノ眞價ヲ認メラレタリ明治八年三菱會社ノ汽船入港ヲ始トシ九州新寮ノ汽船亦毎日寄港シ逐年發展ヲ促シ東京大阪下關北海之道ノ各港沿海州薩哈噠朝鮮等ト通航シ船舶ノ出入數頻繁トナリシモ本港ハ庄川ノ河口ニ位シ年々同川ヨリ流出スル土砂ノ爲メ河口埋塞セラレ僅ニ百噸内外ノ船舶ヲ繋グノミナリキ然ルニ同三十三年庄川改修工事ヲ施行スルニ方リ本港ノ修築ヲ爲シ庄川ト小矢部川トヲ分離シ土砂ノ流入ヲ防ギ港口ニ防波堤ヲ内港ニ岸壁ヲ築造シ水深維持上浚渫ヲ施ス等港灣ノ設備ニ意ヲ注グリ復富山縣ハ橫棧橋上屋ノ建設軌條ノ敷設ヲ爲シ中越線ト連絡ヲ保テ荷役ニ便ナラシメ本港面目ノ一新ニ努力セシヲ以テ船舶及貨物ノ出入激増シ大正元年ニ二十六萬五千噸ニ過ギザリシガ爾來逐年多キヲ加ヘ大正十年ニハ七十萬噸ニ及ビ其增加率ハ毎年一割二厘ニ相當セリ而シテ今後如何ナル率ヲ以テ増加スベキカハ素ヨリ推定スルコト頗ル困難ナリト雖モ本計畫ニ於テハ飛越鐵道ノ完成縣内諸工業ノ發達及新潟敦賀二港ニ於ケル擴築工事竣功後本港ガ受クベキ影響等ヲ考察シ增加率ヲ八分ニ算定セリ即チ大正十年ニ於ケル輸出入貨物合計七十萬噸ヲ標準トシテ今後八分ノ増加ヲ示スモノトセバ大正二十年ニハ百五十一萬餘噸ニ達スベキヲ以テ本計畫ニ於テハ百五十萬噸ヲ基礎トシ之ニ應ズル設備ヲ爲スモノニシテ伏木河口ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋間ヲ内港區域トシ水深ノ増加ヲ計リ船舶繫留區域ヲ擴大シ繫船岸延長増加ノ目的ヲ以テ船渠ノ新設棧橋及繫船壁ノ増築ヲ爲シ接岸荷役能率ノ増進ヲ計ラントス

防波堤ノ擴築トシテハ左岸ニ於ケル現在ノ防波堤ヲ二十間延長シ其根元二十間ヲ改築ス而シテ右岸防

波堤ハ之ヲ五十間擴築シ左岸防波堤トノ間ニ港口幅員八十五間ヲ存セシメ以テ港口ニ生ズル土砂ノ堆積ヲ防ギ且右岸新湊海岸ヨリ移動シ來ル土砂ノ侵入ヲ防止スルモノトス

横棧橋ノ増設ハ左岸伏木港地先防波堤根元附近ヨリ現在横棧橋ニ至ル間ニ水深二十八尺ノ横棧橋長八十間、同二十六尺ノ横棧橋長六十間及右岸新湊町地先渡船場上流ニ於テハ水深二十八尺ノ横棧橋長八十間ヲ新設シ其後方ニハ上屋倉庫ノ建設軌條ノ敷設及道路築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス
船渠ノ新設ハ右新湊町六渡寺地内縣有貯木場ヲ利用シ入口ニ於テ幅員六十間、後方ニ於テ幅員五十間、奧行百二十間ノ船渠ヲ新設シ其兩岸ニ水深二十四尺、延長各百二十間ノ繫船壁ヲ築造シ接岸船ノ便ニ供シ其奧ニハ延長七十五間ノ物揚場ヲ築設シテ舢舨船荷役ニ供ヘ且繫船壁及物揚場ノ後方ニハ上屋倉庫ノ建設、軌條ノ敷設及道路ノ築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス尙以上ノ他伏木橋上流右岸舊庄川落口附近ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋ニ至ル間ニ於テ各入口幅六十間、奧行百四十間及百八十間竝入口幅七十間、奧行百二十間ノ三船渠ヲ新設シ左岸鐵道橋下流ニ於テモ入口幅五十間、奧行六十間ノ船渠ヲ新設スルモノトス而シテ此等船渠ハ總テ假工事ヲ爲スニ止メ專ラ木材置場ニ供シ將來港ノ發展ニ伴ヒ其周圍ヲ繫船壁ニ改造スルモノトス

浚渫ハ港口ヨリ上流約三百五十間迄ヲ水深二十八尺ニ夫ヨリ上流五十間迄ヲ二十六尺ニ其上流百五十間ヲ二十四尺ニ新湊町地内新設船渠ヲ二十四尺ニ浚渫シ伏木港上流ニ新設ノ四船渠ハ之ヲ水深三尺ニ浚渫スルモノトス
埋立ハ新湊町六渡寺地先右岸防波堤ヨリ庄川左岸ニ至ル間約一萬一千坪ヲ浚渫ニ依リ生ジタル土砂ヲ利用シ埋築スルモノトス

施工狀況

本工事ハ本年十一月二十一日伏木町ノ對岸ナル新湊町宇六渡寺ニ修築事務所ヲ設置シ直ニ港内浚渫作業ニ著手スベク諸般ノ準備ヲ整フルト同時ニ新潟ヨリ自走唧筒式浚渫船神通丸ヲ廻航スルコトトシ同船ノ修理及廻航準備ニ取り掛リ十二月十五日其結了ヲ告グタリシモ沖合高浪ノ爲メ同十八日漸ク出帆シ途中佐渡赤泊ニ假泊二十日伏木港ニ入港セシヲ以テ十二月二十三日ヨリ下流水深八米半(二十八尺)浚渫ニ著手シ先ヅ左岸既設岸壁前回ヨリ始メ浚渫土砂ハ港口外俗ニ藍甕ト稱スル深所ニ投棄セリ其土量六萬五千六百七十一立米ナリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ僅ニ貳萬六百九拾九圓ニ過ギザリキ其工事竣功表ハ次ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額	
浚渫費		立米		六五、六七一		八、七〇九	〇〇五〇
船舶及機械費						七、〇九七	
施行中諸費						四、七〇一	
測量費						一九二	
共濟組合給與金						二〇、六九九	
總計						二〇、六九九	〇〇〇四

第五章 道路橋梁改良工事

第一 利根川架橋工事

(東京土木出張所)

緒言

國道第四號線ハ東京ヨリ幸手ヲ經テ栗橋ニ至リ利根川渡船ヲ經テ北走シ宇都宮ヨリ日光街道ヲ分岐スル東北幹線道路ナルヲ以テ利根川橋梁急設ノ必要ハ夙ニ唱導セラレタル所ナリシガ大正七年再ビ架橋ノ議起リ同九年臨時議會ノ協賛ヲ經テ遂ニ之ガ實施ノ決定ヲ見ルニ至リ總工費豫算六拾六萬六千九百圓ヲ以テ工事ハ國ニ於テ施行スル事ニ決定シタリ次デ同年末之ガ實施設計並測量調査ノ結果拾五萬九千百圓ヲ増加シ總工費八拾貳萬六千圓ヲ以テ實施スルコトナリ翌十年十一月工事ニ著手セシガ更ニ工費拾貳萬六千五百圓増額ノ必要ヲ認メ結局九拾五萬貳千五百圓(事務費參萬八千圓ヲ含ム)ヲ以テ施行スルコトトナリ其四分ノ三七拾壹萬四千參百七拾五圓ハ國庫支辨四分ノ一(貳拾參萬八千貳拾五圓)ハ埼玉茨城ノ兩縣負擔ナリトス而シテ工事ハ大正十年十一月十日著手シ約三箇年度ヲ費シ同十三年十月三十一日其全部ヲ竣功セリ

計畫大要

本架橋地點ニ於ケル堤防法線間ノ距離ハ約三百十間ニシテ利根川改修計畫正規幅員ハ三百間ナルガ故

ニ右岸橋臺ヲ附近堤外地ノ人家竝ニ突出セシメ左岸橋臺ハ左岸堤防法面ニ存セシメ此間ニ右岸寄ハ常水路へ徑間二百呎鋼構四連、左岸寄り洪水路へ徑間百呎鋼九連ヲ架設スルモノニシテ橋面ノ有効幅員四間、頭空十五呎餘トス

上構工事トシテハ常水路ニ架設セラルベキ二百呎鋼構中心間二十七呎、格間二十五呎、中央高三十呎トシ垂直材ヲ併用セル曲弦ウアーレン型結構ニシテ床桁高四十二吋、縱桁高十八吋ナリ洪水路ニ架設セラル可キ百呎鋼構ハ結構中心間二十七呎、高十呎ノ垂直材ヲ併用セル竝弦ウアーレン型矮構ニシテ床桁高四十二吋、縱桁高十呎ナリ橋床ハ縱桁上ニ厚五吋半ノ鐵筋混凝土床板ヲ設ケ此上ニ路面舗裝ヲ施工スルモノナリ

欄干ハ床板ノ兩側ニ埋込タル鑄物ノ沓ニ豎柱ヲ建込ミ之ニ外徑三吋及二吋半ノ瓦斯管ヲ片側三條通シ各徑間毎ニ燈柱ヲ建テ橋梁兩端ノ親柱ト共ニ點燈設備ヲ施スモノトス
上構設計ニ對スル活荷重左ノ如シ

等布荷重 橋面一方呎ニ付 一〇〇封度

集中荷重

八米噸車輪
十二米噸輾壓機

下構工事トシテハ左岸地表上ニ露出セル褐色硬粘土層ハ河心ニ向テ急激ニ傾斜シ第九號(左岸ヨリ)橋脚附近ニテハ地下四十尺ナルモ之ニ達シ得ズ此附近ヨリ第十二號橋脚ニ至ル上層約二十五尺砂層ニシテ其下位ニ青黑色泥土約十五尺アリ更ニ數尺ノ砂層アリテ厚二尺内外ノ軟土丹岩ニ達ス之ヨリ地下七十尺餘ニ至ル迄砂ニシテ岩盤ラシキモノ無シ

右岸橋臺附近ハ地表ヨリ約五十尺ニ至ル迄黑褐色砂交泥土ニシテ其下位ニ軟土丹岩ノ層アリ

斯ノ如クナルガ故ニ左岸硬粘土層ニ達シ得ル橋臺竝第一號乃至第八號橋脚基礎ハ杭打工ヲ用ヒ末口七八寸長二十四尺乃至三十六尺ノ杭ヲ打込ミタリ杭一本當リ設計荷重ハ最大十一噸九ナリ第九號乃至十二號橋脚及右岸橋臺ハ基礎ヲ沈井工トシ主トシテ井筒周圍ノ摩擦力ニ依リ荷重ヲ支持セシメントス井筒ハ橢圓形鐵筋混凝土造ニシテ長徑四十尺短徑十八尺沈下尺約七十尺トシ之ニ來ルベキ設計荷重ハ最大一千二十噸ナリ

橋臺橋脚軀體ハ表面ヲ煉瓦積トシ混凝土中埋ヲ施ス水切石隅石笠石ニハ花崗石ヲ用ヒ構承臺ハ鐵筋混凝土場所詰トス

雜工事トシテハ左右岸橋臺ノ兩側ニハ混凝土又ハ鐵筋混凝土造翼壁及土留石垣ヲ設ケテ橋詰廣場ノ擁壁ト爲シ翼壁表面ハ橋臺トノ鈎合上煉瓦ヲ用ヒタリ又橋梁ト在來國道トヲ連絡スル爲メ右岸ニ於テハ橋臺ヨリ直ニ左折利根川堤塘ノ馬踏四間ナリシヲ五間ニ擴築シ下流約五百六十間ニシテ在來國道ノ栗橋町ニ入ル地點ニ接續ス左岸ニ於テハ幅員五間延長約百五十間ノ道路ヲ新設シ在來ノ國道ニ連絡セシメタリ是等道路面ニハ碎石舗裝又ハ砂利舗裝ヲ施工ス

左岸ヨリ洪水敷ハ硬粘土層ナレドモ橋臺基礎工事ニ當リ跡埋ヲ爲シタル部分ハ流ノ爲ニ洗掘サルル恐れアリ依テ之ニ根固トシテ單床沈床及上層ヲ施ス又右岸橋臺附近ハ利根川常水路ニシテ川ノ曲凹部ニ當リ其儘ニテハ翼壁ノ根ヲ洗ハルル虞アリ之ガ爲メ橋梁附近ニ護岸ヲ爲シ右岸構造物ノ保護ニ宛テントス

施工狀況

下構工事ニ於テハ前年度迄ニ基礎工事及橋臺、橋脚工事ノ大體了リ本年度ニ於テ完了セリ上構工事ハ前年度迄ニ鋼構製作竝百呎鋼構九連、二百呎鋼構一連ノ架設ヲ爲シ本年度ニ於テ二百呎鋼構三連ノ架設ヲ了リ續テ橋床及欄干ヲ施行シ之ヲ完成セリ雜工事ニ於テハ前年度迄ニ左岸取付道路及橋脚根固工事ノ大部ヲ施工シ本年度ニ於テハ前年度著手ノ翼壁工事、道路舗装工事及本年度著手セル護岸工事ヲ完成シ茲ニ本橋梁ハ全部ノ竣功ヲ告ゲタリ

今起工以來ノ工種別竣功表ヲ掲グレバ左ノ如シ但シ表中「△」ハ機械工場製作品使用價額次表モ亦同ジ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
構鋼	一、一六八噸	一七六、一五六	—	—	一、一六八	一七六、一五六
鋼構製作	一〇七七	七九、一九七	—	—	一〇七七	七九、一九七
鋼構架設	六三一箇所	二一、九一四	四四六箇所	一五、七四一	一〇七七箇所	三七、六五五
鋼構架設場	八	二九、一九五	五	五、六一三	一三	三四、八〇八
橋架設	?	二九一	—	—	?	二九一
欄干	?	一、六八三	四、〇七八	六〇、三七五	四、〇七八	六二、〇五八
杭打基礎	六六七尺	四九、八〇八	—	—	六六七尺	四九、八〇八
沈井基礎	三二、一五六	一五、一五六	—	—	三二、一五六	一五、一五六
橋臺	一一、二一五	四、三四一	—	—	一一、二一五	四、三四一
左岸取付道路	二、四〇九	九三、六四六	—	—	二、四〇九	九三、六四六
取付道路舗装	?	八、三三四	四、三二〇	一、八一六	二、四五九	一〇、一五〇
橋臺	—	七、八九二	—	—	—	七、八九二
橋脚	八七四	一一、七三三	二	一七、〇三二	八七六	二八、七六五
橋脚根固	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

第六章 震災復舊工事

第一 利根川外四箇川流域震災復舊工事 (東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十二年九月一日關東地方ニ起レル稀有ノ大震災ニ依リ利根川本川筋江戸川、中川、渡良瀬川、荒川上、下流、多摩川、富士川上流ノ各河川震災復舊工事ニシテ大正十二、三兩年度ニ於テ工費豫算貳百六拾六萬四千圓(内十二年度分利根川外四箇川震災復舊費百參拾五萬壹千參百七拾五圓、同十三年度分利根川外二箇川震災復舊費百參拾壹萬貳千六百貳拾五圓)ヲ以テ施行スルモノトス

今各地方ニ於ケル被害ノ狀況ヲ述ベンニ震動強弱ニ依リ其程度一様ナラザルモ堤防ハ孰レモ無數ノ龜裂及陷沒ヲ生ジ龜裂ハ普通一米内外ナルモ大ナルハ一米五ニ達シ陷沒ハ普通二、三米ナルモ箇所ニ依リ四米餘ニ及ビ堤内民家ハ河表ニ露出セルノ危險ニ瀕シ一日ノ放置ヲ許サザルノ慘害ヲ被レル所アリ其他護岸石張或ハ混凝土張工ノ崩壞又ハ滑出、制水、沈床ノ陷沒及樋管ノ龜裂、橋臺、橋脚ノ被害等舉ゲテ數フルニ暇アラズ時恰モ出水期ニ際シ普通ノ出水アルモ直チニ汎濫ヲ免レザル状態ニシテ若シ萬一洪水ノ害ヲ被ランカ震災、火災ニ加フルニ更ニ水災ヲ以テシ其慘害實ニ揣ルベカラザルモノアラン幸ニシテ急施工事ハ當所及關係府縣ノ大努力ニ依リ極メテ迅速ニ進捗シタルト出水ハ大震後二週間ニシテ始メテ襲來シ當時急施工事ハ既ニ舊堤以上ノ高サニ達シタルト其出水ハ所謂七合水ノ程度ナリシヲ以テ幸ニ

破堤、汎濫等ノ厄ヲ免ガルルヲ得タリ今左ニ各河川ニ區別シ其被害狀況ヲ略述スベシ

利根川第二期

二期部内ニ於テハ堤防ノ到ル所縱横龜裂、沈下、滑出又ハ崩壞ヲ生ジ就中豊住村地先ノ如キ長八十米、表小段及本堤ハ龜裂滑走シ全體ノ沈下一米二、三分ニ及ビ取手地先ハ長六十米、表小段約二米前面ニ滑落シ本堤沈下一米三分ニ達シ押付地先ハ長二百五十米ニ互リ一米餘沈下シ本堤及表小段上ニ上幅十五糎ノ縱龜裂二條ヲ生ジ小見川地先ハ約七百米、表裏小段ニ幅六糎内外ノ縱龜裂數條ヲ生ジ沈下著シキ部分ハ一米五分ニ及ビ天端ハ甚シク波狀ヲ呈セリ其他各所ニ於テ沈下、龜裂、滑出等總數三十一箇所其延長一萬八千八百七十米ニ達シ護岸及ビ制水ハ法面石張或ハ混凝土張工崩壞又ハ滑出シ其數三十二箇所ニ及ビ制水、沈床ノ被害モ又甚大ニシテ神崎制水第一號、同第二號ノ如キ河中ニ陷没シテ全ク原形ヲ認メザルニ至レリ其他取手、木下及安西地先ノ各制水中一米内外ノ陷没又ハ隆起ヲ來セルモノ尠カラズ此等全體ノ被害復舊ニハ相當努力セザルベカラズ

利根川第三期

第三期部内ニ於テハ堤防ノ被害最モ甚シク就中田中及栗橋方面ハ震源地トノ距離及ビ地盤ノ不良等ニ依ルベクモ龜裂ハ大小無數ニシテ内大ナルハ富永村地先幅一米八、深三米六及五霞村地先幅二米七、深三米九ナリトス又崩壞ノ著シキハ利島村地先高七米三、福田村木野崎六米七、大野村大柏四米五等ニシテ利島ノ如キハ復舊土量四萬五千粒ヲ要ス

沈下ノ大ナルハ川邊村、香取村、靜村、境町、關宿町、木間ヶ瀬村、川間村、森戸村、長須村、七郷村及鬼怒川右岸等ニシテ三米乃至四米ニ達シ其他ヲ通ジ大小被害八十二箇所延長一萬六千四百八十米ニ及ベリ
護岸ノ被害ハ滑出又ハ沈下ニシテ低水路河岸ニ接近セル所ハ被害大ナリ其箇所ハ一般ニ築堤ノ夫レト一致セルモ地盤關係ニ依ラザルモノハ右岸激裂ナルモノノ如シ就中石張及混凝土ブロック張ハ被害大ニシテ鐵筋混凝土張及柳枝護岸ハ被害少シ而シテ被害ノ重ナルモノハ栗橋部内ニ在テハ北河原村、須加村、新郷村、村君村、大越村、利島村、川邊村、香取村、靜村ノ各石張及大箇野村ノ混凝土ブロック張、田中部内ニ在テハ關宿町、二川村、木間ヶ瀬村、川間村、福田村、大野村及大井澤村ノ各石張護岸等ニシテ總數二十一箇所延長一萬四千八百七十米ニ及ベリ
制水ノ被害ハ沈下又ハ蛇行ニシテ沈下ノ著シキモノハ深一米ニ達シ床固メ制水ハ從來ノ川敷ニ施工セルモノハ殆ンド全部沈下セリ中ニモ栗橋、境間最モ甚シク航路ハ一朝ニシテ平濶トナリ舟航不可能トナレル所數箇所ヲ生ゼリ制水ノ被害ハ三十六箇所延長六千二百四十米ニ達セリ

江戸川

江戸川ニ於ケル堤防ハ是亦至ル處龜裂陷沒及滑出ヲ生ジ就中七福村、八木郷村、明村、松戸町、金杉村、豐岡村、旭村、富多村等ハ被害ノ著シキ箇所ニシテ孰レモ舊池沼部元決潰箇所及ビ堤表又ハ堤裏ニ水溜池沼水路等存在ノ箇所ニシテ被害箇所五十九箇所延長一萬九千六百十八米ニ及ビ陷沒ハ普通一米内外ナルモ甚シキハ一米五ニ達シ堤形ヲ存セザル迄ニ崩壞シ龜裂ハ大小無數ニシテ或ハ裏小段全ク陷沒シ其影ヲ止メザルニ至レリ

護岸制水ハ七福村及流山町地先ニ於テ沈床及石張全部河中ニ滑走シ殆ンド其法ヲ平ニシ或ハ石塊ノ亂雜ニ散逸セルノ狀ヲ呈シ關宿棒出ハ石張ニ無數ニ龜裂ヲ生ジ目地モルタルノ大半切斷シ制水工ハ陥沒セリ全體ノ被害ハ二十三箇所ニシテ其延長一萬二千百十米ナリトス

特種工事トシテ施工中ノ關宿閘門ハ幸ニ被害極メテ少ク復舊費僅ニ壹千貳百圓内外ヲ要スルノミ

附帶工事ニ於テハ工事中ノ利根運河堤防延長一千九百十一米ニ互リ沈下及龜裂ヲ生ジ其他ニ土砂ノ崩壞及床ノ隆起二箇所アリ既成樋管ハ殆ンド全部其内部ニ龜裂ヲ生ジ或ハ本體翼壁取付箇所ニ龜裂ヲ生ゼリ

中 川

中川ニ於ケル震害ハ一般ニ微弱ニシテ堤防ノ最大陥沒一米ニ過ギズ其被害三箇所延長四百米ナリトス又附帶工事ハ中川本川筋ニ於テ橋梁一箇所庄内古川筋ニ於テ築堤二箇所樋管一箇所用水路一箇所竝橋梁四箇所ナルガ何レモ其被害ハ輕微ナリトス

渡 良 瀬 川

渡良瀬川ニ於テハ上流部ノ被害ハ輕微ナリシモ下流部即チ藤岡新川以下維持工事施行區域ニ於ケル堤防ハ右岸一帶ニ龜裂崩壞陥沒ヲ生ジ陥沒ハ普通一米内外ナルモ甚シキハ四米ニ及ビ被害ハ主トシテ舊川締切部ニ起リ海老瀬川邊間々田向古河伊賀袋本郷等激烈ヲ極メ左岸利根川合流口附近堤防ノ如キハ長サ六十米高四米一帶ニ陥沒シ堤内民家ハ河表ニ露出セルノ慘害ヲ被リ古河町地先改修事務所附近ニ

於テハ噴水約三十分間ニ互リ事務所機械工場等半倒壊ノ厄ニ會セリ堤防ノ被害ハ上流部十七箇所延長八千七百二十七米、下流部二十箇所延長一萬一千二百三十六米ナリトス
護岸ハ堤防ノ崩壞又ハ陷没ニ伴ヒ被害甚シク上流部ニ於テ滑出セルモノハ六箇所延長九百十米、下流部十一箇所延長三千米ナリトス
其他ノ特種、附帶各工事ノ被害ハ輕微ナリトス

荒川上流

荒川上流部ニ於ケル被害ハ他川ニ比シ稍輕微ナリト雖モ尙堤防ハ龜裂陷没各所ニ起リ就中赤塚村、白子村、内間木村各地先築堤盛土ハ崩壞シテ殆ンド堤形ヲ存セズ陷没ノ甚シキモノニ米餘、龜裂ノ大ナルハ一米ニ達シ土砂滑走シテ法裾遠ク二、三十米ニ及ベリ其他附近堤防ハ大小陷没及龜裂ヲ生ゼザルハナク其被害十四箇所延長二萬二千三十米ニ及ビ護岸ノ陷没ハ二箇所延長三百六十米ナリトス

荒川下流

荒川下流ニ於テハ堤防ハ各所ニ龜裂及陷没ヲ生ジ龜裂ハ〇米三乃至〇米六、陷没ハ普通一米ヨリ甚シキハ四米ニ及ビ岩淵町、江北村、千住町、小松川町等激烈ニシテ其被害箇所二十二箇所延長三千九百三十米ニ達セリ護岸ノ被害大ナルト王子町地先新隅田川ノ一箇所、延長二百七十二米ニシテ其他ハ一帯ニ輕微ナリ特種工事ノ被害ハ輕微ニシテ護岸ニ多少ノ損害アリシノミナルモ其稍々著シキハ隅田、綾瀬及ビ小名木川ノ三水門ナリトス

附帯工事タル橋梁ノ被害ハ輕微ニシテ橋臺ニ龜裂ヲ生ジ又ハ橋脚ノ挫折セルモノ三箇所、鐵道線路ノ龜裂陷沒數箇所ナリトス

多摩川

多摩川ハ其位置震源ヲ距ルコト僅ニ十數里ナルヲ以テ其震害甚シク堤防ハ到ル處龜裂、陷沒ヲ生ジ下流羽田町、六郷村、大師町、川崎町、御幸村等最モ甚シク陷沒ハ普通一、二米ナルモ箇所ニ依リ三、四米ニ達シ漸次上流ニ及ブニ從ヒ減少ス

改修工事ノ被害ハ堤防ノミニシテ其區域ハ東京府玉川村、神奈川縣中原村以下ニ於テ其數八箇所、左岸延長五千八百十五米、右岸延長三千三百七十三米、合計九千八百八十八米ナリトス被害ノ狀況ハ龜裂、沈下及滑落等ニシテ玉川村及中原村地内ハ龜裂及僅少ノ沈下ニ止マリ御幸村及矢口村以下下流部ニ於テハ沈下及滑落甚シク箇所ニ依リテハ沈下三米乃至四米ニ及ビ殆ンド地中ニ埋沒セリ

富士川上流

富士川上流部ニ在テハ鍬澤築堤ノ陷沒ヲ最トシ既ニ規定高ニ及ベル堤防ハ四米餘ノ陷沒ヲ來シ尙縱横多數ノ龜裂ヲ生ジ殆ンド原形ヲ存セザルニ至レリ其他增穂市川、戸川ノ築堤亦多少ノ沈下、龜裂ヲ生ゼリ

施工狀況

本工事ハ極メテ急施ヲ要スルヲ以テ直ニ各川ニ夫々應急工事ヲ施行シ堤塘ノ盛土又ハ龜裂部ノ搗固メ

其他護岸ノ修理等主トシテ洪水防禦ヲ先ニ晝夜兼行施工ニ努メタル結果同年九月十三日ノ出水ニ際シ幸ニ破堤汎濫等ノ厄ヲ免カルルコトヲ得タリ而シテ一般復舊工事ハ十二月ニ至リ別途震災復舊費ヲ得ルト同時ニ著手シ内多摩川及富士川ハ豫定通前年度内全部竣功セリ

本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ各河川トモ先ヅ部内主要部ノ復舊ニ勵ミ次デ堤内堤脚法先杭打工等堤脚保護工事ヲ施工シ護岸ハ場所ニ依リテ急速ヲ主トシ石張ニ替ユルニ柳籠ヲ以テシ制水ハ上層ニ替ユルニ杭打上置ヲ以テセシモノアリ斯クテ堤防修補八十三箇所護岸制水三十九箇所及樋管樋門等ノ修補其他ヲ施行シ年度内全部ヲ竣功セリ左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

利根川外四箇川復舊

河川	年度	築堤費		護岸制水費		特種工事費		附帶工事費		測量費	船舶及機械費	營繕費	雜費	共濟組金給與	合計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額						
利根川	十二年度	七、八七二	五八、一九三	四、六六一	八四、九六〇	一	一、一六二	三	九、一四六	二七九	三、四四六	二、〇〇〇	一、一九〇九	七二七	一七二、八二二
	十三年度	七、七二二	五八、一九三	四、六六一	八四、九六〇	一	一、一六二	三	九、一四六	一、〇〇六	三、四四六	二、〇〇〇	二、一七四	九〇	三三、二七〇
根川	十二年度	六、〇五二	三、二八四												
	十三年度	六、〇五二	三、二八四												
中川	十二年度	五九、〇五五	三〇、八四〇	三三〇	七、三五〇			二	一、九七〇		一、〇〇一	一、八〇七	四、二一四	一八〇	二四、四五六
	十三年度	五九、〇五五	三〇、八四〇	三三〇	七、三五〇			二	一、九七〇		一、〇〇一	一、八〇七	四、二一四	一八〇	二四、四五六
利根川	十二年度	一〇三、六二七	一一一、六八一	二七二	五、六一〇	三	七、九八三	一	一、五八六		四、〇八七	九、九三〇	九、六四七	八三九	一五一、三六三
	十三年度	一〇三、六二七	一一一、六八一	二七二	五、六一〇	三	七、九八三	一	一、五八六		四、〇八七	九、九三〇	九、六四七	八三九	一五一、三六三
瀨渡川	十二年度														
	十三年度														
瀨渡川	十二年度														
	十三年度														

河川年度	築堤費		護岸制水費		特種工事費		附帶工事費		測量費	船舶及機械費	營繕費	雜費	金合給與	合計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額						
荒流下 計 十三年度	一〇三、六二七	一一一、六八一	二七二	五、六一〇	三	七、九八三	一	三、三〇〇	二、二九九	一、三七〇	八二八	二一九	九	七、九二五
	二〇九、〇九六	九三、三五六	三六〇	六、五八〇				四、七八六	二、二九九	五、四五七	一〇、七五八	九、八六六	八四八	一五九、二八八
川上 計 十三年度	二〇九、〇九六	九三、三五六	三六〇	六、五八〇					七〇五	一一、九三六	二、〇〇〇	一一、〇六一	五〇一	一二六、四三四
	一三二、九四〇	八四、九九九							七〇五	一一、九三六	二、〇〇〇	八〇〇	三三	一一七、九七一
多摩 計 十三年度	一三一、九四〇	八四、九九九							一、二九九	四、二一六	一、一九九	七、七五八	一六一	九九、六三三
	六〇、三二四	四一、九〇〇							二、五九二	四、二一六	一、一九九	三四三	六	一、六四二
上富士川 計 十三年度	六〇、三二四	四一、九〇〇							一九九	八、一四九		八、一〇一	一六七	一〇一、二七四
	五七、六〇〇	二九、八八五	四九〇	二九、〇九六	二	一、九六三			一九九	八、一四九		六、六二九	一五〇	五七、〇二七
利根 計 十三年度	五七、六〇〇	二九、八八五	四九〇	二九、〇九六	二	一、九六三			一九九	八、一四九		七、二五七	一五五	五七、六六〇
	五七、六〇〇	二九、八八五	四九〇	二九、〇九六	二	一、九六三			一九九	八、一四九		六、〇二七	四〇五	六九、三七六
良渡 計 十三年度	三〇七、六六七	一七一、九三七	一四、〇九四	二一、四九九					二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、二九九	六、〇二七	四〇五	六九、三七六
	三〇七、六六七	一七一、九三七	一四、〇九四	二一、四九九					二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、二九九	二一、〇八四	六五九	四二九、五四六
兩期 計 十三年度	一〇四、九七五	七四、三四七	一、九二四	二二、四一三					二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、二九九	五、六〇六	二四	七、六三〇
	一〇四、九七五	七四、三四七	一、九二四	二二、四一三					二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、二九九	六、九五六	二二〇	一一九、七四七
維川 計 十三年度	一〇四、九七五	七四、三四七	一、九二四	二二、四一三					一、〇九五	一、九五	二、六〇九	二、一〇七	二八	三、三三〇
	一〇四、九七五	七四、三四七	一、九二四	二二、四一三					一、〇九五	一、九五	二、六〇九	六、九五六	二二〇	一一九、七四七
總計 計 十三年度	一、一八、二〇八	七〇〇、四二二	一、一八、二〇八	三、八二、五〇八	七	一、一〇〇八	六	一、四、七〇二	一〇、四三五	六三、二四五	二六、八七四	一〇、三、九四七	四、二七二	一、三、〇、七七一
	一、一八、二〇八	七〇〇、四二二	一、一八、二〇八	三、八二、五〇八	七	一、一〇〇八	六	一、四、七〇二	一〇、四三五	六三、二四五	二六、八七四	一〇、三、九四七	四、二七二	一、三、〇、七七一

利根川外二箇川復舊

河川	築堤費		護岸制水費		特種工事費		測量費	船舶及機械費	營繕費	雜費	共濟組合給與金	合計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額						
利根川(江戸川)	一四五、一〇〇	一、二七、〇二九	八、一〇四	一五三、一五四			六九六	九、二七二	一、六九一	三二、五九〇	一、八七六	三二五、三〇八
渡良瀬川	三五、七二〇	三〇、六九二		一四、六一八			一二五	八〇〇	五〇〇	六、五二六	二五三	五三、五一四
荒上流	二二、二〇〇	四九、四九六								五、六一九	二二二	五五、三二七
川下流	九三、三三〇	一〇一、三五〇		九、八九七			一一八			五、六一一	一、四九三	一、一九、四六九
利根川	六二、五四〇	三五、一四二	三、一五五	一三五、六三七						二、三、四九八	一、二八二	一九八、五五一
根川	二一五、六二六	一一五、六五九	一五、一八三	二〇七、四〇〇			二〇三	九、一〇二	四、三二三	三九、〇五一	一、五一五	三、七七、二四三
渡良瀬川	一五一、八九七	七七、三八六		八六、九七六			五九七	二、二四九	一、六六九	一四、六八一	八〇五	一八四、三六三
總計	七二六、三三三	五三六、七五四	二六、四四二	六〇七、六八二	二	二、九九二	二、七三九	二一、四三三	八、一七三	一二六、五七六	七、四三六	一、二、三、七七五

第一二 相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事

緒言

（東京土木出張所）

本工事ハ大正十三年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ總工費四百九拾八萬六千八百七拾壹圓（内事業費四百五拾五萬圓、事務費四拾參萬六千八百七拾壹圓）ヲ以テ施行スルモノトス本工事費ハ震災府縣ニ於テ其負擔ニ耐エザルヲ以テ全部之ヲ國庫支辨トセリ

河狀並計畫大要

相模川流域中工事ヲ施行セントスル區域ハ支流道志川、中津川、桂川及笹子川トス道志川ハ源ヲ甲斐山伏峠ニ發シ道志、丹澤兩山塊ノ溪間ヲ北東ニ貫流シ山梨、神奈川ノ兩縣界ニ於テ丹澤山塊ノ盟主蛭ヶ嶽（標高一千六百七十三米）ヨリ發スル大支流神ノ川ヲ合セ以下蛇行シテ津久井郡三澤村地先ニ於テ相模川ニ合流ス流域面積百四十四平方料、流路延長四十三料アリ流域内山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ地勢急峻ニシテ林相良好ナラズ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ右岸ナル丹澤山塊ニ於テ甚シク殊ニ神ノ川流域山地ノ如キハ其面積ノ約三割ヲ崩壞ニ歸セシメタリ本川ハ橫濱水道ノ水源地ニ當リ橫濱市ニ對シ極メテ密接ナル關係ニ在リ然ルニ震災以來河水溷濁甚シク之ガ沈澄ニ關シテハ市ハ多大ノ經費ヲ費シツツ在ルナリ其砂防ハ一日モ猶豫スベキニアラズ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費八拾萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所、支流神ノ川ニ四箇所、同室久保澤ニ二箇所、同西ノ澤、井口澤、橫山澤、此間澤、大群澤、椿澤及三ヶ瀬澤ニ各一箇

所、合計十八箇所ノ堰堤竝三ヶ瀬澤ニ二箇所ノ床固ヲ設置シ土石ノ流出ヲ防止スルト同時ニ下流道路橋梁竝水田等ヲ保護セントス

中津川ハ其上流ニ於テ大支流早戸川ヲ分岐ス本流ハ源ヲ丹澤山塔ヶ嶽大山等ニ發シ流路延長十五軒宮ヶ瀬村落合ニ於テ早戸川ト合ス合流以奥ノ流域面積五十三方軒アリ流域内山地ハ從來森林密茂シ殆ンド崩壞ノ認ムベキモノ無ク水流ハ常ニ清澄ニシテ各所ニ深潭ヲ形成シツツ在リシガ一朝大震災ニ會スルヤ金山到ル所大崩壞ヲ生ジ土石及倒木ハ河流ヲ堰キ宮ヶ瀬部落附近ニ於テハ一時間以上流水ヲ見ザリシト謂ヘリ而シテ九月十五日ノ出水ハ多量ノ土石ト流木トヲ下流ニ送り家屋ヲ流シ田畑ヲ埋メ河床ノ增高ハ下流ニ於テ二米、中流ニ於テ五米ニ達セリ早戸川ハ源ヲ蛭ヶ嶽丹澤山等ニ發シ流路延長十二軒流域面積三十七方軒アリ流域山地ノ大部分ハ鳥屋村々有林ニ屬シ官行造林ニ據リ年々杉及扁柏ヲ植栽シツツ在リシガ大震災ニ因リ崩壞最モ甚シク三方軒六ノ村有林中約其四割タル一方軒五ヲ崩壞ニ歸セシメタリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六拾萬圓ヲ以テ本流ニ七箇所、早戸川ニ八箇所、合計十五箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ防止セントスルモノニシテ本流ニ於テハ早戸川合流點上流二軒ヨリ七軒五ニ至ル區間ニ主トシテ施工ヲ爲シ早戸川ニ於テハ川口ヨリ上流二軒六ノ地點ヨリ始マリ其上流七軒ノ區間ニ六箇所ヲ尙支流宮ヶ瀬金澤及水澤ニ各一箇所ヲ築設スルコトトセリ

桂川流域中崩壞最モ甚シキハ鹿留川及小佐野川トス鹿留川ハ源ヲ道志山塊皆形山ニ發シ流路延長十一軒東桂村落合ニ於テ桂川ニ注グ急流河川ニシテ流域面積三十八方軒アリ地質ハ支流倉見澤以奥石英閃綠岩、下流ハ凝灰岩トス大震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ激甚ニシテ九月十五日ノ出水ニ際シテハ土石及流木ノ流出著シク大野ヨリ門原ニ至ル約二軒ノ區間ハ土石流ノ爲メ沿岸ノ耕地荒廢シ家屋流失シ從來十米

ニ過ギザリシ川幅ハ一躍百米乃至五百米トナリ流身一定セズ今尙ホ耕地ヲ脅シツツアリ本川砂防計畫ノ大要ハ工費貳拾貳萬圓ヲ以テ鹿留川ニ五箇所、小佐野川ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設セントスルモノニシテ鹿留川ニ於テハ大野部落ヨリ上流ノ本流ニ四箇所、支流倉見澤ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流出ヲ防止シ以テ耕地ノ安全ヲ期セントス

笹子川ハ源ヲ笠子峠ニ發シ東南流シ追分ニ至リ狩谷澤ヲ合セテ東流シ笹子、初狩、廣里ノ諸村ヲ經テ大月ノ西部ニ於テ桂川ニ合ス流域面積九十四方糎、流路延長十五糎アリ震災ニ因ル崩壞ハ右岸ニ多シ就中右支柳澤、辰巳澤及庭洞澤ヨリ押出セル土石ハ九月十五日ノ出水ニ際シ中央線ノ鐵路ヲ埋メ汽車不通二日間ニ及ベリ本川砂防ノ計畫ハ本工事費五萬圓ヲ以テ辰巳澤及洞澤ニ各四箇所ノ小堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止シ以テ鐵道ノ完全ヲ計ラントス

酒匂川ハ源ヲ丹澤山塊及富士山ニ發シ上流ニ於テ河内川及鮎澤川ノ二大支流ニ分岐ス工事施行區域ハ河内川及鮎澤川支流野澤川流域トス河内川ハ源ヲ中部及西部丹澤山塊ニ發シ上流ニ於テ玄倉、中世附ノ三川ニ分岐ス流域面積百七十二方糎アリ流域内山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ之ヲ覆フニ火山灰ヲ以テス玄倉川ハ源ヲ蛭ヶ嶽、丹澤山、塔ヶ嶽等ニ發シ流路延長十七糎ニシテ中川ト共ニ河内川ニ合流ス流域面積四十六方糎アリ河床勾配ハ合流口附近ニ於テ約五十分ノ一トス中川ハ源ヲ大群山加入道其他ニ發シ流路延長十三糎ニシテ河内川ニ合流ス流域面積四十二方糎アリ世附川ハ源ヲ西丹澤山塊ニ發シ流路延長十四糎ニシテ河内川ニ合流ス流域面積六十七方糎アリ震災ニ因ル河内川流域山地ノ崩壞ハ極メテ甚シク震災地方第一位ニ在リ就中玄倉川水源山地ノ如キハ全山殆ンド崩壞シ盡シ慘憺タル光景ヲ呈セリ而シテ震災直後九月十五日ノ出水ニハ多量ノ崩落土石ト倒木トハ山津浪トナリテ下流ニ流下シ

來リ沿岸各地ニ甚大ナル損害ヲ被ラシメタリ次ニ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費七拾參萬圓ヲ以テ本支流適當ノ地點ニ大小十五箇所ノ堰堤ヲ築設シ河床ノ侵蝕ヲ防止スルト共ニ流下土石ノ扞止ヲ計ラントス而シテ堰堤中最大ナルハ中川本流ノ堰堤ニシテ高二十米、長六十米、築立々積八千粒、工費拾五萬圓ニシテ其貯砂量五十萬粒ニ達スベシ右程度ノ工事ハ此大面積ノ流域ト崩壞トニ對シテハ極メテ少量ニ過ギ其目的ヲ達スルコト困難ナリ依テ竣功後ハ更ニ數倍ノ追加工事ヲ必要トスルモノナリ

野澤川ハ源ヲ湯船山(標高一千四十二米)山伏山其他ニ發シ流路延長七粍、小山町ニ於テ鮎澤川ニ合流スル小河川ナリ流域面積十四方粍アリ流域内山地ハ御坂層ヨリ成リ其上層ハ厚ク火山灰ヲ以テ被覆セラレ震災ニ因ル崩壞ハ相當激甚ナルモ地勢竝河床勾配緩ナルヲ以テ其被害ハ河内川流域ニ比シ遙ニ輕シ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費拾貳萬圓ヲ以テ本流及支流湯船澤、小野畑澤、竝柵澤ニ合計七箇所ノ堰堤ヲ築設スルモノニシテ之ニ依リ本川ノ荒廢ハ大體ニ於テ防止セラレベシ

早川ハ源ヲ箱根火山ノ火口原湖タル蘆ノ湖ニ發シ仙石原ヲ灌溉シ銚子ノ口ニテ一瀉絶壁ヲ下リ宮城火口原ニ入り底倉ニテ蛇骨川ヲ合セ東部外輪山タル明星、淺間ノ兩山間ヲ過ギ湯本ニ於テ須雲川火口瀨ト合シ小田原町ノ南方ニテ相模灘ニ注グ急流河川ナリ流域面積百六方粍ヲ有シ流域内最高地點ハ中央火口岳、神山ノ絶顛標高一千四百三十八米トス而シテ蘆ノ湖ヨリ海ニ至ル流路延長二十二粍、河床勾配ハ平均三十分ノ一トス流域内山地ヲ構成スル基岩ハ安山岩ニシテ外見上熔岩ト集塊岩トアリ地質極メテ脆弱ニシテ容易ニ風化侵蝕ノ作用ヲ受ク地勢ハ一般ニ急峻ニシテ林相ハ粗ニ未立木地多シ震災前流域山地ニハ崩壞少ク土石ノ流出著シカラザリシガ震災ニ因リ傾斜急ナル山腹ハ到ル處大崩壞ヲ爲シ山容ヲ一變セシメタリ就中須雲川右岸ナル外輪山内壁ノ崩壞ハ最モ甚ダシク丹澤山塊ノ大崩壞ニ比スベキモ

ノアリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六拾五萬圓ヲ以テ本流ニ六箇所、支流須雲川及蛇骨川ニ各一箇所、同常盤澤及大澤ニ各二箇所、合計十二箇所ノ堰堤ヲ築造シ多量ノ流下土石ヲ貯留スルノ外河床ヲ高メテ兩岸崩壞ノ増大ヲ防ギ以テ山腹工事ヲ容易ナラシメ且國道ノ安全ヲ期セントス堰堤中大平臺上流堰堤ハ五河川流域中最大且最高ノモノニシテ高三十米、長四十二米、築立々積一萬粒、工費貳拾四萬圓ニシテ貯砂量五十萬粒ニ達シ出山堰堤(高二十米、長四十三米、築立々積五千五百粒)及觀音坂堰堤(須雲川高六十米、長六十米、築立立積七千五百粒)ト相俟テ早川治水ノ死命ヲ制ス計畫遂行ノ曉ニ於テハ河狀大ニ改マリ塔ノ澤以下ノ沿川ハ甚シキ水害ニ禍セララルコト無カルベク上流ニ於テハ水流緩トナリ侵蝕作用ノミ昔日ノ狂暴ヲ見ザルニ至ルベシ然リト雖モ工事ノ完全ヲ期セント欲セバ本流ニ對シ追加工事ヲ施行スルハ勿論各支流ニ對シ多數ノ堰堤ヲ築設セザルベカラズ

花水川ハ源ヲ東部及中部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テ玉鈴、金目、葛葉及水無ノ五川ニ分岐シ下流ニ至リ諸川各合流シテ花水川トナリ大磯町ニ於テ海ニ注グ流域面積二百二十方杆アリ玉川ハ源ヲ大山ニ發シ東流ス流域山地ハ地勢急峻ナルヲ以テ震災ニ因リ山腹ニハ無數ノ崩壞ヲ生ジ震災直後ノ豪雨ニ際シテハ土石流ヲ形成シ下流部落ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ尙今後危險ノ状態ニアル家屋十數戸アリ鈴川ハ源ヲ大山(標高一千二百四十六米)ニ發シ南東流ス震災ニ因リ傾斜急ナル水源山地ニハ大面積ノ崩壞ヲ生ジ九月十五日ノ暴風雨ニハ多量ノ崩落土石ト倒木トハ山津浪トナリテ大山町ヲ襲ヒ其大半ヲ倒潰セリ爾來一年町民ハ復舊ニ努力シツツアリシガ大正十三年九月暴風雨襲來シ山腹ハ益々崩壞ヲ増大シ又々多量ノ土石ヲ流下シテ前年ノ慘禍ヲ繰返スニ至レリ金目川ハ源ヲ大山ノ支峰タル春嶽ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニハ土石流、莖毛彎曲部ノ堤防ヲ決潰シテ部落ニ侵入シテ部落ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ葛葉

川ハ源ヲ三ノ塔山(標高一千二百六米)ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニ因リ土石流ハ八角彎曲部ヲ突破シテ耕地ヲ冒シ廣大ナル耕地ヲ不毛ニ歸セシメ人家ヲ流シ人畜ヲ死傷セシメタリ然ルニ大正十三年九月ノ豪雨ハ又々多量ノ土石ヲ流下シテ其被害前年ニ倍シ將來被害ハ益々増大セントスル狀勢ニ在リ水無川ハ源ヲ塔ヶ嶽(標高一千百十米)ニ發シ南流後南東流シ秦野町ノ南部ヲ過グ花水川ノ最大支流ニシテ宇大倉ニテ山間部ヲ離ルルヤ流水ハ廣大ナル河原地ニ滲透シ其姿ヲ失ヒ荒廢最モ甚ダシ然リト雖沿岸低地ニ人家無キヲ以テ大被害無カリシハ幸ナリキ花水川水源山地ハ地震ノ方向ニ直角ナルト其地勢急峻ナルトニ因リ震災ニ際シテハ大崩壞ヲ爲シ崩落土石及倒木ハ豪雨ニ會シ一時ニ溪谷ヲ下リシガ上流部ハ河積極メテ狹隘ナリシヲ以テ之ヲ流過スルヲ得ズ遂ニ沿岸ノ地ヲ其狂暴ノ手ニ委ヌルニ至リシナリ事態如斯ナルヲ以テ直ニ本川上流ニ大堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止セザルベカラズ依テ本工事費貳拾八萬圓ヲ以テ玉川及水無川ニ各一箇所、金目川及葛葉川ニ各二箇所、鈴川ニ十箇所、合計十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ其目的ヲ達セントスルモ右ノ程度ニテハ其效果充分ナラズ更ニ増補工事ヲ施行スルノ要アリトス

多摩川ハ源ヲ秩父連峰標高二千米内外ノ地ニ發シ東流シ拜島村ニテ秋川、日野町ニテ淺川ノ二大支流ヲ合セ下流ハ東京、神奈川兩府縣ノ境界ヲ爲シテ海ニ注グ砂防工事ヲ施行セントスル流域ハ全部秩父古生層ニ屬シ地勢急峻ナレドモ土地豐饒ニシテ森林ノ生長良好ナリ而シテ本川ハ東京市水道ノ水源地ナルヲ以テ市ハ水源涵養ノ目的ニテ山林ヲ買收シ又ハ借入レ其經營ニ努力スレドモ大消費地タル市ニ遠カラザル關係上他ノ森林ハ濫伐セラレ山地ハ極度ニ荒廢シ甚ダ寒心スベキ狀況ヲ呈スルニ至レリ依テ東京府ニ於テハ大正七年度以來本川流域ノ砂防工事ニ著手シ同十二年度迄繼續施行セリ震災ニ因ル山地

ノ崩壊ハ他ノ四箇川流域ニ比シ遙ニ輕キモ山地到ル處ニ龜裂アリ將來益々崩壊面積ヲ増大スルノ處アリ殊ニ東京市上水道ニ對シ重大ナル關係アルヲ以テ其砂防ハ一日モ忽諸ニ附シ難シ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費五拾五萬圓ヲ以テ青梅町以奥多摩川本流々域四百五十七方糎、五日市以奥秋川流域百四十一糎及八王子以奥淺川流域百三方糎、合計七百一方糎ノ流域内河川適當ノ箇所ニ五十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ川床ノ侵蝕ヲ防グト共ニ土石ノ流下ヲ扞止シ尙崩壊ノ増大ヲ防止シ且ツ將來行ハルベキ山腹工事ノ基礎タラシメントス

施工狀況

本工事ハ本年度ノ創業ニ係リ九月一日ニ道志川、桂川、河内川、早川及多摩川ノ五獨立工場ヲ設置シ十月十六日ニ花水川工場ヲ設置セラレ各分擔河川流域ノ工事ヲ施行セリ而シテ年度内起工シタル工事ハ堰堤十九箇所ニシテ其設計大要及竣功等左ノ如シ

本流	支流	小支	小々支	名稱	高	長	築立積	工費	著手及竣功	竣功築立積	支拂工費
相模川	道志川	横山澤		横山澤堰堤	一五米	二六米	一、一六九粒	二八七〇〇圓	十月一日未竣功	四二九粒	一、九一三圓
		神ノ川		小瀬戸堰堤	一五	三三	一、九七七	四六五〇〇	十一月六日未竣功	—	一、一三三圓
相模川	桂川	鹿留川		大野堰堤	一一	七八	三、五四一	五八五〇〇	十月二十三日未竣功	六六四	一五、〇三〇
		立間堰堤		寺ノ澤堰堤	一一	四八	二、四〇七	五二〇〇〇	十一月一日未竣功	五八一	一五、九六六
酒匂川	河内川	世附川	寺ノ澤	寺ノ澤堰堤	一一	三〇	六六三	一五、六〇〇	十月一日未竣功	四七一	一一、七六四
		大平臺堰堤		常盤澤堰堤	一一	二二	一、三五八	三三、七〇〇	九月二十一日未竣功	一、〇六〇	二一、〇四九
早川	常盤澤	常盤澤中流堰堤		常盤澤堰堤	一〇	二五	二七六	八、七〇〇	十一月十五日竣功	三三一	六、六四六
		常盤澤中流堰堤		常盤澤中流堰堤	一〇	三六	一、一七九	二七、〇〇〇	二月一日未竣功	六二七	一一、九三八

第三 橫濱港震災復舊工事

(橫濱土木出張所)

緒言

本工事ハ別項橫濱港修築工事ニ於テ詳説シタルガ如ク大正十二年九月一日ノ大震災ニ際會シ折角竣功セル締切工ヲ始メ三十餘年度ノ長時日ト巨費ヲ投ジテ完成ヲ見タル岸壁、棧橋、防波堤等殆ンド港灣諸設備ノ一朝ニシテ破壊セラレタルヲ以テ震災直後應急假設工事ニ引續キ之ガ復舊ノ計畫ヲ樹立シ橫濱港復舊及修築工事トシテ第三期修築工事ト共ニ復舊工事ヲモ施行シ大正十四年度迄ニ急速完成ヲ期セントスルニ在リ其震災復舊費ニ要スル總豫算額ハ九百貳拾五萬五千五百四拾六圓(事務費ヲ含ム)ナリトス

復舊工事計畫概要並工事狀況

震災後橫濱港内ニ於ケル船舶荷役ハ全部水面荷役ニ依ラザルベカラス然ルニ港内ヲ掩護スベキ防波堤ハ水中ニ陥没セルモノ約七百三十間ニ達シ一朝風波ノ際ニハ船舶荷役ハ全然中止セザルベカラズ又港内ニ於テ安全ニ繫留シ得ベキ岸壁皆無ナルヲ以テ可成短時日ニ完成シ得ベキ岸壁ノ復舊ヲ急グベキハ當然ナリ此ヲ以テ本工事著手ノ順序トシテ先ヅ防波堤ノ復舊及殘存岸壁ノ修理補強ヲ第一トシ極力之ガ速成ニ努メ同時ニ九號、十號、十一號岸壁ノ復舊ニ著手シ順ヲ追テ其他ノ岸壁護岸ニ及ボスコトトセリ而シテ棧橋ハ震災直後ニ於テ施行セル應急修理ニ依リ不完全ナガラモ四隻ノ大船ヲ繫留シ得ルヲ以テ

之ガ復舊工事ヲ施行スル爲メ本港ニ於ケル船舶ノ接岸箇所ヲ皆無ナラシムル不利不便ヲ考慮シ本工事著手ハ大體岸壁ノ竣功後ニ讓ルコトトセリ而シテ本工事施行ノ第一要件ハ工事進歩ノ急速ナルニ在リ同時ニ其構造ノ強固ニシテ可及的耐震的ナラシムルニ在リ是技術者ノ最モ苦心スル所ノモノナリ本港ノ震害狀況ヲ目撃シ且本港ノ荒廢ガ吾邦海外貿易ニ重大ナル影響ヲ及ボスノミナラズ京濱兩都市ノ復興ニ顯著ナル關係ヲ有スルコト等ヲ考慮スルトキハ港ノ復舊ノ一日モ早カラムコトノ必要ヲ痛切ニ感ゼザルモノナカルベク又斯カル慘禍ノ再現セザラムコトヲ望マザルモノナカルベシ

工事ヲ急速ニ而モ完全ニ進歩セシムルニハ左ノ諸件ヲ必要トス

一 築設物構造ヲ強固ニシ成ルベク耐震的ナラシムルコト

二 成ルベク工事ノ種類ト分量トヲ減ジ工法ハ設備ニ長時日ヲ要スルモノヲ避ケ總テ敏速ヲ旨トスルコト

三 必要ナル船舶機械及熟練セル從業者ヲ急速ニ招集スルコト

四 工事材料及勞力ノ供給ニ遺憾ナカラシムルコト

五 直營工事ト請負工事トヲ適當ニ按配スルコト

工事施行ノ組織ハ之ヲ三工場ニ分チ第一工場ハ主トシテ岸壁基礎工事ヲ第二工場ハ主トシテ混凝土工事ヲ第三工場ハ防波堤、物揚場及棧橋等ノ復舊工事ヲ擔當シ是ニ在來ノ機械工場ヲ加ヘ四工場ニテ凡テノ工事ヲ分擔セリ

本年度ハ復興第二年目ニシテ主ナル工事ハ前年度末ヨリ施行シ來リタル震災復舊工事ニシテ岸壁、防波堤、護岸、物揚場、橋梁等ノ修繕ハ何レモ竣功シ唯僅カニ棧橋及一、二ノ附屬工事ヲ殘スノミ震災復舊工事ハ

前述ノ如ク稀有ノ難工事ニシテ然モ其竣功ハ最モ迅速ナルヲ要スルガ故ニ之ガ工事擔當者ノ苦心ト努カトハ容易ナラザルモノアリ始メテ工事ニ著手セル大正十二年十月二十日ヨリ各種ノ築港用船舶機械ヲ集メ晝夜ヲ分タズ作業ヲ續ケ同年末ニハ早クモ二號及六號ノ兩岸壁ノ復舊ヲ爲シ其他ノ工程モ豫期以上ノ進捗ヲ見ルニ至レリ即チ本年度ニ於テハ防波堤本體ハ四月同頭部及補強工事ハ五月九、十、十一號岸壁ハ五月末何レモ竣功シ其他ノ各工事ハ是亦何レモ別表ニ示セルガ如ク竣功シ茲ニ漸ク横濱港ノ秩序恢復ヲ見ルニ至レリ

殘存セル棧橋工事ハ新港岸壁ノ竣功後十四年一月漸ク船舶ノ繫留禁止セル迄ハ其殘骸ノ取片付ヲ爲シ同年二月ヨリ愈々本工事ニ著手シ其後著々進捗ヲ爲シ十月ニハ全部竣功ノ豫定ナリ今復舊各工事ノ主ナルモノヲ列記スレバ次ノ如シ

防波堤 本工事ハ先ヅ沈下セル堤ノ上面兩側ニ方塊ヲ二列ニ竝置シ其間及其上部ニ場所詰混凝土ヲ施シ高サ干潮面上二米四、天端幅四米五ニ仕上ゲタリ方塊積ニハ十五噸起重機一隻、曳船一隻及運搬船二隻ヲ使用シ方塊ノ數ハ新ニ製造セルモノ及崩壞岸壁ヨリ引揚ゲタルモノ合計一千百九十三個ニシテ此外ニ海側捨方塊トシテ九百個ヲ沈下セリ場所詰混凝土工事ニハ船ニ据付ケタル混凝土混合機二臺、曳船二隻、材料運搬船十二隻ヲ使用シ尙此外ニ陸上ニテ製造セル混凝土ヲ容積十七才ノスキップ十八個ニテ六個宛工業船ニ載セ現場ニ運搬セリ製造セル混凝土ノ總量一千九百八十二坪ニ達ス本工事ハ大正十二年十一月十九日ニ著手シ翌年五月二十二日竣功セリ

岸壁護岸 一號岸壁ノ修理ハ岸壁上ノ場所詰混凝土及其下段ノ方塊ヲ除却シ然ル後在來ノ岸壁線ニ倣ヒ殘留スル方塊上ニ新ニ岸壁ヲ築造セリ

前年度ニ於テ基礎工事ニ著手セル九號、十號、十一號ハ全部倒壊セル岸壁中第一ニ復舊工事ヲ施行セルモノニシテ工事ノ速成ヲ期スル爲メ新岸壁線ヲ在來ノ分ヨリ八間前進セシメ横棧橋ニ改築ス即チ其延長二百十八間、幅八間、其水深ハ干潮面下三十尺及二十六尺ニシテ十一間ノ間隔ニ二十基ノ橋脚ヲ築キ各徑間ニ九本ノ鋼桁ヲ架シ上部ニハ鐵筋混凝土スラブヲ施行セリ橋脚ノ据付ニハ先ヅ橋脚ニ當ル箇所ノ倒壊物ヲ除却セザルベカラス是レ頗ル難工事ニシテ多クノ工費ヲ要スルモノナリ

横棧橋式ヲ採用セル所以ハ實ニ此難工事ヲ可成少ナカラシメンガ爲メナリ倒壊物ヲ除却スルニハ先ヅ倒壊岸壁ヲ破覆セル粗石土丹及土砂ヲ浚渫シ次ニ岸壁ヲ構成セル方塊及場所詰混凝土ヲ引揚ゲタリ是等ノ場所詰混凝土ハ斷面七十二平方尺、長三十六尺ニシテ其重量百六十餘噸ニ達シ起重機ノ能力之ニ及バザルヲ以テ爆藥ヲ以テ二十噸前後ノ小塊ニ破碎シ然ル後之ヲ引揚ゲタリ方塊ノ引揚モ亦容易ナラズ彼等ハ相互ニ接合ノ儘倒壊セルモノ多ク小爆破ニ依リテ之ヲ分離セザレバ引揚用ノ綱ヲ掛クルコト能ハザレバナリ方塊及場所詰混凝土ノ除却ヲ了スルヤ殘留セル土砂ヲ完全ニ掃除シ混凝土及割石ヲ以テ基礎ヲ造リ淺野船渠ニテ製造セル混凝土潜函（長二十七尺、幅十七尺、高三十三尺及二十九尺、重量三百噸及二百五十噸）ヲ据付ケ其内ニ混凝土ヲ填充セリ潜函据付ハ同時ニ其後部在來ノ岸壁線ニ土留擁壁ヲ築キ土留擁壁潜函トノ間ハ潜函ト同ジ幅ニ水中混凝土ヲ施行シ斯クシテ在來ノ岸壁線ニ築造セル擁壁ヨリ幅十七尺、長五十尺ノ橋脚二十基ヲ突出セシメタリ橋脚工事ノ完了スルヤ直ニ鋼桁架設ニ著手セリ鋼桁ハ豫メ浦賀船渠會社ニ製造セシメタルモノニシテ長五十五尺、高四尺、重量八噸半、一徑間ニ九本ヲ要シ合計百七十一本ヲ使用セリ混凝土スラブハ厚七吋半ニシテ面積一千六百坪ニ達ス本工事ハ十二年十一月六日ニ著手セシガ工事ノ困難ナルニ加フルニ從業者未ダ熟練ノ域ニ達セズ且工事ノ種類割合ニ多カリ

シ爲メ其竣功ハ豫定ヨリ少シク遅ルルノ止ムヲ得ザルニ至レリ
四號岸壁復舊工事ノ延長ハ百十四間二分ニシテ九號十號十一號ト同ジク新岸壁ハ在來ヨリ八間前進セ
シメタルモ其構造ハ既往ノ經驗ニ依リ横棧橋式ヲ止メ之ヲ普通岸壁式ニ改メタリ即倒壞物ハ全部其儘
ニ放置シ倒壞岸壁ヲ新岸壁ノ基礎タラシメントセシモ其前端ノ凸凹甚シキヲ以テ新岸壁線ニ沿ヒ方塊
ヲ一列ニ竝置シ新方塊ト倒壞岸壁トノ間ハ入念ニ水中混凝土ヲ施シ之ヲ基礎トシテ潜函又ハ無底函ヲ
据付ケ砂利及混凝土ヲ其内ニ填充シ其上ニ上部工事ヲ施シ既定ノ高サニ達セシメタリ潜函ハ淺野船渠
ノ製造ニ係リ長五十一尺幅十七尺高二十四尺五寸壁厚下部一尺二寸五分上部九寸其重量四百三十噸ニ
シテ無底函ハ直營製造ニ係リ起重機ノ關係上之ヲ二段ニ重積シ下段ハ長十六尺幅十五尺七寸五分高八
尺二寸五分上段ハ長十六尺幅十三尺高九尺二寸五分ニシテ孰レモ壁厚七寸五分重量約二十七噸ニシテ
左右ニ一尺五寸ノ耳ヲ有ス岸壁本體ノ進捗ト同時ニ割石及土舟ヲ以テ裏込工事ヲ施シ其後方ニ約四千
三百八十坪ノ土砂ヲ埋立テタリ
三號岸壁及五號岸壁ノ復舊工事ハ其延長前者ハ七十三間七分後者ハ五十七間五分ニシテ孰レモ接岸船
ノ便利ヲ慮リ新岸壁線ヲ略舊岸壁線ニ一致セシムル爲メ倒壞全部ヲ除却シ舊岸壁ノ殘存基礎ヲ露出セ
シメ隣接セル殘存岸壁トノ接續上方塊及水中混凝土ヲ以テ其前面ニ補足シ其上ニ潜函又ハ無底函ヲ据
付ケ上部工事ヲ施行セルコト第四號岸壁ニ同ジ
七號及八號岸壁ノ復舊工事ハ延長合計百六十五間七分ニシテ三號及五號ニ於ケルガ如ク新舊岸壁線ハ
全ク一致セシメタリ此ガ爲メ倒壞物ハ全部除却シ殘存基礎上ニ潜函及無底函ヲ据付ケタリ
十二號岸壁復舊工事ハ延長五十一間三分ニシテ新岸壁線ハ舊岸壁線ヨリ十間前進セシメタルタメ倒壞

物ハ全部放置シ新ニ海底ヲ浚漂シ割石及混凝土ヲ以テ基礎ヲ作り其上ニ潜函ヲ据付ケタリ
物揚場及護岸ハ或ハ倒壞シ或ハ滑出シ一トシテ損害ヲ被ラザルモノ無シ復舊工事延長ハ新港及舊港ヲ
合セ八百五間五分ニシテ大體之ヲ原形ニ復シ尙大棧橋接續地ニ於テハ之ニ多少ノ改良ヲ加ヘ尙其東側
ニハ小蒸汽船ニ依ル水陸聯絡ノ要地ナルヲ以テ新ニ其海側ニ波除堤ヲ築キ以テ之ヲ掩護セントス
橋梁 横濱港内ニ於ケル橋梁ハ新港ヲ聯絡スル萬國橋及新港橋ノ二橋ニシテ孰レモ激震後ノ猛火ニ襲
ハレ歩道等ノ木部ハ總テ燒失セシモ結構夫レ自身ハ幸無事ニシテ墜落ノ厄ヲ免ルルヲ得タリ然レドモ
橋臺ノ移動ニ伴ヒ結構受臺ノ位置ニ變動ヲ來シ是ガ復舊ニ頗ル困難ヲ感ジタリ橋臺ノ震害ハ頗ル大ナ
ルモノアリ孰レモ新港埋立地側ノモノニ於テ甚シク被害ノ狀況ハ主ニ滑出及縱龜裂ニシテ鐵材及混凝
土ヲ以テ之ヲ接續補強シ結構ノ受臺ハジャツキヲ以テ結構ノ一端ヲ持上ゲ之ヲ修理セリ本工事ハ新港
橋ハ七月萬國橋ハ八月ニ於テ約一箇月間通行ヲ禁止シ其間ニ大部分ヲ復舊スルコトヲ得タリ
掃海 震災ニ續テ起リタル大火災ハ陸上ノ可燃物ヲ全部燒拂ヒ水面ハ此等空舟ノ殘骸ニ依リテ閉塞セラレ不燃性貨
ニ碇泊セル小蒸汽船、舢舨等ノ殆ンド全部ヲ燒拂ヒ水面ハ此等空舟ノ殘骸ニ依リテ閉塞セラレ不燃性貨
物ヲ積載セル舢舨等ノ殘骸ハ水底ニ沈没シ船溜内ノ航行全然不可能ナルニ至レリ
然レバ是ガ掃海工事ハ緊急ヲ要スルヲ以テ震災後間モナク之ニ著手シ船溜内最モ必要ナル箇所ハ十三
年二月ヲ以テ之ヲ終ヘ其後引續キ之ヲ施行シ同年五月ヲ以テ船溜内全部ノ掃海ヲ了セリ
左ニ引揚ゲタル小蒸汽船其他ノ數量ヲ掲グ但シ舢舨ノ隻數ハ其殘骸ヨリ勘定セシモノニシテ適確ナル
數ニ非ラズ實際ノ隻數ハ此幾倍ニ達スルナルベシ

小 蒸 汽 船

六 隻

所有者ニテ引揚ゲタルモノ

六 隻

發 動 機 船
 船 船
 三 四 八
 九
 錨 其 他 金 物
 二 六 編

又船溜以外ニ流出シ港内ニ沈没セル船等數多存在セル見込ナルヲ以テ港内ノ掃海亦急ヲ要ス茲ニ於テ十三年五月ヨリ七月ニ至ル二箇月間ニ港内百二十萬坪ノ掃海工事ヲ施行シ其結果左記ノモノヲ發見之ヲ引揚ゲタリ但シ港内ニ引揚ゲタル物品中ニハ震災ノ際沈没セルモノニ非ズシテ平常荷役ノ際過テ墜落シ其儘放棄セルモノ多キガ如シ

鐵	錨	西	日	洋	貨	空	發
管	鎖	洋	本	紙	物	船	動
					積	船	機
					載	船	船
					船	船	船
					二	一	二
					個	個	隻
					五	八	二
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	隻
					個	個	隻
					二	二	隻
					個	個	隻
					五	一	

新棧橋ノ構造ハ種々研究ノ結果大體在來通り復舊スルヲ以テ利益ナリト認メ橋脚ハ凡テ下部ニ徑六吋半ノ螺旋脊ヲ固定セル徑七吋ノ丸鋼ヲ使用シ而シテ將來上屋ヲ築造スベキ箇所ニハ橋脚ヲ増加シテ其荷重ニ堪エシメントス尙鑄物ハ總テ鋼鑄物ヲ使用シ繫錁直徑ハ在來ノ一時半ナリシヲ二吋ニ増シ床ハ凡テ鐵筋混凝土ト爲シ在來ノモノニ比スレバ大ニ耐震的ナルヲ得ベシ

本港復舊工事ノ本年度竣功額ハ左表ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費		一、一七九、七三四		二、七八三、六六二		三、九六三、三九六	一〇〇〇
橋梁費		三二九、〇八四	八〇〇	五、七二五	八〇〇	五、七二五	一〇〇〇
防波堤費			立米	七五、九二三	立米	三九五、〇〇七	一〇〇〇
浚渫費			一八三、六八三	七二、四六六	一八三、六八三	七二、四六六	〇〇八
棧橋費		一〇一、九二〇	平坪	五七六、〇五三	平坪	六七八、九七三	〇四一
掃海費			一、一〇九、五〇〇	二七、二六四	一、一〇九、五〇〇	二七、二六四	一〇〇
船舶及機械費		六四八、五六七		七八二、五八一		一、四三一、一四八	〇六七
施行中諸費		二四一、九八九		三二一、八六五		五五五、八五四	〇三七
共濟組合給與金		三、〇〇三		一一、七一八		一四、七二〇	〇一一
總計		二、四九五、二九六		四、六九五、二五七		七、一九〇、五五三	〇三八

大正十三年度直轄工事年報

(終)

大正十五年三月二十八日印刷

大正十五年三月三十一日發行

內務省土木局

印刷者 西協嘉市
東京市京橋區北橫町九番地

印刷所 一成社印刷所
東京市京橋區北橫町八番地

電話京橋八一三番